

令和２年度障害者総合福祉推進事業  
障害者支援のあり方に関する調査研究  
－放課後等デイサービスの在り方－  
事業報告書

令和３年３月  
PwC コンサルティング合同会社



## 事業概要

---

### ■ 本事業の目的

過去 10 年間で障害児通所支援の利用者数・サービス量は拡大しており、各事業所では様々な支援手法がとられている。また、この間の状況変化（とりわけ女性の就労促進）に伴い、障害児通所支援を利用する者のニーズが変化している可能性も考えられる。加えて、放課後等デイサービス・児童発達支援

・医療型児童発達支援との役割と機能の分担等についても整理の必要性や、専修学校・各種学校に通う児童について、放課後等デイサービスの対象とすべきという指摘もある。

以上の背景を踏まえ、放課後等デイサービス・児童発達支援及び医療型児童発達支援における支援の実態を把握し、各サービスの標準的な支援・サービス提供モデル（類型）のパターンを分析することで、今後のサービスの標準化に向けた議論の基礎資料とすることを目的として実施した。

### ■ 事業概要

有識者検討委員会を設置し、次の調査事業を実施した上で、その結果を報告書として取りまとめた。

#### ①事業所・ケース調査

全国児童発達支援協議会（以下、CDS という）加盟事業所及び CDS 加盟事業所が所属する法人の事業所を対象に、以下の 3 種類の調査票を用いて実施した。

- ・事業所票：事業所のサービス提供実態を把握することを目的とした調査票
- ・ケース票：調査対象事業所を令和 3 年 1 月 18 日（月）～1 月 24 日（日）まで  
利用した子どもの状態像、支援状況に関する調査票
- ・タイムスタディ票：ケース票の対象の子どもの令和 3 年 1 月 18 日（月）～1 月 24 日（日）の支援状況に関するタイムスタディ調査票

その結果、事業所票は 140 の事業所から、ケース票及びタイムスタディ票はそれぞれ 2,769 件、2,766 件のケースについて回答が得られた。

#### ②保護者調査

ケース票の対象となった子どもの保護者に対し、サービスの利用状況、保護者の就労状況、事業所に期待すること等に関する調査を実施し、1,495 件の回答が得られた。

なお、上記の 4 つの調査票はそれぞれ ID で紐づけた集計・分析ができる形とした。



## 目次

---

<b>1. 事業目的と方法</b> .....	<b>1</b>
(1) 背景・目的.....	1
(2) 事業概要.....	2
<b>2. 実態把握調査結果</b> .....	<b>7</b>
(1) 事業所票集計結果及び本調査上の留意点.....	8
(2) ケース調査結果.....	22
(3) タイムスタディ調査結果.....	33
(4) 保護者調査結果.....	135
<b>3. 詳細分析</b> .....	<b>146</b>
(1) 「個別活動」に関する分析.....	146
(2) サービス利用時以外の「普段の過ごし方」「並行利用」、に関する分析.....	150
(3) 母親就労状況と重視している事項.....	153
(4) 支給決定日数の分布.....	155
(5) 保護者調査の自由記述分析.....	156
<b>4. まとめ</b> .....	<b>160</b>
(1) 支援パターンごとの特徴（タイムスタディの結果に基づく整理）.....	160
(2) 事業所調査、ケース調査に基づく整理.....	167
(3) 保護者調査の結果に基づく整理.....	168
<b>【資料編】</b>	
資料1 調査票	
資料2 集計資料	
(1) タイムスタディ票 クロス集計	
(2) ケース票および保護者調査票 クロス集計	



## 1. 事業目的と方法

---

本章では、本事業の背景と目的、目的を実現するための方法について記載する。

### (1) 背景・目的

---

#### ①背景

過去 10 年間で障害児通所支援の利用者数・サービス量が拡大しており、各事業所では様々な支援手法がとられている。また、この間の状況変化（とりわけ女性の就労促進）に伴い、障害児通所支援を利用する者のニーズが変化している可能性も考えられる。加えて、放課後等デイサービス・児童発達支援・医療型児童発達支援の役割・機能の分担等についても整理の必要性や、専修学校・各種学校に通う児童について、放課後等デイサービスの対象とすべきという指摘がある。

#### ②目的

以上の背景を踏まえ、放課後等デイサービス・児童発達支援及び医療型児童発達支援における支援の実態を把握し、各サービスの標準的な支援・サービス提供モデル（類型）のパターンを分析することで、今後のサービスの標準化に向けた議論の基礎資料とすることを目的として実施した。

## (2) 事業概要

本事業の目的を実現するために、放課後等デイサービス、児童発達支援事業所、児童発達支援センター、医療型児童発達支援の支援実態を把握する質問紙調査を実施し、同時に、これらの調査設計及び考察の検討を行うための検討委員会を組成した。

なお、以下の①から③の内容を踏まえ、本報告書を作成した。

### ① 検討委員会

事業趣旨を踏まえ、対象サービスの実施事業者、学識者、自治体関係者等の有識者8人で構成する検討委員会を組成し、3回の検討会を実施した。なお、新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ、会議は原則オンライン開催とした。

#### ア. 検討委員会委員

検討委員会委員は次のである。なお、座長には有村氏が就任した。

図表1 検討委員会委員

氏名	所属	備考
有村 大士	日本社会事業大学 准教授	学識経験者
内田 太郎	横浜市こども青少年局 こども福祉保健部 障害児福祉保健課 課長	自治体職員
小川 正洋	柏市保健福祉部 次長 障害福祉課 課長	自治体職員
小川 陽	社会福祉法人 唐池学園 カビーナ 貴志園 施設長	実施事業者
小島 一郎	名古屋市瑞穂区障害者基幹相談支援 センター 所長	実施事業者
岸 良至	一般社団法人 わ・Wa・わ 理事長	実施事業者
光真坊 浩史	社会福祉法人ゆうゆう 品川児童学 園 施設長	実施事業者
田中 聡一郎	関東学院大学 経済学部 准教授	学識経験者

(五十音順、敬称略)

検討委員会オブザーバーとして次の方が参画した。

図表2 検討委員会委員

氏名	所属
河村のり子	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 室長



田野 剛	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 室長補佐
刀根 暁	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 障害福祉専門官
鈴木 久也	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 障害児支援専門官
諏訪 克之	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 精神・障害保健課 依存症対策推進室長
平田 菜摘	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 企画課 課長補佐

(敬称略)

本事業実施事務局として、以下の社員が参画した。

図表 3 検討委員会委員

氏名	所属
東海林 崇	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部 シニアマネージャー
植村 綸子	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部 シニアアソシエイト
石尾 恵朋	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部 シニアアソシエイト
出口 賢	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部 シニアアソシエイト
平良 岬	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部 アソシエイト

## イ. 検討委員会開催状況

全3回の検討委員会は、新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ、会議は原則オンライン開催としたが、厚生労働省及び事務局の出席者は弊社会議室から出席し、会議を開催した。

図表 4 検討委員会 会議経過

検討会	場所	検討事項
第1回 令和2年 11月16日(月) 17:00~19:00	GoogleMeetにより開催 弊社丸の内オフィス	・事業概要 ・調査設計 ・報告書骨子、とりまとめの方向性
第2回 令和3年 2月19日(金) 15:00~17:00	GoogleMeetにより開催 弊社大手町オフィス	・これまでの進捗経過 ・回収状況報告 ・事業所票、ケース票集計結果(速報値) ・保護者調査結果(速報値) ・報告書骨子、とりまとめの方向性
第3回 令和3年 3月10日(水) 13:00~15:00	GoogleMeetにより開催 弊社大手町オフィス	・各調査調査結果報告 ・仮説に基づく集計結果報告 ・報告書骨子、とりまとめの方向性

## ②実施調査概要

質問紙調査は、全国児童発達支援協議会（以下、CDS という）の協力を得て、その加盟団体に対して調査を実施した。

図表 5 質問紙調査実施概要

調査対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CDS 加盟事業所の内、放課後等デイサービス、児童発達支援、児童発達支援センター、医療型児童発達支援を実施する事業所（以下、加盟事業所）</li> <li>・ 上記事業所に加盟する事業所が所属する法人で、上記対象サービスの事業を実施する事業所（以下、所属法人事業所）</li> <li>・ 上記事業所を利用する保護者</li> </ul>
調査票の種類	<p>【Excel にて作成した調査票】</p> <p>事業所票：事業所のサービス提供実態を把握することを目的とした調査票</p> <p>ケース票：調査対象事業所を以下の対象期間に利用した子どもの状態像、支援状況に関する調査票</p> <p>タイムスタディ票：ケース票対象の子どもの以下の対象期間の支援状況に関する調査票</p> <p>【web サイト（Google フォーム）を活用した調査票】</p> <p>保護者票：ケース票の対象となった子どもの保護者に対する調査票</p> <p>・ なお、事業所票、ケース票、タイムスタディ票、保護者票はそれぞれ ID で紐づけることにより集計等の際、分析できる形とした。</p>
方法	<p>a.弊社より CDS 加盟事業所に FAX とメールにて、事業所票及びケース票のダウンロードサイトへのアクセス URL を送付した。</p> <p>b.a.の内容について、所属する法人に他に対象サービスを実施する事業所がある場合、転送を依頼した（事業所の ID も別に付与）。</p> <p>c-1.調査対象事業所に a で記したダウンロードサイトにアクセスしてもらい、調査票をダウンロードの上回答いただいた。</p> <p>c-2.調査対象事業所から保護者に対して調査協力依頼状を配布いただいた。</p> <p>d-1. 調査対象事業所にて調査票の回答を作成し、ダウンロードサイトから回答結果をアップロードしていただいた。</p> <p>d-2. 保護者には依頼状に記載されている QR コードまたは URL にアクセスいただき、web サイト上で回答をしていただいた。</p> <p>e.上記回答結果を集計した。</p>
調査期間	<p>令和 3 年 1 月 12 日（月）～令和 3 年 2 月 19 日（金）</p> <p>ケース票及びタイムスタディ票の対象期間：</p> <p>令和 3 年 1 月 18 日（月）～1 月 24 日（日）まで</p>

## ② 調査項目

本事業における調査項目は次のとおりである。なお、調査票を設計するにあたり、検討委員の所属事業所にてプレ調査を実施し、回答のしやすさ等の確認を行った結果を調査票へ反映した。

図表 6 主な調査項目

事業所票 ケース票	<ul style="list-style-type: none"><li>・事業所、利用者、職員の概況</li><li>・障害の状況</li><li>・同居家族の就労状況、保護者支援の状況</li><li>・障害児利用支援計画の策定方法</li><li>・個別支援計画のモニタリング頻度</li><li>・ケア会議</li><li>・専門職の関与</li><li>・事業所にて重視している支援</li><li>・実施している活動内容</li></ul>
タイム スタディ票	<ul style="list-style-type: none"><li>・以下の項目について 1 分単位での回答を依頼<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 活動内容</li><li>➤ 活動目的</li><li>➤ 個別活動の実施状況</li><li>➤ 職員のかかわり</li></ul></li></ul>
保護者票	<ul style="list-style-type: none"><li>・サービス事業所までの移動時間</li><li>・通院状況</li><li>・保護者の就労状況</li><li>・課外活動</li><li>・事業所に期待する内容</li></ul>

#### ④事業実施経過

本事業は令和2年5月26日に事業の内示を受け、令和3年3月31日まで次の経過を経て事業を実施した。

図表7 事業経過

	検討委員会・報告書	事業所・ケース・タイムスタディ調査	保護者調査
6月	↑		
7月			
8月	↑ 貴省と実施方針について検討		
9月	↓		
10月	↑ 委員意見収集 事業内容検討		
11月	↓ 第1回委員会	↑ CDS等と協議 ↓	
12月		調査設計 プレ調査実施	
1月		↓ ↑ 実査	↑ 実査・まとめ
2月	第2回委員会	↓ ↑ 入力集計	↓ ↑ 入力集計
3月	↑ 第3回委員会 ↓ 報告書まとめ	↓	↓

## 2. 実態把握調査結果

本章では、4 種類の調査票に対する調査結果を示す。なお、本調査は CDS 加盟事業所及び CDS 加盟事業所が所属する法人の事業所を対象とした調査であるため、令和元年度障害者総合福祉推進事業<sup>1</sup>結果と比較して、CDS に加盟していない事業所を含む一般的な傾向との違いを確認したうえで分析を行った。

各調査票の有効回答数の状況は次のである。

図表 8 有効回答数<sup>2</sup>

事業所票	140 事業所
ケース票	2,769 件
タイムスタディ票	2,766 件 ※ケース票とタイムスタディ票 を紐づけられる数も同数
保護者票	1,495 件

なお、本調査では、医療型児童発達支援、児童発達支援事業所、児童発達支援センター、放課後等デイサービスの4つの事業に関する調査結果を掲載しているが、対象とする年齢層等、法令等により定められる基準が事業により異なる点には留意が必要である。

また、本報告書では、便宜上、医療型児童発達支援、児童発達支援事業所、児童発達支援センターの3サービスを「児童発達支援全体」として表記する。

<sup>1</sup> みずほ情報総合研究所 令和元年度障害者総合福祉推進事業「放課後等デイサービスの実態把握及び質に関する調査研究」全国の放課後等デイサービス事業所（13,773 か所）への悉皆調査を実施。4,945 件の有効回答を得た。放課後等デイサービスについては、本調査が概ね全体像を示していると考え、比較対象とした。以降、「令和元年度放デイ調査」と記載する。

<sup>2</sup> 調査対象にある通り、今回の調査では調査対象として配布した CDS 加盟事業所 452 箇所の他に、他の所属法人事業所にも調査を実施している。このため、本調査の調査対象数全体の把握が難しいため、有効回収率は算出しない。ケース票、保護者票についても同様に調査対象数（配布数）が把握できないため、算出しない。

## (1) 事業所票集計結果及び本調査上の留意点

本節では、事業所調査票への回答結果について、サービス別に集計した結果について記載する。

### ①事業所概況

#### ア. 運営形態

医療型児童発達支援以外のサービスでは、いずれも社会福祉法人が運営している事業所が多かった。放課後等デイサービスでは、次いで株式会社等営利法人が22.0%、特定非営利活動法人が20.3%と多かった。児童発達支援事業所では次いで特定非営利活動法人が22.6%と多く、医療型児童発達支援では、自治体立が50.0%と最も多かった。これに対し、令和元年度放デイ調査では、最も割合が大きい法人形態は株式会社等営利法人であり、50.9%を占めていた。

令和元年度放デイ調査を比較すると、本年度調査は社会福祉法人立及び自治体立の事業所が多く、株式会社等営利法人立の事業所が少ない結果であった。

図表9 サービス別運営法人

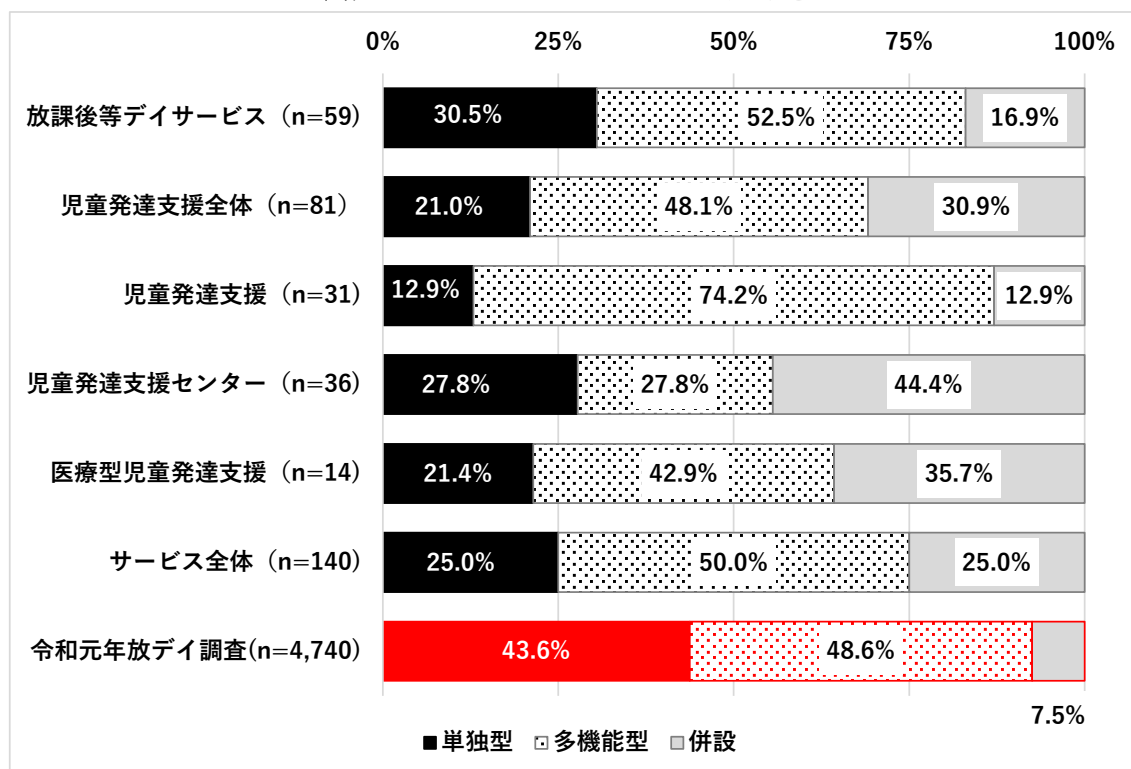
利用サービス	社会福祉法人	社会福祉協議会	医療法人	株式会社等 営利法人	特定非営利 活動法人
放課後等デイサービス (n=59)	54.2%	0.0%	0.0%	22.0%	20.3%
児童発達支援全体 (n=81)	51.9%	0.0%	3.7%	3.7%	11.1%
児童発達支援 <sup>3</sup> (n=31)	41.9%	0.0%	3.2%	9.7%	22.6%
児童発達支援センター (n=36)	63.9%	0.0%	5.6%	0.0%	5.6%
医療型児童発達支援 (n=14)	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
サービス全体 (n=140)	52.9%	0.0%	2.1%	11.4%	15.0%
令和元年度放デイ調査(n=4,740) <sup>4</sup>	17.4%	1.0%	1.2%	50.9%	17.2%
利用サービス	一般社団 法人	自治体	その他	未回答	合計
放課後等デイサービス (n=59)	1.7%	0.0%	1.7%	0.0%	100.0%
児童発達支援全体 (n=81)	2.5%	21.0%	6.2%	0.0%	100.0%
児童発達支援 (n=31)	3.2%	12.9%	6.5%	0.0%	100.0%
児童発達支援センター (n=36)	2.8%	16.7%	5.6%	0.0%	100.0%
医療型児童発達支援 (n=14)	0.0%	50.0%	7.1%	0.0%	100.0%
サービス全体 (n=140)	2.1%	12.1%	4.3%	0.0%	100.0%
令和元年度放デイ調査(n=4,740)	-	1.1%	10.8%	0.4%	100.0%

<sup>3</sup> 集計表では、児童発達支援事業所を「児童発達支援」と表記している。以下同様。

<sup>4</sup> 回答数の合計は令和元年度放デイ調査を参照している。

サービス別に事業所のサービスの実施形態をみると、放課後等デイサービス、児童発達支援事業所、医療型児童発達支援では多機能型であるとの回答が多かった。一方、児童発達支援センターでは、併設であるとする回答が多かった。令和元年度放デイ調査と比較すると、令和元年度放デイ調査では、単独型との回答が43.6%あり、今年度調査と比べて10ポイント以上の開きがあった。

図表 10 サービス別サービスの実施形態<sup>5</sup>



## イ. 法人が運営する他の事業所

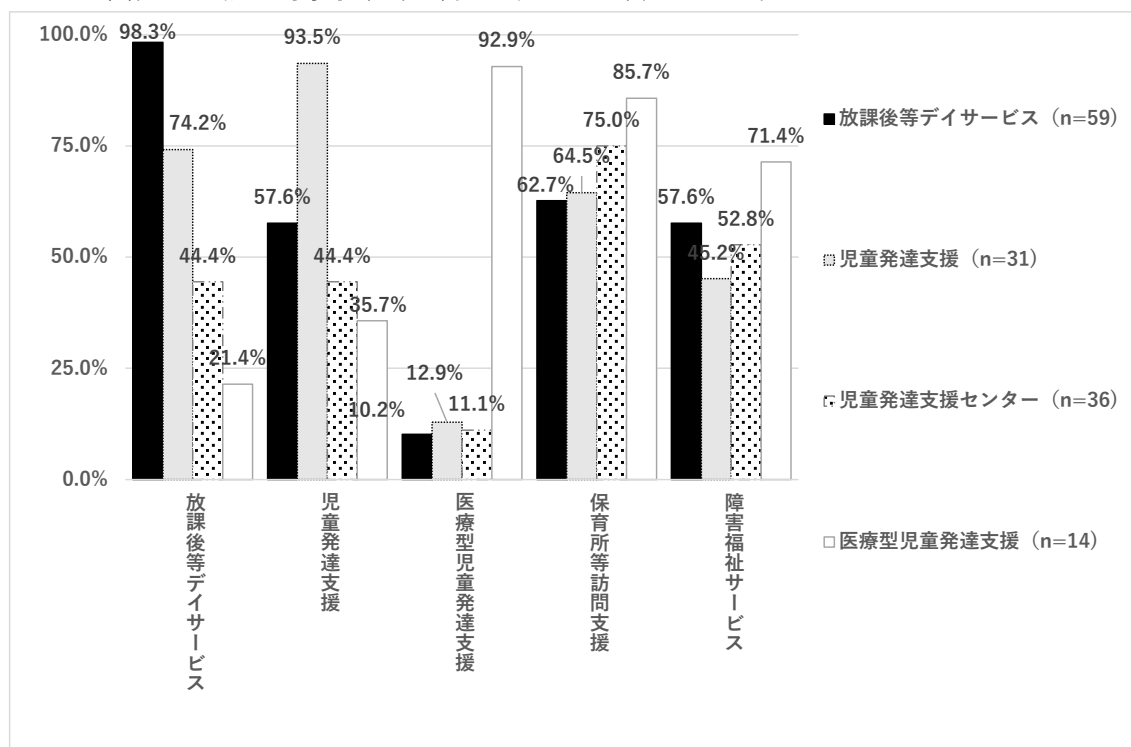
法人が運営する他の事業の状況を確認すると、「保育所等訪問支援」を同一法人内で運営している事業所は、医療型児童発達支援を運営する事業所が85.7%と最も多く、次いで、児童発達支援センターを運営する事業所が75.0%と多かった。

<sup>5</sup> 本年度調査では、単独型は「当該提供サービスのみ提供する事業所」と定義しており、令和元年度放デイ調査では、「単独型」と記載している内容を集計した。

多機能型については、本年度調査では、「当該提供サービスと障害児福祉サービスとの多機能事業所」「当該提供サービスと障害福祉サービスとの多機能事業所」「当該提供サービスと障害児福祉サービスと障害者福祉サービスとの多機能事業所」を合算して「多機能型」として集計した。令和元年度放デイ調査では「放課後等デイサービス以外の障害児通所支援との多機能型事業所」「障害児通所支援と障害福祉サービスとの多機能型事業所」を合算して「多機能型」として集計した。

また、放課後等デイサービスを運営する事業所が属する法人では、74.2%が児童発達支援事業所を運営しているとの回答であった。一方、児童発達支援事業所を運営している法人では 57.6%が放課後等デイサービスを運営していた。すなわち、半数以上の法人が、放課後等デイサービスと児童発達支援事業所の両方を運営していることがわかった。

図表 11 調査対象事業所が属する法人で運営している他のサービス<sup>6</sup>



## ウ. 設立時期

設立年度をみると、放課後等デイサービス、児童発達支援事業所については 2011 年~2015 年との回答が多く、次いで 2010 年以前との回答が多かった。児童発達支援センター、医療型児童発達支援では、それぞれ 2010 年以前との回答が多かった。一方、令和元年度放デイ調査をみると、2016 年以降に設立した事業所が最も多い結果であり、本年度調査への回答事業所は多くの放課後等デイサービス事業所と比べ、設立時期が古いということがわかった。

<sup>6</sup> なお、本調査ではこの他に、幼稚園、認定こども園、地域型保育、放課後児童クラブ、高齢者・介護関係サービス、生活困窮者関係サービスについて、法人での運営の有無を尋ね尋ねたが、回答が 20%未満と少なかったため、図表への掲載を割愛した。



図表 12 サービス別設立年度<sup>7</sup>

利用サービス	2010 年 以前	2011 年 ~2015 年	2016 年~	未回答	合計
放課後等デイサービス (n=59)	25.4%	49.2%	23.7%	1.7%	100.0%
児童発達支援全体 (n=81)	46.9%	44.4%	8.6%	0.0%	100.0%
児童発達支援 (n=31)	38.7%	54.8%	6.5%	0.0%	100.0%
児童発達支援センター (n=36)	50.0%	36.1%	13.9%	0.0%	100.0%
医療型児童発達支援 (n=14)	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	100.0%
サービス全体 (n=140)	37.9%	46.4%	15.0%	0.7%	100.0%
令和元年度放デイ調査 (n=4,740)	2011 年 以前	2012 年 ~2015 年	2016 年~	無回答	合計
	12.7%	38.3%	47.8%	1.3%	100.0%

また、各サービス事業者の営業時間は、冬休みなどの長期休暇中と学期中では営業時間が違うと想定されるため、令和元年度放デイ調査では、両者を分けて調査を実施している。本調査では長期休暇中の営業時間を尋ねた。いずれのサービスを見ても 6 時間以上が大多数を占めている。令和元年度放デイ調査でも同様の結果であった。

図表 13 サービス別の平日及び長期休暇中の営業時間

利用サービス	3 時間 未満	3 時間以 上 5 時 間未満	5 時間以 上 6 時 間未満	6 時間 以上	無回答	合計
放課後等デイサービス (n=58)	0.0%	24.1%	3.4%	72.4%	-	100.0%
児童発達支援全体 (n=80)	1.3%	8.8%	1.3%	88.8%	-	100.0%
児童発達支援 (n=30)	3.3%	20.0%	0.0%	76.7%	-	100.0%
児童発達支援センター (n=36)	0.0%	2.8%	0.0%	97.2%	-	100.0%
医療型児童発達支援 (n=14)	0.0%	0.0%	7.1%	92.9%	-	100.0%
令和元年度放デイ調査 (n=4,740)	6 時間未満			6 時間 以上	無回答	合計
長期休暇中の営業時間	5.9%			80.4%	13.7%	100.0%

以上の結果を踏まえると、放課後等デイサービスにおいて、今回の調査では運営法人の偏りや、設立年が古い事業所が回答の中心であること、単独型でサービス提供をしている事業所の割合が少ないことに留意が必要である。

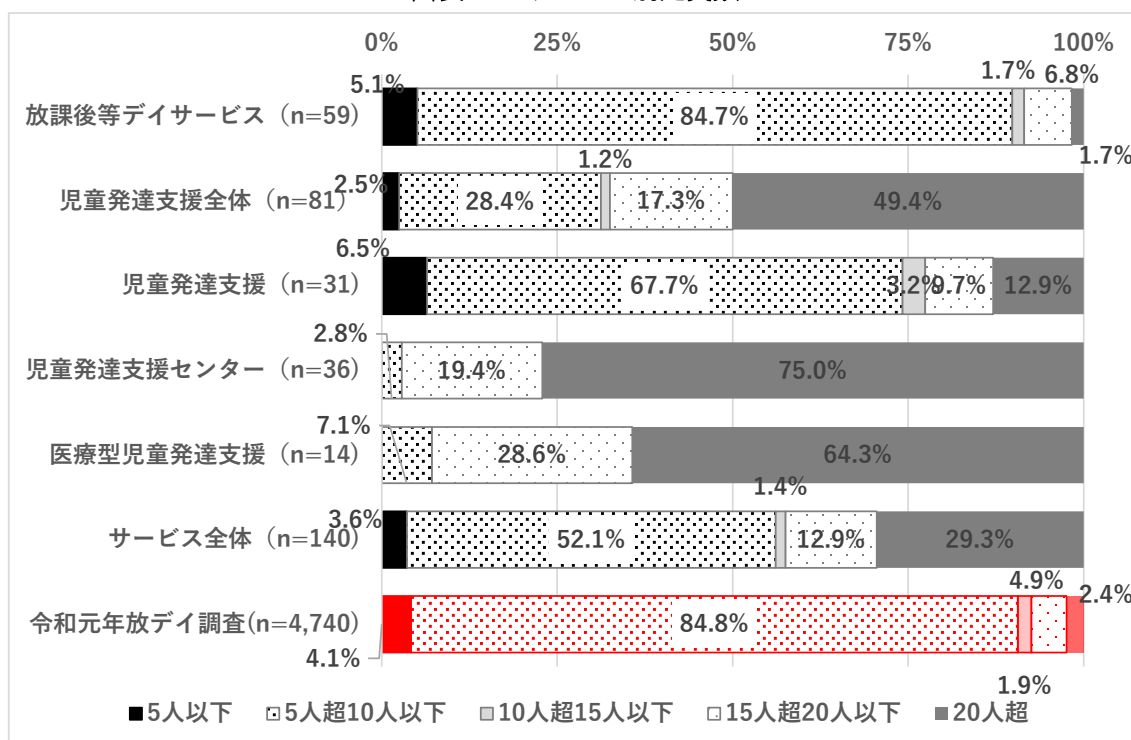
<sup>7</sup> 集計年次単位が違うため参考値として掲載

## ②利用者の状況

### ア. 定員数・延べ利用者数

放課後等デイサービスでは、定員が5人超10人以下の事業所が最も多く、84.7%であった。児童発達支援事業所では、定員が5人超10人以下の事業所が最も多く、67.7%であり、定員が20人超の事業所の割合も12.9%であった。一方、児童発達支援センター及び医療型児童発達支援は定員が20人超であるとの回答が最も多かった。なお、放課後等デイサービスについて、令和元年度放デイ調査と比較したところ、大きな違いはなかった。

図表 14 サービス別定員数



放課後等デイサービスと児童発達支援事業所、医療型児童発達支援の延べ利用人数は300人以下との回答が多いものの、児童発達支援センターについては、延べ利用人数が400人を超えるとの回答が半数以上を占めた。なお、令和元年度放デイ調査と比較すると閾値が異なるため単純には比較できないが、概ね延べ利用者数に大きな違いはなかった。

図表 15 サービス別延べ利用者数（令和 2 年 12 月の実績）

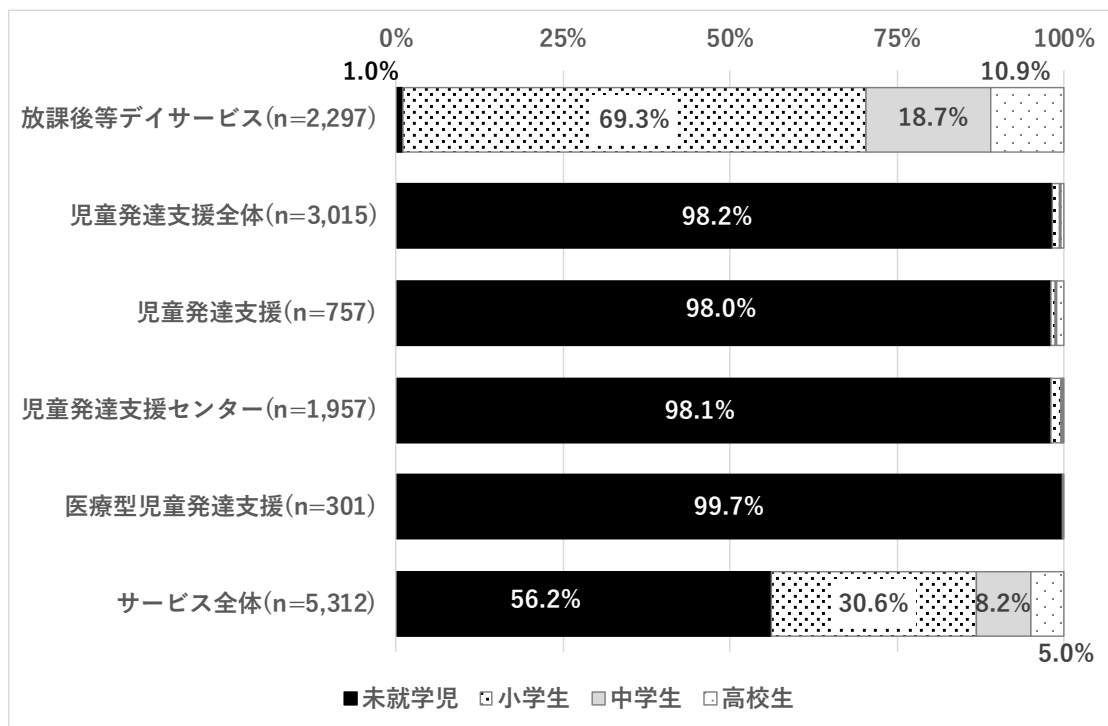
利用サービス	100 人 以下	100 人 超 200 人以下	200 人 超 300 人以下	300 人 超 400 人以下	400 人 超	未回答	合計
放課後等デイサービス (n=59)	22.0%	20.3%	32.2%	13.6%	5.1%	6.8%	100.0%
児童発達支援全体 (n=81)	25.9%	13.6%	19.8%	4.9%	29.6%	6.2%	100.0%
児童発達支援 (n=31)	35.5%	19.4%	25.8%	3.2%	9.7%	6.5%	100.0%
児童発達支援センター (n=36)	16.7%	2.8%	13.9%	8.3%	55.6%	2.8%	100.0%
医療型児童発達支援 (n=14)	28.6%	28.6%	21.4%	0.0%	7.1%	14.3%	100.0%
サービス全体 (n=140)	24.3%	16.4%	25.0%	8.6%	19.3%	6.4%	100.0%
令和元年度調査	120 人 未満	120 人 ~150 人 未満	150 人 ~200 人 未満	200 人 ~250 人 未満	250 人 未満	無回答	合計
放課後等デイサービス (n=4,740)	20.7%	8.9%	21.2%	24.0%	23.1%	2.1%	100.0%

## ウ. 利用者像

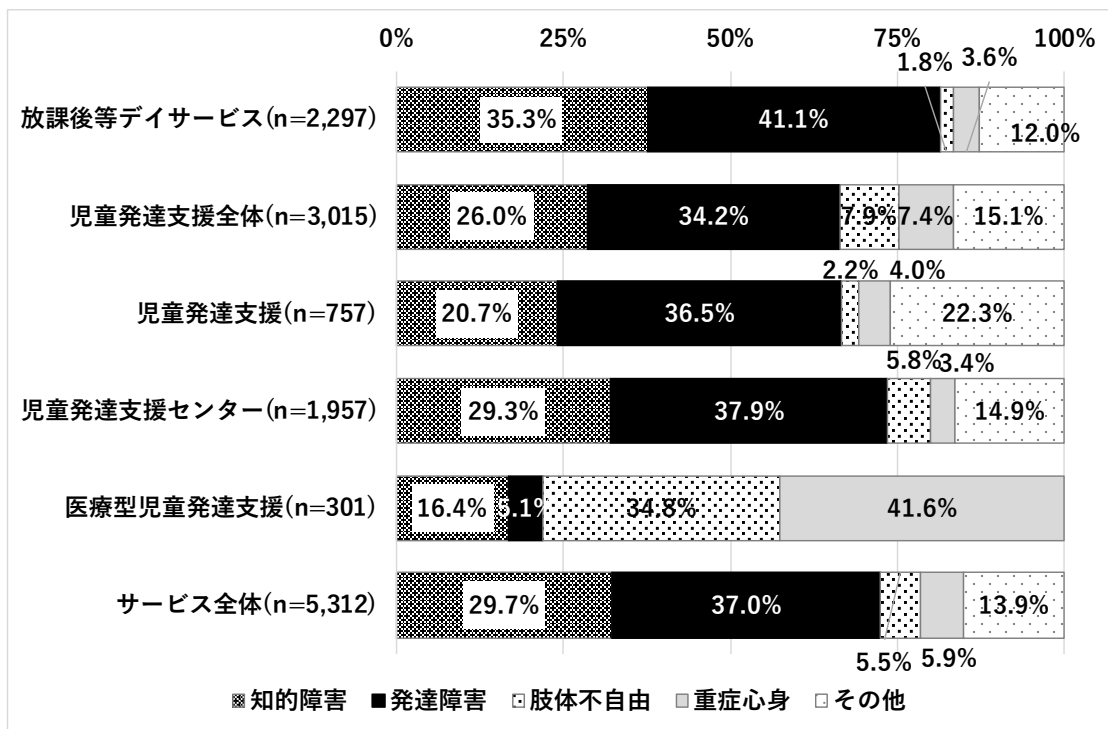
サービス別に利用者の年齢層をみると、法令で定められている通り放課後等デイサービスでは学齢期（7 歳以上）の利用者が多く、児童発達支援全体では未就学児（6 歳以下）がほとんどであった。ただし、放課後等デイサービスでは、小学生が 69.3%、中学生が 18.7%、高校生が 10.9%であり、学年が上がるごとに利用者の構成比が小さくなった。

サービス別に利用者の主たる障害をみると、放課後等デイサービス、児童発達支援事業所、児童発達支援センターの利用者について、発達障害との回答が最も多かった。一方、医療型児童発達支援では、重症心身障害の割合が最も大きく、次いで、肢体不自由の割合が大きかった。

図表 16 サービス別利用者の年齢層<sup>8</sup>



図表 17 サービス別利用者の主たる障害<sup>9</sup>



<sup>8</sup> 事業所票にて返答された利用者の数を合算して算出した。

<sup>9</sup> 視覚障害、聴覚障害についても確認したが、数が少なかったため、その他に他の回答とまとめて集計した。

## エ. 職員体制

サービス別に専門職の配置状況をみると、すべてのサービスにおいて、保育士はほとんどの事業所で配置されていた。また、医療型児童発達支援及び児童発達支援センターでは他サービスと比べて医療職の配置割合が大きかった。

図表 18 サービス別専門職の配置状況

利用サービス	保育士	医師	看護師	心理士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士
放課後等デイサービス (n=59)	88.1%	8.5%	22.0%	30.5%	16.9%	16.9%	22.0%
児童発達支援全体 (n=81)	96.3%	39.5%	49.4%	35.8%	39.5%	42.0%	43.2%
児童発達支援 (n=31)	90.3%	16.1%	19.4%	29.0%	22.6%	19.4%	19.4%
児童発達支援センター (n=36)	100.0%	38.9%	55.6%	33.3%	33.3%	44.4%	52.8%
医療型児童発達支援 (n=14)	100.0%	92.9%	100.0%	57.1%	92.9%	85.7%	71.4%
サービス全体 (n=140)	92.9%	26.4%	37.9%	33.6%	30.0%	31.4%	34.3%

職員の育成体制及び育成方法について尋ねると、いずれのサービスにおいても育成体制は「整っている」と大半の事業所が回答しており、育成の手法は「事業所・法人内研修の実施」「事業所・法人外研修への参加」との回答が多かった。また、育成担当には管理職または経験年数の長いベテラン職員が当たっていた。

図表 19 サービス別職員の育成体制（上段）、育成手法（中段）、育成担当者（下段）

利用サービス	整っている	整っていない	未回答	合計
放課後等デイサービス (n=59)	93.2%	6.8%	0.0%	100.0%
児童発達支援全体 (n=81)	97.5%	1.2%	1.2%	100.0%
児童発達支援 (n=31)	93.5%	3.2%	3.2%	100.0%
児童発達支援センター (n=36)	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
医療型児童発達支援 (n=14)	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
サービス全体 (n=140)	95.7%	3.6%	0.7%	100.0%

利用サービス	OJT により 実施	事業所・ 法人内研 修の実施	事業 所・法 人外研 修への 参加	事業 所・法 人外研 修への 助成	育成担当 者への育 成方法に 関する研 修の実施	その 他
放課後等デイサービス (n=59)	67.8%	91.5%	89.8%	49.2%	30.5%	13.6%
児童発達支援全体 (n=81)	67.9%	95.1%	90.1%	35.8%	22.2%	7.4%
児童発達支援 (n=31)	58.1%	90.3%	90.3%	41.9%	29.0%	16.1%
児童発達支援センター (n=36)	72.2%	100.0%	91.7%	30.6%	13.9%	2.8%
医療型児童発達支援 (n=14)	78.6%	92.9%	85.7%	35.7%	28.6%	0.0%
サービス全体 (n=140)	67.9%	93.6%	90.0%	41.4%	25.7%	10.0%

利用サービス	管理職	経験年数の 長いベテラン	外部専門職	その他
放課後等デイサービス (n=59)	78.0%	74.6%	35.6%	20.3%
児童発達支援全体 (n=81)	81.5%	80.2%	28.4%	9.9%
児童発達支援 (n=31)	80.6%	71.0%	35.5%	19.4%
児童発達支援センター (n=36)	83.3%	88.9%	22.2%	2.8%
医療型児童発達支援 (n=14)	78.6%	78.6%	28.6%	7.1%
サービス全体 (n=140)	80.0%	77.9%	31.4%	14.3%

### ③支援方針

#### ア. 支援に際し重視している事項

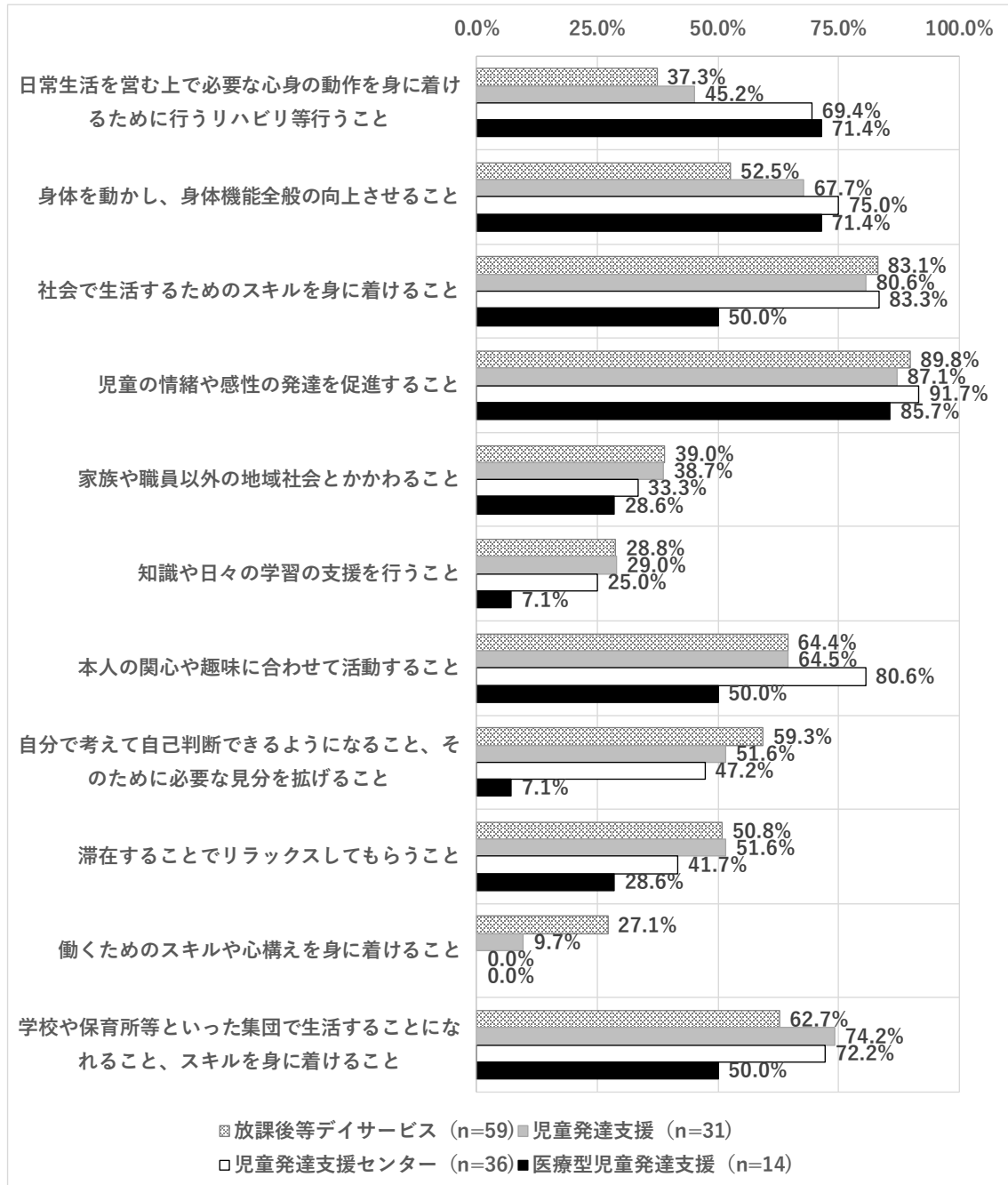
支援に際し重視していることについては、全てのサービスで「児童の情緒や感性の発達を促進すること」について重視しているとする割合が最も大きかった。また、児童発達支援事業所、児童発達支援センター、医療型児童発達支援では、「社会で生活するためのスキルを身に着けること」を重視するとの回答が8割を超えたのに対し、放課後等デイサービスでは50%にとどまり、サービスによる差がみられた。

一方、「働くためのスキルや心構えを身に着けること」「知識や日々の学習の支援を行うこと」については、重視しているとの回答が全体的に少なかった。

#### イ. 活動内容

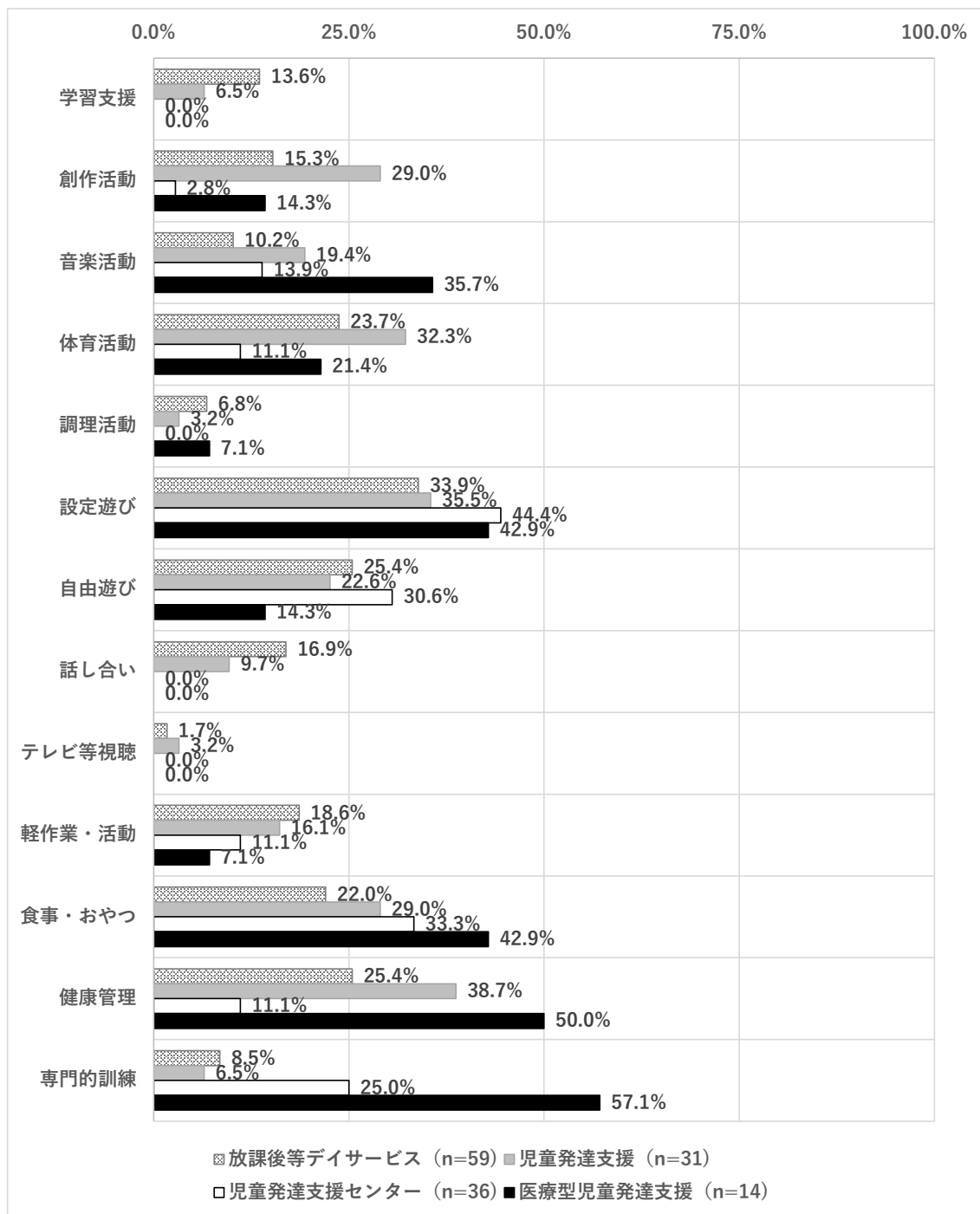
特に注力している活動について尋ねると、「設定遊び」との回答がいずれのサービスにおいても3割以上であった。医療型児童発達支援では、「専門的訓練」「健康管理」が特に多いことが特徴であった。放課後等デイサービスでは、他のサービスと比較すると「学習支援」「話し合い」「軽作業・活動」が多かった。一方、「テレビ等視聴」、「調理活動」では、特に注力しているとの回答は少なかった。

図表 20 支援に際し重視していること（重視している項目）<sup>10</sup>



<sup>10</sup> 「重視している」「やや重視している」「どちらともいえない」「あまり重視していない」「重視していない」の5段階で回答を得た。このうち、「重視している」との回答結果を表記した。

図表 21 活動内容（特に注力して実施している項目）<sup>11</sup>



<sup>11</sup> 「特に注力して実施している」「実施している」「あまり実施していない」「実施していない」の4段階で回答。そのうち、「特に注力して実施している」の回答結果を表記している。

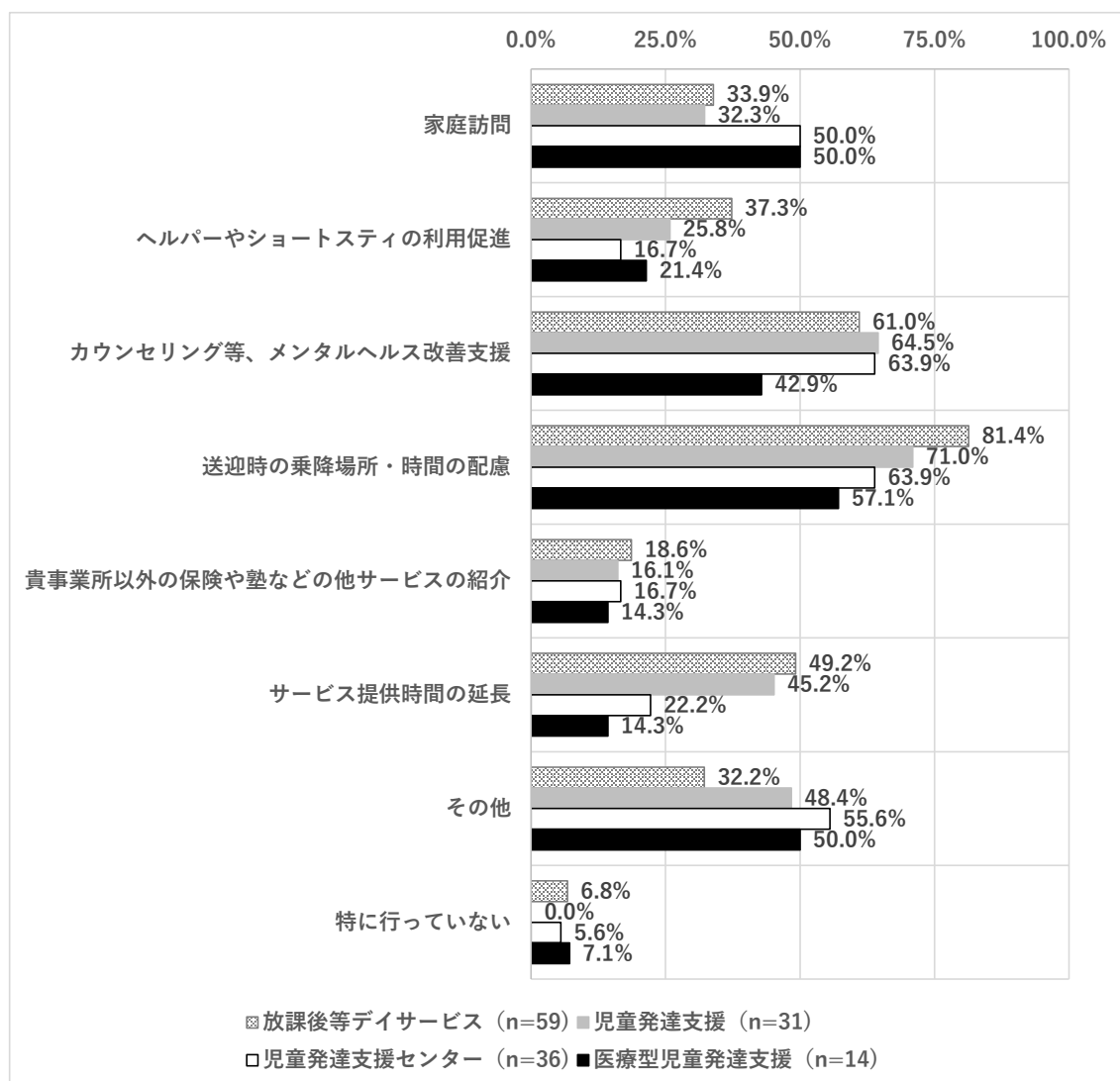


### ③保護者支援

保護者支援の内容について確認すると、「送迎時の乗降場所・時間の配慮」の支援については半数以上が実施しており、特に放課後等デイサービスでは81.4%と最も多かった。また、医療型児童発達支援以外では、「カウンセリング等、メンタルヘルス改善支援」を実施しているとの回答も半数を超えた。

一方、「事業所以外の保険や塾などの他サービスの紹介」を行っている事業所は2割に満たない水準であった。

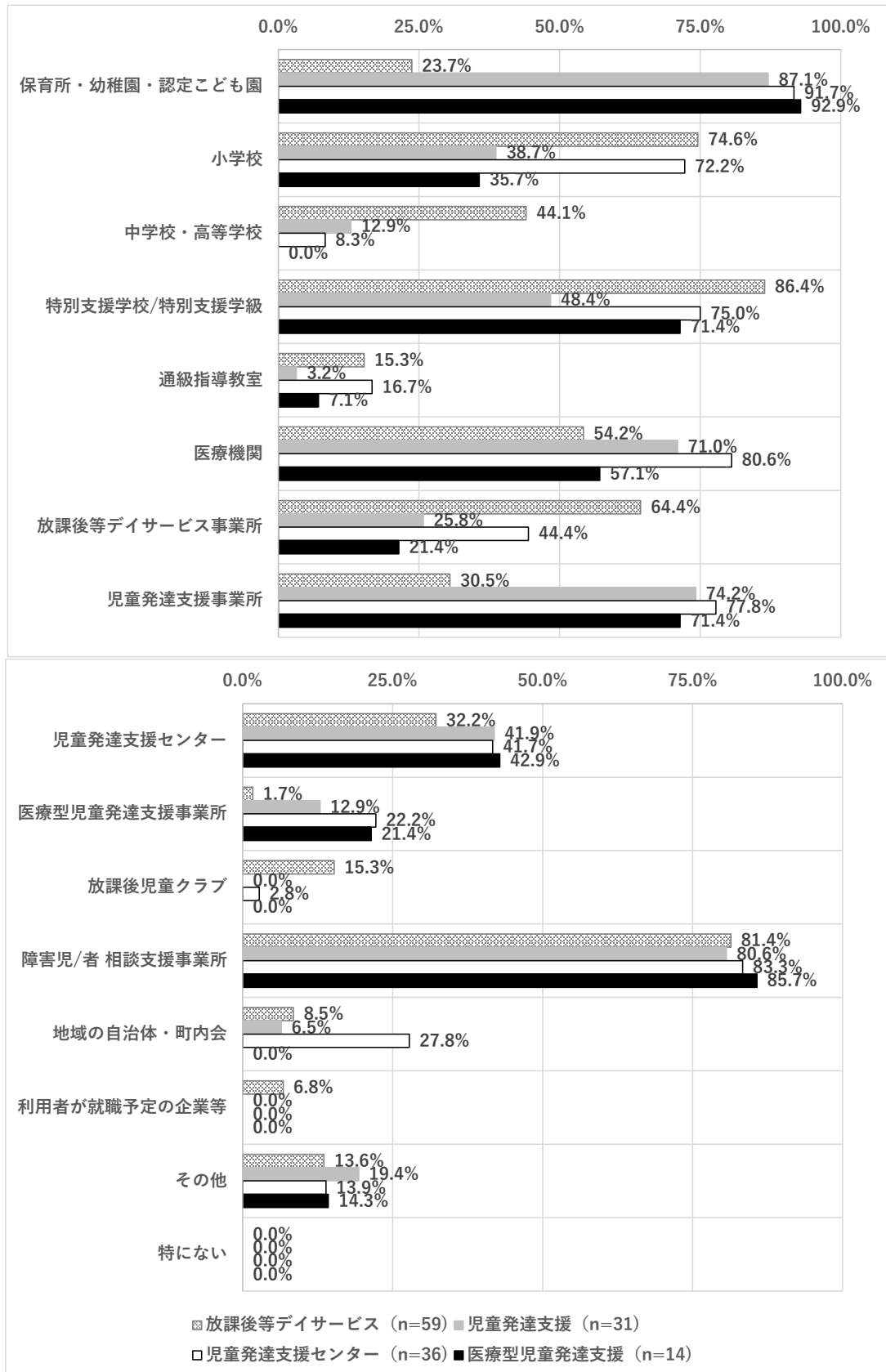
図表 22 保護者支援の内容（複数回答）



### ④連携している外部機関

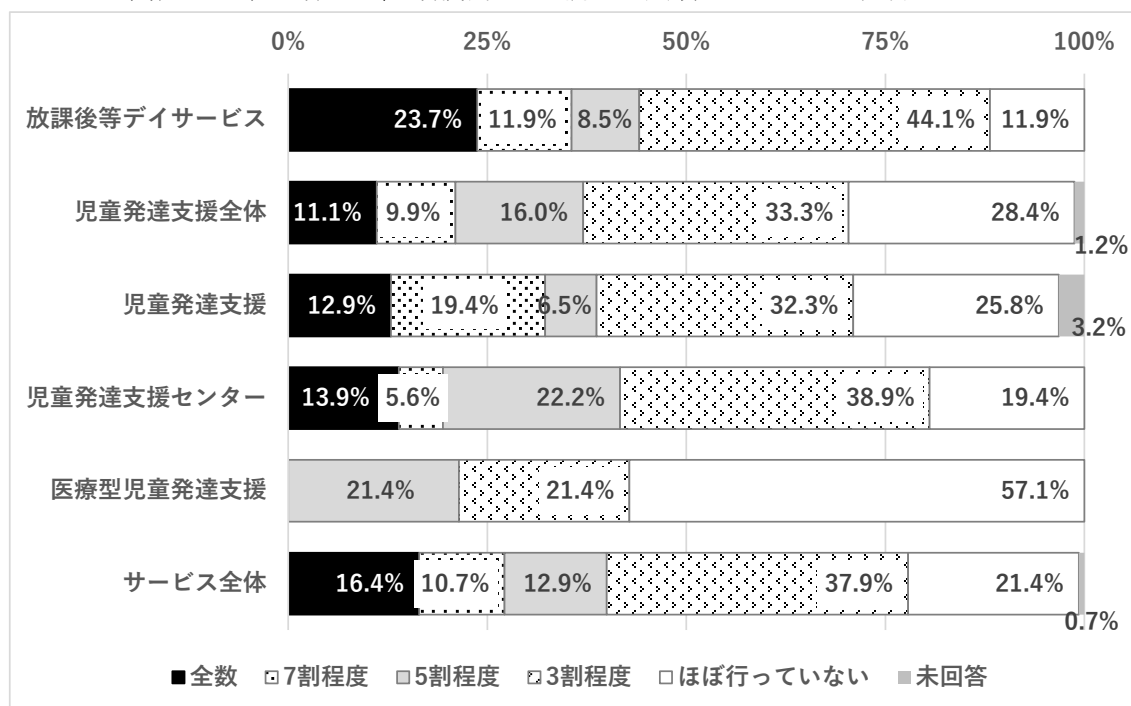
連携している外部機関について尋ねると、いずれのサービスでも障害児・者相談支援事業所と連携しているとの回答が多かった。また、児童発達支援事業所では、「保育所等」、放課後等デイサービスでは「特別支援学校」が多いなどの特徴がみられた。

図表 23 連携している外部機関（複数回答）



利用者のうち外部機関と連携して支援している人の割合を尋ねると、放課後等デイサービス、児童発達支援事業所、児童発達支援センターにおいて、半数以上の事業所が外部機関と連携しているとの回答であった。放課後等デイサービスではその割合がさらに大きく、すべての利用者が外部機関と連携しているとする割合が23.7%を占めていた。一方、医療型児童発達支援では、半数以上がほぼ行っていないとの結果であった。

図表 24 利用者うち、外部機関と連携して支援している人の割合



## (2) ケース調査結果

本節ではケース調査票の回答結果を基に、利用者の状態像及び支援の状況について記載する。なお、年齢層別に集計しており、サービス別の年齢層ごとの回答人数は以下の通りである。法令等の利用条件にあるように、未就学の年齢層（0歳～6歳）の利用者は児童発達支援事業所を利用しており、就学年齢層（7歳以上）は放課後等デイサービスを利用していることがわかった。

図表 25 年齢層別利用サービス

	放課後等 デイサー ビス	児童発達 支援全体	児童発達 支援	児童発達 支援セン ター	医療型児 童発達支 援	計
0歳～3歳 (n=558)	0.0%	29.0%	52.5%	16.3%	2.2%	100.0%
4歳～6歳 (n=1242)	4.8%	28.2%	56.8%	8.7%	1.6%	100.0%
7歳～9歳 (n=385)	99.7%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	100.0%
10歳～12歳 (n=275)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
13歳～ (n=250)	99.6%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答 (n=59)	8.5%	18.6%	0.0%	0.0%	72.9% <sup>12</sup>	100.0%
計(n=2769)	35.1%	18.9%	36.1%	7.2%	2.7%	100.0%

### ①利用者状況

#### ア. 主たる障害

利用者の主たる障害について尋ねると、主たる障害が知的障害の割合が9歳までは25%程度で推移していたものが、10歳以降年齢が上がるにつれて割合が上昇し、13歳～では45.2%を占めた。発達障害の割合は、0歳～3歳の年齢層では14.5%であるのに対し、10歳～12歳の年齢層では39.3%であり、20ポイント以上多かった。

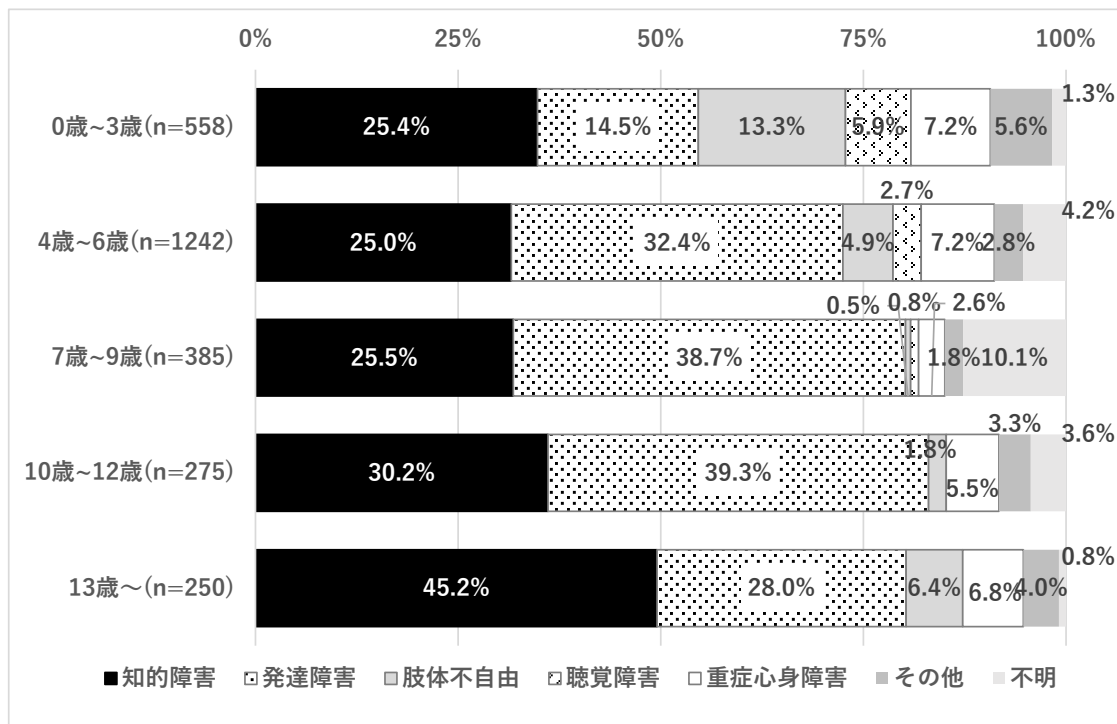
主たる障害が肢体不自由、聴覚障害、重症心身障害の割合は、0歳～3歳の年齢層の回答が13.3%、7.2%と最も多く、7歳～9歳の年齢層までに漸減している。

さらに、医療的ケアの必要性、行動障害の有無について確認すると、医療的ケアの必要性については、0歳～3歳の年齢層が7.2%と最も多く、7歳～9歳の年齢層で最も少なく3.6%であった。行動障害の有無については、年齢層が上がるにつれて、

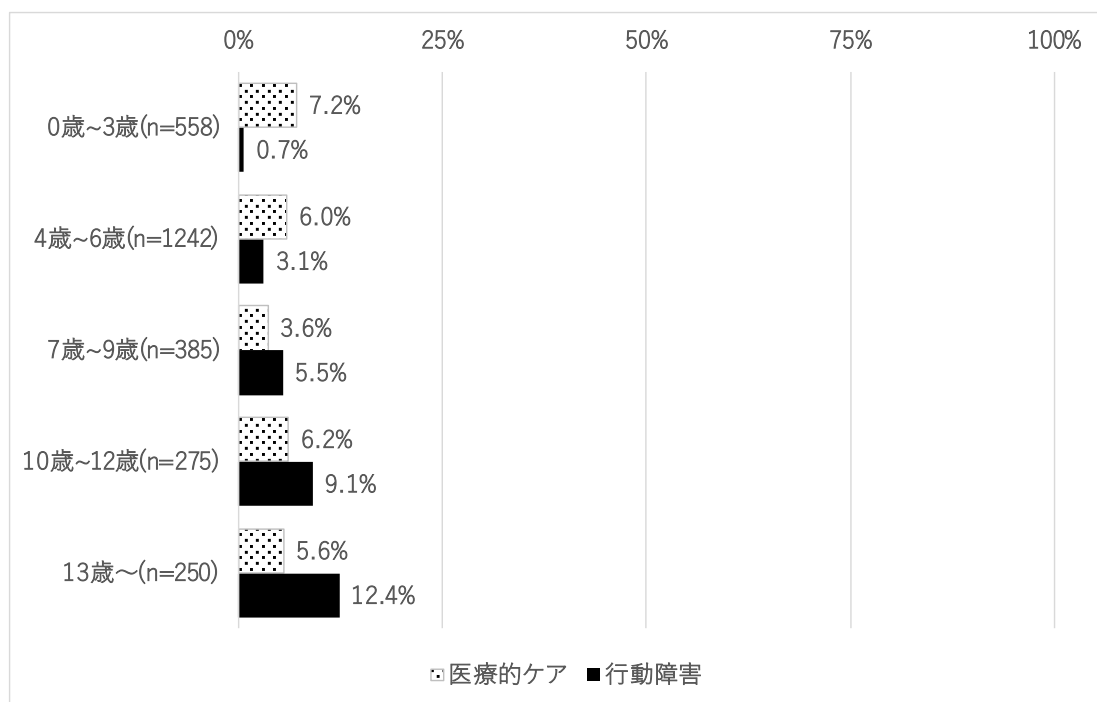
<sup>12</sup>医療型児童発達支援では多くが年齢無回答であったため、以降の年齢層別の分析結果の確認においては留意が必要である。

その障害があるとの回答が多くなっていた。また、13 歳以上では通う知的障害が多くなり、年齢が上がるに連れ行動障害が増えていることがわかる。

図表 26 年齢層別利用者の主たる障害<sup>13</sup>



図表 27 年齢層別利用者の医療的ケア、行動障害の有無



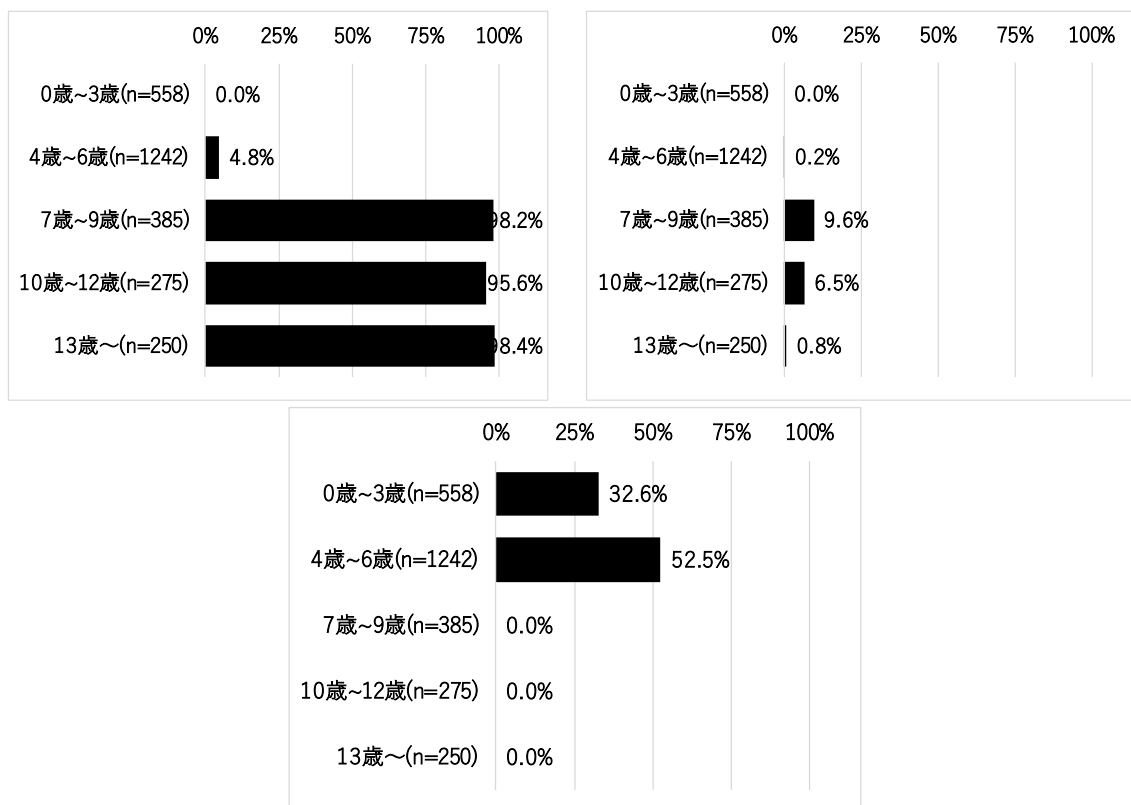
<sup>13</sup> 視覚障害など構成比割合が小さい障害については、その他にまとめて集計した。

## イ. 登校状況、学童保育利用状況、保育所利用状況

就学する7歳以上の登校状況については、7～9歳、10～12歳、13歳～でそれぞれ1.8%、4.4%、1.6%が登校していないことがわかる。また、学童保育の利用状況は、一般に最も利用の多い7～9歳の年齢層でも9.6%に留まっていた。

保育所利用状況については、4～6歳の年齢層で約半数が利用している。厚生労働省の報告によれば、保育所等利用率<sup>14</sup>は3歳児以上で55.4%であり、本調査において4歳～6歳の利用割合が52.5%であることを踏まえると利用率に大きな違いがないといえることができる。

図表 28 登校状況（左図）・学童保育利用状況（右図）保育所利用状況（下図）

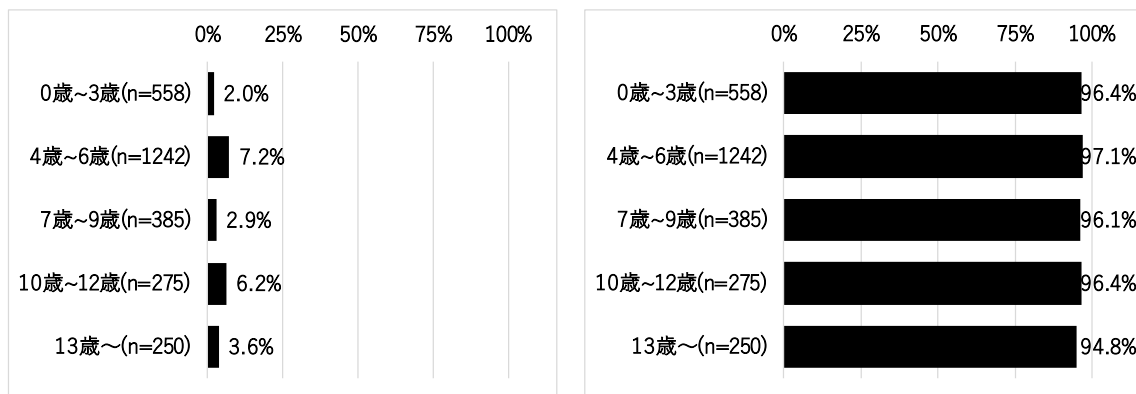


## ウ. 養育環境

児童相談所が関与しているケースは10%未満であった。また、事業所職員から見て養育状況が適切かについて尋ねると、いずれの年齢層でも90%以上が適切であるとの回答であった。

<sup>14</sup> 厚生労働省子ども家庭局保育課（令和2年9月4日発表）「保育所等関連状況とりまとめ（令和2年4月1日）」 保育所等利用率＝当該年齢の保育所等利用児童数÷当該年齢の就学前児童数

図表 29 児童相談所の関与あり割合（左図）・養育状況（適切である割合）（右図）

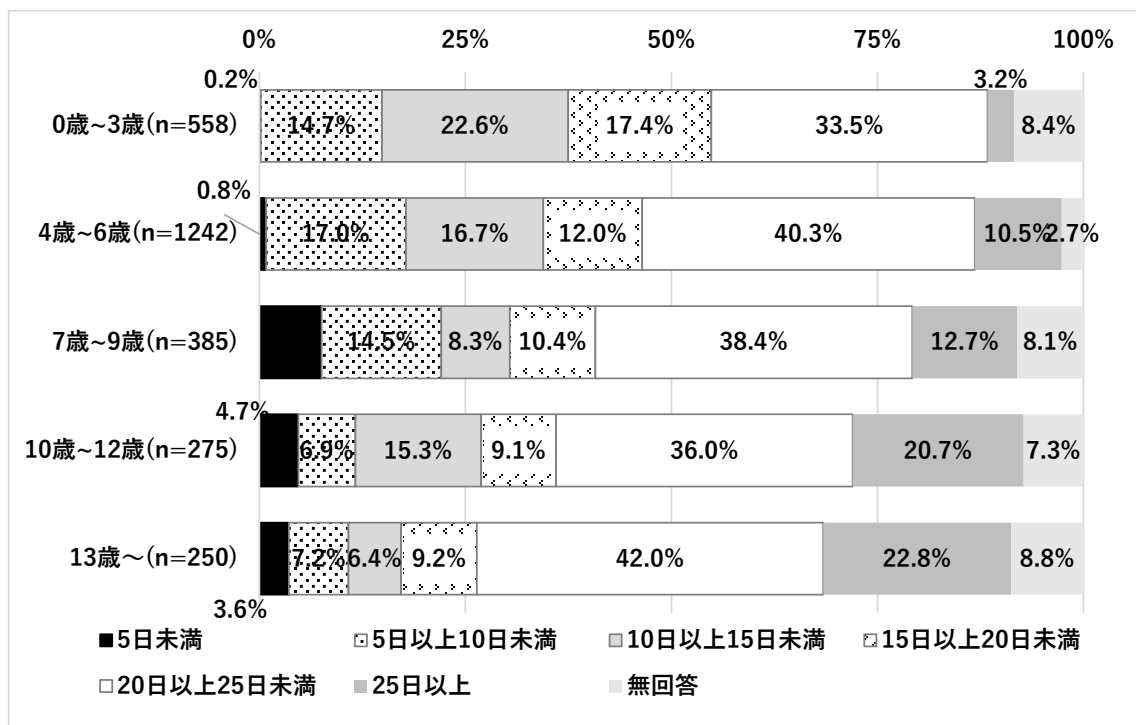


## ②支給決定状況

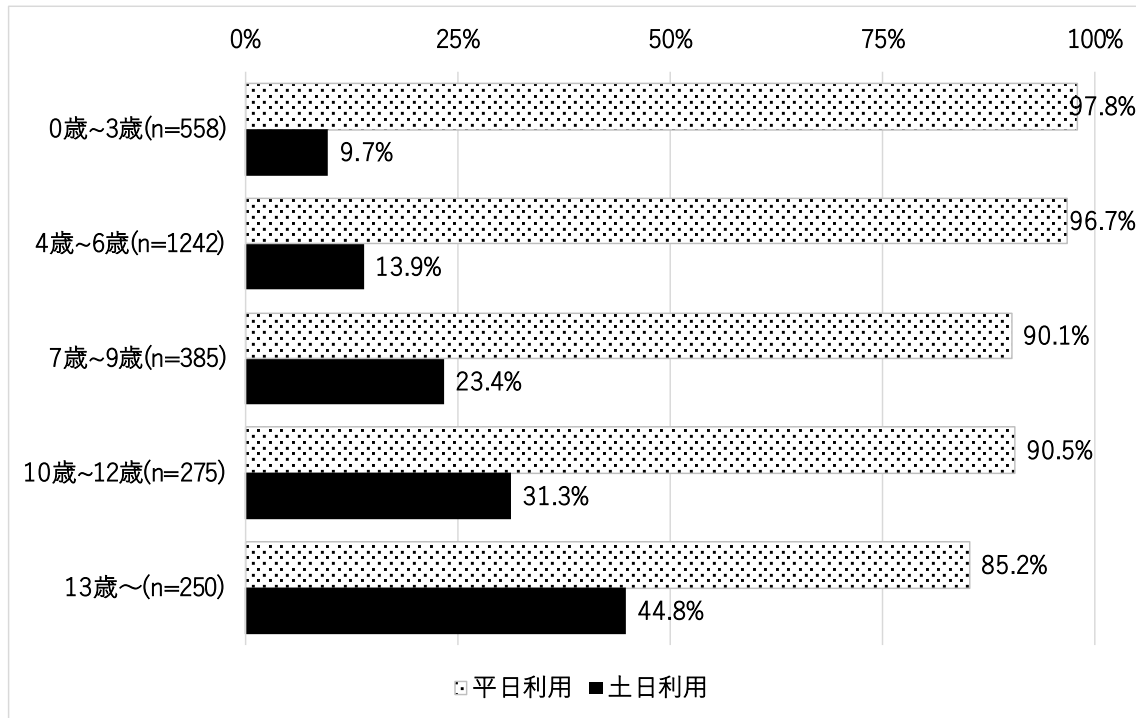
支給決定日数は、年齢層が上がるにつれて、20日以上25日未満、25日以上の割合が大きくなっている。7歳以上では半数以上が20日以上の支給決定となっている。

また、利用曜日について確認すると、年齢層が上がるにつれて、平日利用するとの割合が減少し、土日利用とする割合が増加している。特に13歳~では44.8%が土日に利用しているとの結果であった。なお、土日のうち、土曜日の利用が特に多かった。

図表 30 支給決定状況



図表 31 年齢層別利用曜日



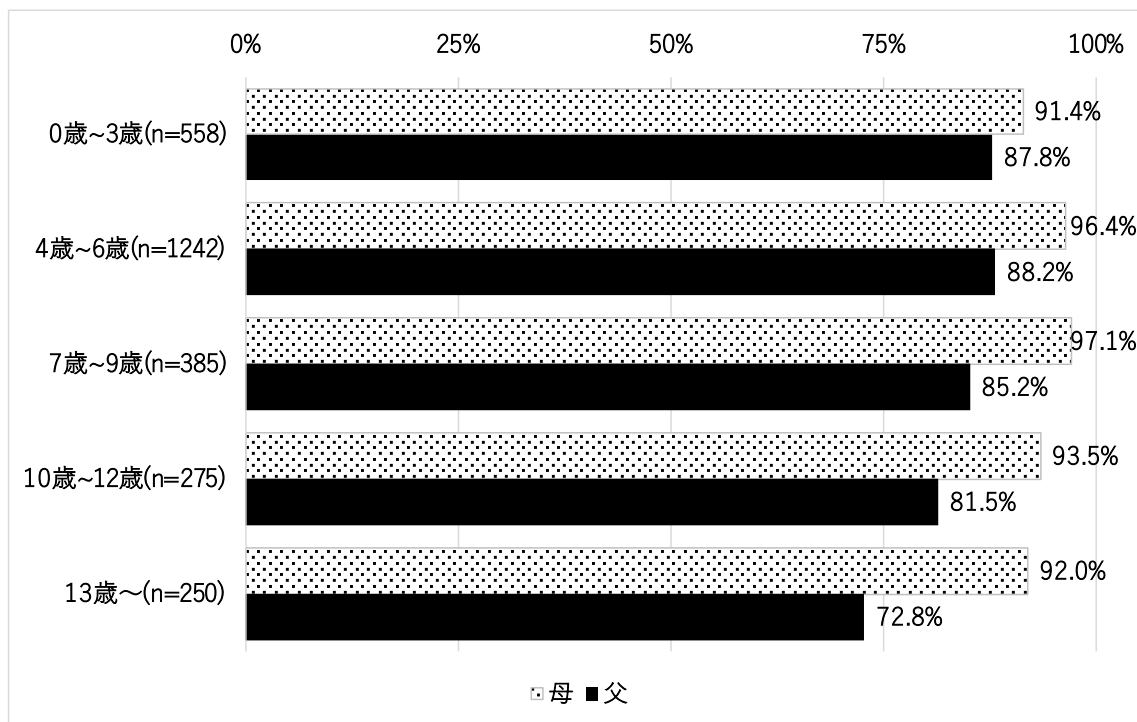
### ③同居家族の状況<sup>15</sup>

母親の同居は 90%超で推移しているが、父親の同居は子供の年齢層が上がるにつれて減少しており、13 歳~では 72.8%まで減少している。次に、同居家族のうち就労している割合を尋ねると、父親の就労については、子どもの年齢がどの年齢層でも 100%弱で推移しているのに対し、母親は年齢層が上がるにつれて就労しているとの割合が増加している。子どもの年齢が 10 歳以上では、約 65%程度が就労しているとの結果であった。

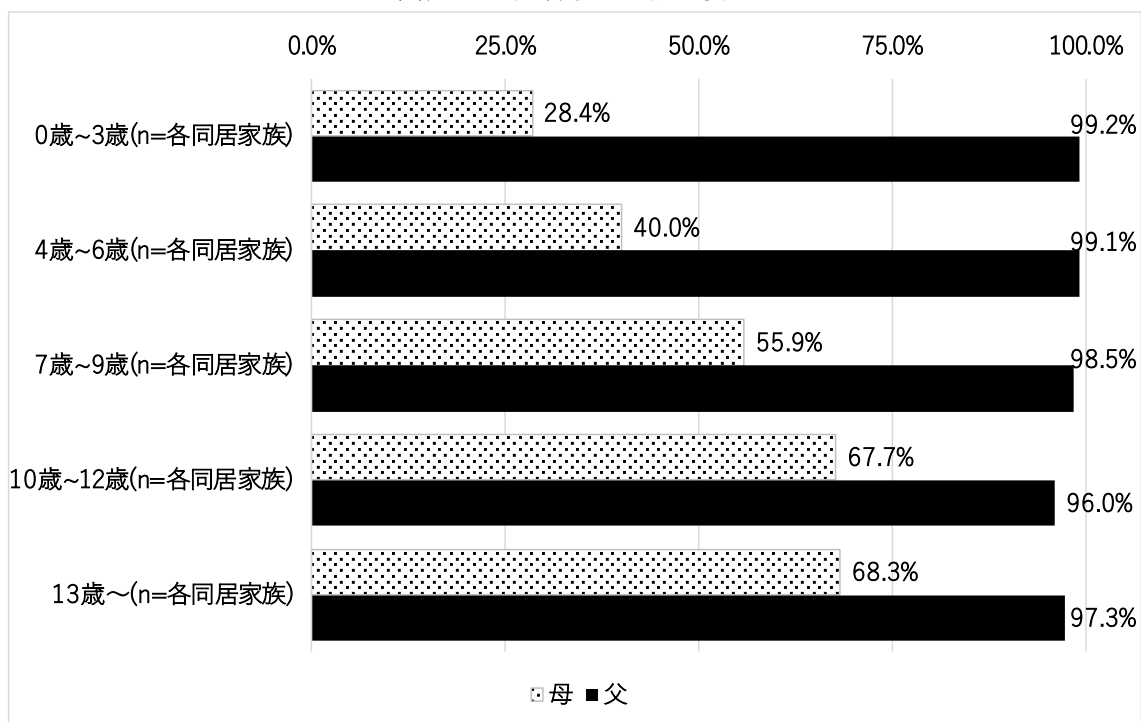
<sup>15</sup> 同居家族の状況については、掲載している母、父の他、祖母、祖父、きょうだい、その他についても尋ねているが、特徴的な傾向が示されなかったため図表からは割愛している。



図表 32 同居家族の状況



図表 33 同居家族の就労状況



#### ④保護者支援

保護者支援の実施状況について、「特になし」とする回答が全体で 34.1%と最も多かった。次いで、「カウンセリング等の支援」、「緊密な連絡調整の実施」が多かった。なお、「カウンセリング等の支援」については、未就学児の年齢層の方が就学後の年齢層と比べ多かった。

なお、「通所時の乗降場所・時間配慮」については、13 歳~の年齢層で他の年齢層より回答が多かった。「サービス提供時間の延長」は 6 歳以下の年齢層と比較すると、7 歳以上の年齢層で割合が増加していた。

図表 34 保護者支援（複数回答、無回答除いて集計）

利用サービス	特になし	家庭訪問	ヘルパー・ショートステイ 利用促進	カウンセリング等の支援	通所時の乗降場所・時間配慮	貴事業所以外の保険や塾などの他サービスの紹介	サービス提供時間の延長	緊密な連絡調整の実施	その他
0 歳~3 歳 (n=558)	31.9%	10.9%	1.1%	36.4%	11.3%	8.6%	3.8%	18.6%	22.2%
4 歳~6 歳 (n=1242)	32.4%	8.1%	1.9%	31.2%	17.0%	8.5%	7.6%	28.3%	22.9%
7 歳~9 歳 (n=385)	39.5%	0.8%	2.6%	12.7%	16.4%	1.6%	22.6%	26.2%	15.1%
10 歳~12 歳 (n=275)	36.7%	3.3%	4.4%	17.8%	14.9%	2.2%	23.3%	32.7%	13.1%
13 歳~ (n=250)	36.4%	2.4%	8.0%	9.6%	26.8%	1.2%	22.4%	25.2%	0.0%
利用者全体 (n=2710)	34.1%	6.6%	2.7%	26.3%	16.4%	6.2%	11.9%	26.2%	18.6%

#### ⑤地域との接点

本人の支援を行う上で接点のある地域機関等については、各年齢層に応じてそれぞれ「保育所・幼稚園・認定こども園」「小学校」「中学校・高等学校」との回答が多かった。「放課後児童クラブ」については、7 歳~9 歳の利用が 6.0%と最も多く、10 歳~12 歳の利用は 1.5%に減少している。また、「医療機関」については、年齢層が上がるにつれ、接点があるとの割合は減少している。

図表 35 地域との接点（複数回答）（％）

年齢層	特 に ない	保育所・幼稚園・認定こども園	小学校	中学校・高等学校	特別支援学校	特別支援学級	通級指導教室	他の放課後等デイサービス・児童発達支援	放課後児童クラブ	地域の自治会・町内会	医療機関	利用者が就職予定の起業等	その他
0 歳～3 歳 (n=558)	12.9	37.1	0.0	0.0	1.3	0.5	0.0	19.5	0.0	0.0	49.1	0.0	5.0
4 歳～6 歳 (n=1242)	7.2	53.1	4.7	0.0	4.8	3.0	0.6	24.1	0.5	0.1	33.1	0.0	4.3
7 歳～9 歳 (n=385)	3.1	0.3	63.4	0.0	25.2	36.1	6.2	38.2	6.0	0.0	21.6	0.0	3.4
10 歳～12 歳 (n=275)	5.5	0.4	48.0	2.2	35.3	29.5	4.4	43.3	1.5	0.0	21.1	0.0	4.4
13 歳～ (n=250)	6.0	0.0	1.6	16.0	75.6	8.4	0.0	37.6	0.0	0.0	18.8	1.6	1.2
利用者全体 (n=2710)	7.5	32.1	16.2	1.7	16.6	10.4	1.6	28.3	1.2	0.0	32.2	0.1	4.1

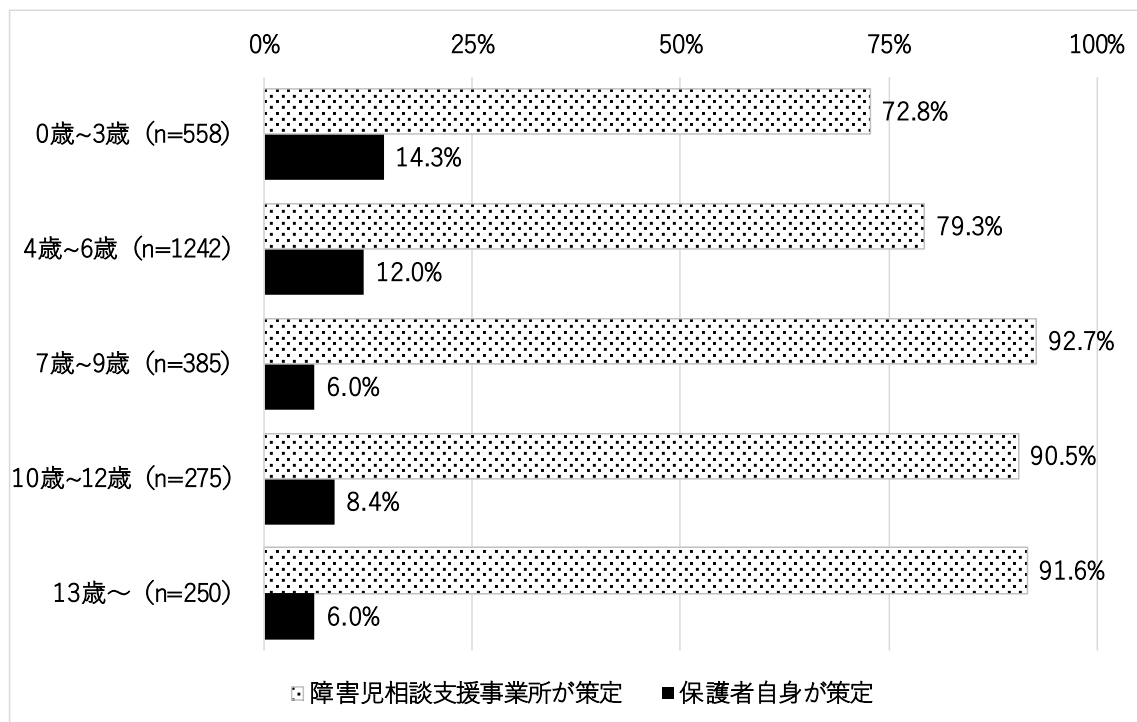
## ⑥支援形態

### ア．障害児利用支援計画とモニタリングの状況

障害児相談支援事業所が障害児支援利用計画を策定しているとの割合は、0-3 歳で 72.8%、4-6 歳で 79.3%、7 歳以降は 90%超で推移している。一方、保護者自身が策定している割合は 0 歳～3 歳で 14.3%、4 歳～6 歳で 12.0%、7 歳以上は 5%超程度で推移している。

なお、モニタリングの頻度は年齢層に関係なく、6 か月に 1 回程度実施が約 8 割であり、3 か月に 1 回程度が約 15%超程度であった

図表 36 障害児支援利用計画の策定状況（％）



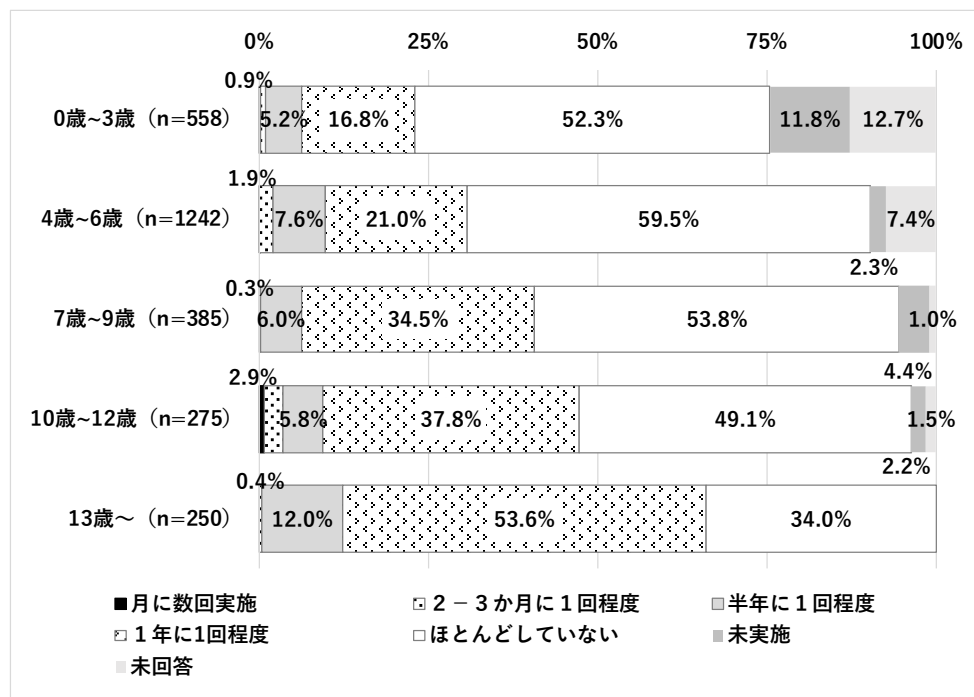
図表 37 障害児支援利用計画とモニタリングの頻度策定状況（％）

年齢層	毎月実施	3か月に1回程度で実施	6か月に1回程度で実施	9か月に1回程度で実施	1年に1回程度で実施	ほとんどしていない	利用期間が短い ためまだ実施していない	未回答	合計
0歳～3歳 (n=558)	1.1	13.6	77.2	0.0	0.4	0.0	3.4	4.3	100.0
4歳～6歳 (n=1242)	0.5	17.6	78.8	0.0	0.6	0.3	0.7	1.4	100.0
7歳～9歳 (n=385)	0.0	17.1	80.8	0.0	1.0	0.0	0.8	0.3	100.0
10歳～12歳 (n=275)	0.0	15.6	80.4	0.0	2.9	0.0	1.1	0.0	100.0
13歳～ (n=250)	0.0	15.6	80.0	0.0	3.2	0.8	0.0	0.4	100.0
利用者全体 (n=2710)	0.4	16.3	79.0	0.0	1.1	0.2	1.3	1.6	100.0

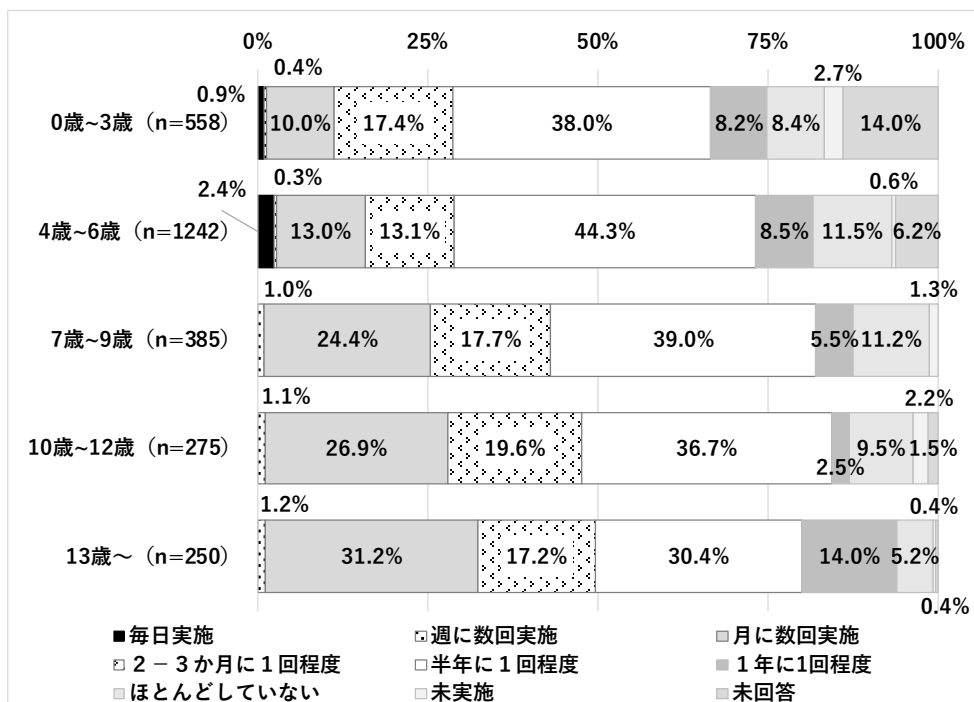
## イ. 会議の状況

会議の実施状況をみると、年齢層が上がるほど、外部機関を入れたケア会議を実施していた。また、事業所内でのケア会議の実施状況も同様の傾向があり、年齢層が高いほど、実施しているとの回答が多かった。

図表 38 外部機関を入れたケア会議



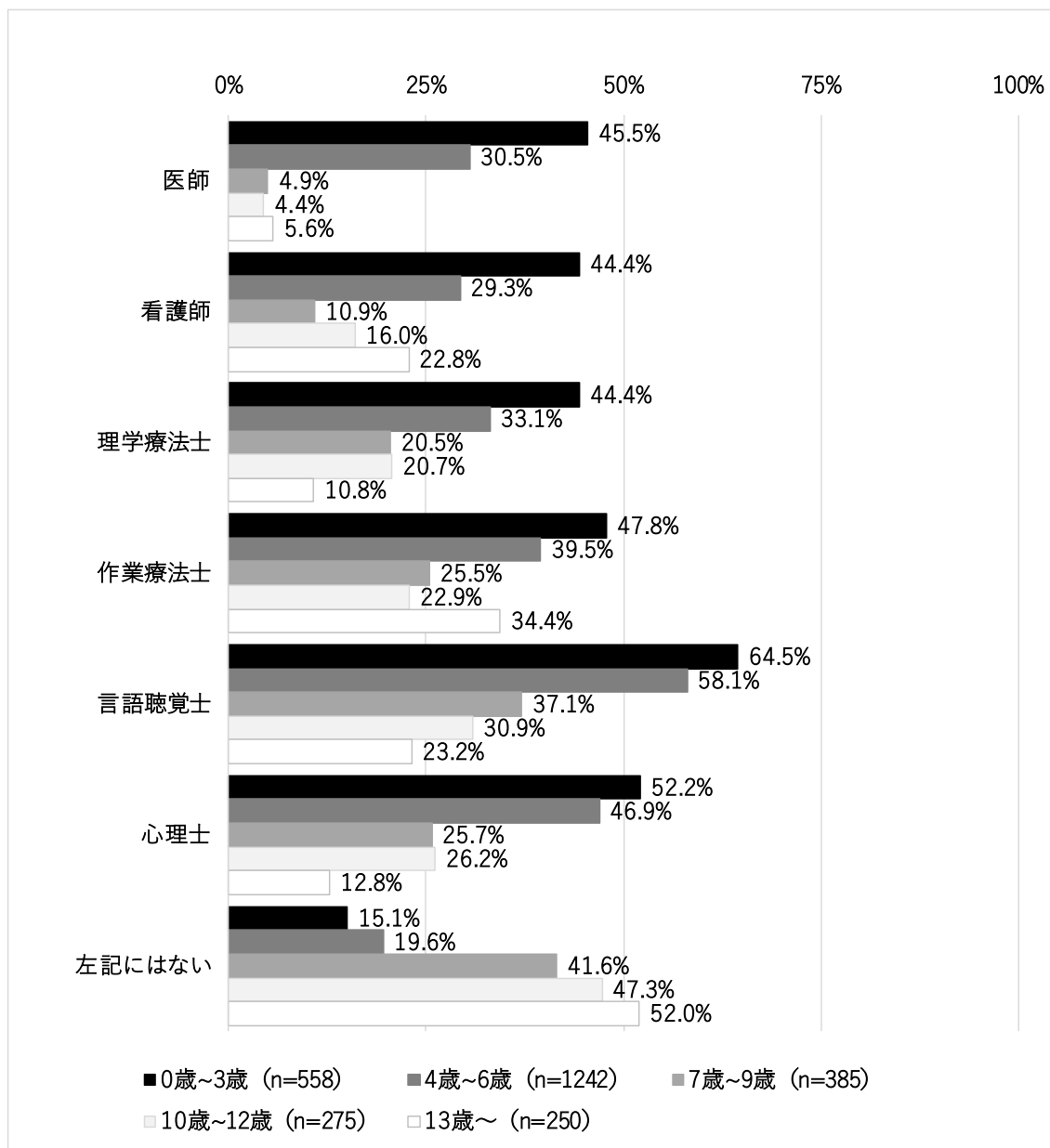
図表 39 事業所内でのケア会議



## ウ. 専門職の関与

専門職別に関与状況をみると、各専門職とも年齢層が低いほど関与している割合が大きい結果であった。ただし、看護師、作業療法士については、13歳以上で関与している割合が大きい結果であった。

図表 40 専門職の関与



### (3) タイムスタディ調査結果

本節ではタイムスタディ調査の調査結果を分析した結果について記載する。なお、分析の際には、事業所票の調査結果、ケース票の調査結果も活用し、各サービスの特徴を明らかにすることを目的として分析を進めた。

#### ①分析の視点

##### ア. 調査方法の解説

タイムスタディ調査票の一日分は以下のとおりである。調査対象事業所職員に「お子様 ID」に記載された利用者について当該日の活動内容を記入してもらう内容となっている。なお、「お子様 ID」はケース票の該当ケースと共通 ID を活用し、紐づけて分析できる設計とした。

まず、「利用開始時刻（事業所に到着し利用開始した時刻）」と「利用終了時刻（事業所を出た時刻）」を記入してもらった。また、「送迎の有無」については、登園時及び降園時それぞれ「送迎あり/送迎なし」を選択してもらった。「本日の利用状況」については、「利用（定時利用）/利用（開始遅刻、終了定時）/利用（開始定時、終了早退）/利用（開始遅刻、終了早退）/利用（開始定時、終了延長）/利用（開始遅刻、終了延長）/利用していない」のいずれかを選択してもらった。

次に『活動』の開始時刻、終了時刻記入欄に「活動内容」ごとの開始時刻と終了時刻を分刻みで記載してもらった。開始時刻と終了時刻から、当該活動内容の活動時間を算出した。活動内容の項目は先行研究、事前の委員、事業所等へのプレ調査をもとに、以下の通り整理した。

図表 41 タイムスタディ調査票

お子様ID		1 お子様が実施した活動内容について記入してください																
利用開始時刻	～	利用終了時刻	送迎の有無			登園時									本日の利用状況			
	～					降園時												
「活動」の開始時刻、終了時刻記入欄			活動内容	個別活動	職員のかかわり	活動目的												備考
						A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
1 月 1 8 日 (月)		～																
		～																
		～																
		～																
		～																
		～																
		～																
		～																
		～																
		～																
		～																
		～																

図表 42 活動内容項目

		項目	概要
a.活動	1	学習支援	学校の宿題や授業の補足、支援を行う活動
	2	創作活動	描画、工作、書道等の活動
	3	音楽活動	楽器等演奏や歌などの活動
	4	体育活動	スポーツやトランポリン、ラジオ体操などの活動
	5	調理活動	調理やその準備、食材選びなどの活動
	6	設定遊び	職員の指示等に合わせた行う遊び
	7	自由遊び	児童が自発的に行う遊び
	8	話し合い	児童同士の話し合いや準備、振り返りを行う活動（職員はその示唆出しやサポートを行う活動）
	9	テレビ等視聴	テレビ、ビデオ、タブレットや PC などを通じて映像等を視聴する活動
	10	軽作業・活動	散歩や清掃などの作業、活動
	11	食事・おやつ	給食やおやつを食する活動
	12	健康管理	投薬・服薬・感染予防といった活動
	13	専門的訓練	PT・OT・ST 等の専門職による専門的訓練、リハビリテーション
b.昼寝・休息	14	昼寝・休憩	昼寝などを通じた休息
c.その他	15	登降園準備等	登園時、降園時の準備、バイタル測定などを含む
	16	その他	

以上の活動内容について、「職員のかかわり」、「活動目的」及び、当該活動が「個別活動」に当たるかについて確認した。

ここでの「個別活動」については、本調査において「児童 1 人に対し、職員 1 人が対応する活動」と定義して回答してもらった。なお、1 部屋に集まっているが、パーテーション等でスペースを区切り、その中で個々人が別々に活動し、1 人の職員が時間を区切って 1 人 1 人に対応している場合（例えば、強度自閉症の方への対応など）も「個別活動」と定義した。また、「職員のかかわり」と「活動目的」は次の通り定義して調査を行った。なお、「職員のかかわり」は「活動内容」に対し単一回答となるが、「活動目的」は「活動内容」に対し複数の目的で実施することがあるとプレ調査で確認されていたことから、複数回答により回答してもらった。



図表 43 職員のかかわり（単一回答）

直接介助	専門的生活介助（更衣、排泄、食事、起居、体位変換、移乗、移動などの一連の介助）を行う
間接的介助	活動の様子を観察しつつ、必要により専門的生活介助を行える体制でのかかわり
見守り	活動の様子を観察し、必要により活動の示唆を与える
その他	バイタル測定など

図表 44 活動目的（複数回答）

A	基本的な ADL の自立訓練	日常生活を営む上で必要な心身の動作を身に着けるためにリハビリ等を行うこと
B	身体機能の向上	身体を動かし、身体機能全般を向上させること
C	社会性やコミュニケーションスキルの獲得	社会で生活するためのスキルを身に着けること
D	感性と表現力の向上	児童の情緒や感性の発達を促進すること
E	身近な環境へのかかわり	家族や職員以外の地域社会とかかわること
F	学習教材や宿題等への取組、学習支援	知識や日々の学習の支援を行うこと
G	本人が自由に過ごせる時間の提供	本人の関心や趣味に合わせて活動すること
H	本人自身が将来や関心について考える機会	自分で考えて自己判断できるようになること、そのために必要な見分を拡げること
I	安心安全が確保されたリラックスできる場の提供	滞在することでリラックスしてもらうこと
J	働くことの理解や働く場との接点の提供	働くためのスキルや心構えを身に着けること
K	集団での活動への慣れや訓練	学校や保育所等といった集団で生活することになれること、スキルを身に着けること
L	その他	A~K にはない目的

## イ. 分析方針

『活動』の開始時刻、終了時刻記入欄に記載された時間に基づき「活動内容」「個別活動」「職員のかかわり」「活動目的」の各項目について、費やした時間を算出した。

各項目において費やした時間を従属変数とし、事業所別、年齢層別、サービス別等のパラメータに基づき分類し、1日あたりの時間を算出した。1日あたりの各項目別の時間と、当該ケースにおける1日あたりの利用開始から終了までの時間を算出し、全体の利用時間のうち当該項目に費やした時間が占める割合（構成比）について、各分類ごとに分析を進めた。

さらに、上記分析結果に加え、各パターンごとの典型例について掲載した。なお、典型例は以下の手順に従い作成した。ただし、典型例については、あくまで当該パターンにおける支援の時間配分の参考例として捉えていただきたい。

図表 45 典型例の掲載方針

検討項目	作成方針
始業時刻、終業時刻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最頻値（mode）を算出 端数がある場合は、30 分刻みになるように、値を調整</li> <li>・なお、長時間利用となる場合は、正午前後に「食事・おやつ」が来るように前後のバランスを考慮した。</li> </ul>
活動内容 （登降園準備等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算出された時間を 2 等分し、始業時間後時間、就業時間前時間として設定</li> <li>・1 日あたり活動時間を算出し、構成比を乗じて「登校園準備等」を算出</li> </ul>
活動内容 （食事・おやつ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始業時刻と終業時刻の間で正午の時間を挟むように「食事・おやつ」の時間を設定</li> <li>・なお、短時間等で午前のみ、午後のみに活動している場合は利用終了前に「食事・おやつ」が配置されるよう設定</li> <li>・1 日あたり活動時間を算出し、構成比を乗じて「食事・おやつ」の時間を算出</li> </ul>
活動内容 （上記以外の活動）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「登校園準備等」、「食事・おやつ」を除き、活動内容の各項目の構成比が大きい順に降順に並べ替えを実施</li> <li>・降順での並べ替え後、1 位の活動項目の構成比から順番に構成比を累計していき、活動項目の構成比の累計が 50%を超える水準に達する活動項目までを抽出</li> <li>・抽出した活動内容項目の総和を計算し、その数値を分母として、各活動項目の構成比を再計算 活動項目構成比の再計算値＝ 各活動項目の構成比÷抽出した活動項目構成比の総和…①</li> <li>・1 日あたり活動時間から「登校園準備等」、「食事・おやつ」時間を減じた時間を算出 …②</li> <li>・②に①を乗じて、各活動内容の時間を算出…③</li> </ul>
掲載方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・③の数値及び、「登校園準備等」「食事・おやつ」時間の設定方法をもとに 30 分単位でパターンイメージを作成</li> </ul>

## ウ. 分析対象とパターン

以上の分析方針に従い、今回の調査の目的である、利用形態のパターン分けを試みた。本事業の分析対象となる人数を整理すると以下の通りである。

図表 46 年齢層、利用サービス別分析対象者数<sup>16</sup>

	児童発達支援	児童発達支援センター	医療型児童発達支援	放課後等デイサービス	計
0 歳~3 歳	162	271	91	0	524
4 歳~6 歳	350	651	108	59 <sup>17</sup>	1168
7 歳~9 歳	0	1	0	384	385
10 歳~12 歳	0	0	0	275	275
13 歳~	0	1	0	249	250
計	512	924	199	967	2602

検討委員の意見及び集計した分析結果から、タイムスタディ結果を分析する視点として、平日利用と土日祝日利用の違い、長時間利用と短時間利用の違い<sup>18</sup>について指摘されていたことを受けて、これらをパターン分けして分析することとした。また、小学校就学時年齢（7 歳~12 歳）と中学生・高校生（13 歳~）にも支援方法に違いがあること、未就学児でも、0-3 歳と 4-6 歳の年齢層により違いがあることから、それぞれを分けて分析を行った。

さらに、「個別活動」の支援割合が大きいほど職員の負荷が大きく支援形態に影響を与える可能性があるのではないかと仮説の下、その影響についても分析を行うこととした。具体的には、事業所単位で全支援時間の合計…①と「個別活動」の全時間…②を算出し、②÷①の算式により事業所単位での「個別活動実施割合」を算出した。この「個別活動実施割合」を 0%の事業所（個別活動を実施していない事業所）、0%超 10%未満の事業所、10%以上 30%未満事業所、30%以上 50%未満の事業所、50%以上の事業所（個別活動に多くの時間を割いている事業所）に分類し、活動内容等との関係について分析を行った。

<sup>16</sup> タイムスタディ票、ケース票のいずれにおいても有効回答であった結果を集計している。また、表頭、表側のいずれかの項目で無回答がある場合は集計対象から除外した。

<sup>17</sup> 4 歳~6 歳の放課後等デイサービス利用者は 6 歳であり、小学生と想定される

<sup>18</sup> 利用開始時刻と利用終了時刻の回答から、利用時間を算出し、4 時間未満を短時間、4 時間以上を長時間とした。データ全体の時間を見据えたときに、正午を挟んで利用時間を設定しているかどうか等を検討し 4 時間を閾値として設定することとした。

図表 47 分析対象パターン及び該当人数

年齢層	全体				児童発達支援 <sup>19</sup>			
	土日		平日		土日		平日	
	長時間	短時間	長時間	短時間	長時間	短時間	長時間	短時間
0歳～3歳							児発-A	児発-C
4歳～6歳							児発-B	児発-D
年齢層	児童発達支援センター				医療型児童発達支援			
	土日		平日		土日		平日	
	長時間	短時間	長時間	短時間	長時間	短時間	長時間	短時間
0歳～3歳			児セ-A	児セ-C			医児-A	医児-C
4歳～6歳		児セ-E	児セ-B	児セ-D			医児-B	医児-D
年齢層	放課後等デイサービス							
7歳～9歳	放-A	放-C	放-E <sup>20</sup>	放-F				
10歳～12歳								
13歳以上	放-B	放-D	- <sup>21</sup>	放-G				

年齢層	全体				児童発達支援			
	土日		平日		土日		平日	
	長時間	短時間	長時間	短時間	長時間	短時間	長時間	短時間
0歳～3歳	0	19	193	317	0	0	31	115
4歳～6歳	5	106	499	620	0	0	69	190
年齢層	児童発達支援センター				医療型児童発達支援			
	土日		平日		土日		平日	
	長時間	短時間	長時間	短時間	長時間	短時間	長時間	短時間
0歳～3歳	0	0	125	123	0	0	35	48
4歳～6歳	0	78	310	269	0	0	86	57
年齢層	放課後等デイサービス							
7歳～9歳	22	19	13	302				
10歳～12歳	40	16	20	217				
13歳以上	45	19	11	187				

<sup>19</sup> なお、児童発達支援事業所において4歳～6歳の土日における長時間、短時間のいずれの回答者も0人であった点は留意が必要である。本来的には土日の利用は一定数いると考えられる。

<sup>20</sup> 今回の調査対象期間は1月18日(月)からであり、通常の平日の放課後等デイサービスの利用は午後からの利用が想定されるが、利用時刻が9時台とする回答が多かった。不登校児童等への対応が想定されるが、調査設計上そこまで確認できなかったため、参考例とした。

<sup>21</sup> パターンに該当する人数が11人と少数であり、中学生が下校する15時頃から4時間以上実施することはあまり想定されないため、対象から外した

分析に際しては、回答人数が 10 人以下の少ない類型部分（上図表で灰色で記載）については、集計上は掲載しているものの、解釈に当たっては留意が必要である。

## エ. 集計上の留意点

次頁以降、利用曜日（平日または土日）ごと、利用時間（長時間（4 時間以上）または短時間（4 時間未満））ごとの 4 種類の時間を算出し、各パターンの活動内容（図表 42）、職員のかかわり（図表 43）、活動目的（図表 44）のそれぞれの 1 日あたりの時間を算出した。

なお、活動内容について無回答である場合は、1 日あたりの全体の利用時間の算出対象とするが、活動内容の項目に対しては集計しない処理を行っている。そのため、次頁以降に記載する各パターンの活動内容の構成比を表す円グラフでは、全項目を合算しても 100%に満たない場合がある。また、同様の理由で「職員のかかわり」についても、全項目の合算が 100%に満たない場合がある。活動目的については複数回答であるため、合算しても 100%にならない。

集計結果の詳細は資料 1 に掲載する。

なお、タイムスタディ調査の分析にあたっては、調査の対象期間が 1 週間（令和 3 年 1 月 18 日（月）～1 月 24 日（日））に限定されていることには留意が必要である。また、本調査では、主にサービス別及び利用者の年齢、利用曜日、利用時間の長短、事業所における個別支援の有無等に着目した支援パターンの分類を行っている。個々の児童の特性や個別支援計画の作成状況等についても同様に重要な観点となるが、本調査の支援パターンの分類には反映されていない点について留意が必要となる。

## ②パターン別分析結果の詳細

### ア. 医療型児童発達支援-A (0歳~3歳 平日長時間利用)

医療型児童発達支援を利用している利用者のうち、0歳~3歳の年齢層で、平日長時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

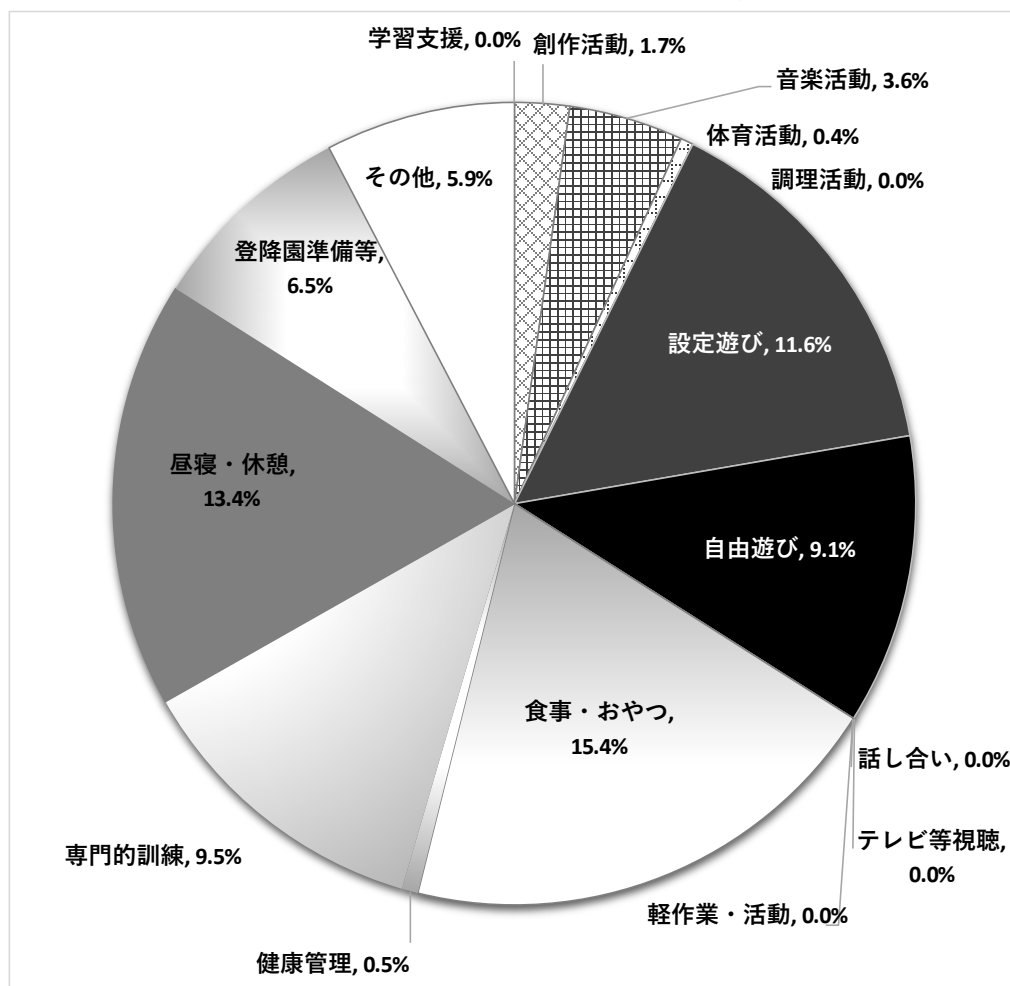
対象ケース数 35人

1日あたり平均利用時間 5.6時間

#### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「食事・おやつ」の利用が最も多く、次いで「昼寝・休憩」の時間が多い。続いて、「設定遊び」、「専門的訓練」、「自由遊び」との結果であった。

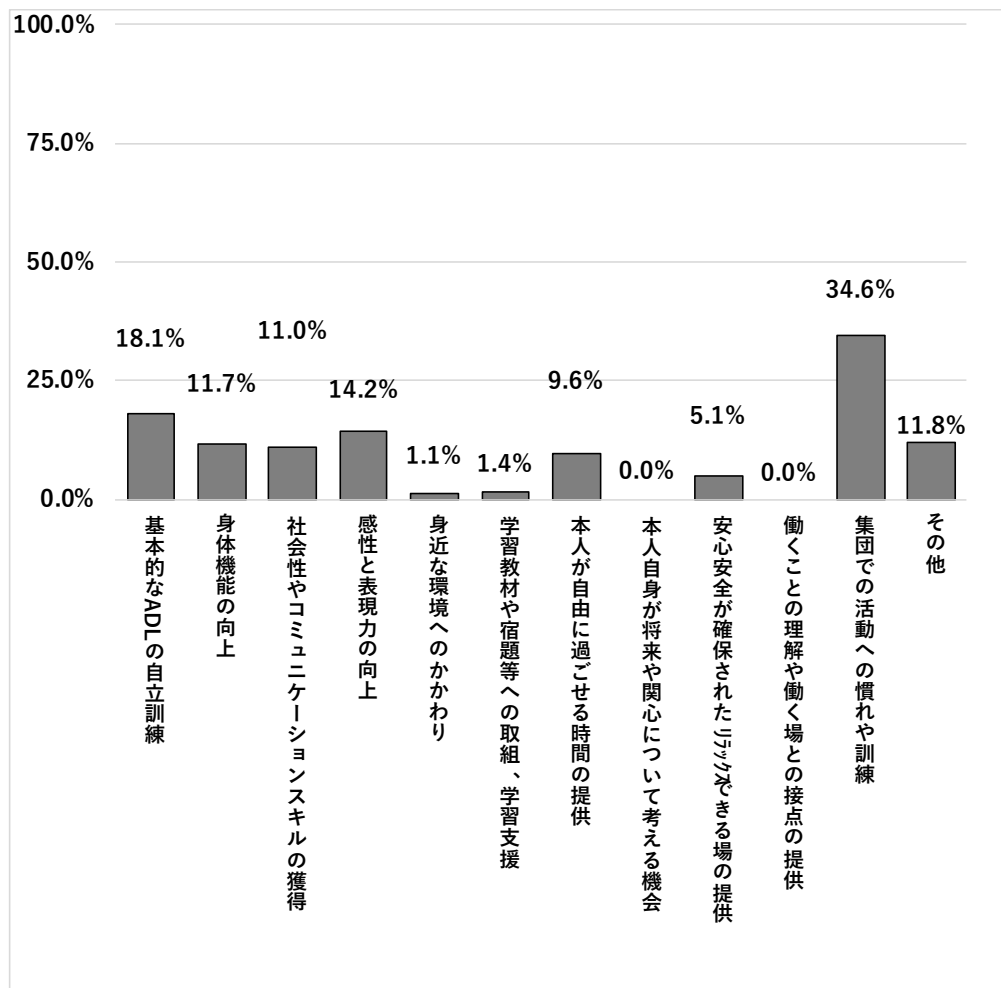
図表 48 医療型児童発達支援-A の活動内容



## ○活動目的

活動目的について確認すると、「集団での活動への慣れや訓練」を目的とした活動に割く時間が最も多かった。

図表 49 医療型児童発達支援-A 活動目的（複数選択）

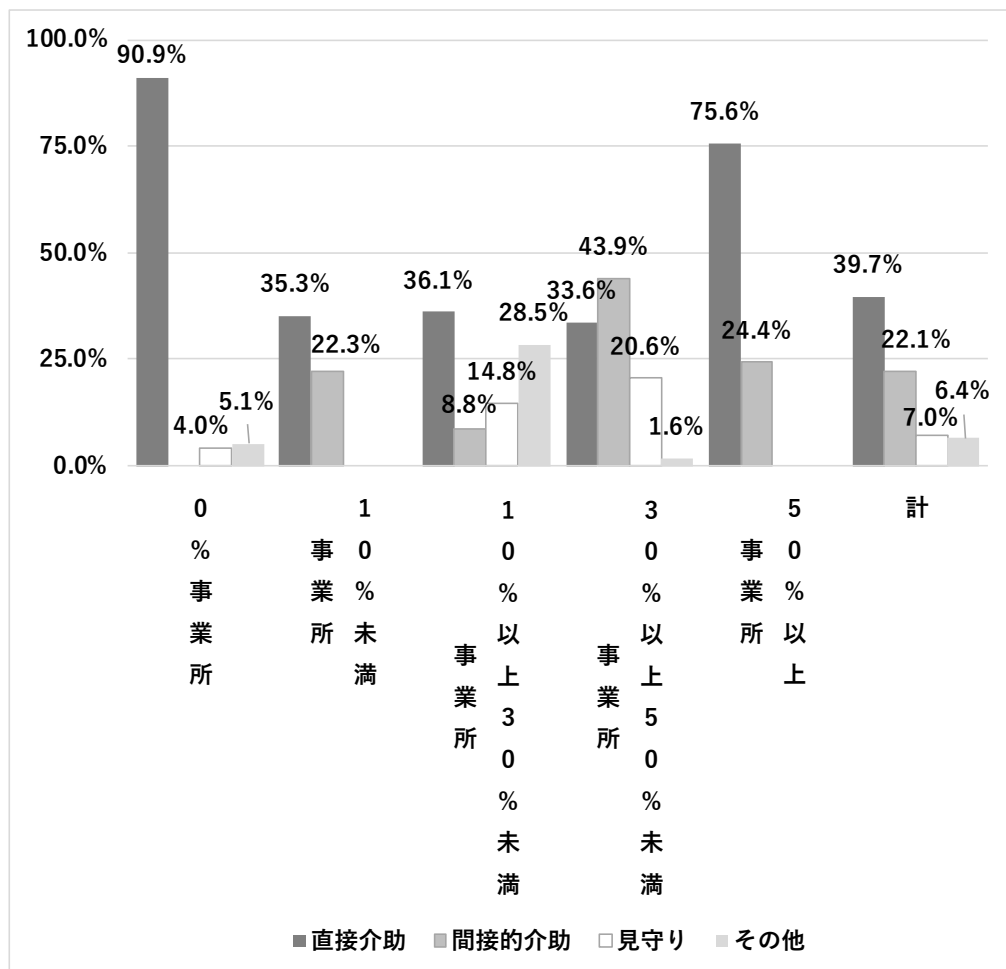


## ○職員のかかわり方

職員のかかわり方について、事業所の個別活動状況ごとに集計した結果は以下の通りである。ただし、個別活動実施割合が0%、50%以上の事業所は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

このパターンでは、事業所の個別活動状況による職員のかかわり方の違いを見出すことはできなかった。

図表 50 医療型児童発達支援-A 職員のかかわり方





## ○活動内容、目的の特徴<sup>22</sup>

事業所の個別活動実施割合による活動内容の違いについて確認すると、個別活動の実施割合が大きいほど「専門的訓練」に時間をかける割合が大きいことがわかった。「食事・おやつ」も同様の傾向である一方、「昼寝・休憩」については、個別活動実施割合が小さいほど大きかった。

また、活動目的についてみると、「基本的な ADL の自立訓練」、「身体機能の向上」について、事業所における個別活動実施割合が 10%を超えると実施とするケースが多かった。

図表 51 医療型児童発達支援-A 個別活動の実施状況と活動内容、目的の特徴

個別活動実施割合	人数	専門的訓練	食事・おやつ	昼寝・休憩
0%事業所	2	0.0%	26.6%	18.6%
10%未満事業所	10	1.1%	6.2%	20.2%
10%以上 30%未満事業所	12	13.6%	29.6%	3.2%
30%以上 50%未満事業所	10	32.0%	22.3%	0.8%
50%以上事業所	1	13.4%	14.3%	31.9%

個別活動実施割合	人数	基本的な ADL の自立訓練	身体機能の向上	社会性やコミュニケーションスキルの獲得
0%事業所	2	32.9%	4.3%	2.3%
10%未満事業所	10	1.1%	0.9%	0.0%
10%以上 30%未満事業所	12	46.6%	26.0%	4.3%
30%以上 50%未満事業所	10	24.1%	27.2%	54.4%
50%以上事業所	1	63.0%	32.8%	0.0%
個別活動実施割合	人数	集団での活動への慣れや訓練		
0%事業所	2	25.7%		
10%未満事業所	10	46.5%		
10%以上 30%未満事業所	12	9.4%		
30%以上 50%未満事業所	10	29.3%		
50%以上事業所	1	52.9%		

22 10人以上のケースが対象となり、個別活動の実施割合の差が20ポイント以上ある活動内容項目をピックアップして傾向を分析した。詳細な構成比は資料編別添資料を参照のこと。以降同じ。

## ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 52 医療型児童発達支援-A 活動内容の典型例

9:00~9:30	
9:30~10:00	登降園準備等/設定遊び
10:00~10:30	設定遊び
10:30~11:00	設定遊び/専門的訓練
11:00~11:30	専門的訓練
11:30~12:00	専門的訓練/食事・おやつ
12:00~12:30	食事・おやつ等
12:30~13:00	食事・おやつ等/昼寝・休息
13:00~13:30	昼寝・休息
13:30~14:00	昼寝・休息
14:00~14:30	昼寝・休息/自由遊び
14:30~15:00	自由遊び
15:00~15:30	自由遊び/登降園準備等
15:30~16:00	
16:00~16:30	
16:30~17:00	
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	

## イ. 医療型児童発達支援-B（4 歳~6 歳 平日長時間利用）

医療型児童発達支援を利用している利用者のうち、4 歳~6 歳の年齢層で、平日長時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

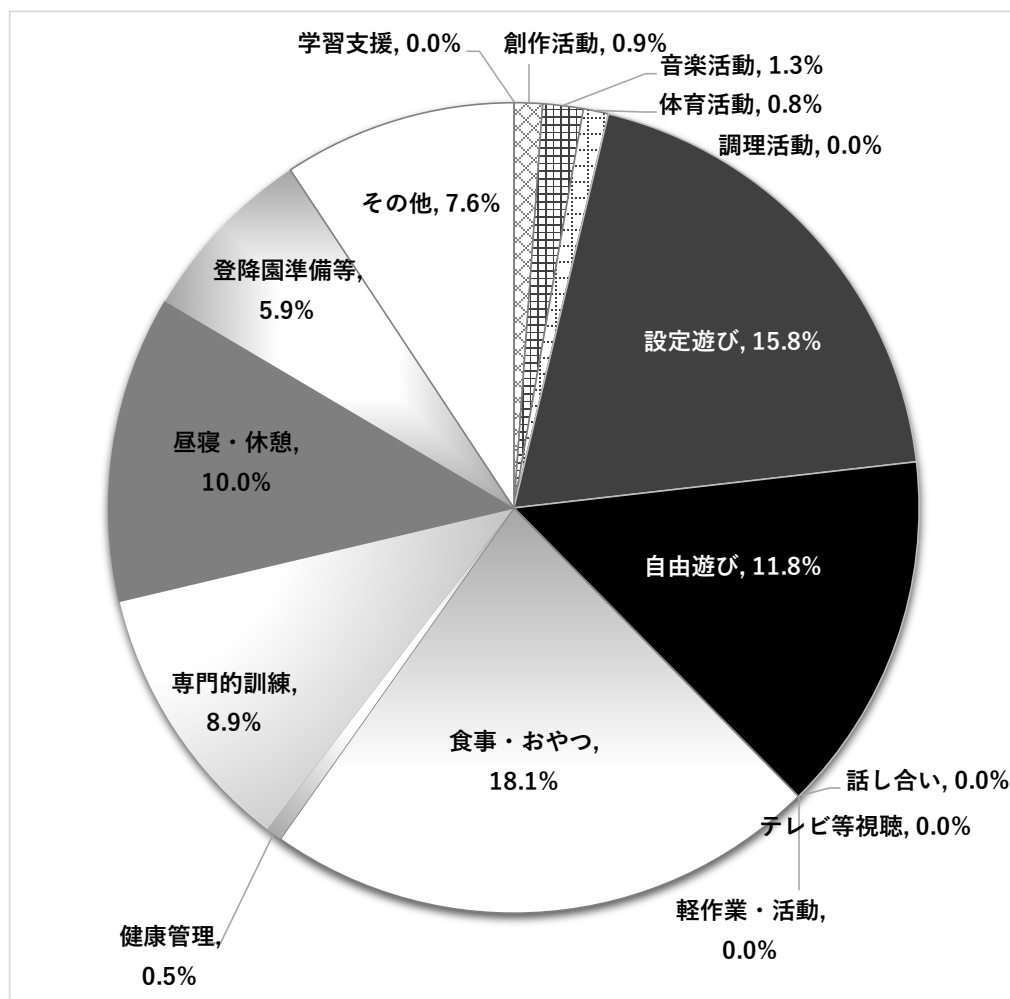
対象ケース数 86 人

1 日あたり平均利用時間 5.3 時間

### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「食事・おやつ」の利用が最も多く、次いで「設定遊び」の時間が多い。続いて、「自由遊び」「昼寝・休憩」との結果であった。

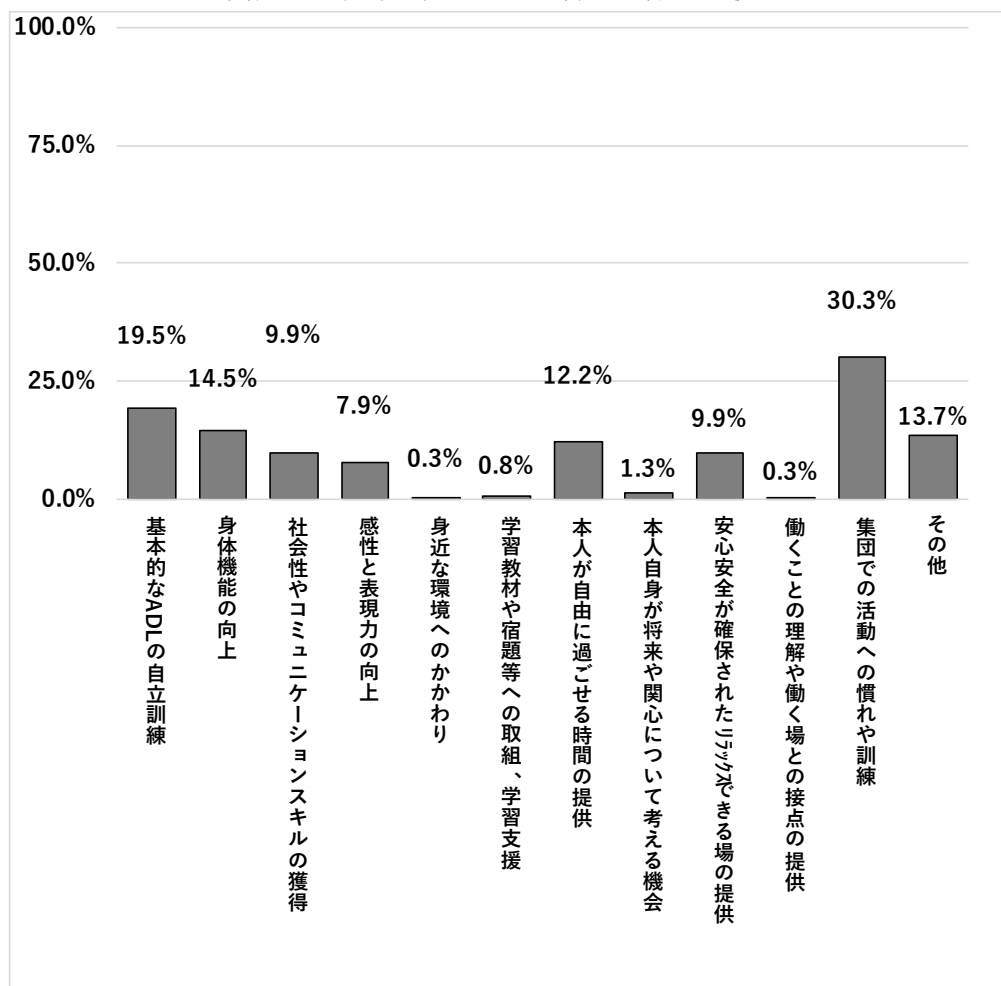
図表 53 医療型児童発達支援-B の活動内容



## ○活動目的

活動目的について確認すると、「集団での活動への慣れや訓練」を目的とした活動に割く時間が最も多かった。

図表 54 医療型児童発達支援-B 活動目的

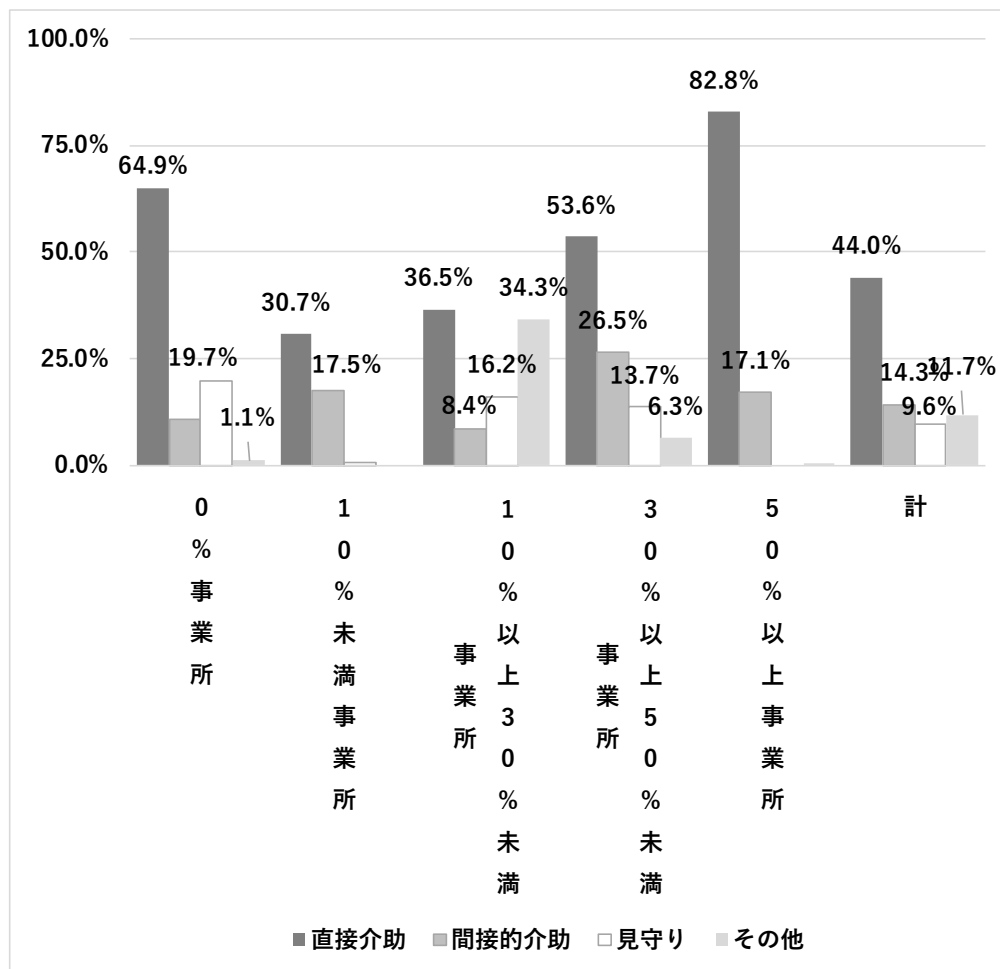


## ○職員のかかわり方

職員のかかわり方について、事業所の個別活動状況ごとに集計した結果は以下の通りである。ただし、個別活動実施割合が0%、50%以上の事業所は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

個別活動実施割合が大きい事業所の活動であるほど、「直接介助」に割く時間の割合が大きいことがわかった。

図表 55 医療型児童発達支援-B 職員のかかわり方



## ○活動内容、目的の特徴

事業所の個別活動割合による活動内容の違いについて確認すると、個別活動の実施割合が大きいほど「専門的訓練」に時間をかける割合が大きいことがわかった。

「食事・おやつ」も同様の傾向である。「設定遊び」についても 10%以上 30%未満の事業所の割合が最も大きく、10%未満事業所との差が大きかった。

目的別にみると、「基本的な ADL の自立訓練」、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」については、個別活動実施割合が大きい事業所の方が割合が大きいことがわかった。

図表 56 医療型児童発達支援－B 個別活動の実施状況と活動内容、目的の特徴

個別活動実施割合	人数	設定遊び	専門的訓練	食事・おやつ
0%事業所	8	12.9%	1.1%	24.6%
10%未満事業所	16	6.1%	1.0%	7.9%
10%以上 30%未満事業所	43	30.7%	15.6%	24.6%
30%以上 50%未満事業所	11	11.1%	27.9%	25.0%
50%以上事業所	8	10.8%	11.5%	18.1%

個別活動実施割合	人数	基本的な ADL の自立訓練	身体機能の向上	社会性やコミュニケーションスキルの獲得
0%事業所	8	38.6%	8.0%	0.5%
10%未満事業所	16	0.8%	2.9%	1.7%
10%以上 30%未満事業所	43	23.2%	30.0%	14.3%
30%以上 50%未満事業所	11	22.5%	6.9%	30.4%
50%以上事業所	8	48.0%	23.9%	24.2%
個別活動実施割合	人数	感性と表現力の向上	集団での活動への慣れや訓練	
0%事業所	8	38.6%	24.2%	
10%未満事業所	16	0.8%	42.4%	
10%以上 30%未満事業所	43	23.2%	25.5%	
30%以上 50%未満事業所	11	22.5%	12.4%	
50%以上事業所	8	48.0%	25.8%	

# ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 57 医療型児童発達支援-B 活動内容の典型例

9:00~9:30	
9:30~10:00	
10:00~10:30	登降園準備等/設定遊び
10:30~11:00	設定遊び
11:00~11:30	設定遊び
11:30~12:00	設定遊び/食事・おやつ
12:00~12:30	食事・おやつ
12:30~13:00	食事・おやつ/昼寝・休息
13:00~13:30	昼寝・休息
13:30~14:00	専門的訓練
14:00~14:30	専門的訓練/自由遊び
14:30~15:00	自由遊び
15:00~15:30	自由遊び/登降園準備等
15:30~16:00	
16:00~16:30	
16:30~17:00	
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	

### ウ. 医療型児童発達支援-C（0歳～3歳 平日短時間利用）

医療型児童発達支援を利用している利用者のうち、0歳～3歳の年齢層で、平日短時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

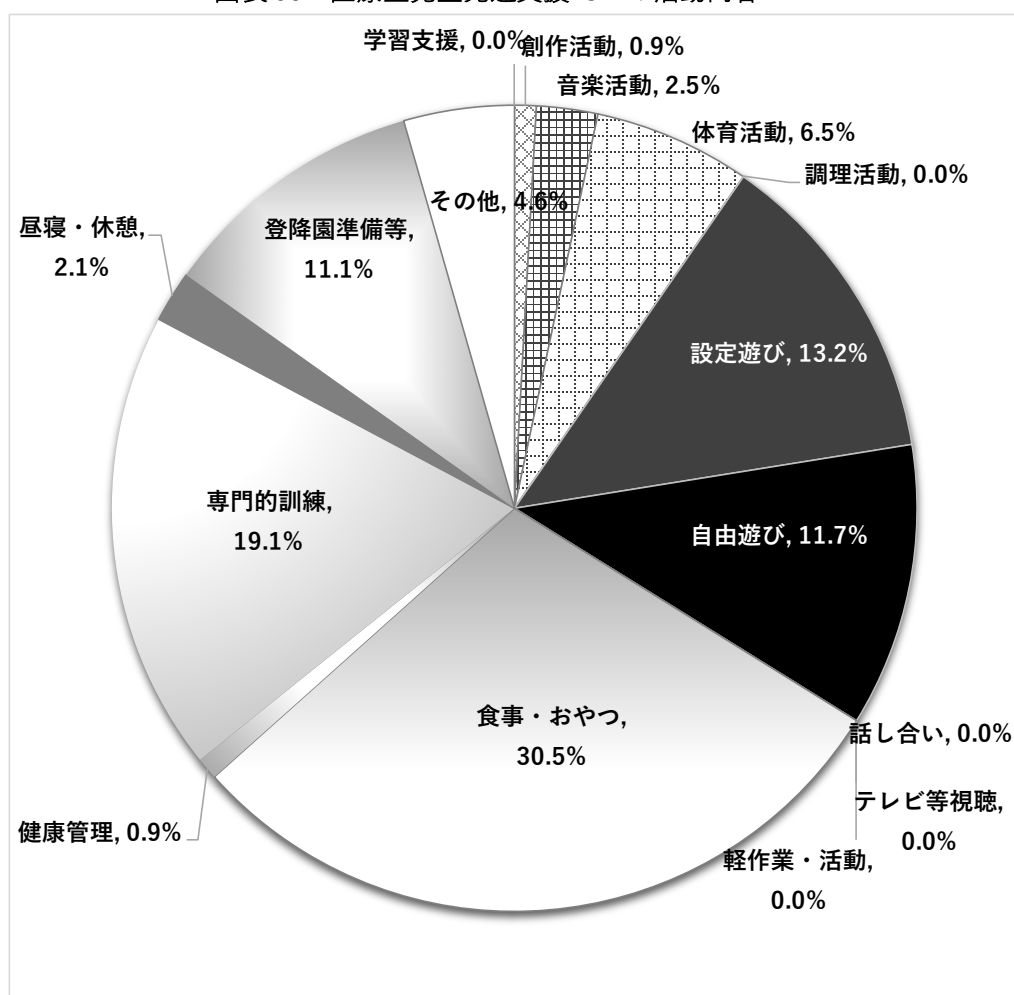
対象ケース数 48人

1日あたり平均利用時間 2.5時間

#### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「食事・おやつ」の利用が最も多く、次いで「専門的訓練」の時間が多かった。続いて、「設定遊び」、「自由遊び」、「登降園準備等」との結果であった。

図表 58 医療型児童発達支援-C の活動内容

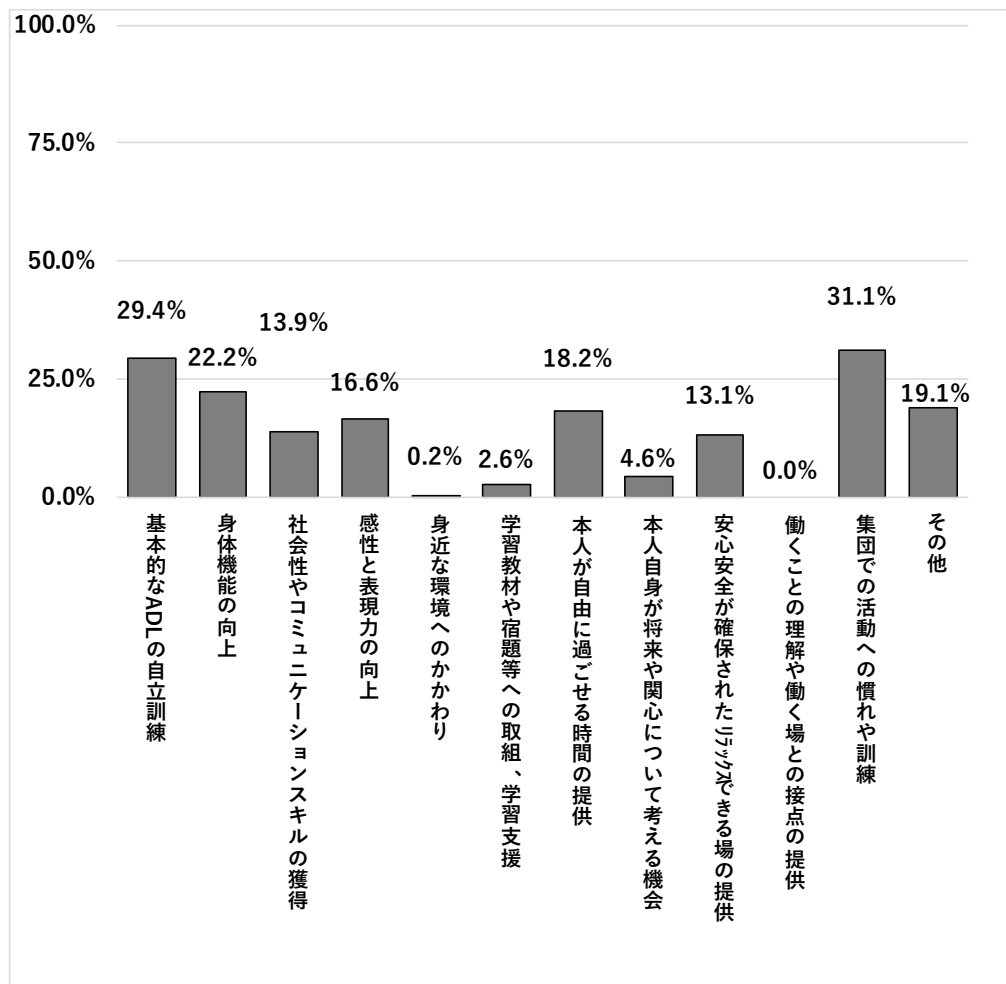




## ○活動目的

活動目的について確認すると、「集団での活動への慣れや訓練」を目的とした活動に割く時間が最も多く、次いで「基本的な ADL の自立訓練」が多かった。

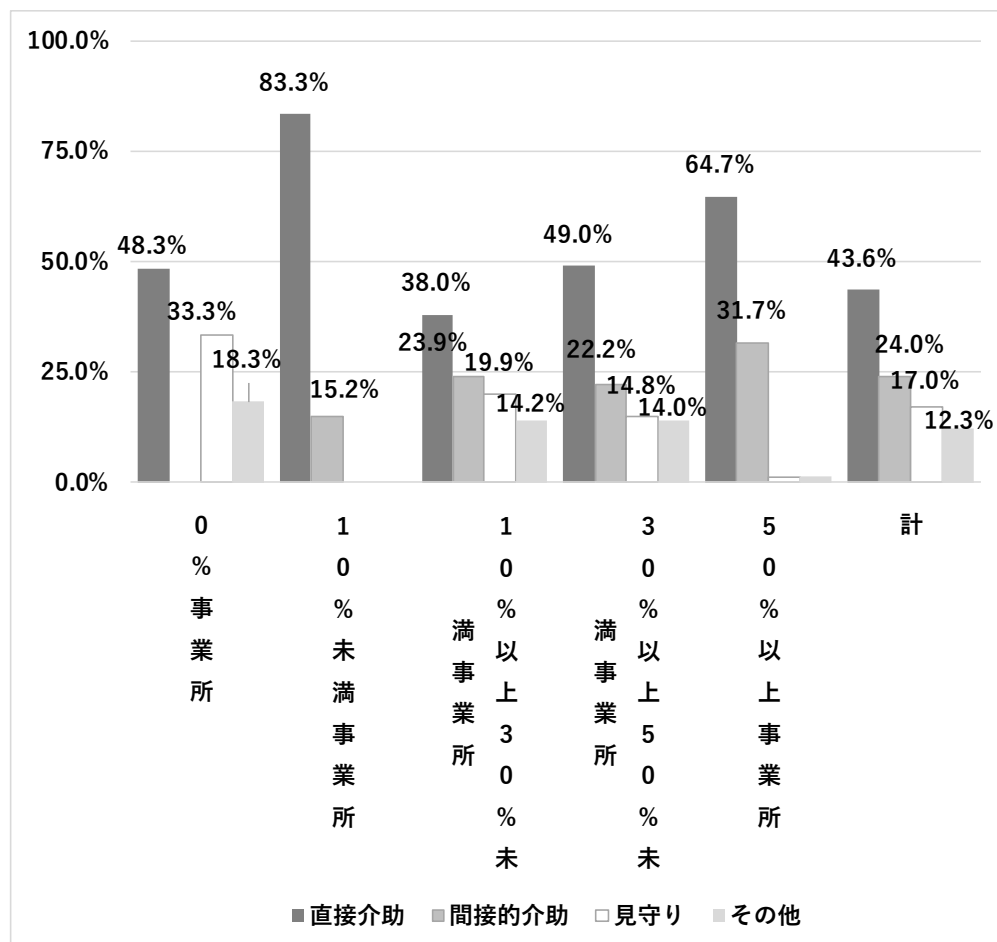
図表 59 医療型児童発達支援-C 活動目的



## ○職員のかかわり方

職員のかかわり方について、事業所の個別活動状況ごとに集計した結果は以下の通りである。ただし、個別活動実施割合が10%以上30%未満、50%以上の事業所以外は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

図表 60 医療型児童発達支援-C 職員のかかわり方



## ○活動内容、目的の特徴

1日の活動全体に占めるそれぞれの活動内容及びそれぞれの活動目的ごとに割いた時間の割合を算出した結果は次の通りである。ただし、個別活動実施割合が0%、0%超 10%未満の事業所、30%以上 50%未満の事業所については対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

活動内容をみると、割いている時間に20ポイント以上差がある項目はなかった。

次に活動目的についてみると、「基本的なADLの自立訓練」、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」、「感性と表現力の向上」、「集団での活動への慣れや訓練」の各活動目的において、10%以上 30%未満の事業所が割く時間の割合より、50%以上の事業所が割く時間の割合の方が大きいことがわかった。

図表 61 医療型児童発達支援-C 個別活動の実施状況と活動内容、目的の特徴

個別活動実施割合	人数	基本的なADLの自立訓練	社会性やコミュニケーションスキルの獲得	感性と表現力の向上
0%事業所	2	0.0%	0.0%	0.0%
0%超 10%未満事業所	0	—	—	—
10%以上 30%未満事業所	28	23.6%	5.7%	12.1%
30%以上 50%未満事業所	7	33.2%	16.8%	7.3%
50%以上事業所	11	51.0%	40.9%	45.5%
個別活動実施割合	人数	集団での活動への慣れや訓練		
0%事業所	2	30.0%		
0%超 10%未満事業所	0	—		
10%以上 30%未満事業所	28	30.3%		
30%以上 50%未満事業所	7	4.1%		
50%以上事業所	11	64.0%		

# ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 62 医療型児童発達支援-C 活動内容の典型例

9:00~9:30	
9:30~10:00	
10:00~10:30	設定遊び
10:30~11:00	専門的訓練
11:00~11:30	専門的訓練
11:30~12:00	食事・おやつ
12:00~12:30	食事・おやつ/登降園準備等
12:30~13:00	
13:00~13:30	
13:30~14:00	
14:00~14:30	
14:30~15:00	
15:00~15:30	
15:30~16:00	
16:00~16:30	
16:30~17:00	
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	

## エ. 医療型児童発達支援-D（4歳~6歳 平日短時間利用）

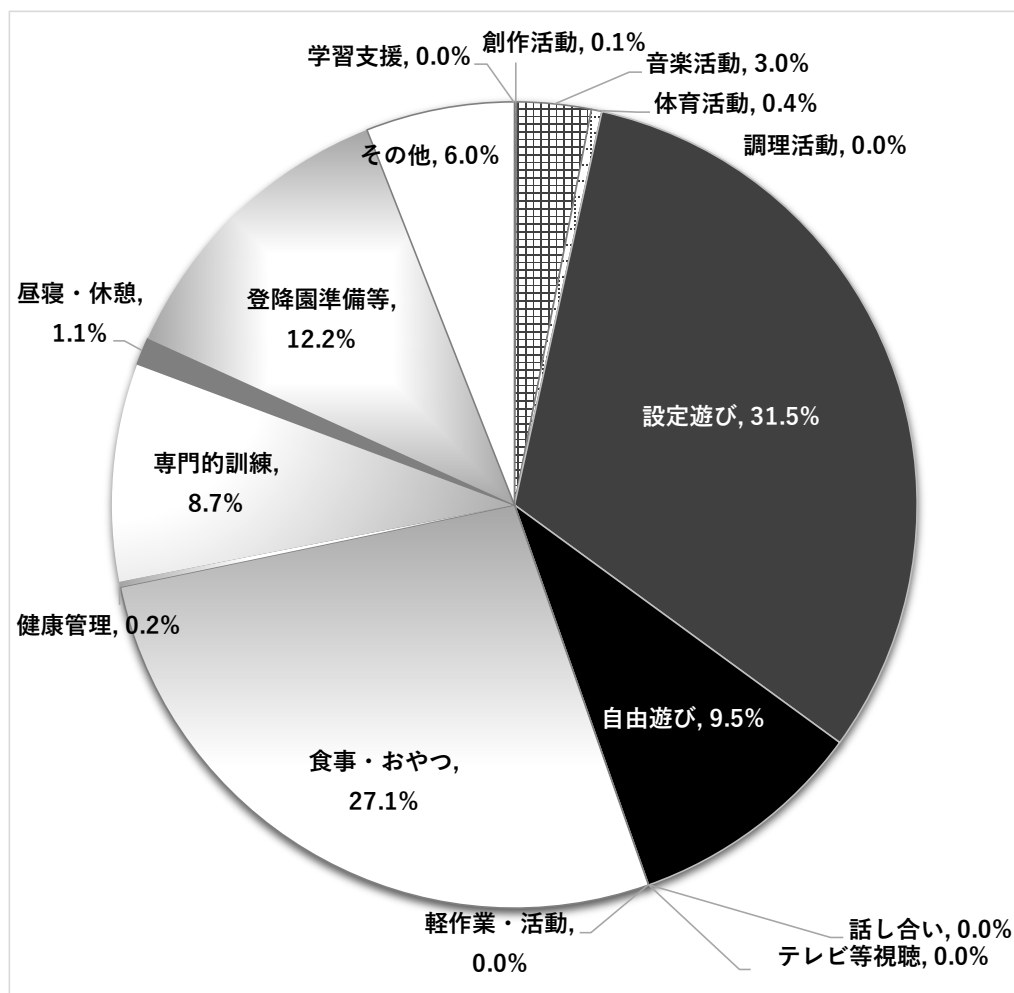
医療型児童発達支援を利用している利用者のうち、4歳~6歳の年齢層で、平日短時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

対象ケース数 57人  
1日あたり平均利用時間 3.1時間

### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「設定遊び」の利用が最も多く、次いで「食事・おやつ」の時間が多い。続いて、「登降園準備等」との結果であった。

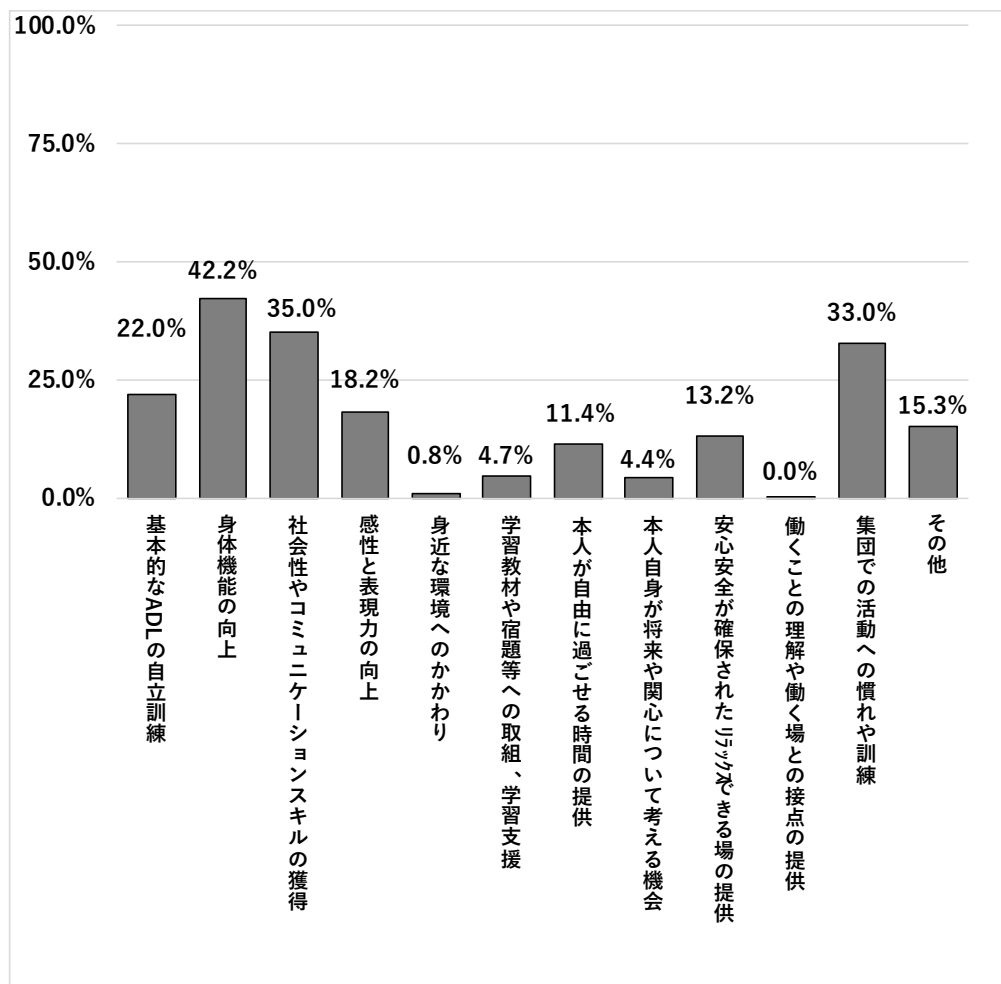
図表 63 医療型児童発達支援-D の活動内容



## ○活動目的

活動目的について確認すると、「身体機能の向上」を目的とした活動に割く時間が最も多かった。次いで「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」、「集団での活動への慣れや訓練」が続いた。

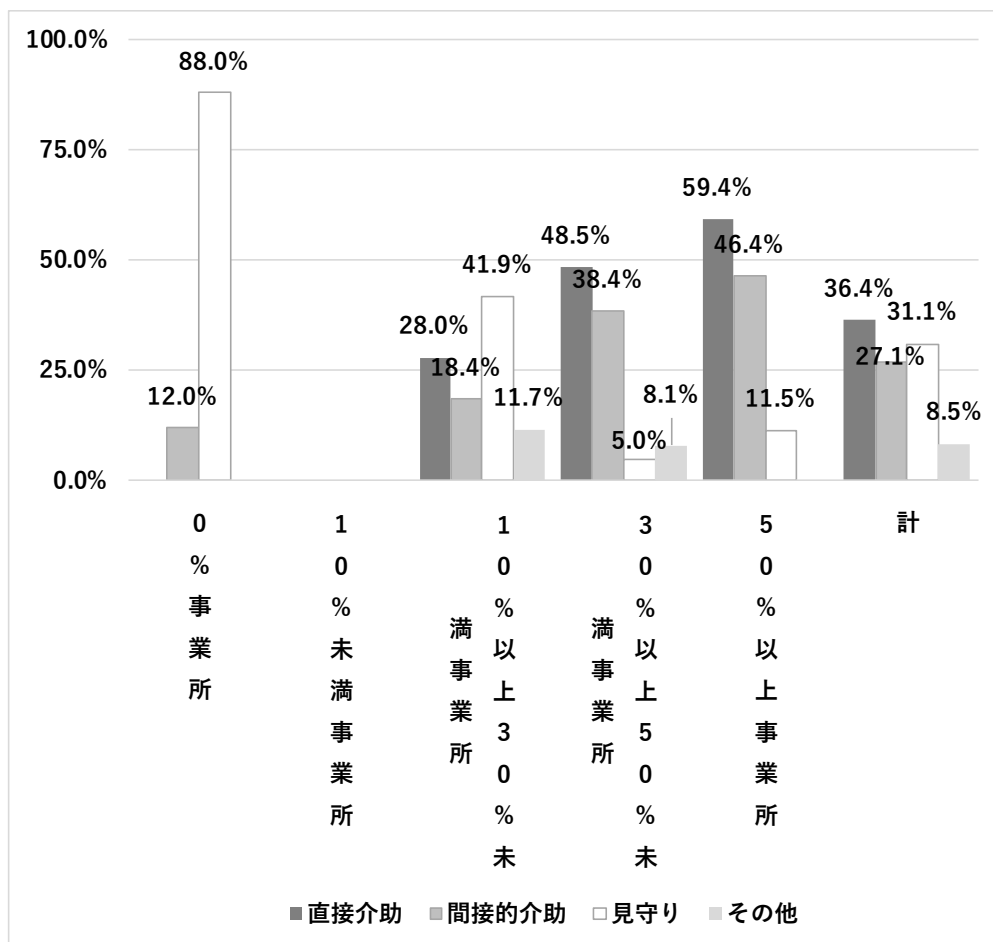
図表 64 医療型児童発達支援-D 活動目的



## ○職員のかかわり方

職員のかかわり方について、事業所の個別活動状況ごとに集計した結果は以下の通りである。ただし、個別活動実施割合が10%以上30%未満の事業所以外は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

図表 65 医療型児童発達支援-D 職員のかかわり方



### ○活動内容、目的の特徴

1日の活動全体に占めるそれぞれの活動内容及びそれぞれの活動目的ごとに割いた時間の割合を算出したが、個別活動実施割合が10%以上30%未満の事業所以外は対象となるケースが10人以下であった。

### ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 66 医療型児童発達支援-D 活動内容の典型例

9:00~9:30	
9:30~10:00	
10:00~10:30	登降園準備等/設定遊び
10:30~11:00	設定遊び
11:00~11:30	設定遊び
11:30~12:00	設定遊び/食事・おやつ
12:00~12:30	食事・おやつ
12:30~13:00	食事・おやつ/登降園準備等
13:00~13:30	
13:30~14:00	
14:00~14:30	
14:30~15:00	
15:00~15:30	
15:30~16:00	
16:00~16:30	
16:30~17:00	
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	



## オ. 児童発達支援センター-A (0歳~3歳 平日長時間利用)

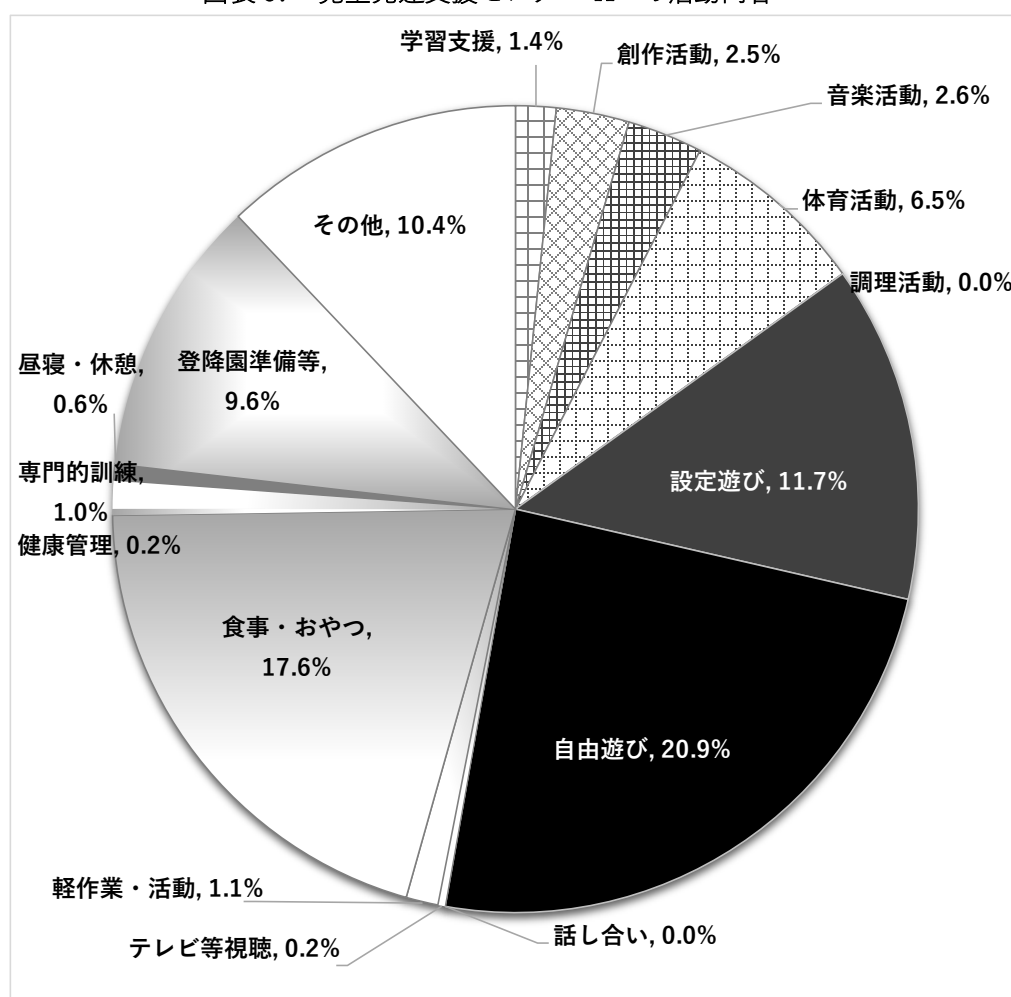
児童発達支援センターを利用している利用者のうち、0歳~3歳の年齢層で、平日長時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

対象ケース数 125人  
1日あたり平均利用時間 4.8時間

### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「自由遊び」の利用が最も多く、次いで「食事・おやつ」の時間が多い。続いて「設定遊び」との結果であった。

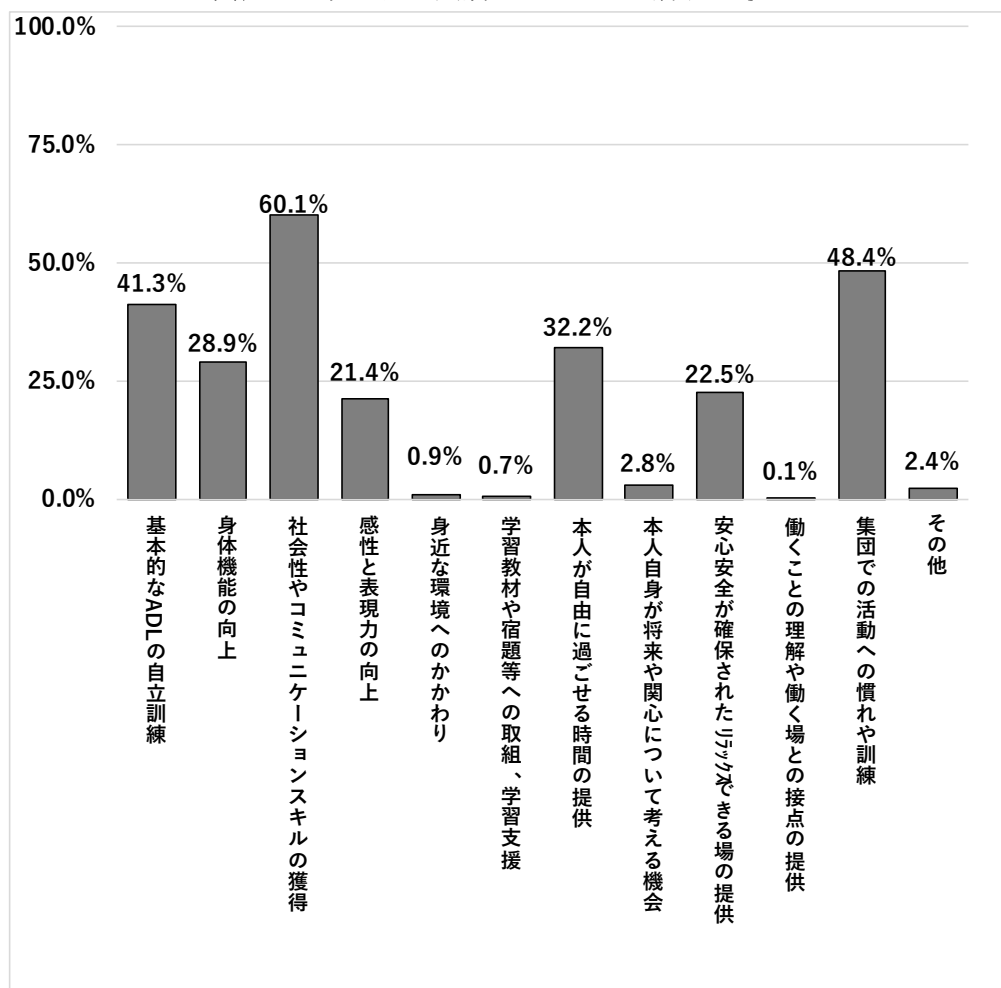
図表 67 児童発達支援センター-A の活動内容



## ○活動目的

活動目的について確認すると、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」を目的とした活動に割く時間が最も多かった。次いで「集団での活動への慣れや訓練」、「基本的な ADL の自立訓練」、「本人が自由に過ごせる時間の提供」、「身体機能の向上」が続いた。

図表 68 児童発達支援センター-A 活動目的

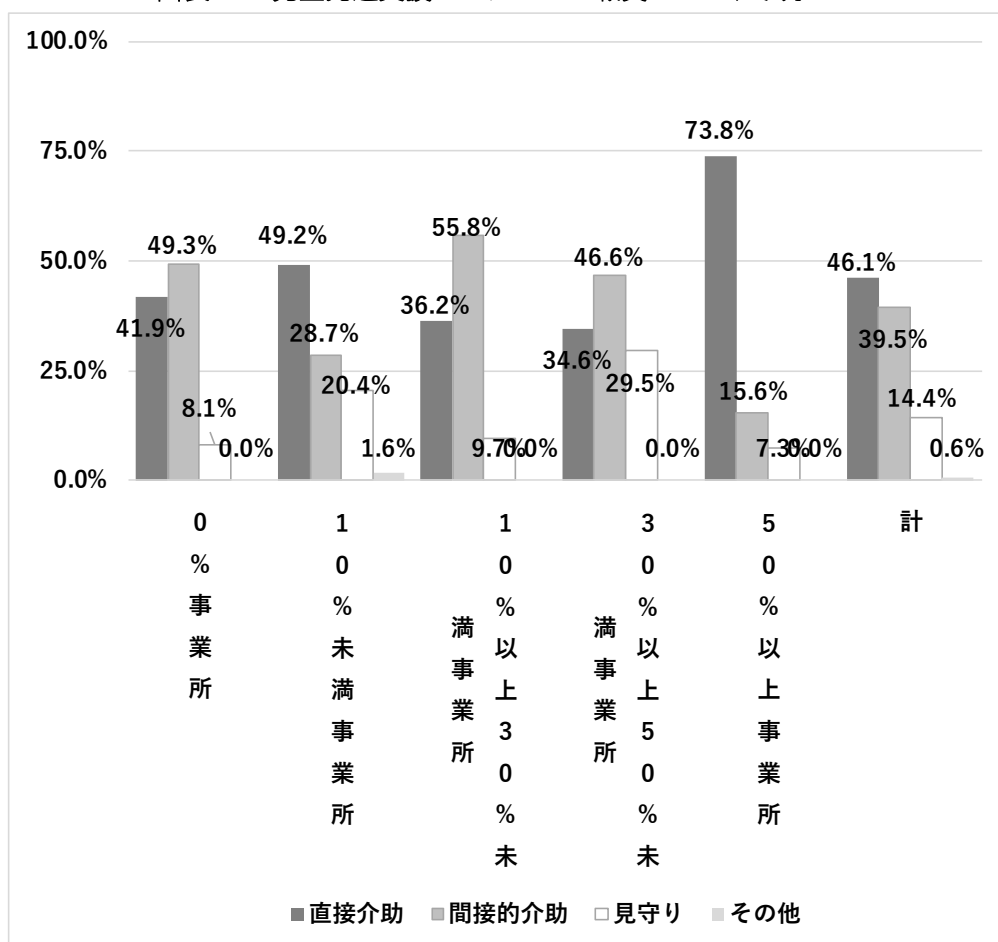


## ○職員のかかわり方

職員のかかわり方について、事業所の個別活動状況ごとに集計した結果は以下の通りである。ただし、個別活動実施割合が、30%以上 50%未満の事業所は対象となるケースが 10 人以下のため、留意が必要である。

個別活動実施割合が 50%以上の事業所の活動では、「直接介助」に割く時間の割合が最も大きいことがわかった。

図表 69 児童発達支援センター-A 職員のかかわり方



## ○活動内容、目的の特徴

1日の活動全体に占めるそれぞれの活動内容及びそれぞれの活動目的ごとに割いた時間の割合を算出した結果は次の通りである。ただし、個別活動実施割合が30%以上50%未満事業所以外は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

活動内容は図表 67 に記した構成比とほぼ同じであり、割いている時間に 20 ポイント以上差がある項目はなかった。

次に活動目的についてみると、下図表にある項目について活動目的に割く時間の割合に違いが見受けられた。

図表 70 児童発達支援センター-A 個別活動の実施状況と活動内容、目的の特徴

個別活動実施割合	人数	基本的な ADL の 自立訓練	社会性やコミュニケーションスキルの獲得	感性と表現力の 向上
0%事業所	17	27.1%	26.2%	14.2%
0%超 10%未満事業所	48	40.4%	57.5%	23.1%
10%以上 30%未満事業所	39	49.2%	78.9%	15.8%
30%以上 50%未満事業所	6	31.2%	23.6%	25.2%
50%以上事業所	15	36.9%	57.2%	37.7%
個別活動実施割合	人数	本人が自由に過ご せる時間の提供	安心安全が確保されたり ラックスできる場の提供	集団での活動へ の慣れや訓練
0%事業所	17	19.7%	3.6%	24.1%
0%超 10%未満事業所	48	26.4%	22.0%	31.8%
10%以上 30%未満事業所	39	42.8%	38.5%	78.4%
30%以上 50%未満事業所	6	27.0%	2.5%	62.4%
50%以上事業所	15	33.6%	0.0%	32.5%

# ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 71 児童発達支援センター-A 活動内容の典型例

9:00~9:30	
9:30~10:00	
10:00~10:30	
10:30~11:00	登降園準備等/設定遊び
11:00~11:30	設定遊び
11:30~12:00	自由遊び
12:00~12:30	食事・おやつ
12:30~13:00	食事・おやつ
13:00~13:30	自由遊び
13:30~14:00	自由遊び
14:00~14:30	設定遊び
14:30~15:00	設定遊び
15:00~15:30	設定遊び/登降園準備等
15:30~16:00	
16:00~16:30	
16:30~17:00	
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	

## カ. 児童発達支援センター-B (4歳~6歳 平日長時間利用)

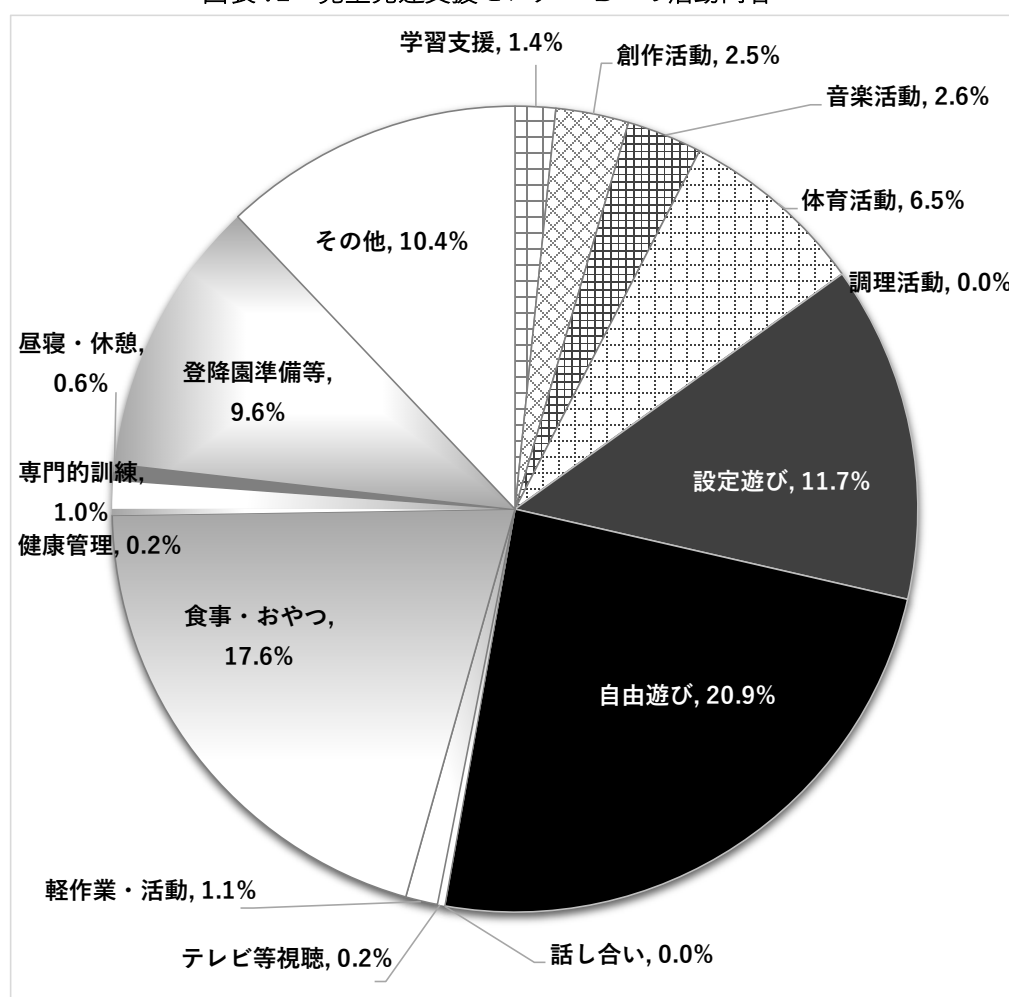
児童発達支援センターを利用している利用者のうち、4歳~6歳の年齢層で、平日長時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

対象ケース数 310人  
1日あたり平均利用時間 4.8時間

### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「自由遊び」の利用が最も多く、次いで「食事・おやつ」の時間が多かった。続いて、「設定遊び」との結果であった。

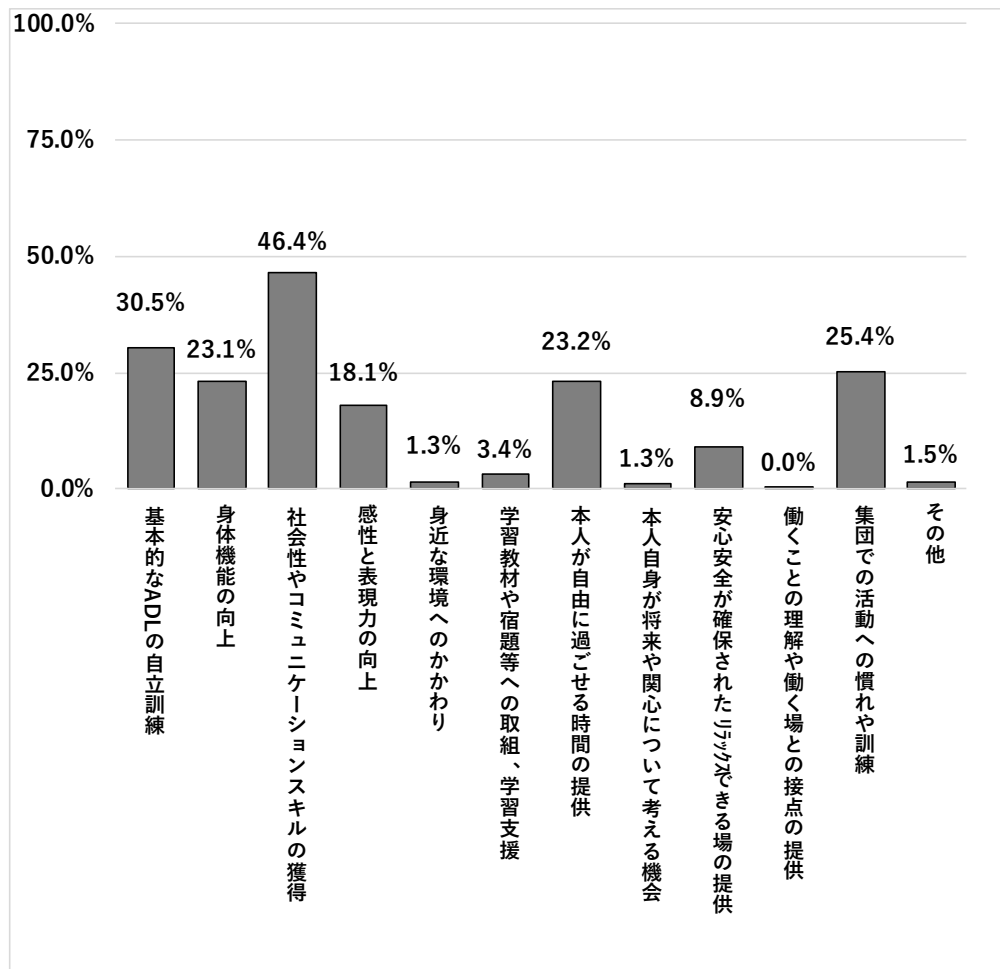
図表 72 児童発達支援センター-B の活動内容



## ○活動目的

活動目的について確認すると、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」を目的とした活動に割く時間が最も多かった。次いで「基本的な ADL の自立訓練」、「集団での活動への慣れや訓練」が続いた。

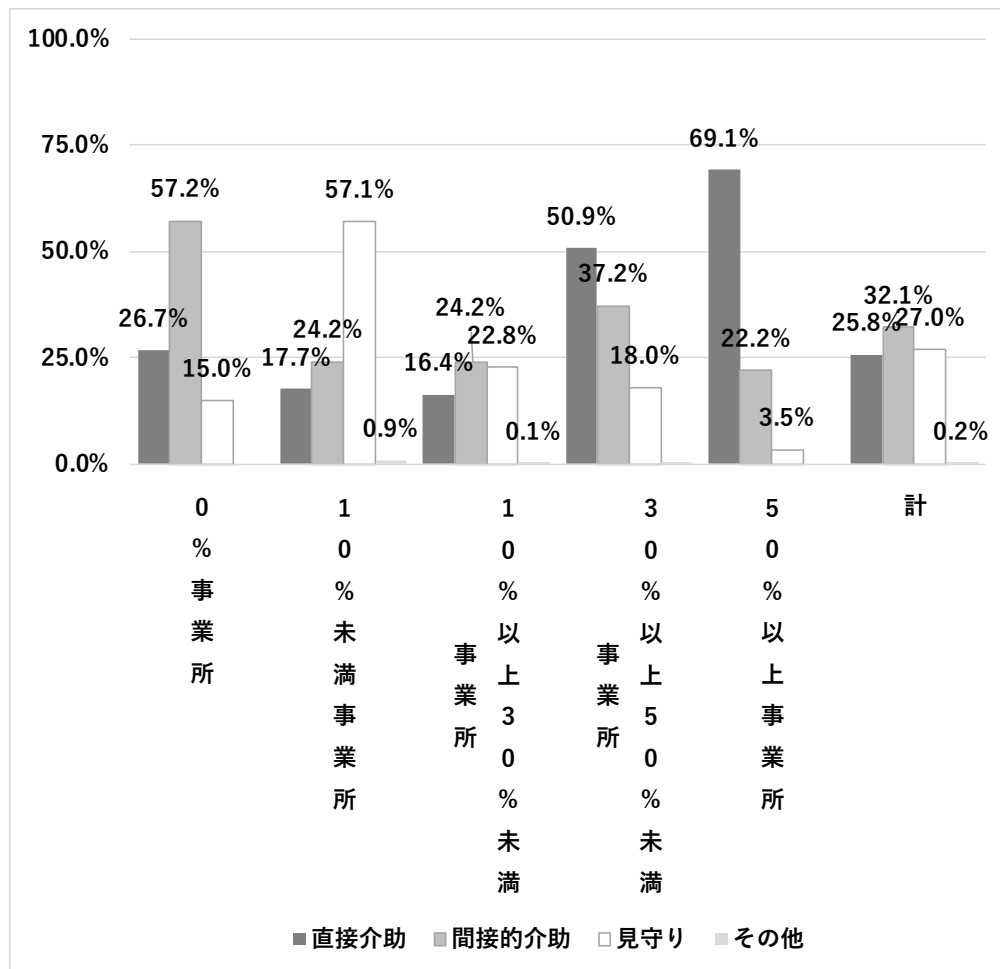
図表 73 児童発達支援センター-B 活動目的



## ○職員のかかわり方

職員のかかわり方について、事業所の個別活動状況ごとに集計した結果、個別活動実施割合が大きい事業所の活動であるほど、「直接介助」に割く時間の割合が大きく、反対に「見守り」に割く時間が小さいことがわかった。

図表 74 児童発達支援センター-B 職員のかかわり方





## ○活動内容、目的の特徴

「設定遊び」「自由遊び」について個別活動実施割合が大きい事業所と小さい事業所において、明確な相関関係は見られなかった。目的別にみると下図表の通りである。

図表 75 児童発達支援センター-B 個別活動の実施状況と活動内容、目的の特徴

個別活動実施割合	人数	設定遊び	自由遊び
0%事業所	71	13.7%	29.2%
0%超 10%未満事業所	68	13.5%	23.4%
10%以上 30%未満事業所	110	6.1%	11.1%
30%以上 50%未満事業所	18	8.6%	23.4%
50%以上事業所	43	27.3%	34.3%

個別活動実施割合	人数	社会性やコミュニケーションスキルの獲得	感性と表現力の向上	集団での活動への慣れや訓練
0%事業所	71	42.2%	32.4%	25.5%
0%超 10%未満事業所	68	69.9%	15.7%	17.2%
10%以上 30%未満事業所	110	35.9%	6.4%	23.1%
30%以上 50%未満事業所	18	24.6%	23.0%	62.1%
50%以上事業所	43	54.1%	35.5%	34.5%

# ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 76 児童発達支援センター-B 活動内容の典型例

9:00~9:30	
9:30~10:00	
10:00~10:30	
10:30~11:00	登降園準備等/自由遊び
11:00~11:30	自由遊び
11:30~12:00	自由遊び
12:00~12:30	自由遊び/食事・おやつ
12:30~13:00	食事・おやつ等
13:00~13:30	食事・おやつ等/その他
13:30~14:00	その他
14:00~14:30	その他/設定遊び
14:30~15:00	設定遊び
15:00~15:30	設定遊び/登降園準備等
15:30~16:00	
16:00~16:30	
16:30~17:00	
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	

### キ. 児童発達支援センター-C（0歳～3歳 平日短時間利用）

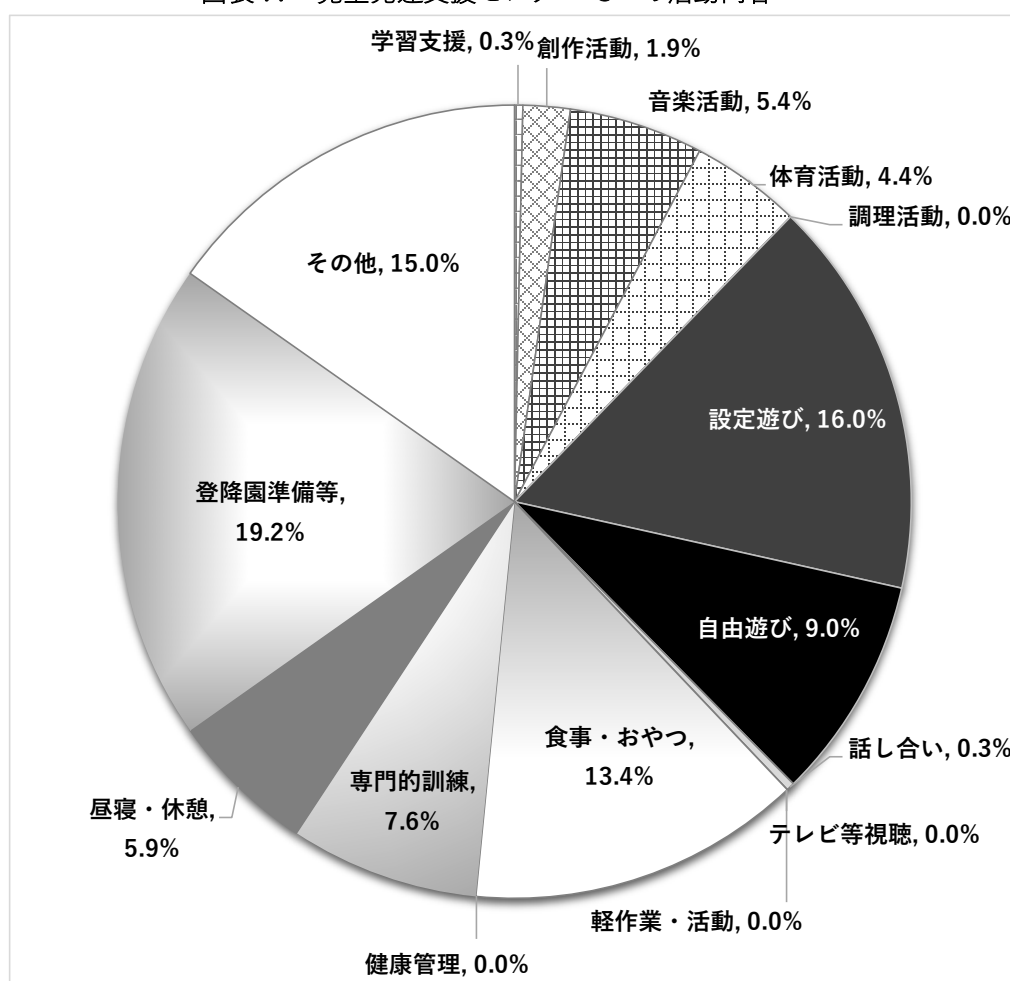
児童発達支援センターを利用している利用者のうち、0歳～3歳の年齢層で、平日長時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

対象ケース数 123人  
1日あたり平均利用時間 2.0時間

#### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「登降園準備等」の利用が最も多く、次いで「設定遊び」の時間が多い。続いて、「食事・おやつ」との結果であった。

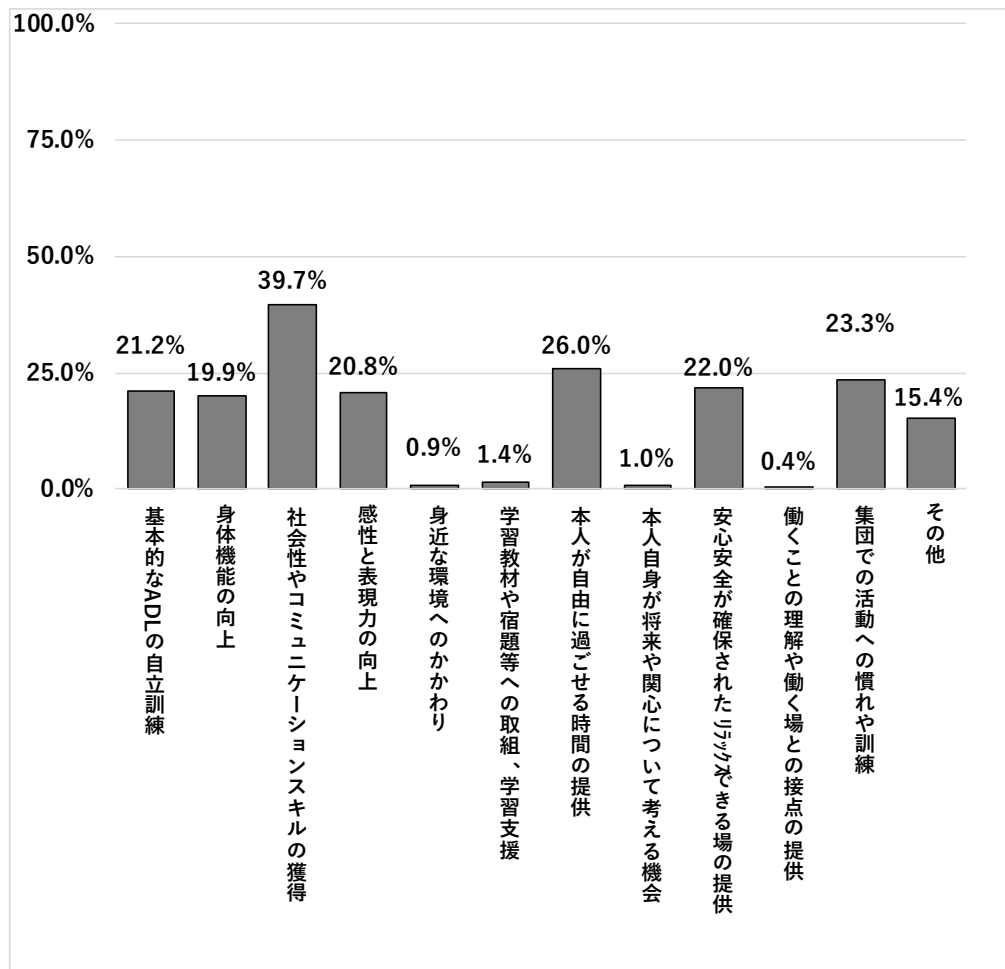
図表 77 児童発達支援センター-C の活動内容



## ○活動目的

活動目的について確認すると、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」を目的とした活動に割く時間が最も多かった。次いで、「本人が自由に過ごせる時間の提供」、「集団での活動への慣れや訓練」、「安心安全が確保されたリラックスできる場の提供」が続いた。

図表 78 児童発達支援センター-C 活動目的

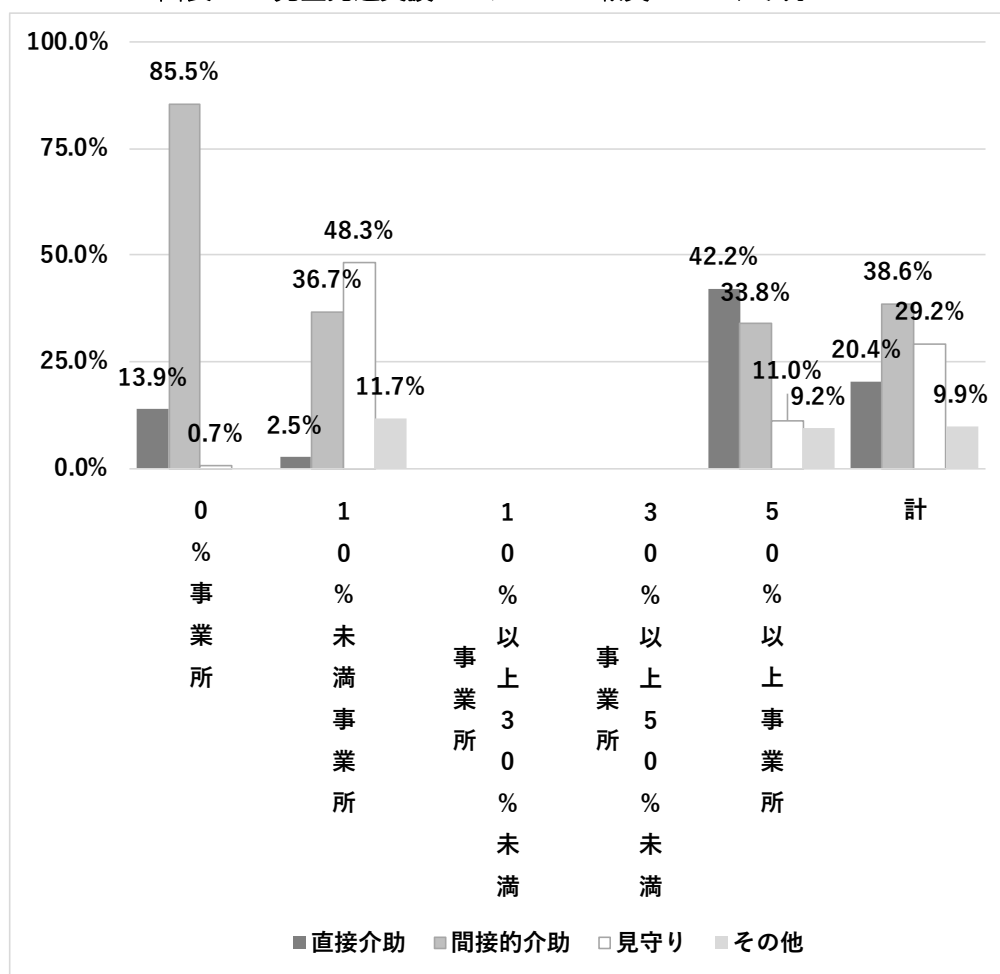


## ○職員のかかわり方

職員のかかわり方について、事業所の個別活動状況ごとに集計した結果は以下の通りである。ただし、個別活動実施割合が、10%以上 30%未満、30%以上 50%未満の事業所は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

個別活動実施割合について 0%事業所及び 10%未満事業所と比較すると、50%以上事業所の方が「直接介助」に割く時間の割合が大きかった。また、0%事業所では「間接的介助」に割く時間の割合が大きかった。

図表 79 児童発達支援センター-C 職員のかかわり方



## ○活動内容、目的の特徴

事業所の個別活動割合による活動内容の違いについて確認すると、結果は次の通りである。「体育活動」について、個別活動が50%以上の事業所では実施しているケースが全くなかった。

活動目的別にみると「基本的なADLの自立訓練」について、個別活動実施割合50%以上の事業所において大きい割合となっている。

図表 80 児童発達支援センター-C 個別活動の実施状況と活動内容の特徴

個別活動実施割合	人数	体育活動	登降園準備等
0%事業所	12	28.4%	15.8%
0%超 10%未満事業所	42	5.3%	7.7%
10%以上 30%未満事業所	8	— <sup>23</sup>	—
30%以上 50%未満事業所	11	—	—
50%以上事業所	69	0.0%	33.2%

個別活動実施割合	人数	基本的なADLの自立訓練	身体機能の向上	社会性やコミュニケーションスキルの獲得
0%事業所	12	24.1%	38.0%	45.5%
0%超 10%未満事業所	42	2.5%	18.4%	30.0%
10%以上 30%未満事業所	8	—	—	—
30%以上 50%未満事業所	11	—	—	—
50%以上事業所	69	42.8%	19.1%	50.2%
個別活動実施割合	人数	本人が自由に過ごせる時間の提供	安心安全が確保されたリラックスできる場の提供	
0%事業所	12	19.8%	0.7%	
0%超 10%未満事業所	42	38.3%	43.4%	
10%以上 30%未満事業所	8	—	—	
30%以上 50%未満事業所	11	—	—	
50%以上事業所	69	12.6%	0.0%	

<sup>23</sup> 一部の項目については、回答不備により活動内容（単一回答）を足し上げた合計割合が100%を超えてしまうため、集計結果を掲載していない。

# ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 81 児童発達支援センター-C 活動内容の典型例

9:00~9:30	
9:30~10:00	
10:00~10:30	その他
10:30~11:00	設定遊び
11:00~11:30	設定遊び/食事・おやつ
11:30~12:00	食事・おやつ/登降園準備等
12:00~12:30	
12:30~13:00	
13:00~13:30	
13:30~14:00	
14:00~14:30	
14:30~15:00	
15:00~15:30	
15:30~16:00	
16:00~16:30	
16:30~17:00	
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	

## ク. 児童発達支援センター-D（4歳～6歳 平日短時間利用）

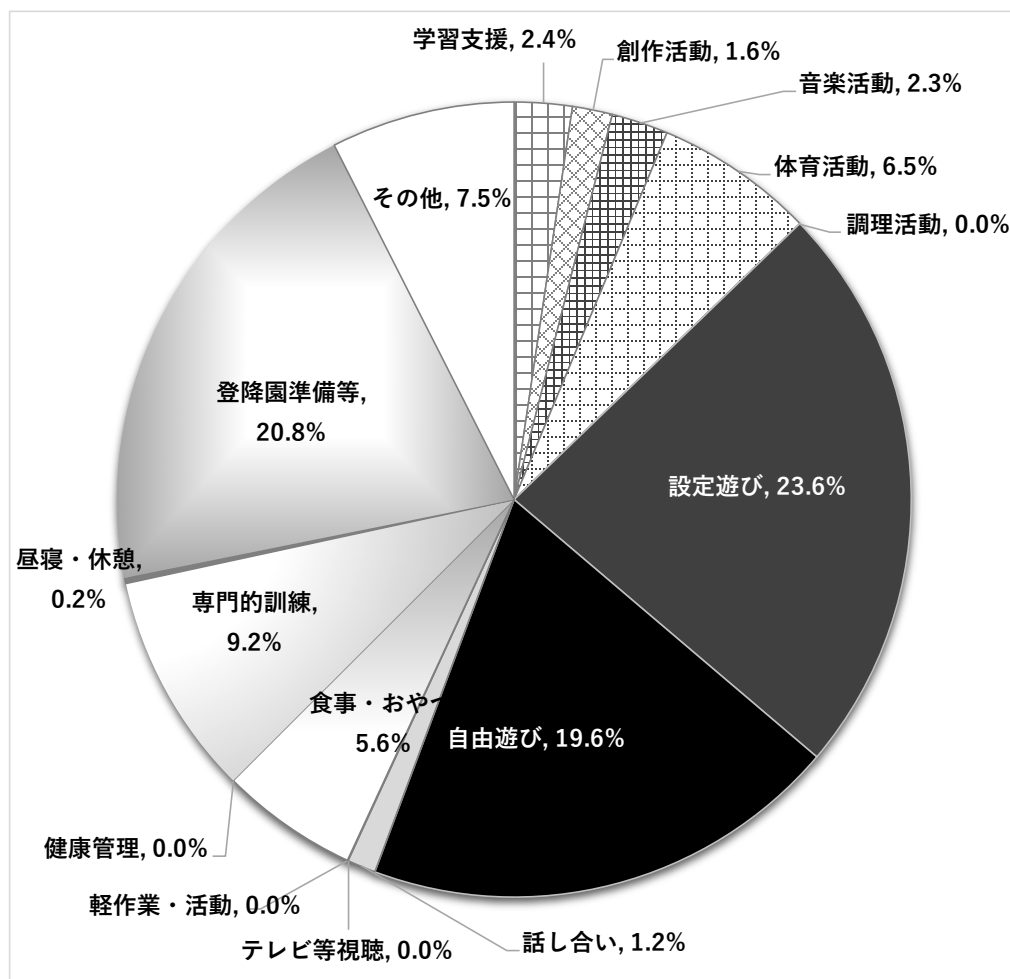
児童発達支援センターを利用している利用者のうち、4歳～6歳の年齢層で、平日短時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

対象ケース数 269人  
1日あたり平均利用時間 1.7時間

### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「設定遊び」の利用が最も多く、次いで「登降園準備等」の時間が多い。続いて、「自由遊び」「専門的訓練」との結果であった。

図表 82 児童発達支援センター-D の活動内容

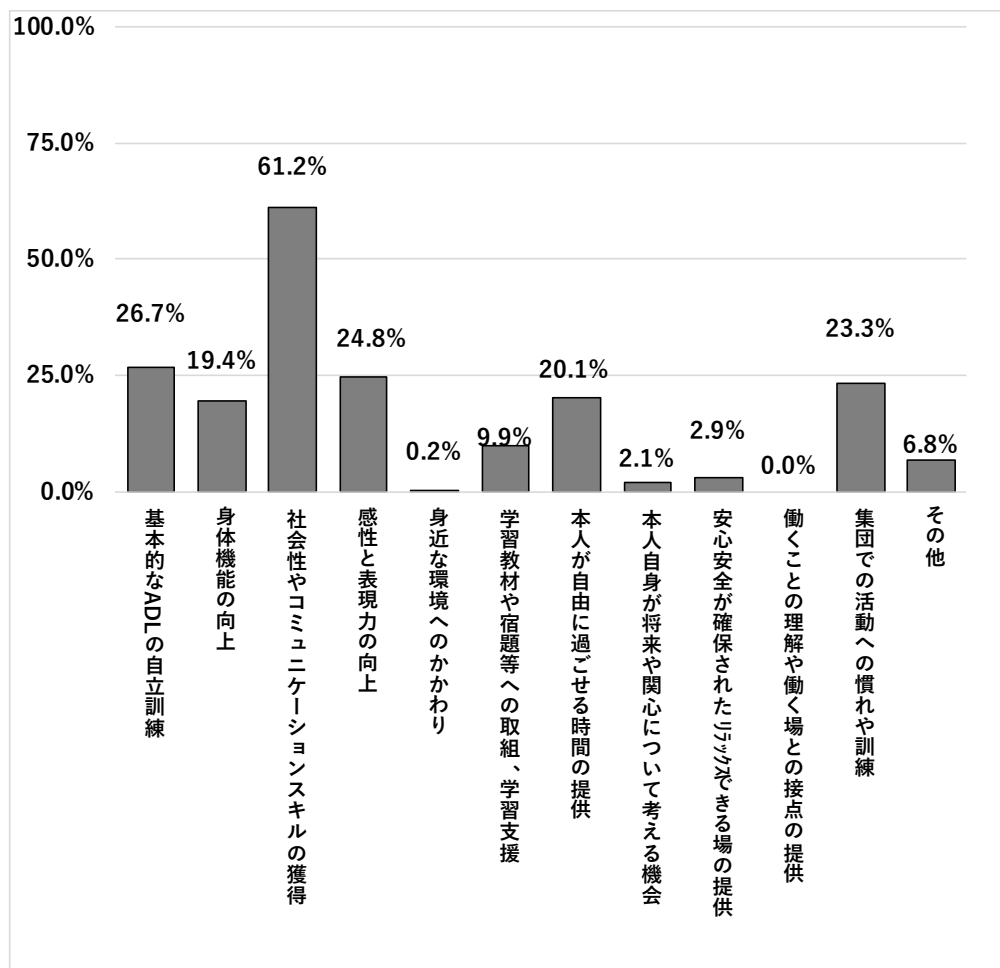




## ○活動目的

活動目的について確認すると、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」を目的とした活動に割く時間が最も多かった。次いで「基本的な ADL の自立訓練」、「感性と表現力の向上」、「集団での活動への慣れや訓練」が続いた。

図表 83 児童発達支援センター-D 活動目的

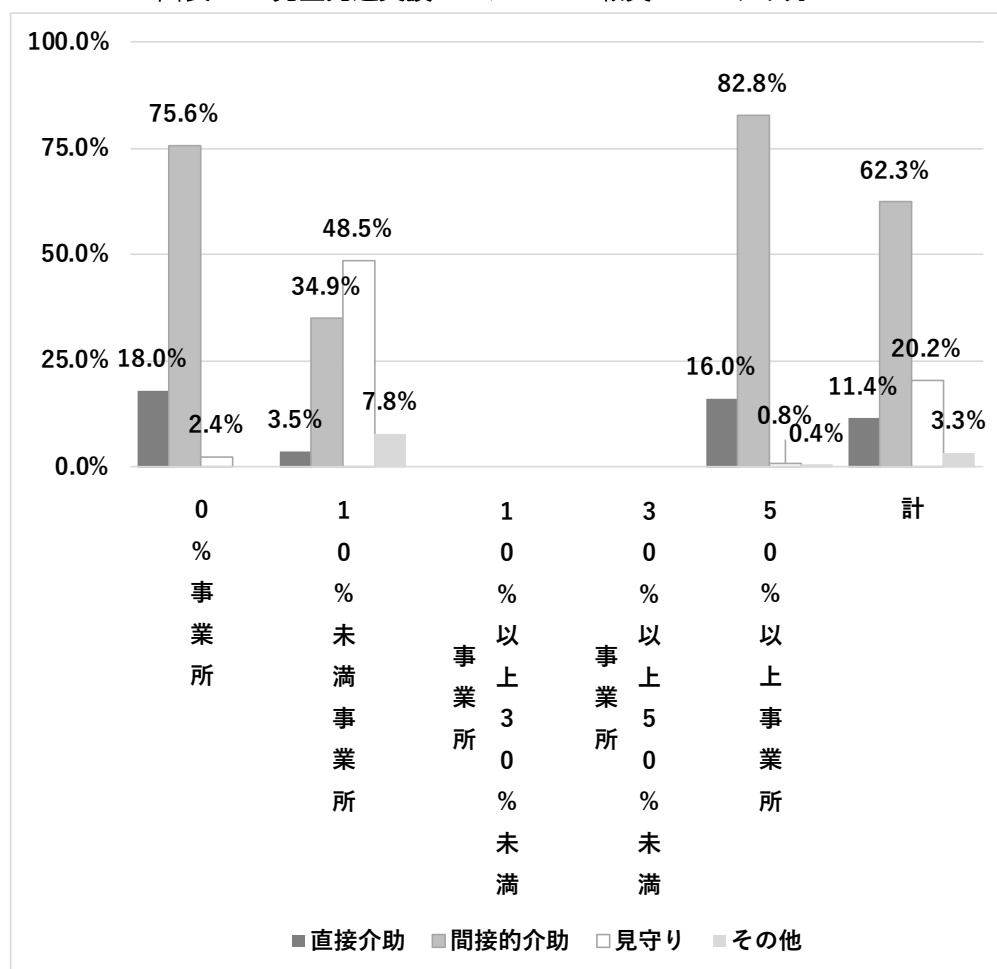


### ○職員のかかわり方

職員のかかわり方について、事業所の個別活動状況ごとに集計した結果は以下の通りである。ただし、事業所の個別活動状況による職員のかかわり方の違いを見出すことはできなかった。

なお、10%以上 30%未満事業所、30%以上 50%未満事業所については、データに欠損があり正しい数値が算出できないため、集計対象から外した。

図表 84 児童発達支援センター-D 職員のかかわり方



### ○活動内容、目的の特徴

1日の活動全体に占めるそれぞれの活動内容及びそれぞれの活動目的ごとに割いた時間の割合を算出した結果は次の通りである。ただし、個別活動実施割合が10%以上 30%未満の事業所、30%以上 50%未満の事業所については欠損値が多かったため、集計対象から外した。

活動内容をみると、「体育活動」において、個別活動実施割合が0%の事業所の活動の方が、0%超10%未満、50%以上の事業所が割く時間の割合より多いことがわかった。また、20ポイントの差はなかったものの、「音楽活動」についても同様の傾向が確認できた。一方、「専門的訓練」、「登校園準備等」では、0%超10%未満、50%以上の事業所の活動の方が、0%の事業所が割く時間の割合より多いことがわかった。

次に活動目的についてみると、「身体機能の向上」において、個別活動実施割合が0%の事業所の活動の方が、0%超10%未満、50%以上の事業所が割く時間の割合より多いことがわかった。一方、「基本的なADLの自立訓練」、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」では、0%超10%未満、50%以上の事業所の活動の方が、0%の事業所が割く時間の割合より多いことがわかった。

図表 85 児童発達支援センターD 個別活動の実施状況と活動内容の特徴

個別活動実施割合	人数	音楽活動	体育活動	専門的訓練
0%事業所	46	12.1%	22.1%	0.0%
0%超10%未満事業所	106	0.3%	6.2%	1.5%
10%以上30%未満事業所	30			
30%以上50%未満事業所	15			
50%以上事業所	117	0.0%	0.0%	20.6%
個別活動実施割合	人数	登降園準備等		
0%事業所	46	4.9%		
0%超10%未満事業所	106	15.8%		
10%以上30%未満事業所	30			
30%以上50%未満事業所	15			
50%以上事業所	117	32.6%		

個別活動実施割合	人数	基本的なADLの自立訓練	身体機能の向上	社会性やコミュニケーションスキルの獲得
0%事業所	46	12.5%	39.8%	42.4%
0%超10%未満事業所	106	16.6%	13.5%	57.2%
10%以上30%未満事業所	30			
30%以上50%未満事業所	15			
50%以上事業所	117	42.6%	0.0%	73.3%

## ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 86 児童発達支援センター-D 活動内容の典型例 <sup>24</sup>

9:00~9:30	
9:30~10:00	
10:00~10:30	登降園準備等/設定遊び
10:30~11:00	設定遊び
11:00~11:30	食事・おやつ/自由遊び
11:30~12:00	自由遊び/登降園準備
12:00~12:30	
12:30~13:00	
13:00~13:30	
13:30~14:00	
14:00~14:30	
14:30~15:00	
15:00~15:30	
15:30~16:00	
16:00~16:30	
16:30~17:00	
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	

<sup>24</sup> 開始時刻は 10:00 前後の場合と、14:00 時前後の場合とがあった。ここでは頻度が多かった 10:00 前後開始を典型例と記載した。

## ケ. 児童発達支援センター-E（4歳～6歳 土日短時間利用）

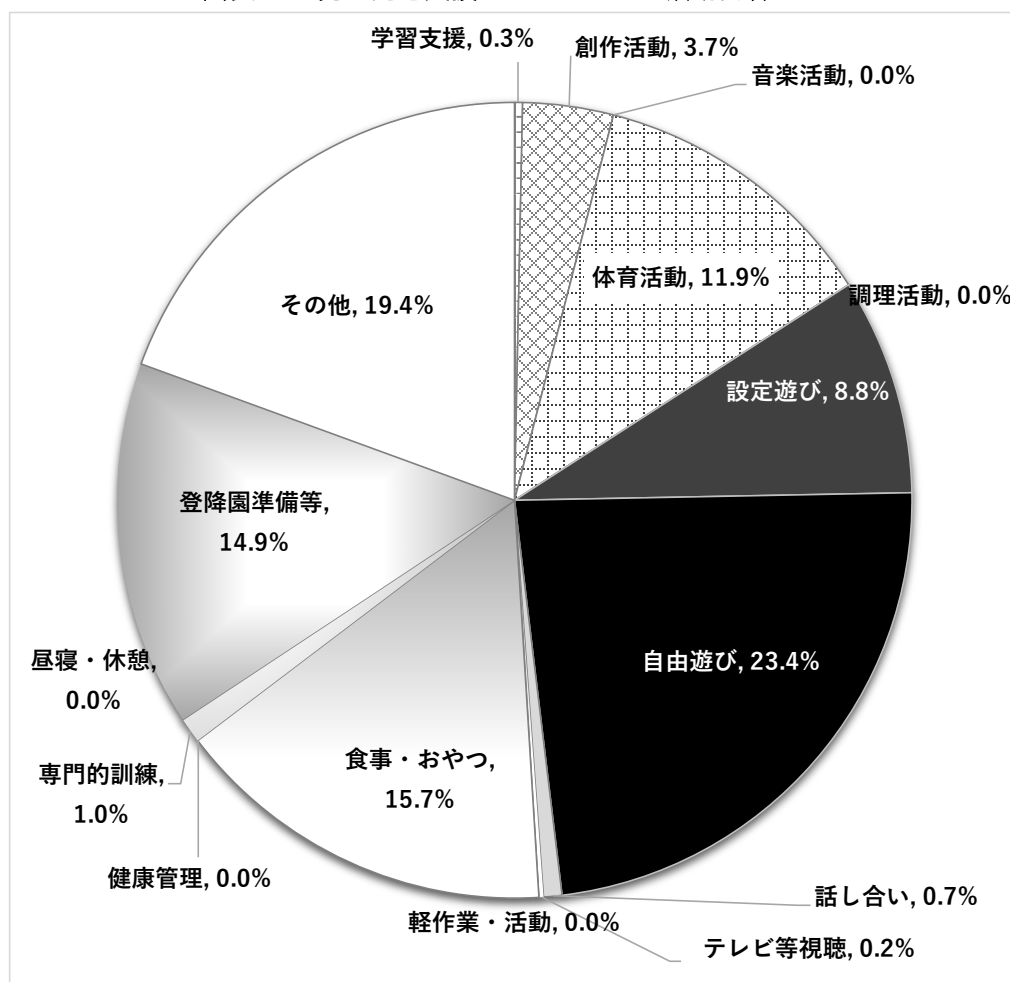
児童発達支援センターを利用している利用者のうち、4歳～6歳の年齢層で、土日短時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

対象ケース数 78人  
1日あたり平均利用時間 2.3時間

### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「自由遊び」の利用が最も多く、次いで「その他」の時間が多い。続いて、「食事・おやつ」、「登降園準備等」、「体育活動」との結果であった。

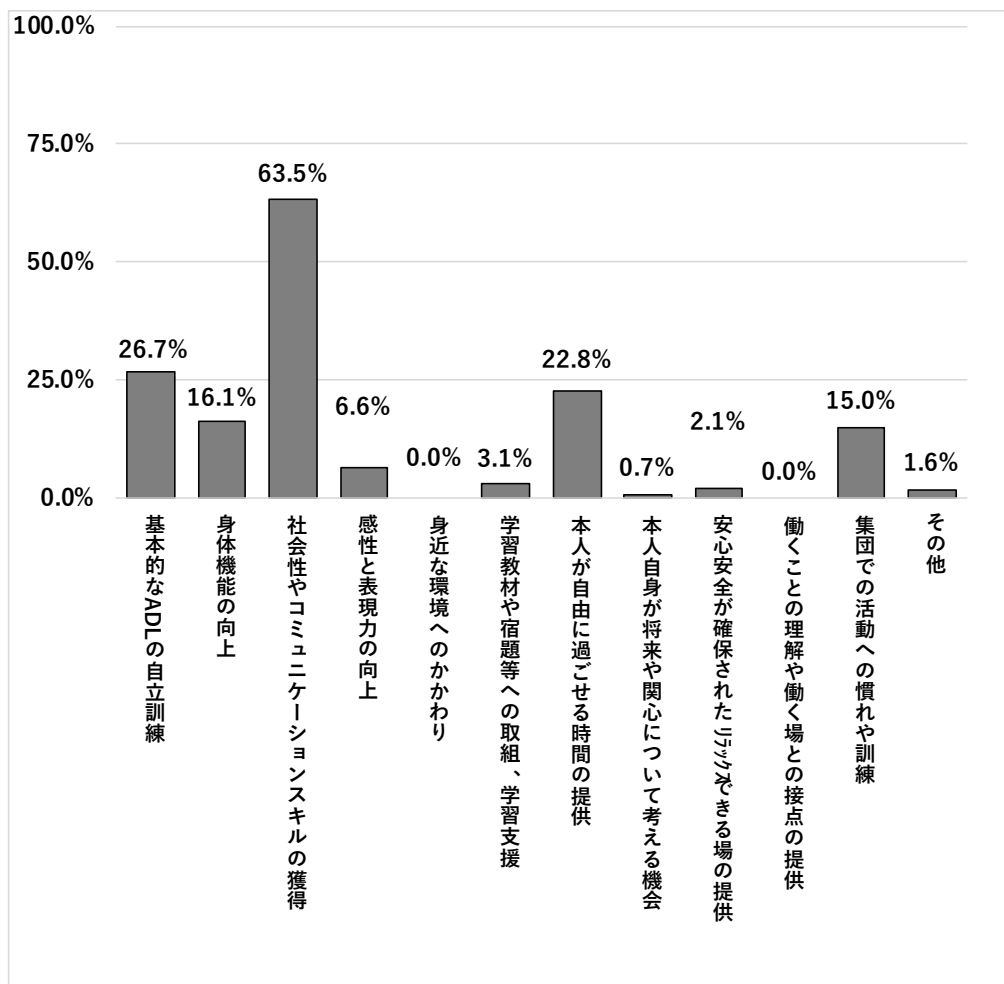
図表 87 児童発達支援センター-E の活動内容



## ○活動目的

活動目的について確認すると、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」を目的とした活動に割く時間が最も多かった。次いで「基本的な ADL の自立訓練が多かった。

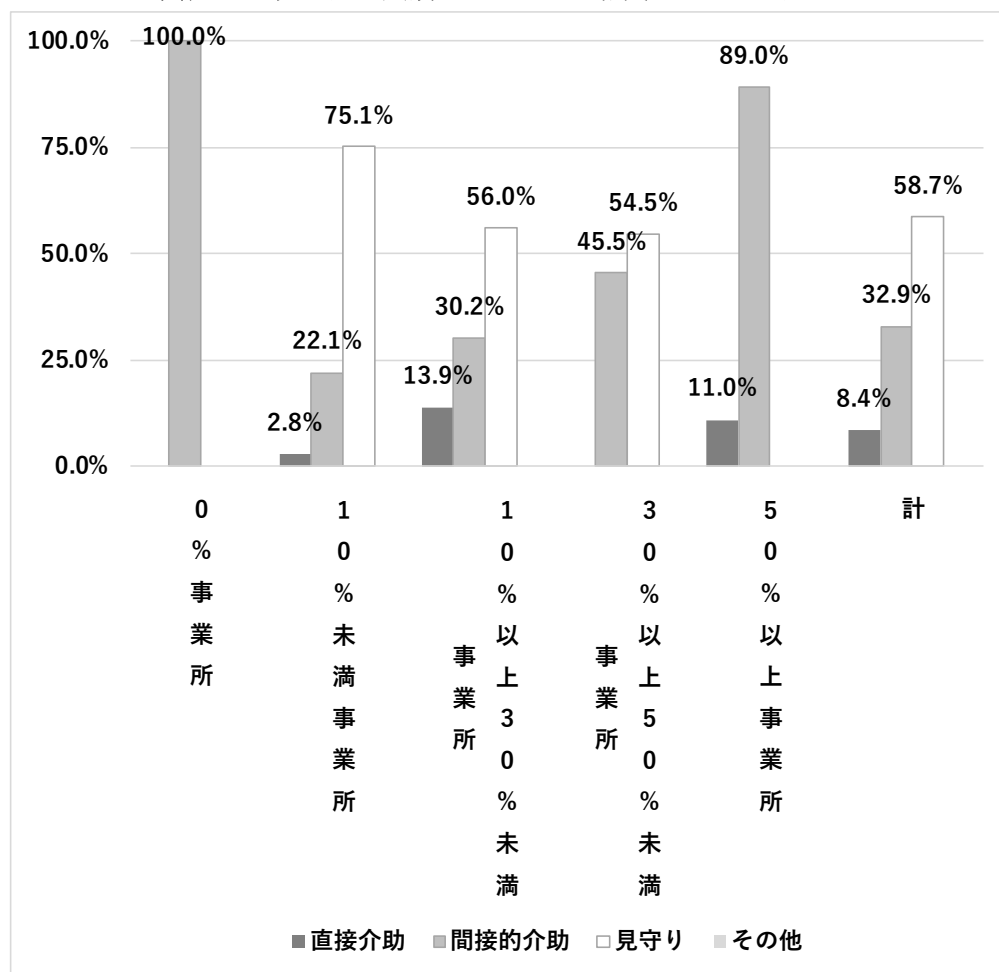
図表 88 児童発達支援センター-E 活動目的



## ○職員のかかわり方

職員のかかわり方について、事業所の個別活動状況ごとに集計した結果は以下の通りである。ただし、個別活動実施割合が、0%超 10%未満、10%以上 30%未満の事業所以外は対象となるケースが 10 人以下のため、留意が必要である。

図表 89 児童発達支援センター-E 職員のかかわり方



## ○活動内容、目的の特徴

1日の活動全体に占めるそれぞれの活動内容及びそれぞれの活動目的ごとに割いた時間の割合を算出した結果は次の通りである。ただし、個別活動実施割合が0%超10%未満の事業所、10%以上30%未満事業所以外は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

活動内容は図表67に記した構成比とほぼ同じであり、割いている時間に20ポイント以上差がある項目はなかった。

図表90 児童発達支援センター-E 個別活動の実施状況と活動内容の特徴

個別活動実施割合	人数	社会性やコミュニケーションスキルの獲得
0%事業所	4	91.7%
0%超10%未満事業所	38	89.0%
10%以上30%未満事業所	28	38.3%
30%以上50%未満事業所	1	100.0%
50%以上事業所	7	58.5%

## ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表91 児童発達支援センター-E 活動内容の典型例

9:00~9:30	
9:30~10:00	
10:00~10:30	登降園準備等/自由遊び
10:30~11:00	自由遊び
11:00~11:30	自由遊び/その他
11:30~12:00	その他/食事・おやつ
12:00~12:30	食事・おやつ/登降園準備
12:30~13:00	
13:00~13:30	
13:30~14:00	
14:00~14:30	
14:30~15:00	
15:00~15:30	
15:30~16:00	
16:00~16:30	
16:30~17:00	
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	



## コ. 児童発達支援事業所-A (0歳~3歳 平日長時間利用)

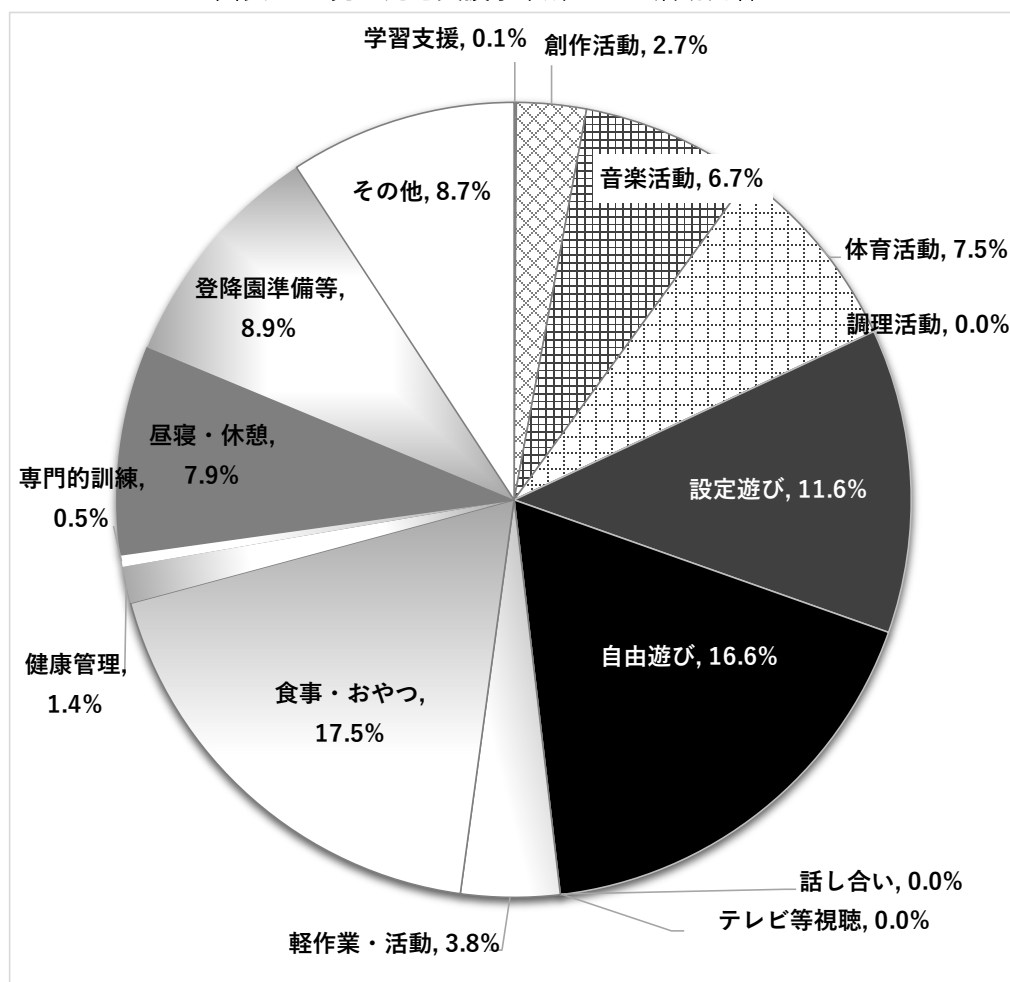
児童発達支援事業所を利用している利用者のうち、0歳~3歳の年齢層で、平日長時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

対象ケース数 31人  
1日あたり平均利用時間 4.5時間

### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「食事・おやつ」の利用が最も多く、次いで「自由遊び」の時間が多い。続いて「設定遊び」との結果であった。

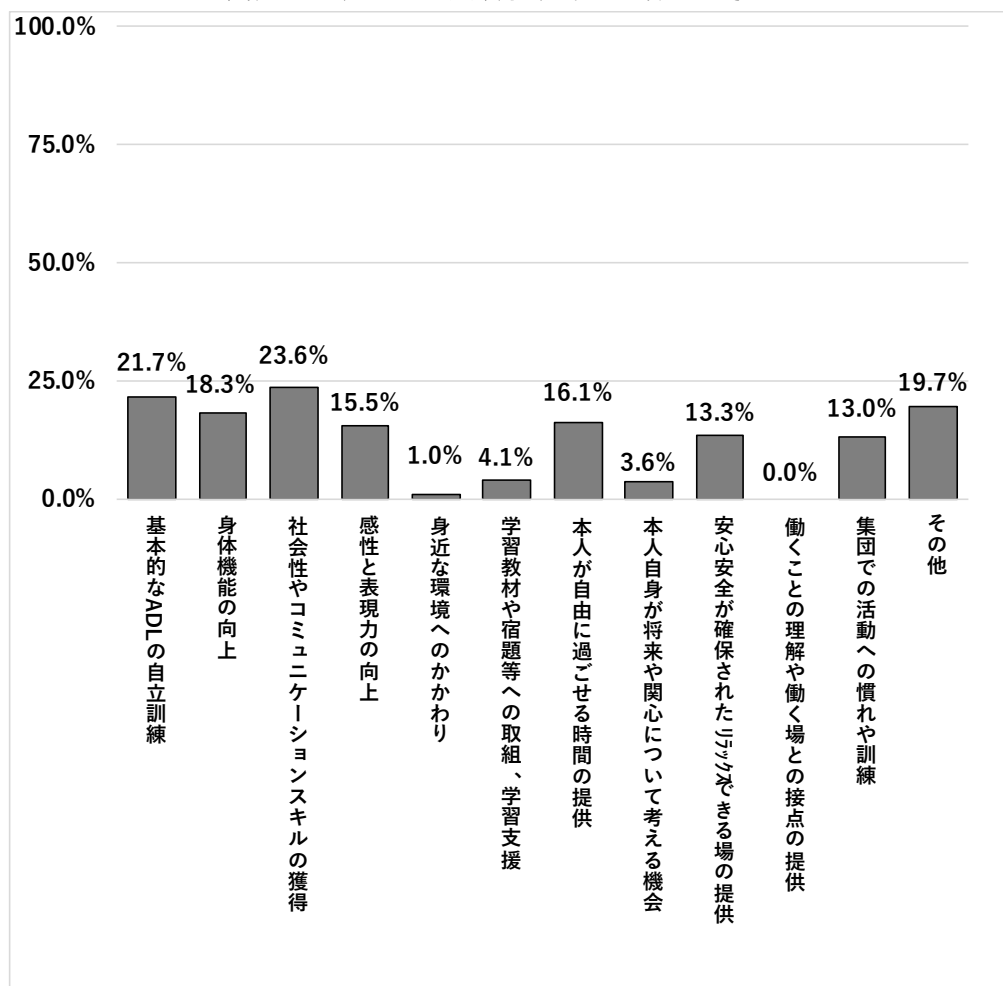
図表 92 児童発達支援事業所-A の活動内容



## ○活動目的

活動目的について確認すると、突出して多くの時間を割いている項目はなかった。

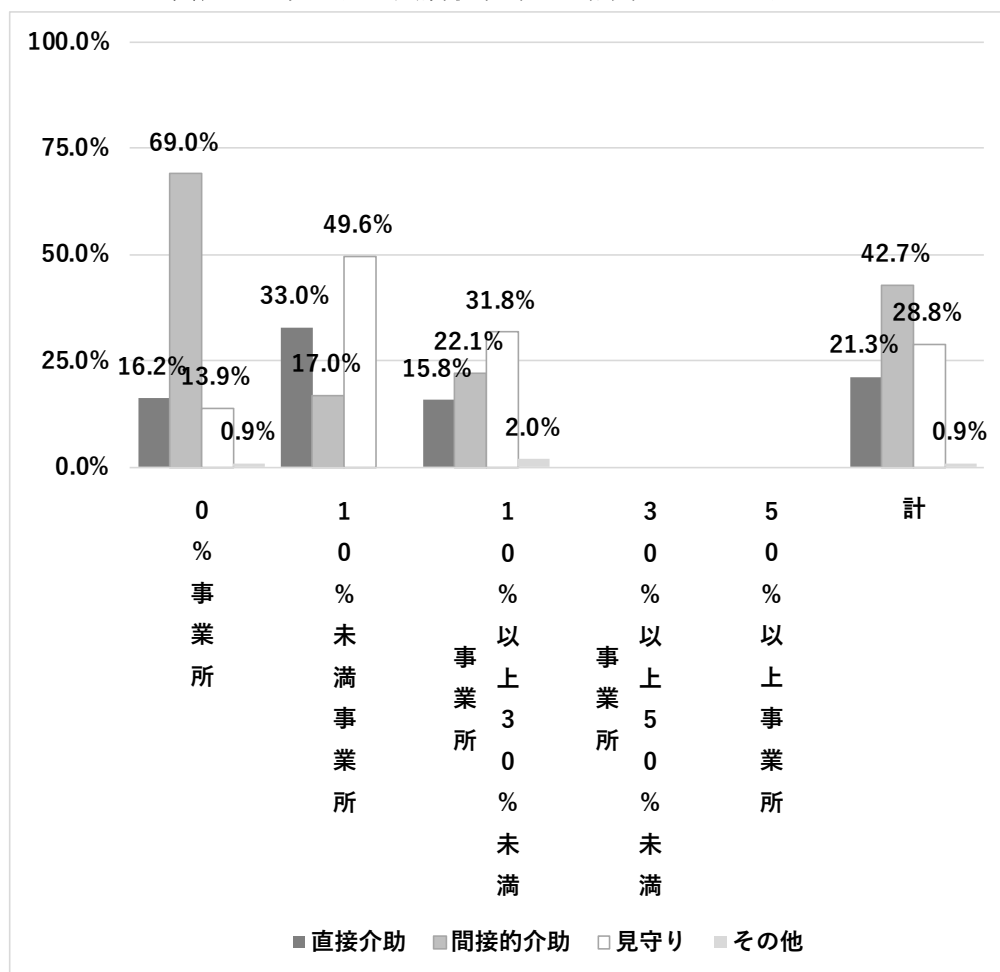
図表 93 児童発達支援事業所-A 活動目的



### ○職員のかかわり方

職員のかかわり方について、事業所の個別活動状況ごとに集計した結果は以下の通りである。ただし、個別活動実施割合が0%の事業所以外は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

図表 94 児童発達支援事業所-A 職員のかかわり方



### ○活動内容、目的の特徴

1日の活動全体に占めるそれぞれの活動内容及びそれぞれの活動目的ごとに割いた時間の割合を算出したが、個別活動実施割合が0%の事業所以外は対象となるケースが10人以下であった。

# ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 95 児童発達支援事業所-A 活動内容の典型例

9:00~9:30	
9:30~10:00	
10:00~10:30	
10:30~11:00	登降園準備等/自由遊び
11:00~11:30	自由遊び
11:30~12:00	自由遊び
12:00~12:30	自由遊び/食事・おやつ
12:30~13:00	食事・おやつ
13:00~13:30	食事・おやつ/設定遊び
13:30~14:00	設定遊び
14:00~14:30	設定遊び/その他
14:30~15:00	その他/登降園準備等
15:00~15:30	
15:30~16:00	
16:00~16:30	
16:30~17:00	
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	

## サ. 児童発達支援事業所-B (4 歳~6 歳 平日長時間利用)

児童発達支援事業所を利用している利用者のうち、4 歳~6 歳の年齢層で、平日長時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

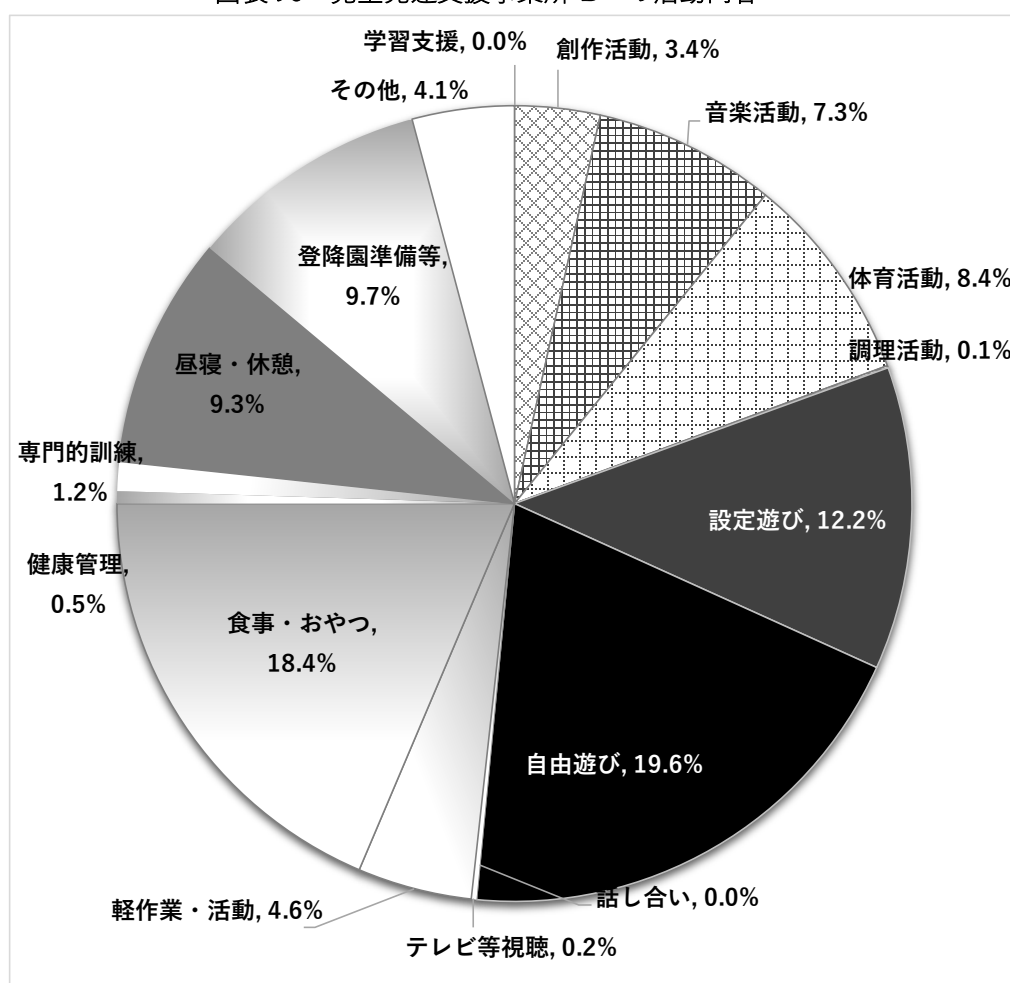
対象ケース数 69 人

1 日あたり平均利用時間 4.7 時間

### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「自由遊び」の利用が最も多く、次いで「食事・おやつ」の時間が多い。続いて、「設定遊び」との結果であった。

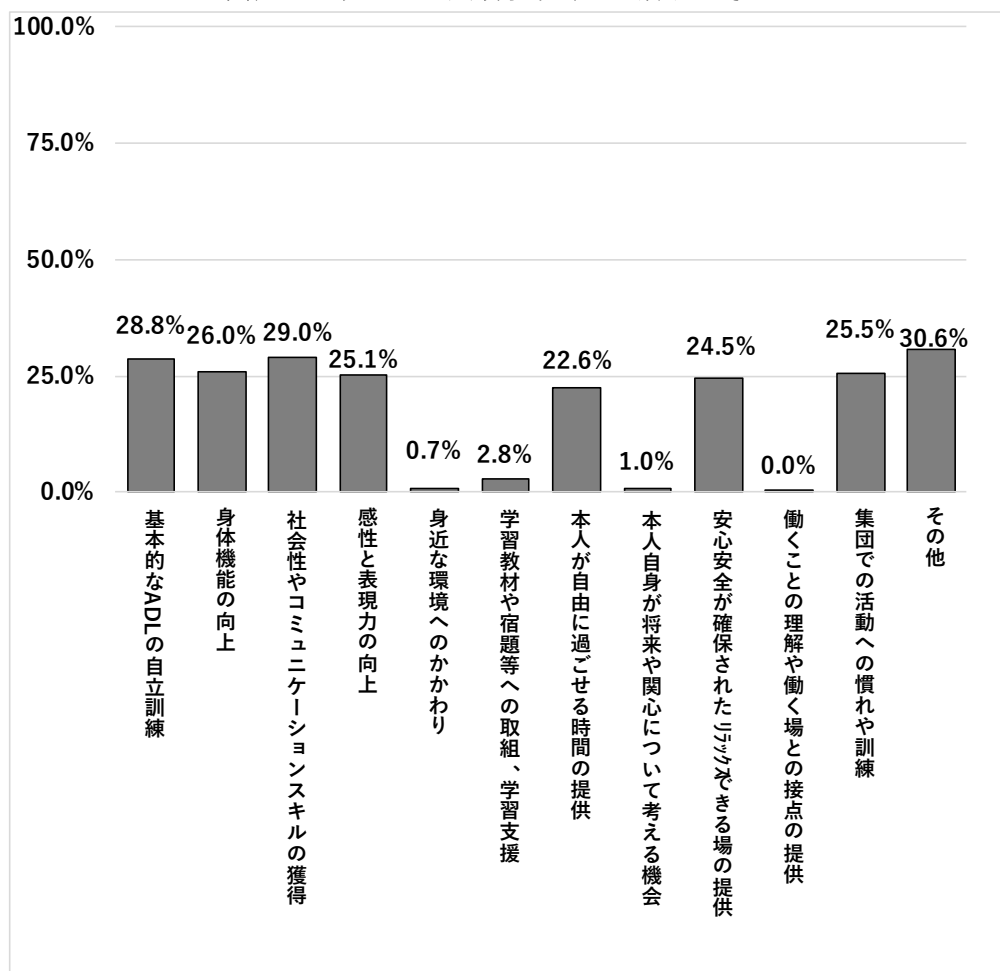
図表 96 児童発達支援事業所-B の活動内容



## ○活動目的

活動目的について確認すると、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」「基本的な ADL の自立訓練」を目的とした活動に割く時間が最も多かった。次いで「身体機能の向上」、「集団での活動への慣れや訓練」、「感性と表現力の向上」、「安心安全が確保されたリラックスできる場の提供」、「本人が自由に過ごせる時間の提供」、が多い結果であった。

図表 97 児童発達支援事業所-B 活動目的

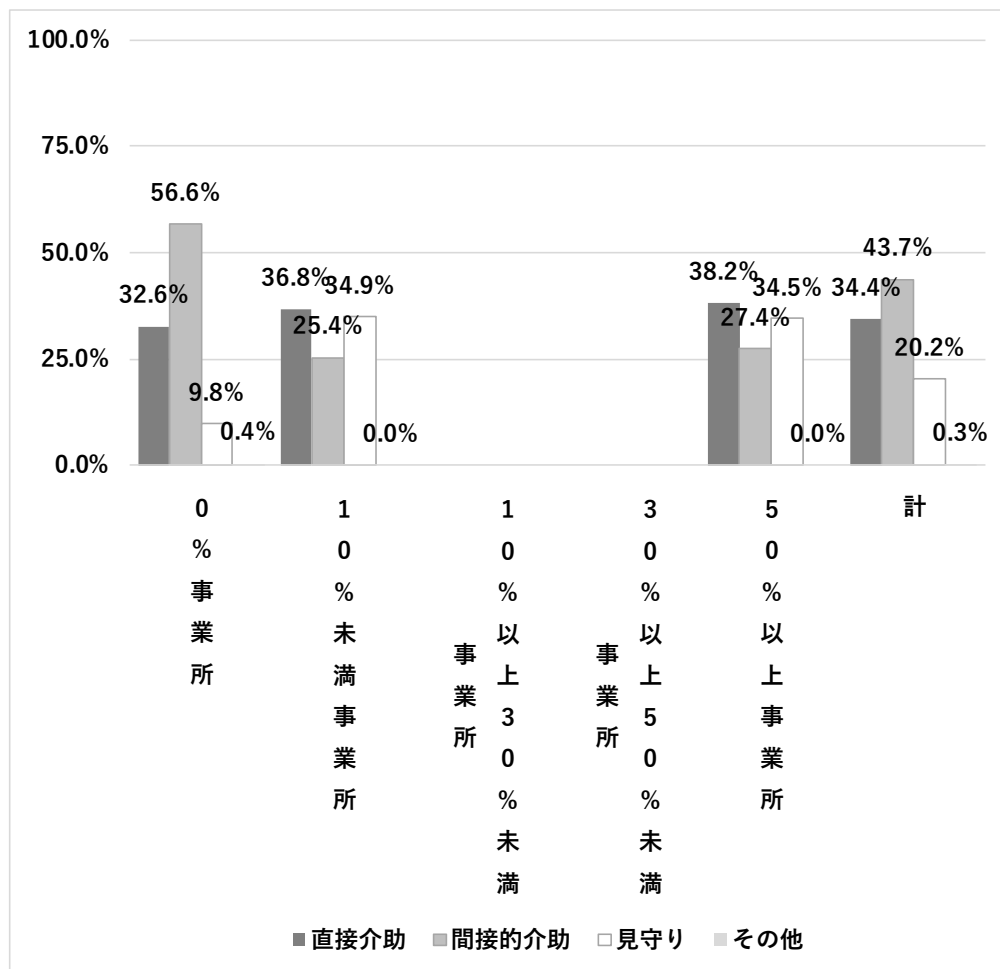


## ○職員のかかわり方

職員のかかわり方について、事業所の個別活動状況ごとに集計した結果は以下の通りである。ただし、個別活動実施割合が、10%以上 30%未満、30%以上 50%未満、50%以上の事業所は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

個別活動実施割合が0%の事業所の活動の方が、0%超 10%未満の事業所の活動と比べ、「間接的介助」に割く時間の割合が大きかった。

図表 98 児童発達支援事業所-B 職員のかかわり方



### ○活動内容、目的の特徴

1日の活動全体に占めるそれぞれの活動内容及びそれぞれの活動目的ごとに割いた時間の割合を算出した結果は次の通りである。ただし、個別活動実施割合が0%の事業所、0%超 10%未満の事業所以外は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

活動内容は図表 96 に記した構成比とほぼ同じであり、割いている時間に 20 ポイント以上差がある項目はなかった。

次に活動目的についてみると、「基本的な ADL の自立訓練」、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」、「感性と表現力の向上」、「本人が自由に過ごせる時間の提供」、「集団での活動への慣れや訓練」において、個別活動実施割合が 0%超 10%未満の事業所の活動の方が、0%の事業所が活動に割く時間より割合が小さいことが見て取れた。

図表 99 児童発達支援事業所-B 個別活動の実施状況と活動内容、目的の特徴

個別活動実施割合	人数	基本的な ADL の自立訓練	社会性やコミュニケーションスキルの獲得	感性と表現力の向上
0%事業所	43	38.1%	46.0%	35.7%
0%超 10%未満事業所	22	16.4%	2.9%	10.2%
10%以上 30%未満事業所				
30%以上 50%未満事業所				
50%以上事業所	4	12.7%	21.8%	10.0%
個別活動実施割合	人数	本人が自由に過ごせる時間の提供	集団での活動への慣れや訓練	
0%事業所	43	31.0%	40.8%	
0%超 10%未満事業所	22	9.6%	2.9%	
10%以上 30%未満事業所				
30%以上 50%未満事業所				
50%以上事業所	4	18.1%	12.7%	



# ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 100 児童発達支援事業所-B 活動内容の典型例

9:00~9:30	
9:30~10:00	
10:00~10:30	
10:30~11:00	登降園準備等/設定遊び
11:00~11:30	設定遊び
11:30~12:00	設定遊び
12:00~12:30	食事・おやつ
12:30~13:00	食事・おやつ
13:00~13:30	自由遊び
13:30~14:00	自由遊び
14:00~14:30	自由遊び
14:30~15:00	自由遊び
15:00~15:30	自由遊び/登降園準備等
15:30~16:00	
16:00~16:30	
16:30~17:00	
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	

## シ. 児童発達支援事業所-C（0歳～3歳 平日短時間利用）

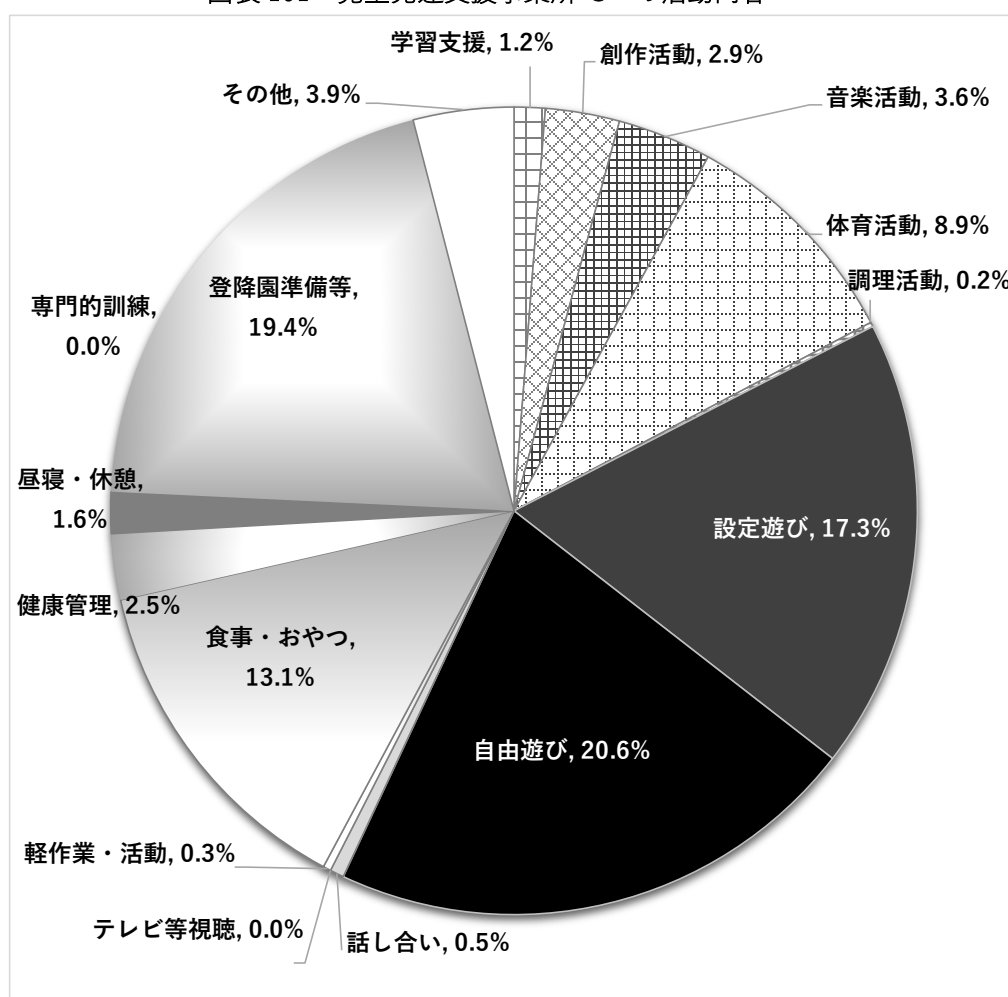
児童発達支援事業所を利用している利用者のうち、0歳～3歳の年齢層で、平日短時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

対象ケース数 115人  
1日あたり平均利用時間 2.5時間

### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「自由遊び」の利用が最も多く、次いで「登降園準備等」の時間が多い。続いて、「設定遊び」、「食事・おやつ」との結果であった。

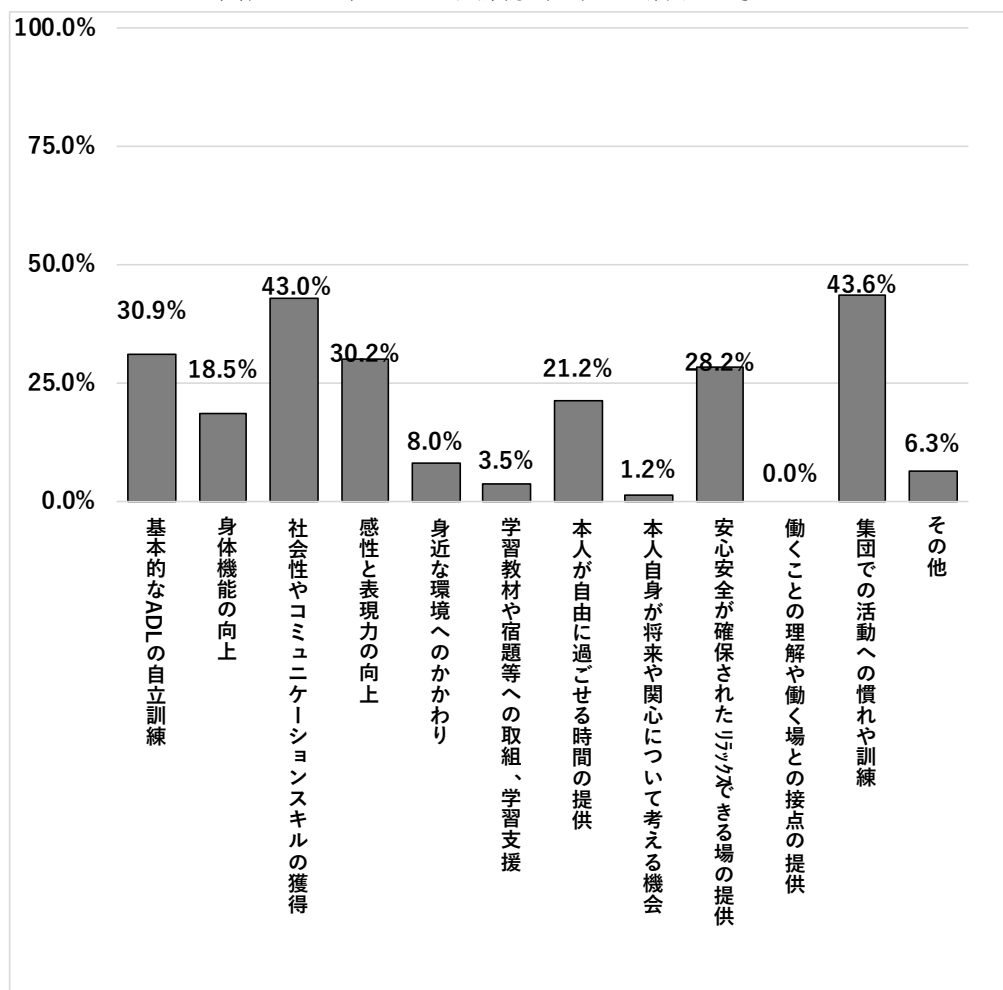
図表 101 児童発達支援事業所-C の活動内容



## ○活動目的

活動目的について確認すると、「集団での活動への慣れや訓練」を目的とした活動に割く時間が最も多かった。次いで「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」、「基本的な ADL の自立訓練」、「感性と表現力の向上」、「安心安全が確保されたりラックスできる場の提供」が続いた。

図表 102 児童発達支援事業所-C 活動目的

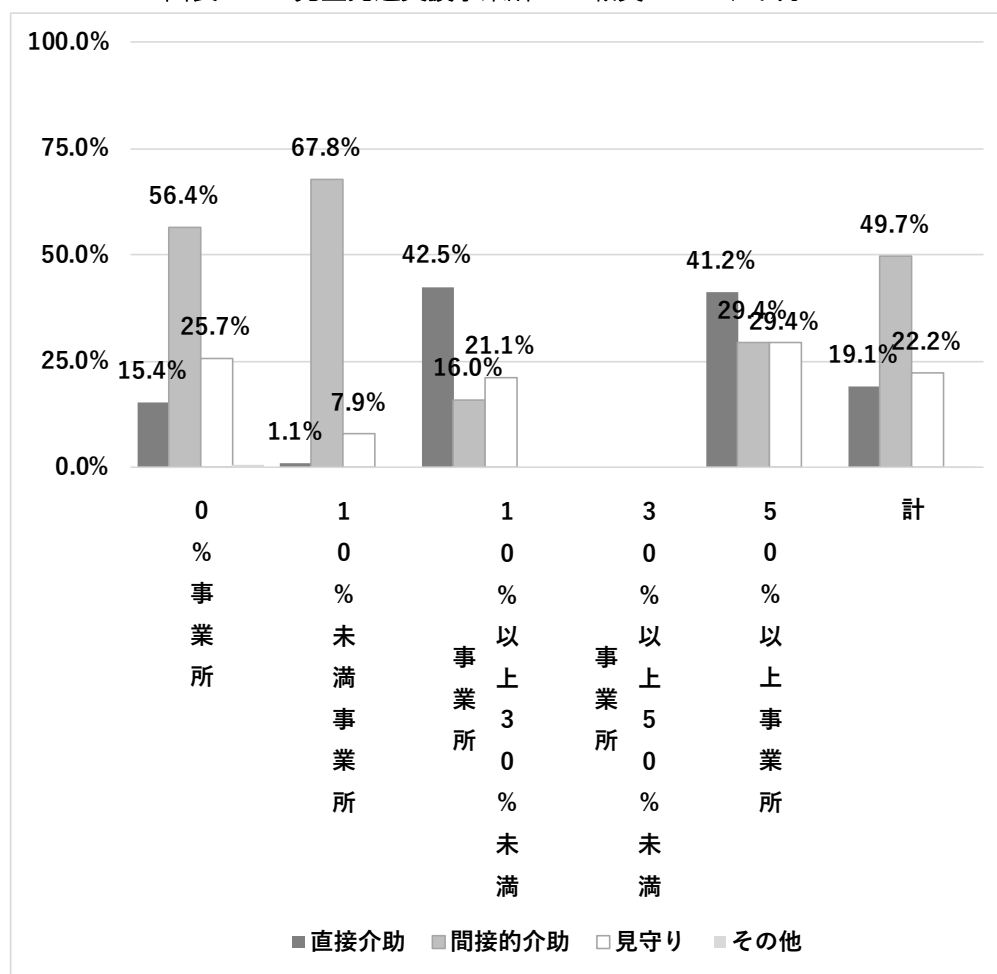


## ○職員のかかわり方

職員のかかわり方について、事業所の個別活動状況ごとに集計した結果は以下の通りである。ただし、個別活動実施割合が 30%以上 50%未満の事業所は対象となるケースが 10 人以下のため、留意が必要である。

また、事業所の個別活動状況による職員のかかわり方の違いを見出すことはできなかった。

図表 103 児童発達支援事業所-C 職員のかかわり方



### ○活動内容、目的の特徴

活動内容は図表 101 に記した構成比とほぼ同じであり、割いている時間に 20 ポイント以上差がある項目はなかった。活動目的についても同様であった。

### ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 104 児童発達支援事業所-C 活動内容の典型例

9:00~9:30	
9:30~10:00	登降園準備等/自由遊び
10:00~10:30	自由遊び
10:30~11:00	自由遊び/設定遊び
11:00~11:30	設定遊び/食事・おやつ
11:30~12:00	食事・おやつ/登降園準備等
12:00~12:30	
12:30~13:00	
13:00~13:30	
13:30~14:00	
14:00~14:30	
14:30~15:00	
15:00~15:30	
15:30~16:00	
16:00~16:30	
16:30~17:00	
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	

## ス. 児童発達支援事業所-D (4 歳~6 歳 平日短時間利用)

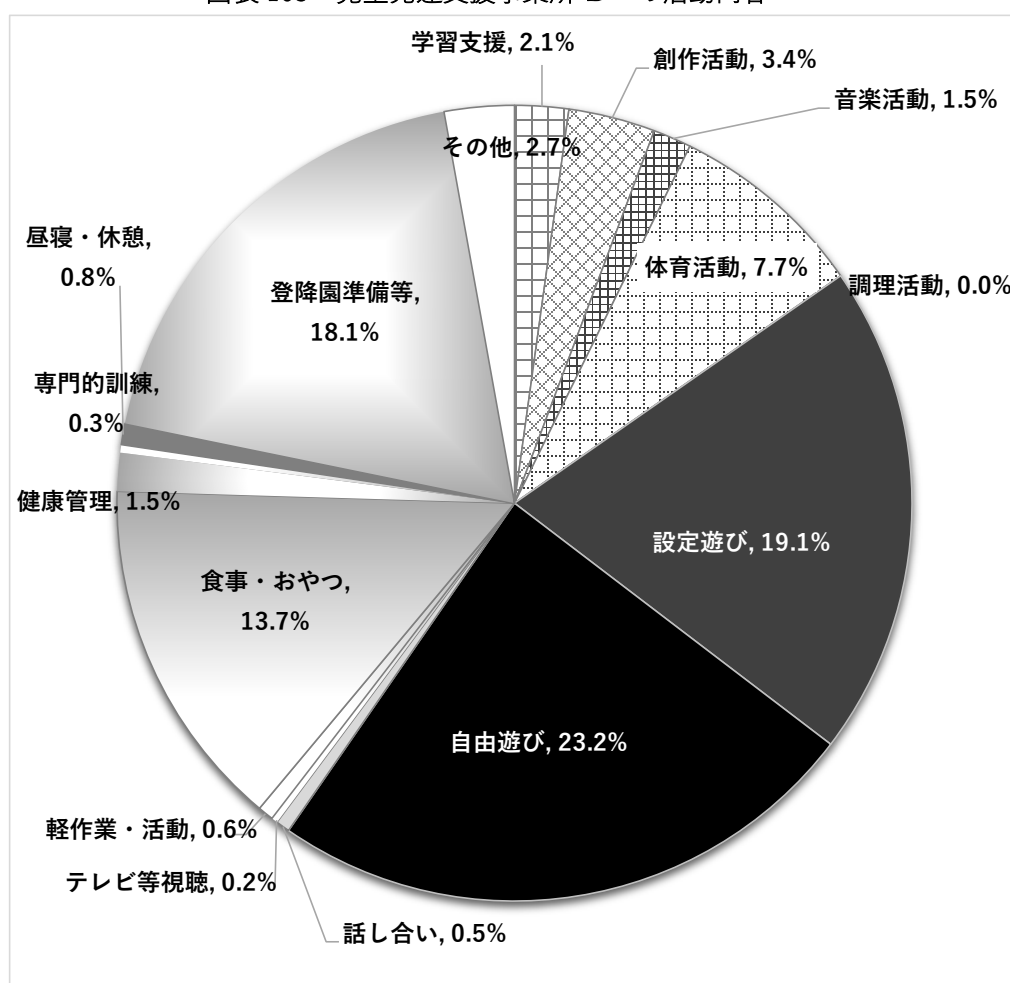
児童発達支援事業所を利用している利用者のうち、4 歳~6 歳の年齢層で、平日短時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

対象ケース数 269 人  
1 日あたり平均利用時間 2.5 時間

### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「自由遊び」の利用が最も多く、次いで「設定遊び」の時間が多い。続いて、「登降園準備等」、「食事・おやつ」との結果であった。

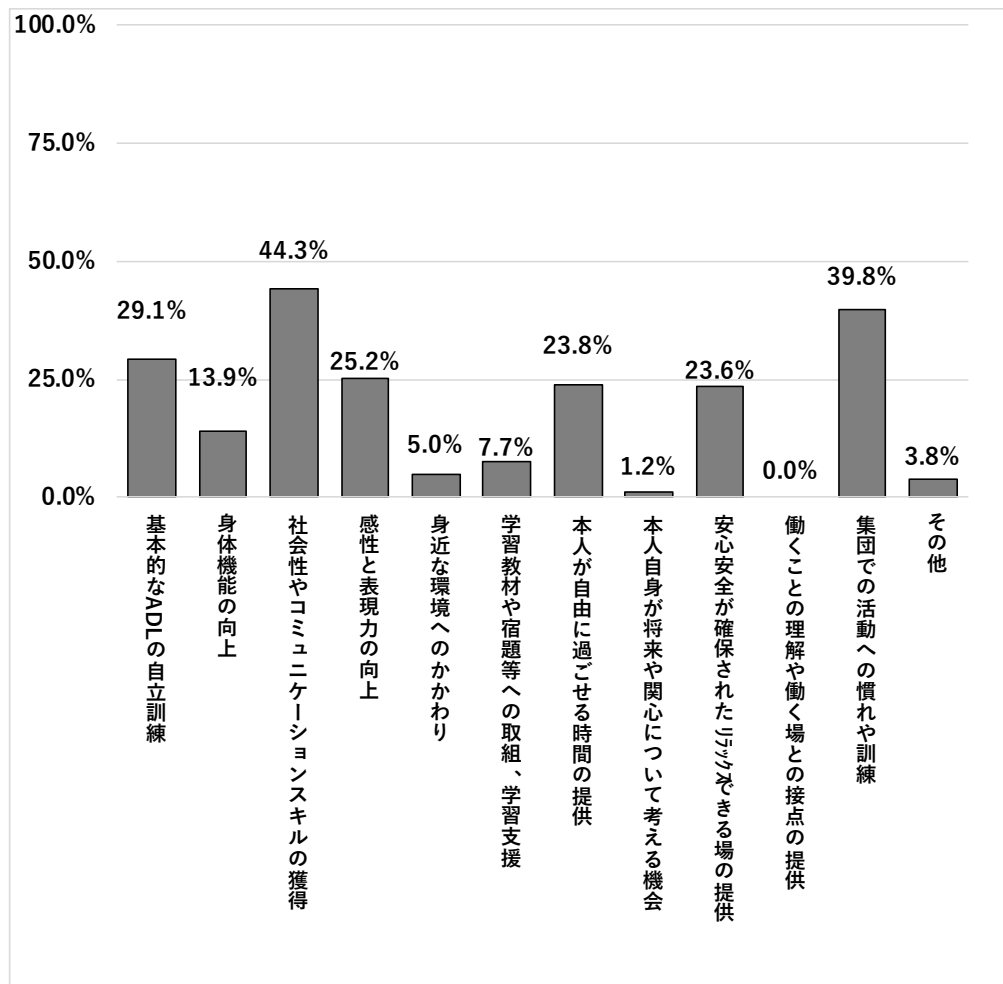
図表 105 児童発達支援事業所-D の活動内容



## ○活動目的

活動目的について確認すると、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」を目的とした活動に割く時間が最も多かった。次いで「集団の活動への慣れや訓練」、「基本的な ADL の自立訓練」、「感性と表現力の向上」が多かった。

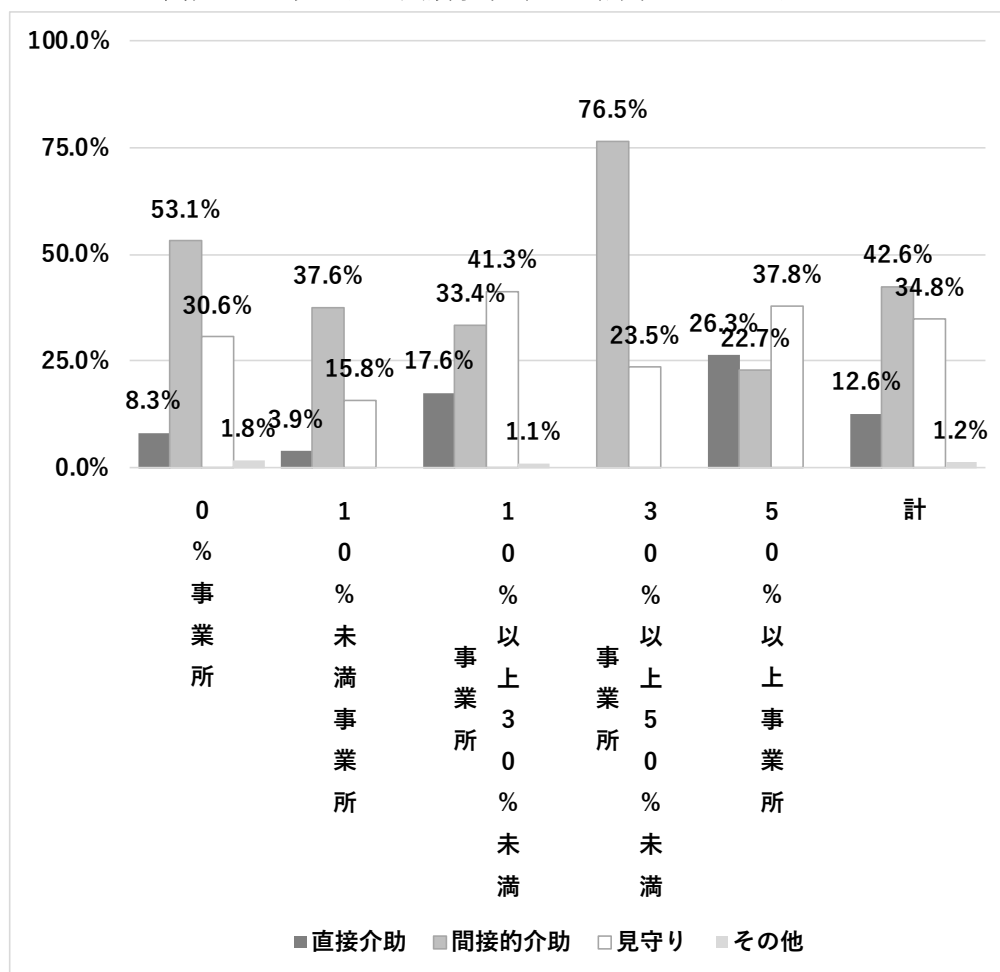
図表 106 児童発達支援事業所-D 活動目的



## ○職員のかかわり方

職員のかかわり方について、事業所の個別活動状況ごとに集計した結果は以下の通りである。ただし、個別活動実施割合が 30%以上 50%未満の事業所は対象となるケースが 10 人以下のため、留意が必要である。

図表 107 児童発達支援事業所-D 職員のかかわり方





## ○活動内容、目的の特徴

1日の活動全体に占めるそれぞれの活動内容及びそれぞれの活動目的ごとに割いた時間の割合を算出した結果は次の通りである。ただし、個別活動実施割合が30%以上50%未満の事業所は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

活動内容についてみると、割いている時間に20ポイント以上差がある項目はなかったものの、個別活動実施割合が50%以上の事業所において、「学習支援」を実施する割合が大きかった。

図表 108 児童発達支援事業所-D 個別活動の実施状況と活動内容の特徴

個別活動実施割合	人数	学習支援
0%事業所	122	0.0%
0%超 10%未満事業所	27	0.0%
10%以上 30%未満事業所	115	2.9%
30%以上 50%未満事業所	8	16.2%
50%以上事業所	12	13.3%

個別活動実施割合	人数	基本的な ADL の自立訓練	身体機能の向上	社会性やコミュニケーションスキルの獲得
0%事業所	122	36.0%	16.0%	63.9%
0%超 10%未満事業所	27	11.0%	40.3%	5.2%
10%以上 30%未満事業所	115	26.8%	8.7%	34.8%
30%以上 50%未満事業所	8	29.9%	11.8%	42.6%
50%以上事業所	12	9.6%	16.4%	9.3%
個別活動実施割合	人数	感性と表現力の向上	安心安全が確保されたリラックスできる場の提供	
0%事業所	122	34.0%	32.4%	
0%超 10%未満事業所	27	10.7%	3.7%	
10%以上 30%未満事業所	115	21.3%	20.2%	
30%以上 50%未満事業所	8	8.8%	5.4%	
50%以上事業所	12	10.4%	12.9%	

## ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 109 児童発達支援事業所-D 活動内容の典型例 <sup>25</sup>

9:00~9:30	
9:30~10:00	
10:00~10:30	
10:30~11:00	
11:00~11:30	
11:30~12:00	
12:00~12:30	
12:30~13:00	
13:00~13:30	
13:30~14:00	
14:00~14:30	
14:30~15:00	
15:00~15:30	登降園準備等/自由遊び
15:30~16:00	自由遊び
16:00~16:30	自由遊び/食事・おやつ
16:30~17:00	食事・おやつ/設定遊び
17:00~17:30	設定遊び/登降園準備等
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	

<sup>25</sup> 開始時間は 12:00 から 16:00 の間でいくつかの場合があった。ここでは、頻度が多かった 15:00 とした。

## セ. 放課後等デイサービス-A (7歳~12歳 土日長時間利用)

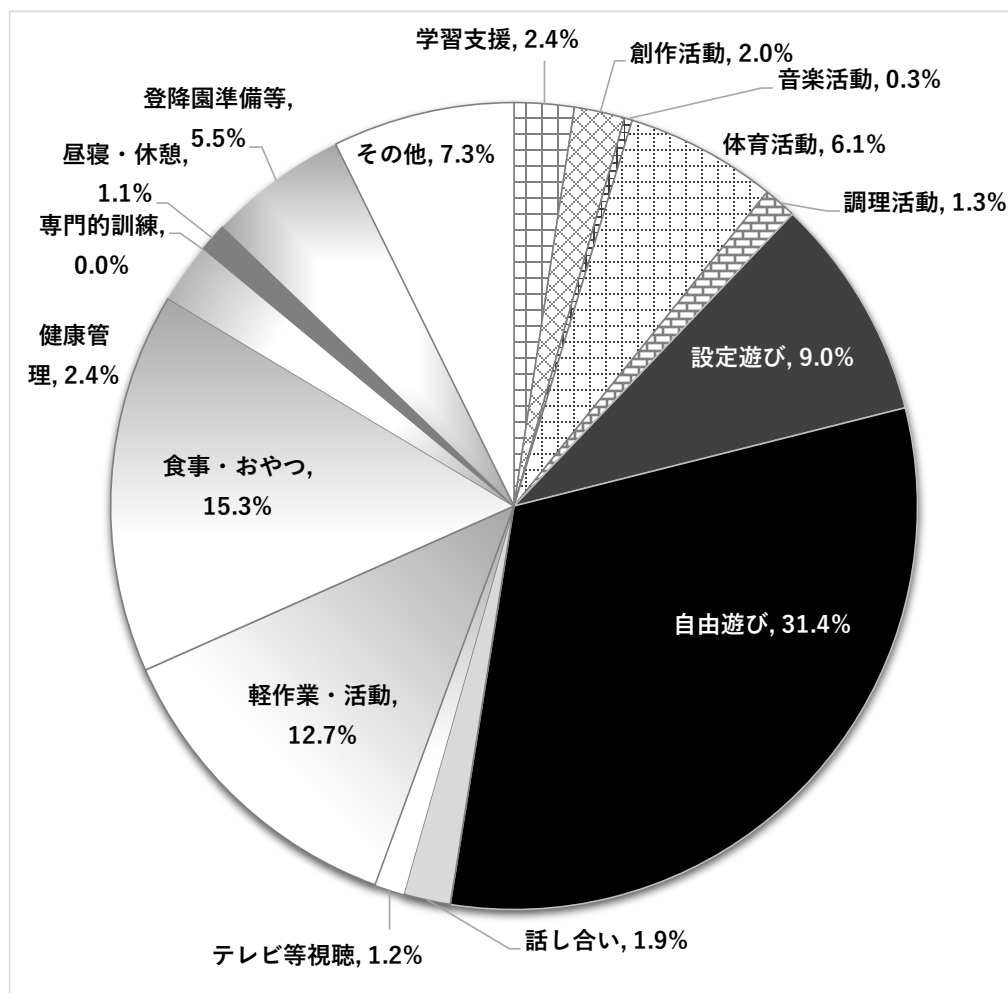
放課後等デイサービスを利用している利用者のうち、7歳~12歳の年齢層で、土日長時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

対象ケース数 62人  
1日あたり平均利用時間 6.8時間

### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「自由遊び」の利用が最も多く、次いで「食事・おやつ」の時間が多い。続いて、「軽作業・活動」との結果であった。

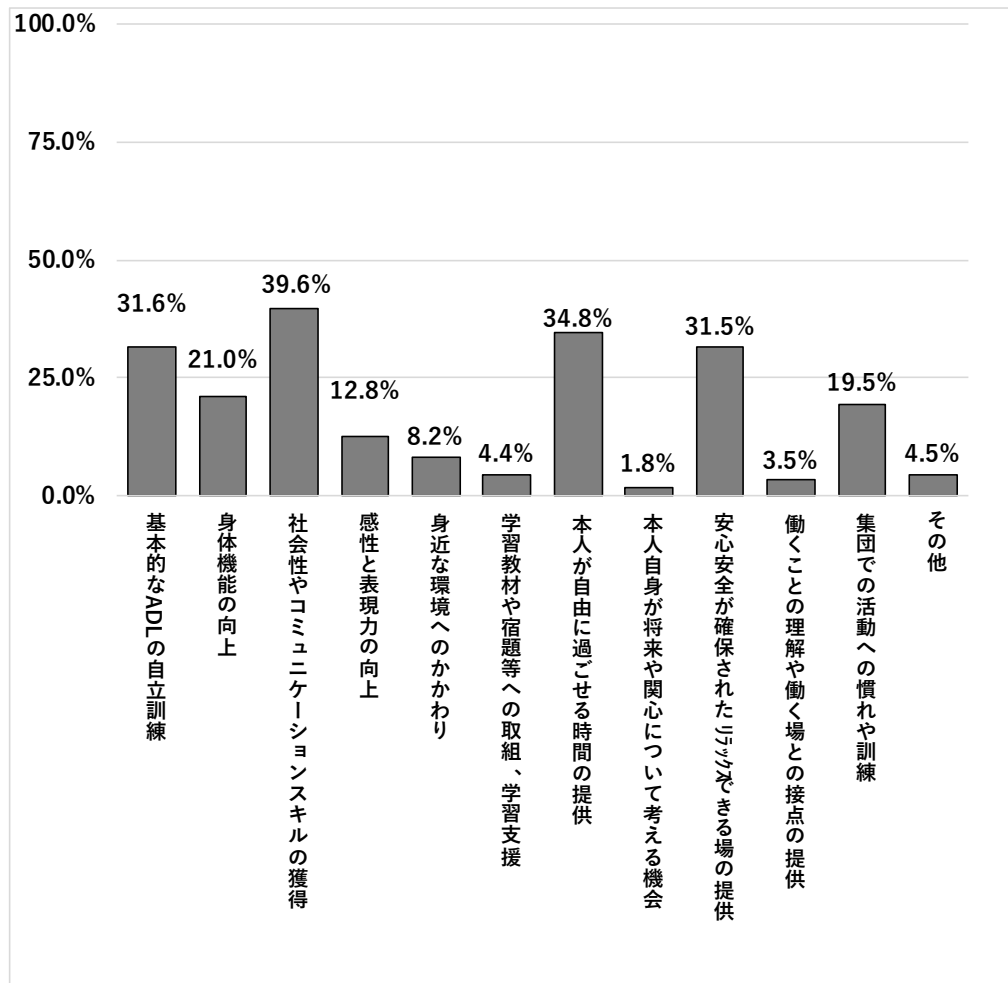
図表 110 放課後等デイサービス-A の活動内容



## ○活動目的

活動目的について確認すると、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」を目的とした活動に割く時間が最も多かった。次いで「本人が自由に過ごせる時間の提供」、「基本的な ADL の自立訓練」、「安心安全が確保されたリラックスできる場の提供」が続いた。

図表 111 放課後等デイサービス-A 活動目的

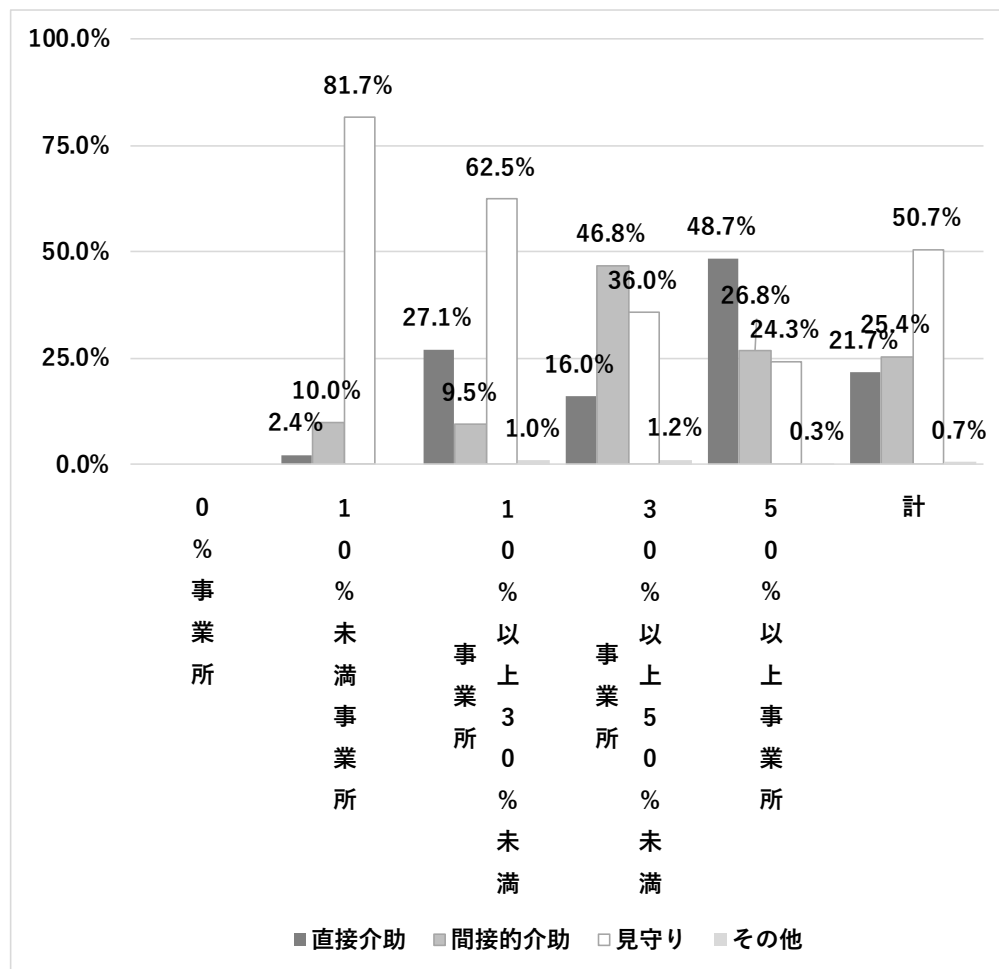


## ○職員のかかわり方

職員のかかわり方について、事業所の個別活動状況ごとに集計した結果は以下の通りである。ただし、個別活動実施割合が0%の事業所は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

個別活動実施割合が小さい事業所の活動であるほど、「見守り」に割く時間の割合が大きいことがわかった。

図表 112 放課後等デイサービス-A 職員のかかわり方



## ○活動内要、目的の特徴

1日の活動全体に占めるそれぞれの活動内容及びそれぞれの活動目的ごとに割いた時間の割合を算出した結果は次の通りである。ただし、個別活動実施割合が0%の事業所は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

活動内容についてみると、「設定遊び」について、個別活動実施割合が10%以上30%未満である事業所の活動と30%以上50%未満である事業所の活動に割いている時間の割合との間に20ポイント以上の差があった。

「基本的なADLの自立訓練」、「本人が自由に過ごせる時間の提供」についても20ポイント以上の差が見出されたが、個別活動実施割合の多寡による傾向は見いだせなかった。

図表 113 放課後等デイサービス-A 個別活動の実施状況と活動内容、目的の特徴

個別活動実施割合	人数	設定遊び
0%事業所	0	3.0%
0%超 10%未満事業所	16	3.6%
10%以上 30%未満事業所	16	22.3%
30%以上 50%未満事業所	19	0.0%
50%以上事業所	11	9.0%

個別活動実施割合	人数	基本的なADLの自立訓練	身体機能の向上	社会性やコミュニケーションスキルの獲得
0%事業所	0			
0%超 10%未満事業所	16	16.9%	8.9%	60.3%
10%以上 30%未満事業所	16	44.6%	22.9%	44.6%
30%以上 50%未満事業所	19	27.2%	28.0%	26.5%
50%以上事業所	11	41.8%	22.0%	30.8%
個別活動実施割合	人数	感性と表現力の向上	本人が自由に過ごせる時間の提供	
0%事業所	0			
0%超 10%未満事業所	16	6.9%	54.5%	
10%以上 30%未満事業所	16	1.0%	30.2%	
30%以上 50%未満事業所	19	21.3%	24.8%	
50%以上事業所	11	19.1%	32.6%	

# ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 114 放課後等デイサービス-A 活動内容の典型例

9:00~9:30	
9:30~10:00	
10:00~10:30	登降園準備等/自由遊び
10:30~11:00	自由遊び
11:00~11:30	自由遊び
11:30~12:00	自由遊び
12:00~12:30	自由遊び
12:30~13:00	食事・おやつ
13:00~13:30	食事・おやつ
13:30~14:00	食事・おやつ
14:00~14:30	自由遊び
14:30~15:00	自由遊び
15:00~15:30	自由遊び
15:30~16:00	自由遊び/軽作業・活動
16:00~16:30	軽作業・活動
16:30~17:00	軽作業・活動/登降園準備等
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	

## ソ. 放課後等デイサービス-B (13 歳～ 土日長時間利用)

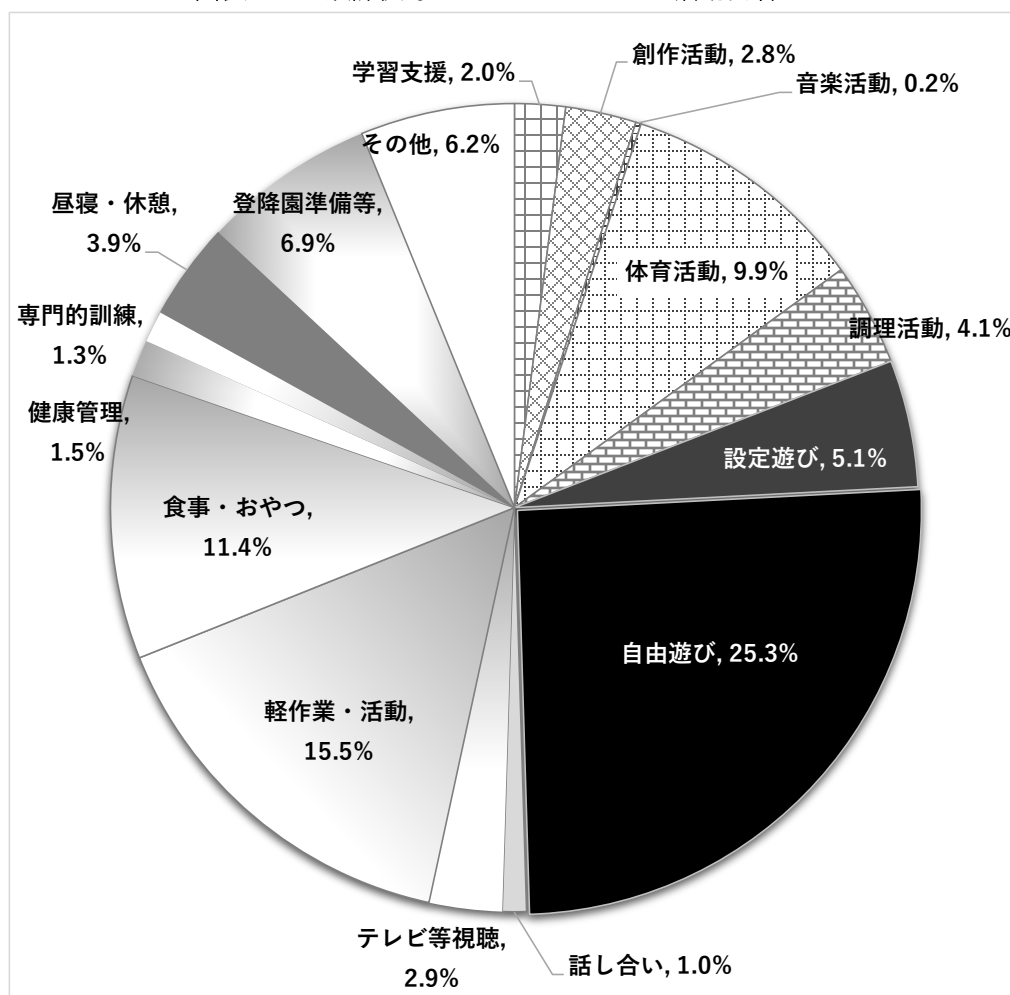
放課後等デイサービスを利用している利用者のうち、13 歳の年齢層で、土日長時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

対象ケース数 45 人  
1 日あたり平均利用時間 6.8 時間

### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「自由遊び」の利用が最も多く、次いで「軽作業・活動」の時間が多い。続いて、「食事・おやつ」との結果であった。

図表 115 放課後等デイサービス-B の活動内容

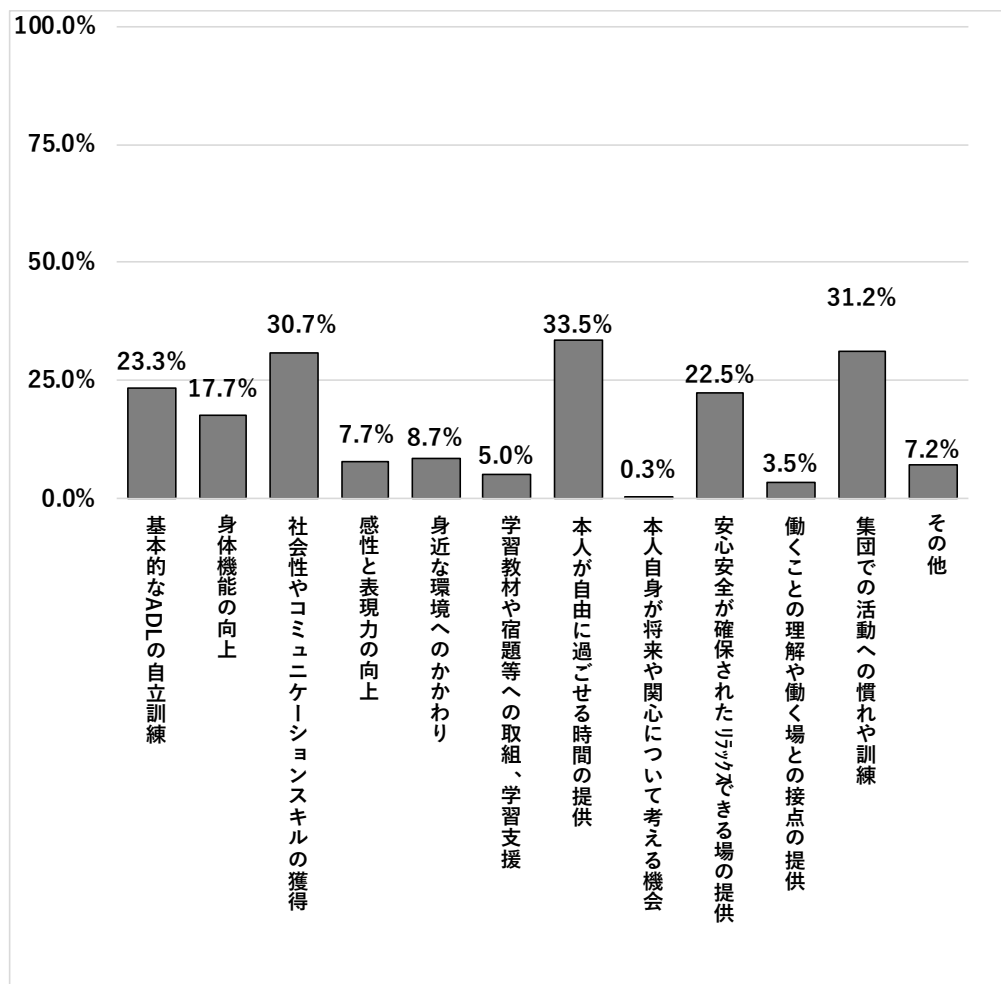




## ○活動目的

活動目的について確認すると、「本人が自由に過ごせる時間の提供」を目的とした活動に割く時間が最も多かった。次いで「集団の活動への慣れや訓練」、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」が続いた。

図表 116 放課後等デイサービス-B 活動目的

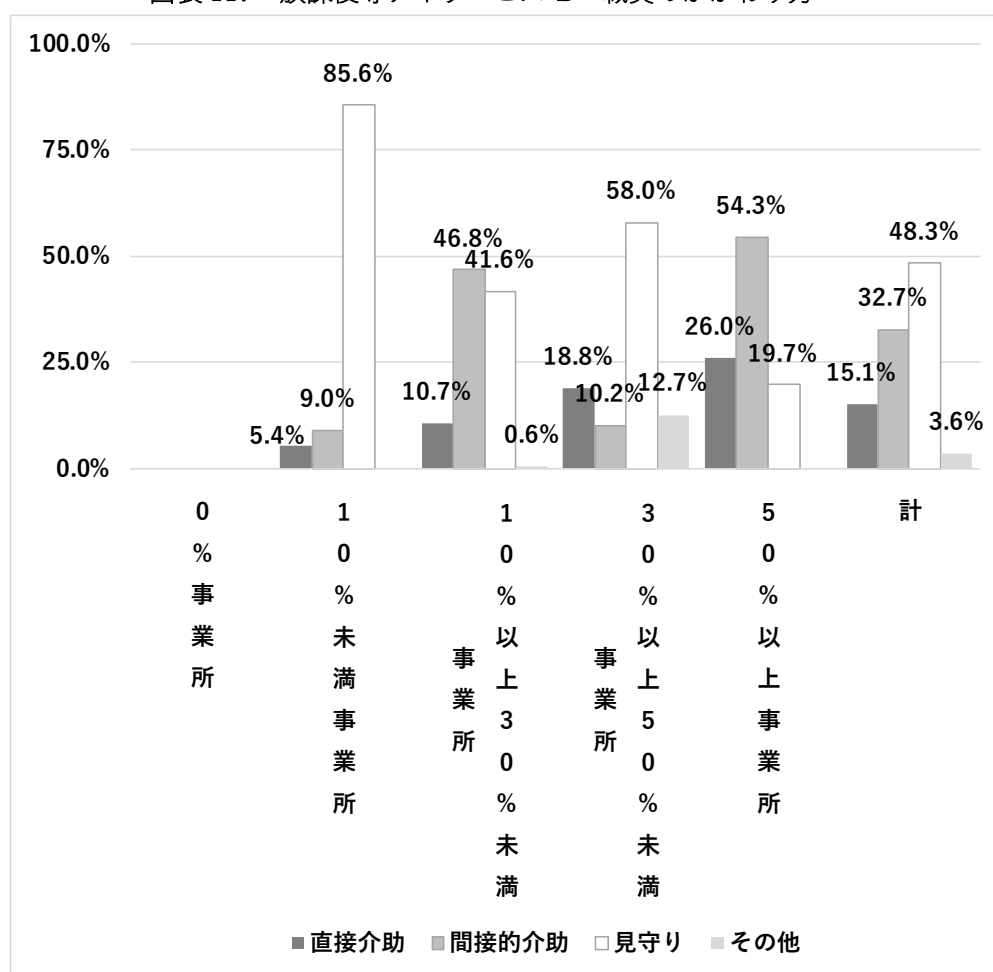


## ○職員のかかわり方

職員のかかわり方について、事業所の個別活動状況ごとに集計した結果は以下の通りである。ただし、個別活動実施割合が10%以上30%未満の事業所と30%以上50%未満の事業所以外は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

個別活動実施割合が10%以上30%未満の事業所の活動と30%以上50%未満の事業所の活動を比較してみると、10%以上30%未満の事業所の活動では、「間接的介助」に時間を割いている割合が大きいのに対し、30%以上50%未満の事業所の活動では、「見守り」に割く時間が大きいことがわかった。

図表 117 放課後等デイサービス-B 職員のかかわり方



## ○活動内容、目的の特徴

1日の活動全体に占めるそれぞれの活動内容及びそれぞれの活動目的ごとに割いた時間の割合を算出した結果は次の通りである。ただし、個別活動実施割合が0%の事業所と50%以上事業所以外は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

活動内容についてみると、割いている時間に20ポイント以上差がある項目はなかった。

次に活動目的についてみると、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」、個別活動実施割合が10%以上30%未満の事業所の活動の方が30%以上50%未満の事業所の活動と比べて割く時間の割合が多かった。一方、「本人が自由に過ごせる時間の提供」について、30%以上50%未満の事業所の活動の方が10%以上30%未満の事業所の活動と比べて割く時間の割合が多かった。

図表 118 放課後等デイサービス-B 個別活動の実施状況と活動内容の特徴

個別活動実施割合	人数	社会性やコミュニケーションスキルの獲得	本人が自由に過ごせる時間の提供
0%事業所	0		
0%超 10%未満事業所	8	46.0%	31.3%
10%以上 30%未満事業所	16	37.8%	21.2%
30%以上 50%未満事業所	13	11.5%	49.2%
50%以上事業所	8	31.3%	37.6%

# ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 119 放課後等デイサービス-B 活動内容の典型例

9:00~9:30	
9:30~10:00	
10:00~10:30	登降園準備等/自由遊び
10:30~11:00	自由遊び
11:00~11:30	自由遊び
11:30~12:00	自由遊び
12:00~12:30	自由遊び
12:30~13:00	食事・おやつ
13:00~13:30	食事・おやつ
13:30~14:00	自由遊び
14:00~14:30	自由遊び
14:30~15:00	自由遊び
15:00~15:30	自由遊び/軽作業・活動
15:30~16:00	軽作業・活動
16:00~16:30	軽作業・活動
16:30~17:00	軽作業・活動/登降園準備等
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	

## タ. 放課後等デイサービス-C (7 歳~12 歳 土日短時間利用)

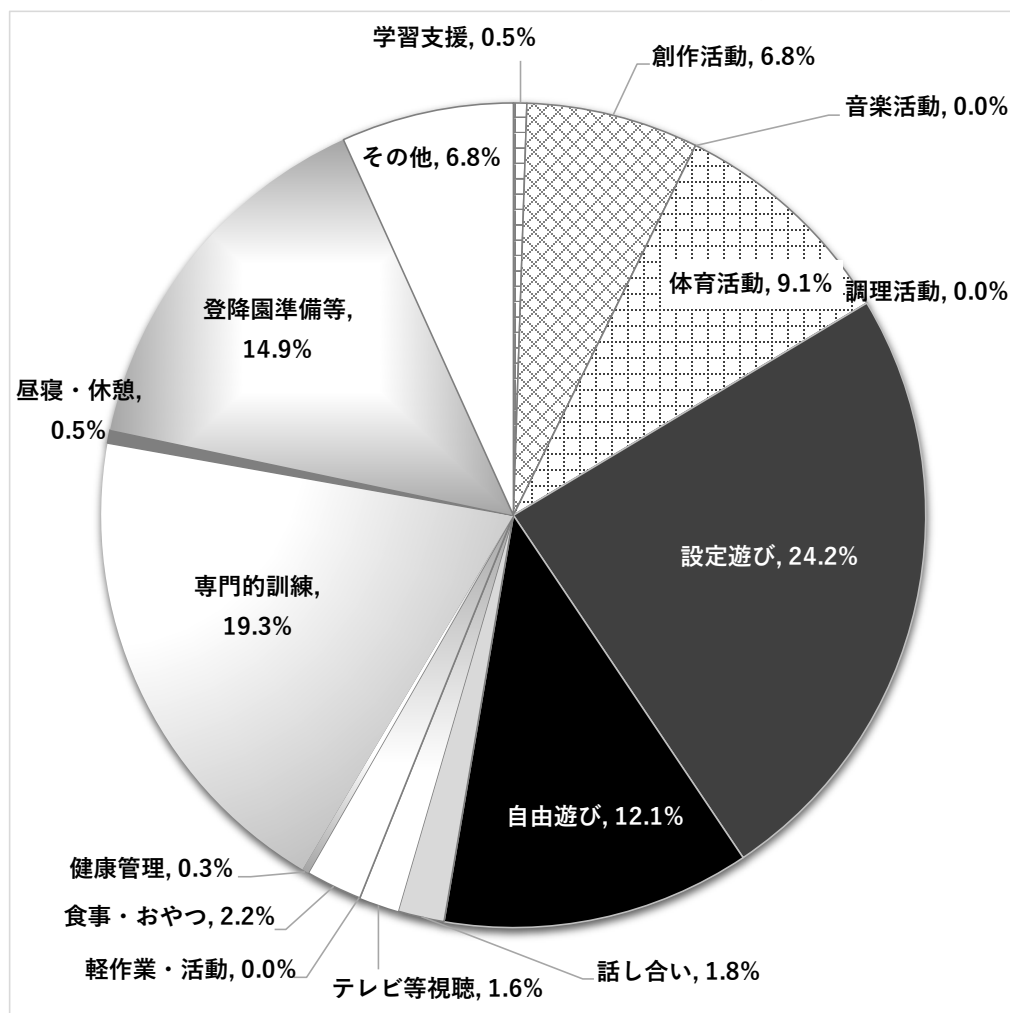
放課後等デイサービスを利用している利用者のうち、7 歳~12 歳の年齢層で、土日短時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

対象ケース数 35 人  
1 日あたり平均利用時間 1.8 時間

### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「設定遊び」の利用が最も多く、次いで「専門的訓練」の時間が多い。続いて、「登降園準備等」、「自由遊び」との結果であった。

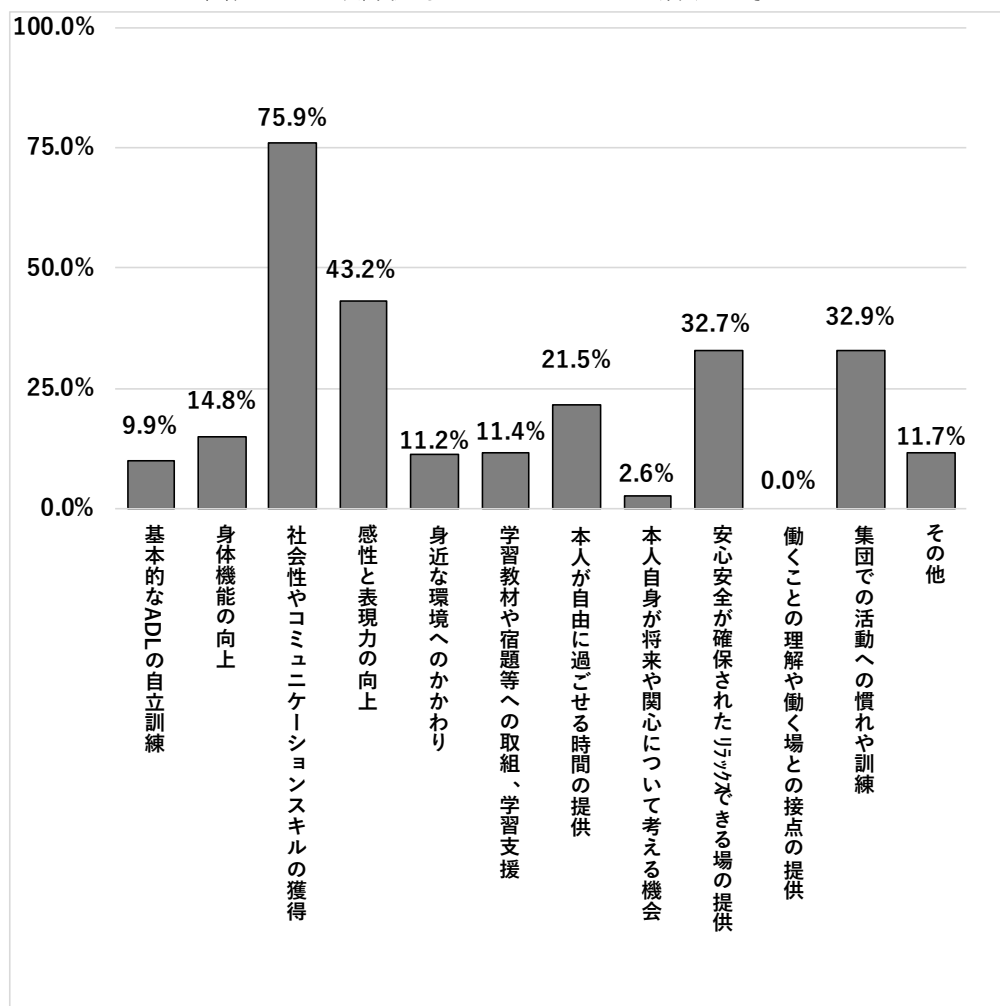
図表 120 放課後等デイサービス-C の活動内容



## ○活動目的

活動目的について確認すると、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」を目的とした活動に割く時間が最も多かった。次いで、「感性と表現力の向上」、「集団の活動への慣れや訓練」、「安心安全が確保されたリラックスできる場の提供」が続いた。

図表 121 放課後等デイサービス-C 活動目的

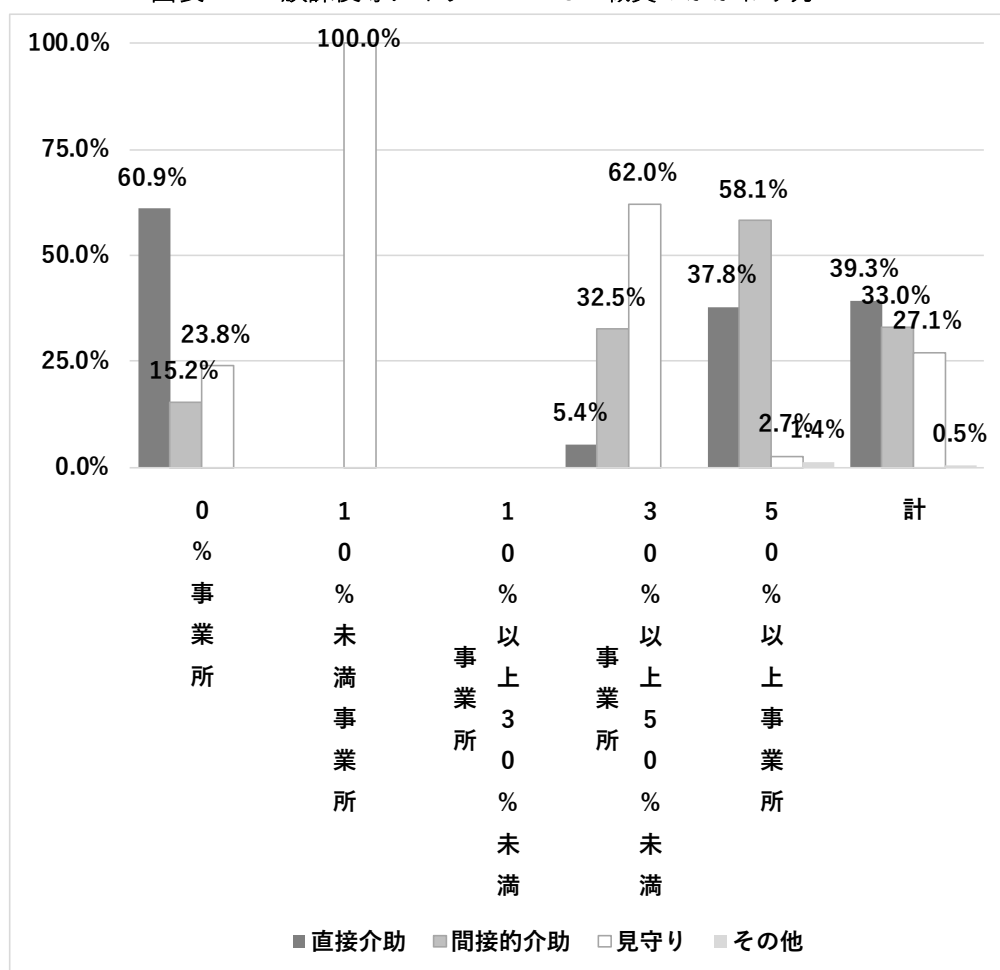


## ○職員のかかわり方

職員のかかわり方について、事業所の個別活動状況ごとに集計した結果は以下の通りである。ただし、個別活動実施割合が0%の事業所と50%以上事業所以外は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

個別活動実施割合が0%の事業所の活動と50%以上事業所の活動を比較してみると、0%の事業所の活動では、「直接介助」に時間を割いている割合が大きいのに対し、50%以上の事業所の活動では、「間接的介助」に割く時間が大きいことがわかった。

図表 122 放課後等デイサービス-C 職員のかかわり方



### ○活動内容、目的の特徴

1日の活動全体に占めるそれぞれの活動内容及びそれぞれの活動目的ごとに割いた時間の割合を算出した結果は次の通りである。ただし、個別活動実施割合が0%の事業所と50%以上事業所以外は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

活動内容についてみると、「設定遊び」、「自由遊び」について、個別活動実施割合が0%の事業所の活動の方が、50%以上の事業所の活動と比べて割く時間の割合が多かった。一方、「専門的訓練」について、個別活動実施割合が50%以上の事業所の活動の方が0%の事業所の活動と比べて割く時間の割合が多かった。

次に活動目的について確認すると、割いている時間に20ポイント以上差がある項目はなかった。

図表 123 放課後等デイサービス-C 個別活動の実施状況と活動内容、目的の特徴

個別活動実施割合	人数	設定遊び	自由遊び	専門的訓練
0%事業所	10	51.0%	21.2%	0.0%
0%超 10%未満事業所	1	0.0%	31.7%	0.0%
10%以上 30%未満事業所	0			
30%以上 50%未満事業所	3	8.1%	9.0%	0.0%
50%以上事業所	21	7.8%	0.0%	50.0%



## ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 124 放課後等デイサービスーC 活動内容の典型例 <sup>26</sup>

9:00~9:30	
9:30~10:00	
10:00~10:30	登降園準備等/設定遊び
10:30~11:00	設定遊び
11:00~11:30	設定遊び/専門的訓練
11:30~12:00	専門的訓練/登降園準備等
12:00~12:30	
12:30~13:00	
13:00~13:30	
13:30~14:00	
14:00~14:30	
14:30~15:00	
15:00~15:30	
15:30~16:00	
16:00~16:30	
16:30~17:00	
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	

<sup>26</sup> 開始時刻は 10:00 前後の場合と、14:00 時前後の場合とがあった。ここでは頻度が多かった 10:00 前後開始を典型例と記載した。

## チ. 放課後等デイサービス-D (13 歳～ 土日短時間利用)

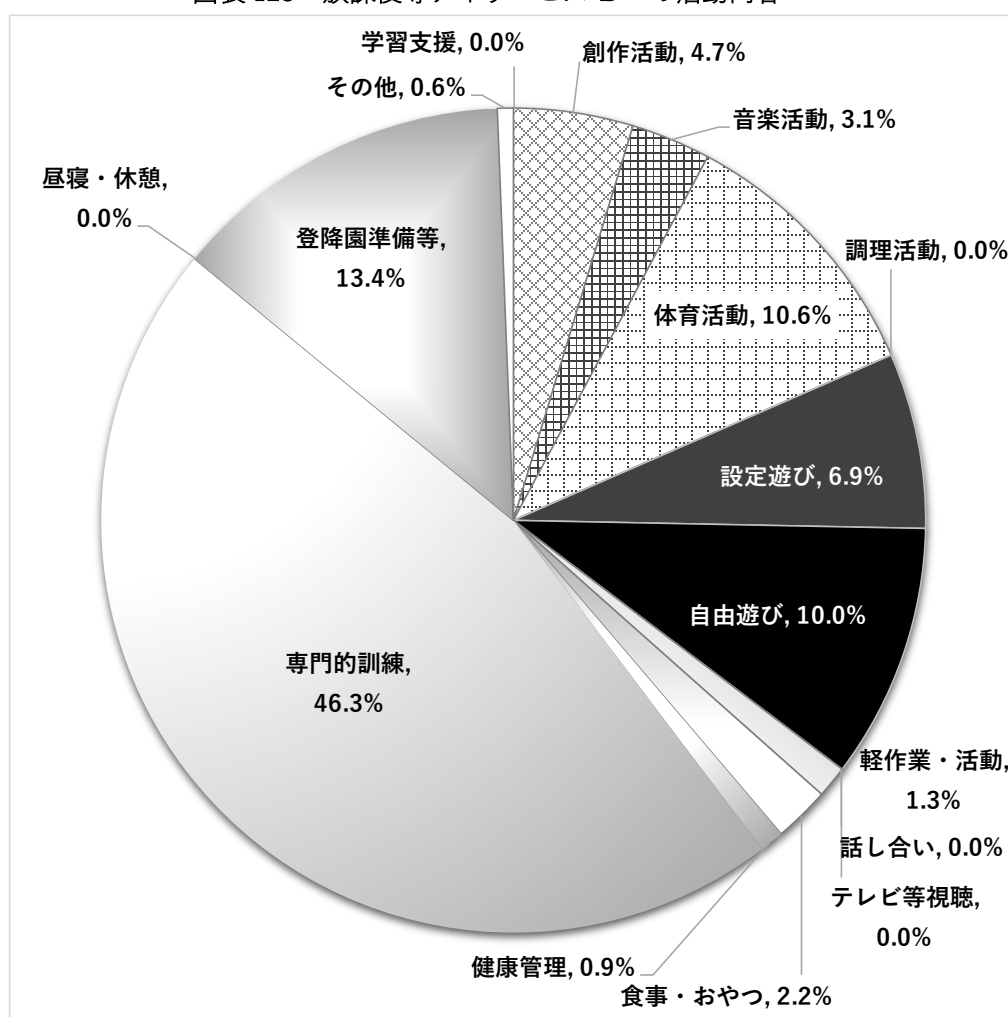
放課後等デイサービスを利用している利用者のうち、13 歳～の年齢層で、土日短時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

対象ケース数 19 人  
1 日あたり平均利用時間 1.4 時間

### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「専門的訓練」の利用が最も多く、次いで「登降園準備等」の時間が多い。続いて、「体育活動」、「自由遊び」との結果であった。

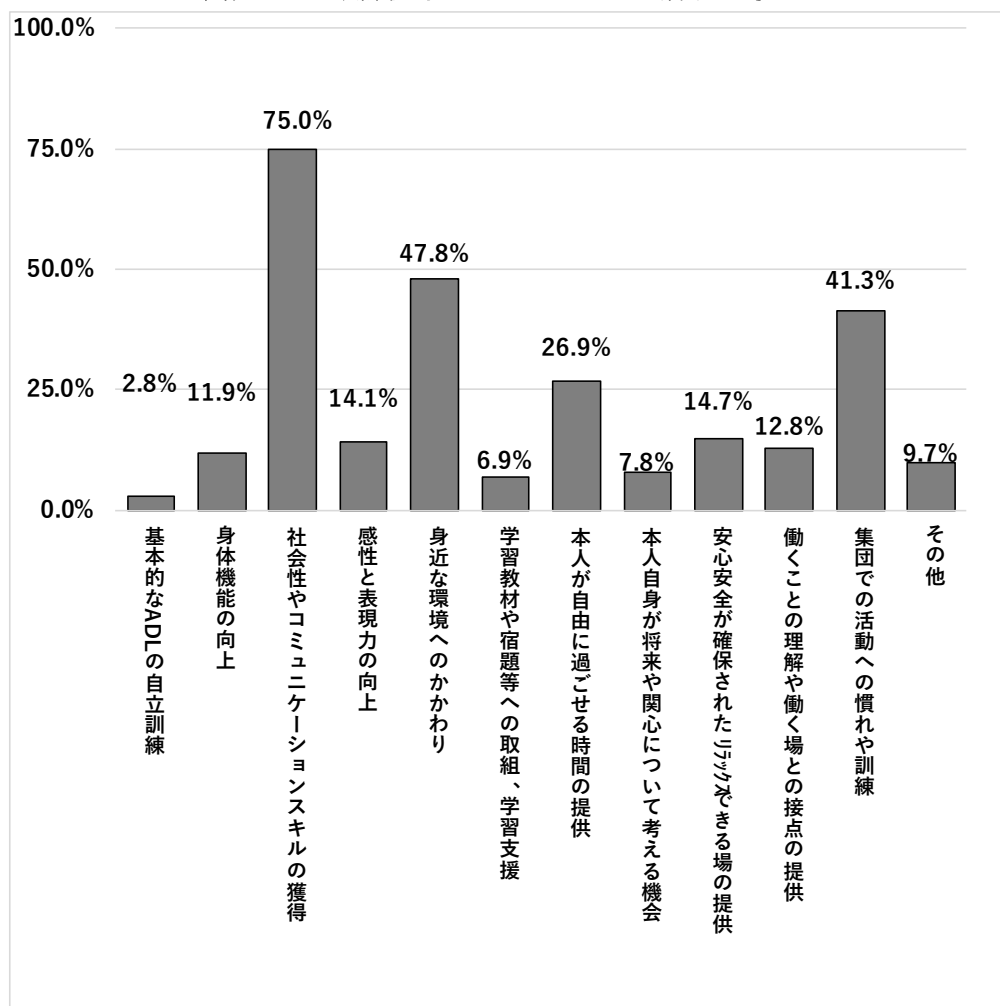
図表 125 放課後等デイサービス-D の活動内容



## ○活動目的

活動目的について確認すると、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」を目的とした活動に割く時間が最も多かった。次いで「身近な環境へのかかわり」、「集団の活動への慣れや訓練」、「本人が自由に過ごせる時間の提供」が続いた。

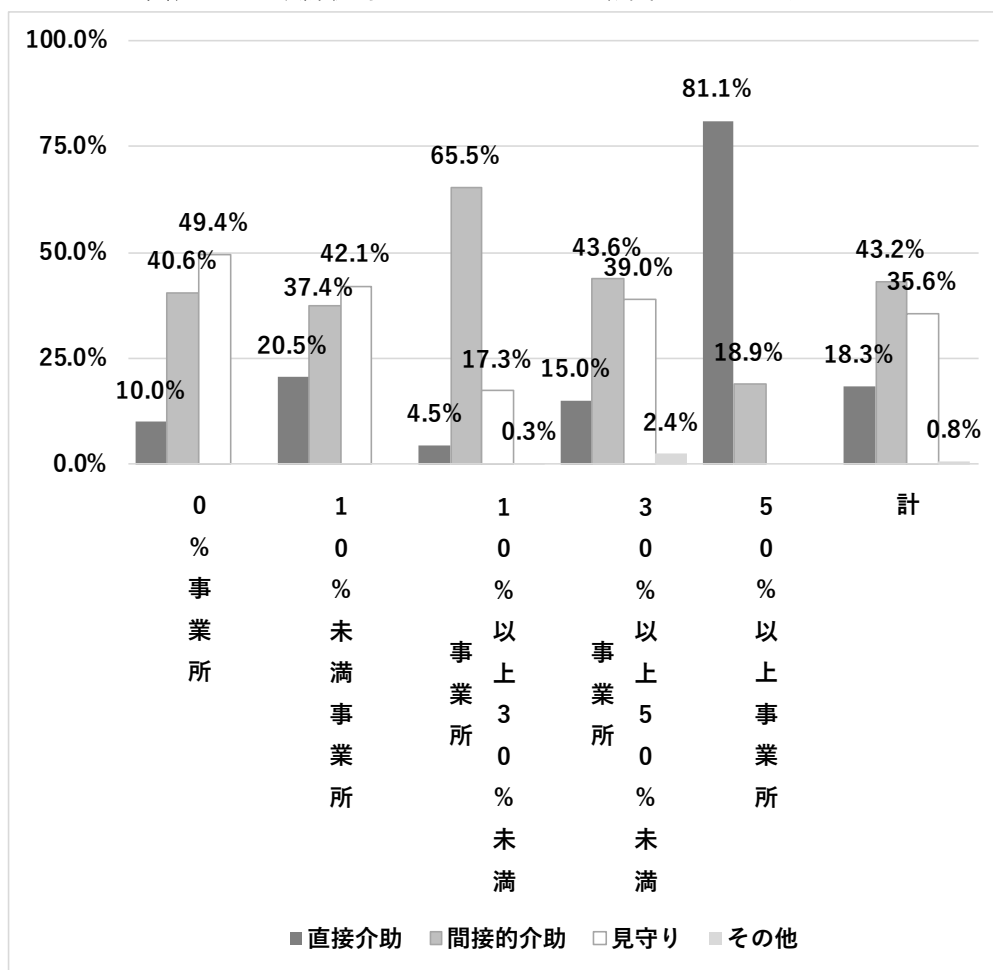
図表 126 放課後等デイサービス-D 活動目的



## ○職員のかかわり方

職員のかかわり方について、事業所の個別活動状況ごとに集計した結果は以下の通りである。ただし、個別活動実施割合が50%以上の事業所の枠組み以外は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

図表 127 放課後等デイサービス-D 職員のかかわり方



### ○活動内容、目的の特徴

1日の活動全体に占めるそれぞれの活動内容及びそれぞれの活動目的ごとに割いた時間の割合を算出したが、個別活動実施割合が50%以上の事業所以外は対象となるケースが10人以下であった。

### ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 128 放課後等デイサービス-D 活動内容の典型例<sup>27</sup>

9:00~9:30	
9:30~10:00	
10:00~10:30	
10:30~11:00	
11:00~11:30	
11:30~12:00	
12:00~12:30	
12:30~13:00	
13:00~13:30	
13:30~14:00	
14:00~14:30	登降園準備等/専門的訓練
14:30~15:00	専門的訓練
15:00~15:30	専門的訓練
15:30~16:00	専門的訓練/登降園準備等
16:00~16:30	
16:30~17:00	
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	

<sup>27</sup> 13:00 前後開始時刻の場合、10:00 前後開始の場合もあったものの、典型例は頻度が多かった14:00 開始として記載した。

### ツ. 放課後等デイサービス-F（7歳～12歳平日短時間利用）

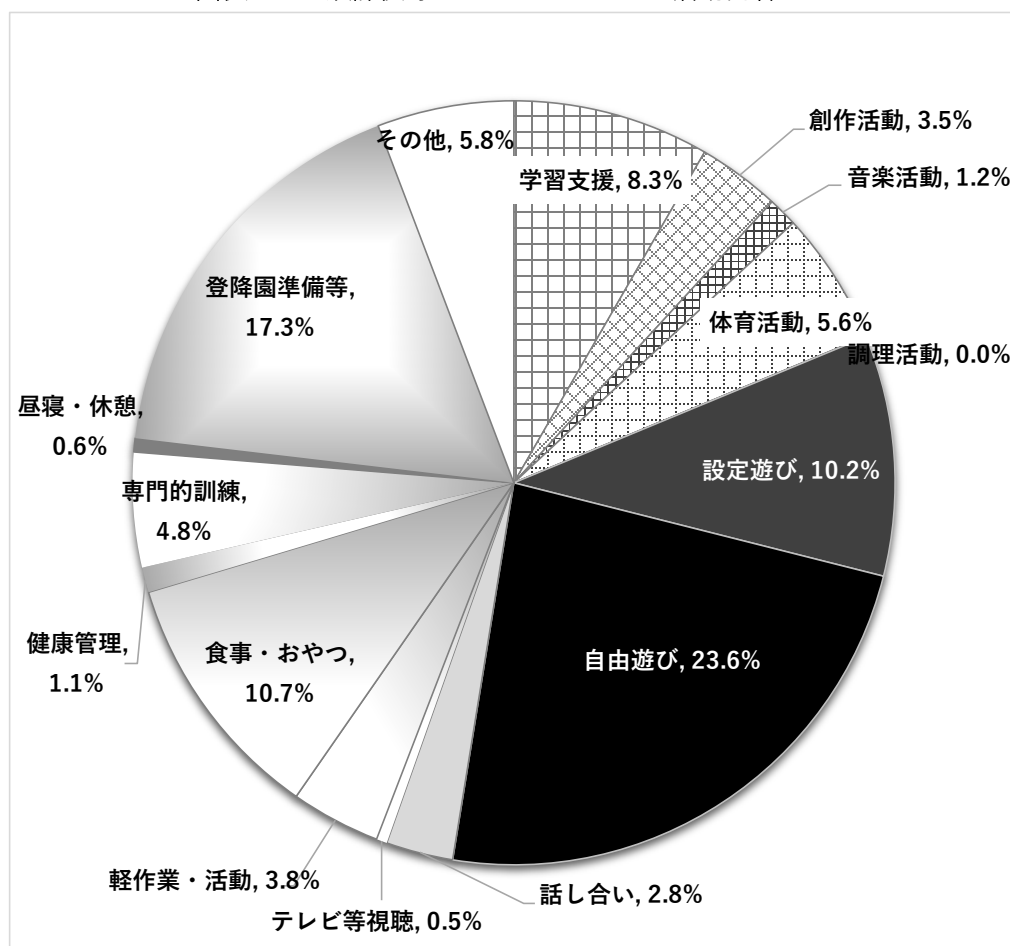
放課後等デイサービスを利用している利用者のうち、7歳～12歳の年齢層で、平日短時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

対象ケース数 519人  
1日あたり平均利用時間 1.9時間

#### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「自由遊び」の利用が最も多く、次いで「登降園準備等」の時間が多い。続いて、「食事・おやつ」「設定遊び」との結果であった。

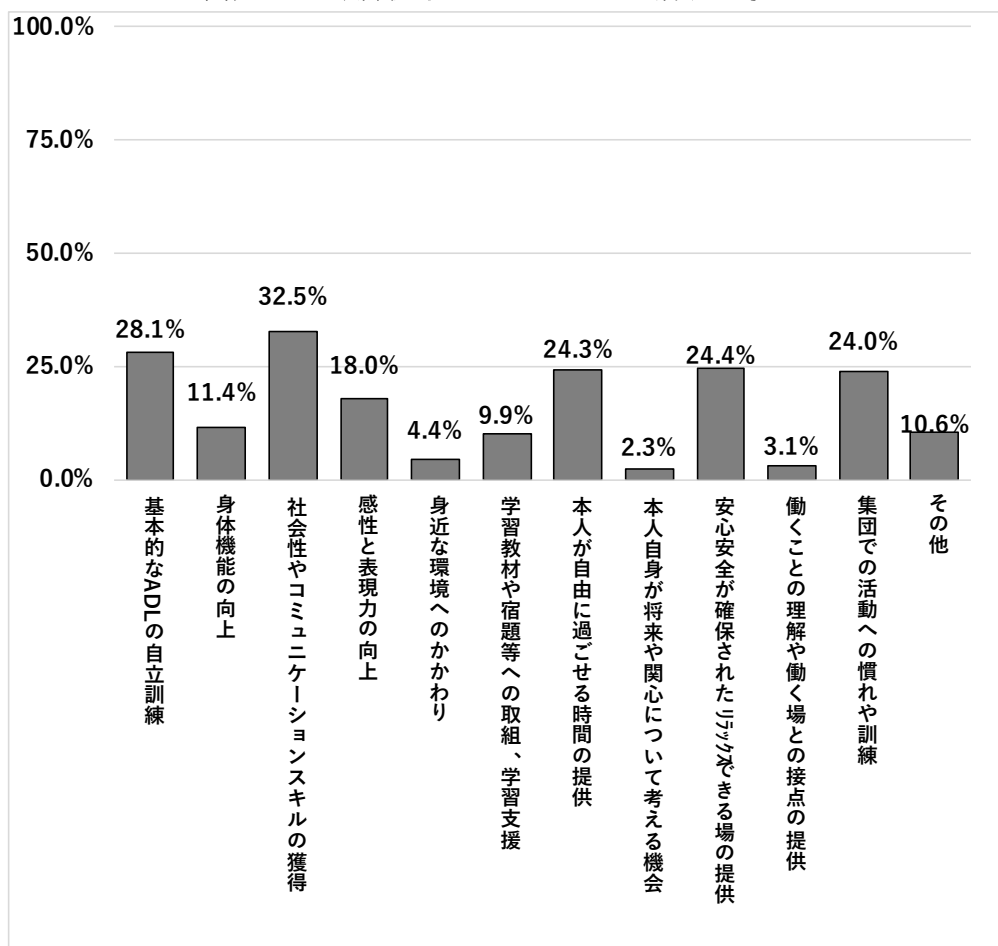
図表 129 放課後等デイサービス-F の活動内容



## ○活動目的

活動目的について確認すると、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」を目的とした活動に割く時間が最も多かった。次いで「基本的な ADL の自立訓練」が続いた。

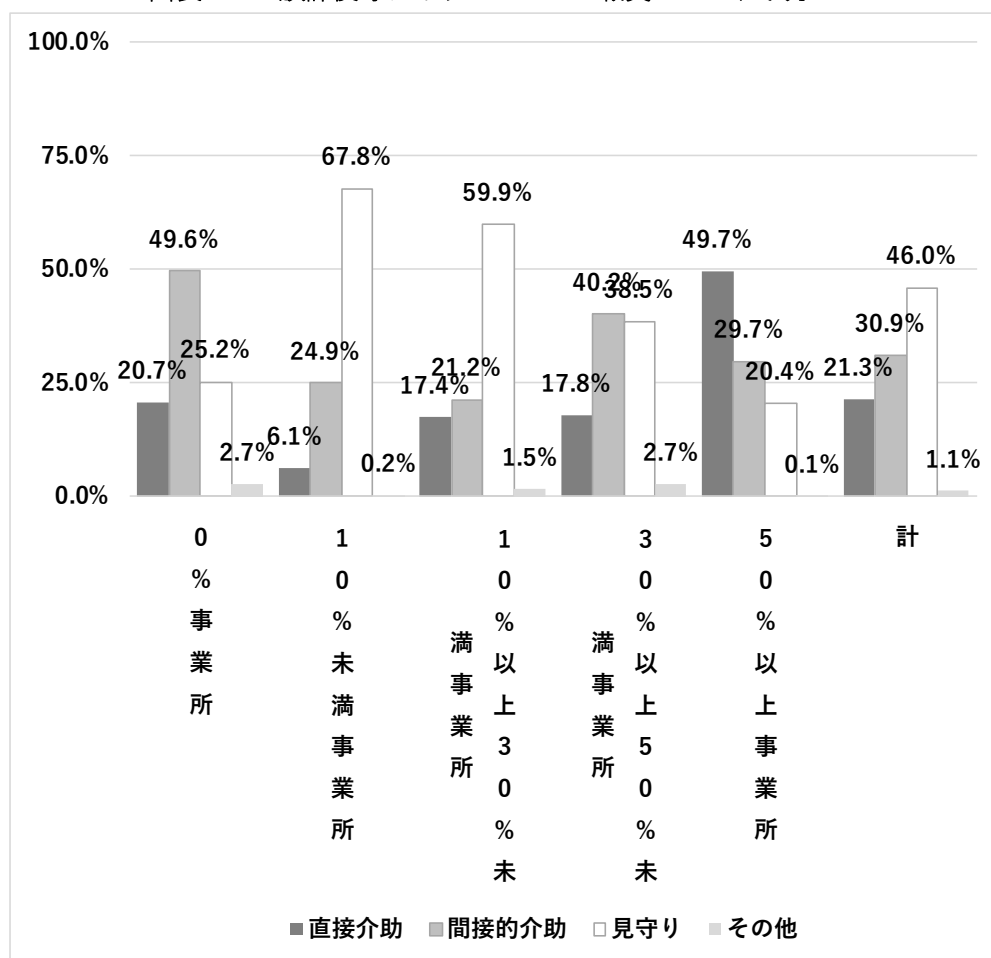
図表 130 放課後等デイサービス-F 活動目的



## ○職員のかかわり方

職員のかかわり方についてみると、個別活動実施割合が小さい事業所の活動の方が、「見守り」に時間を割いている割合が大きいことがわかった。これとは逆に個別活動実施割合が大きい事業所の活動の方が、「直接介助」に時間を割いている割合が大きい。ただし、個別活動実施割合が0%の事業所はこの傾向とは違う値を示している。

図表 131 放課後等デイサービス-F 職員のかかわり方





## ○活動内容、目的の特徴

1日の活動全体に占めるそれぞれの活動内容及びそれぞれの活動目的ごとに割いた時間の割合を算出した結果は次の通りである。

活動内容についてみると、「自由遊び」について、個別活動実施割合が0%超10%未満の事業所の活動について、他の事業所の活動と比べて割く時間の割合が最も多かった。続いて、個別活動実施割合が大きくなるほど、「自由遊び」に割く時間の割合は少なくなっている。また、20ポイントの差までは見いだせなかったものの、「設定遊び」については、個別活動実施割合が大きくなるほど、割く時間の割合が大きくなっている。この他、「専門的訓練」については50%以上事業所の活動について、他の個別活動実施割合の事業所の活動と比べ、割いている時間の割合が大きい。

次に活動目的について確認すると、割いている時間に20ポイント以上差がある項目は「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」であった。ただし、個別活動実施割合の多寡による傾向は見いだせなかった。

図表 132 放課後等デイサービス-F 個別活動の実施状況と活動内容の特徴

個別活動実施割合	人数	自由遊び	設定遊び	専門的訓練
0%事業所	66	14.9%	2.2%	11.9%
0%超 10%未満事業所	122	32.4%	7.4%	0.4%
10%以上 30%未満事業所	62	29.8%	9.1%	2.5%
30%以上 50%未満事業所	89	20.3%	10.9%	0.5%
50%以上事業所	179	13.2%	17.0%	14.9%

個別活動実施割合	人数	社会性やコミュニケーションスキルの獲得
0%事業所	66	63.1%
0%超 10%未満事業所	122	37.1%
10%以上 30%未満事業所	62	46.0%
30%以上 50%未満事業所	89	35.6%
50%以上事業所	179	52.4%

## ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 133 放課後等デイサービス-F 活動内容の典型例

9:00~9:30	
9:30~10:00	
10:00~10:30	
10:30~11:00	
11:00~11:30	
11:30~12:00	
12:00~12:30	
12:30~13:00	
13:00~13:30	
13:30~14:00	
14:00~14:30	
14:30~15:00	
15:00~15:30	登降園準備等/学習支援
15:30~16:00	自由遊び
16:00~16:30	自由遊び
16:30~17:00	設定遊び/登降園準備等
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	

## テ. 放課後等デイサービス-G (13 歳～ 平日短時間利用)

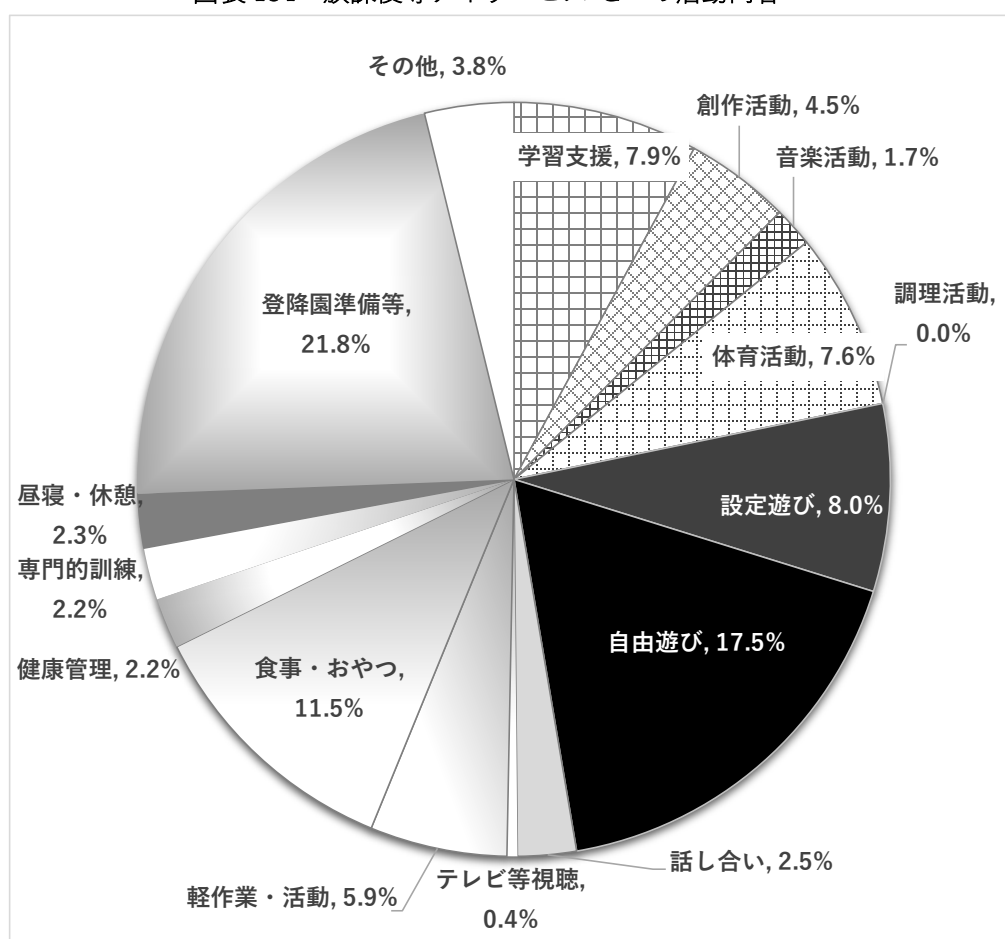
放課後等デイサービスを利用している利用者のうち、13 歳～の年齢層で、平日短時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

対象ケース数 187 人  
1 日あたり平均利用時間 1.8 時間

### ○活動内容

活動内容の構成比をみると、「登降園準備等」の利用が最も多く、次いで「自由遊び」の時間が多い。続いて、「食事・おやつ」との結果であった。

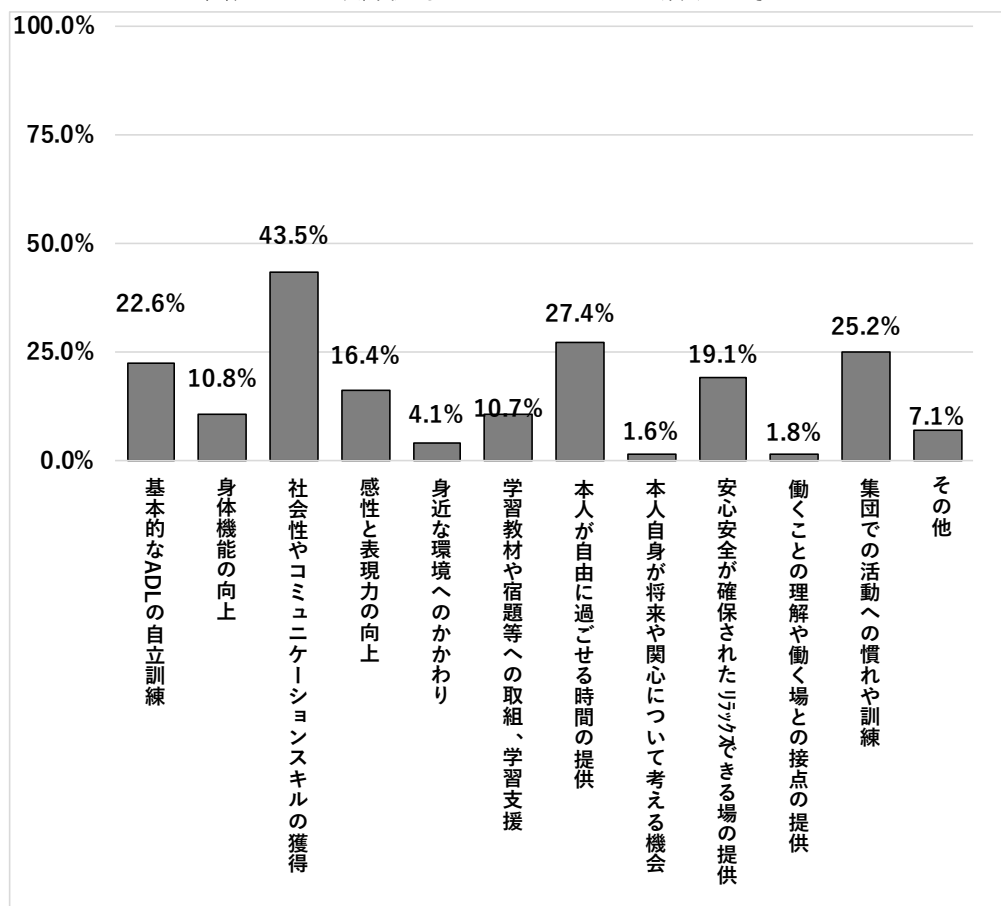
図表 134 放課後等デイサービス-G の活動内容



## ○活動目的

活動目的について確認すると、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」を目的とした活動に割く時間が最も多かった。次いで「本人が自由に過ごせる時間の提供」、「集団の活動への慣れや訓練」が続いた。

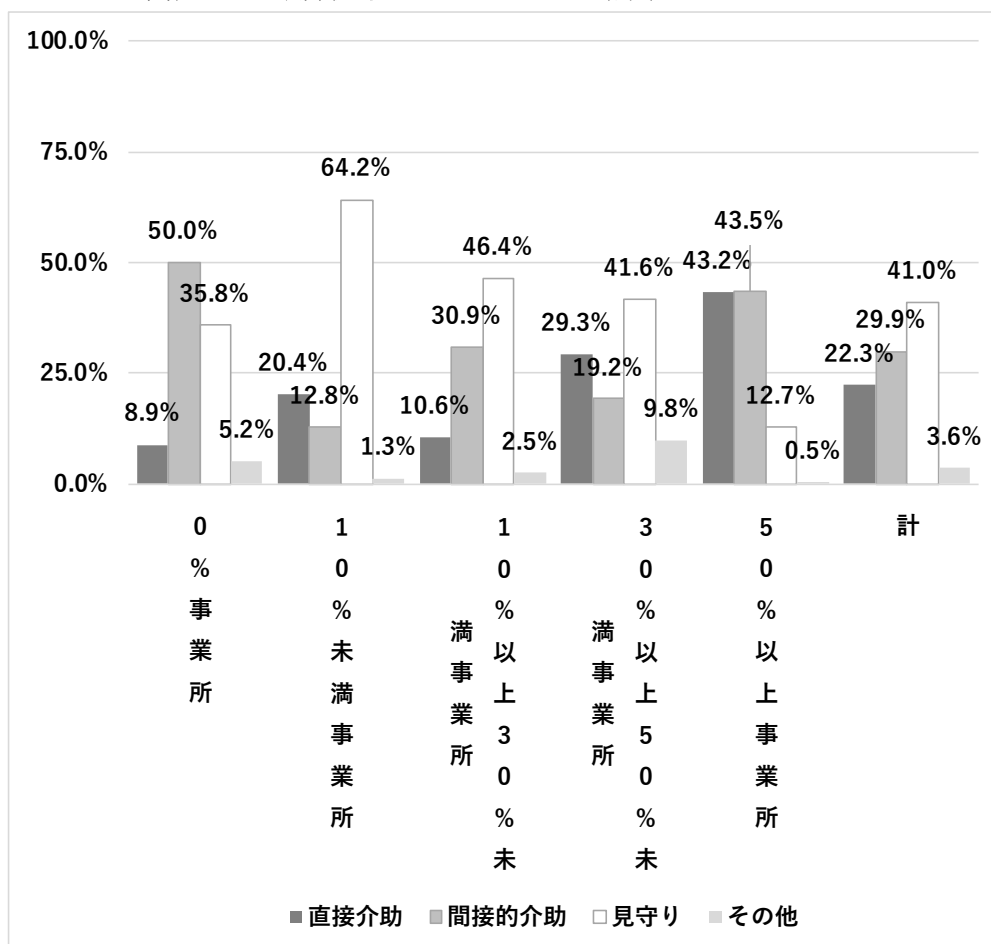
図表 135 放課後等デイサービス-G 活動目的



## ○職員のかかわり方

職員のかかわり方についてみると、個別活動実施割合が小さい事業所の活動の方が、「見守り」に時間を割いている割合が大きいことがわかった。これとは逆に個別活動実施割合が大きい事業所の活動の方が、「直接介助」に時間を割いている割合が大きい。

図表 136 放課後等デイサービス-G 職員のかかわり方



### ○活動内容、目的の特徴

1日の活動全体に占めるそれぞれの活動内容及びそれぞれの活動目的ごとに割いた時間の割合を算出した結果は次の通りである。

活動内容についてみると、「学習支援」について、個別活動実施割合が0%の事業所の活動において、実施割合が大きかった。また、20ポイントの差は見いだせなかったものの、「創作活動」、「体育活動」においても、事業所の個別活動状況による特徴が見いだせた。また、「自由遊び」については、0%の事業所では割く時間の割合が低いものの、0%超10%未満の事業所の活動に割く時間の割合が、個別活動実施割合が大きくなるほど小さくなっている。

次に活動目的について確認すると、「学習教材や宿題等への取組、学習支援」について、個別活動実施割合が0%の事業所の活動において、実施割合が大きかった。

「基本的なADLの自立訓練」については、個別活動実施割合が大きくなるほど割く時間の割合が大きくなる傾向が読み取れた。

図表 137 放課後等サービス-G 個別活動の実施状況と活動内容の特徴

個別活動実施割合	人数	学習支援	創作活動	体育活動
0%事業所	18	38.9%	0.3%	0.0%
0%超 10%未満事業所	40	4.1%	12.9%	1.7%
10%以上 30%未満事業所	50	2.3%	0.7%	18.3%
30%以上 50%未満事業所	41	3.6%	5.4%	4.0%
50%以上事業所	38	6.0%	3.8%	5.3%
個別活動実施割合	人数	自由遊び		
0%事業所	18	9.2%		
0%超 10%未満事業所	40	27.5%		
10%以上 30%未満事業所	50	21.0%		
30%以上 50%未満事業所	41	14.0%		
50%以上事業所	38	10.8%		

個別活動実施割合	人数	基本的な ADL の自立訓練	身体機能の向上	社会性やコミュニ ケーションスキル の獲得
0%事業所	18	9.1%	1.7%	32.0%
0%超 10%未満事業所	40	22.1%	1.7%	17.3%
10%以上 30%未満事業所	50	18.9%	25.1%	39.7%
30%以上 50%未満事業所	41	46.9%	1.6%	20.5%
50%以上事業所	38	41.3%	15.3%	48.4%
個別活動実施割合	人数	感性と表現力の 向上	学習教材や宿題等へ の取組、学習支援	本人が自由に過 せる時間の提供
0%事業所	18	0.0%	33.7%	18.5%
0%超 10%未満事業所	40	11.3%	7.1%	31.4%
10%以上 30%未満事業所	50	23.1%	8.7%	34.0%
30%以上 50%未満事業所	41	23.4%	1.6%	19.9%
50%以上事業所	38	22.7%	8.4%	10.4%
個別活動実施割合	人数	安心安全が確保 されたリラックスで きる場の提供	集団での活動への慣 れや訓練	
0%事業所	66	12.2%	12.6%	
0%超 10%未満事業所	122	18.7%	20.9%	
10%以上 30%未満事業所	62	31.5%	24.6%	
30%以上 50%未満事業所	89	37.8%	10.9%	
50%以上事業所	179	14.1%	45.3%	

# ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 138 放課後等デイサービスーG 活動内容の典型例

9:00~9:30	
9:30~10:00	
10:00~10:30	
10:30~11:00	
11:00~11:30	
11:30~12:00	
12:00~12:30	
12:30~13:00	
13:00~13:30	
13:30~14:00	
14:00~14:30	
14:30~15:00	
15:00~15:30	登降園準備等/学習支援
15:30~16:00	自由遊び
16:00~16:30	自由遊び
16:30~17:00	設定遊び/登降園準備等
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	



【参考】放課後等デイサービス-E（7 歳～12 歳 平日長時間利用）<sup>28</sup>

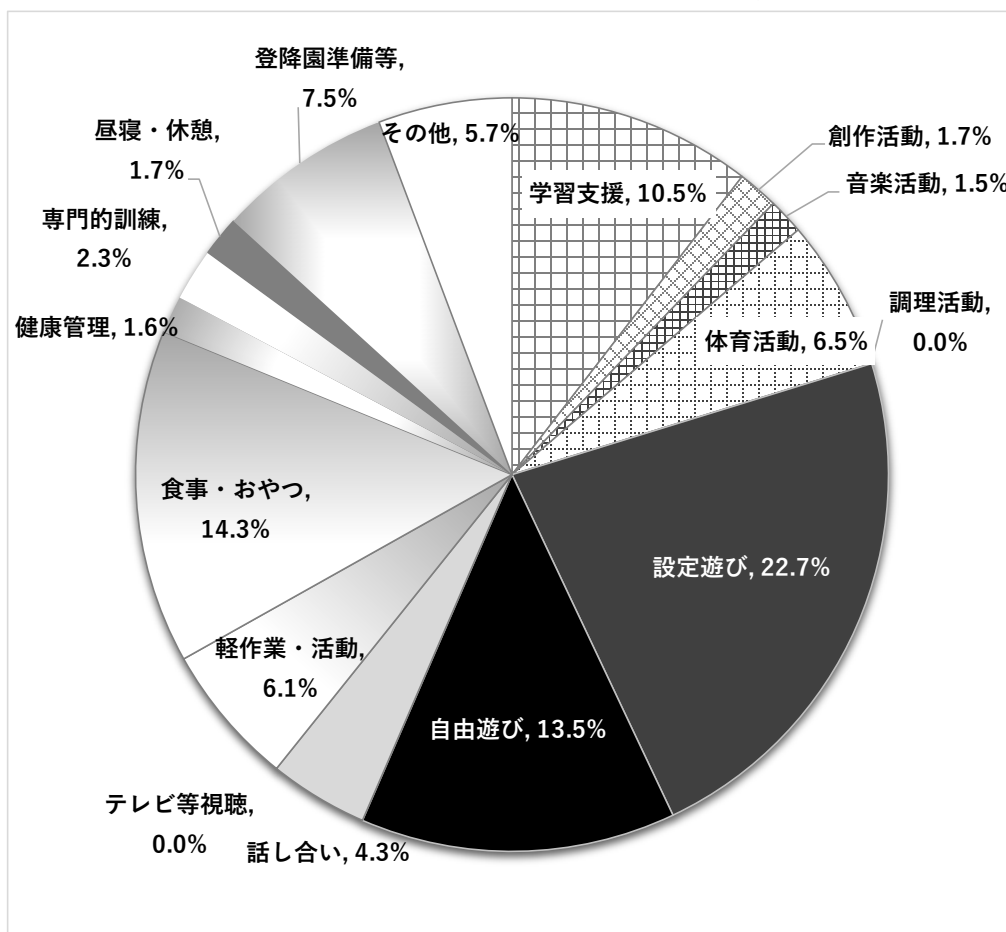
放課後等デイサービスを利用している利用者のうち、7 歳～12 歳の年齢層で、平日長時間利用をしているケースについて分析をした。なお、調査対象となったケースの人数及び平均利用時間は以下の通りである。

対象ケース数 33 人  
1 日あたり平均利用時間 5.7 時間

○活動内容

活動内容の構成比をみると、「設定遊び」の利用が最も多く、次いで「食事・おやつ」の時間が多い。続いて、「自由遊び」「学習支援」との結果であった。

図表 139 放課後等デイサービス-E の活動内容

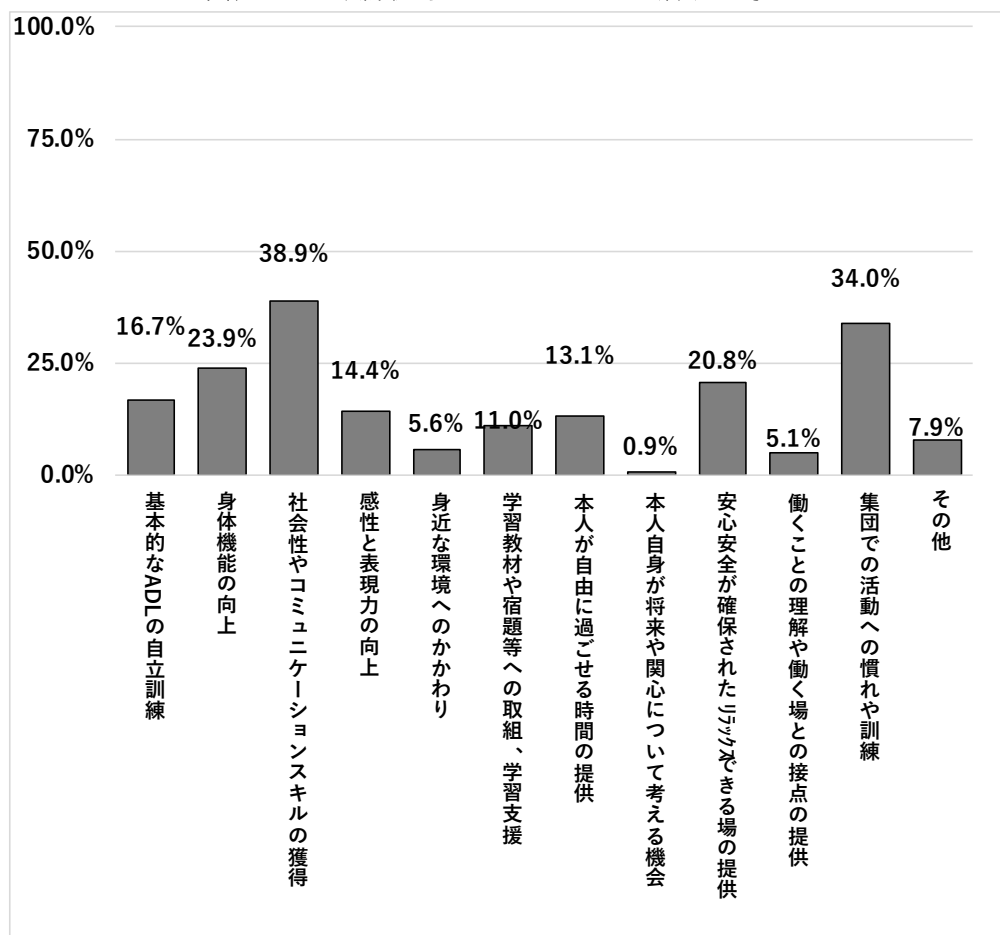


<sup>28</sup> （前述の脚注を再掲）今回の調査対象期間は 1 月 18 日（月）からであり、通常の平日の放課後等デイサービスの利用は午後からの利用が想定されるが、利用時刻が 9 時台とする回答が多かった。不登校児童等への対応が想定されるが、調査設計上そこまで確認できなかったため、参考例とした。

## ○活動目的

活動目的について確認すると、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」を目的とした活動に割く時間が最も多かった。次いで「集団の活動への慣れや訓練」が続いた。

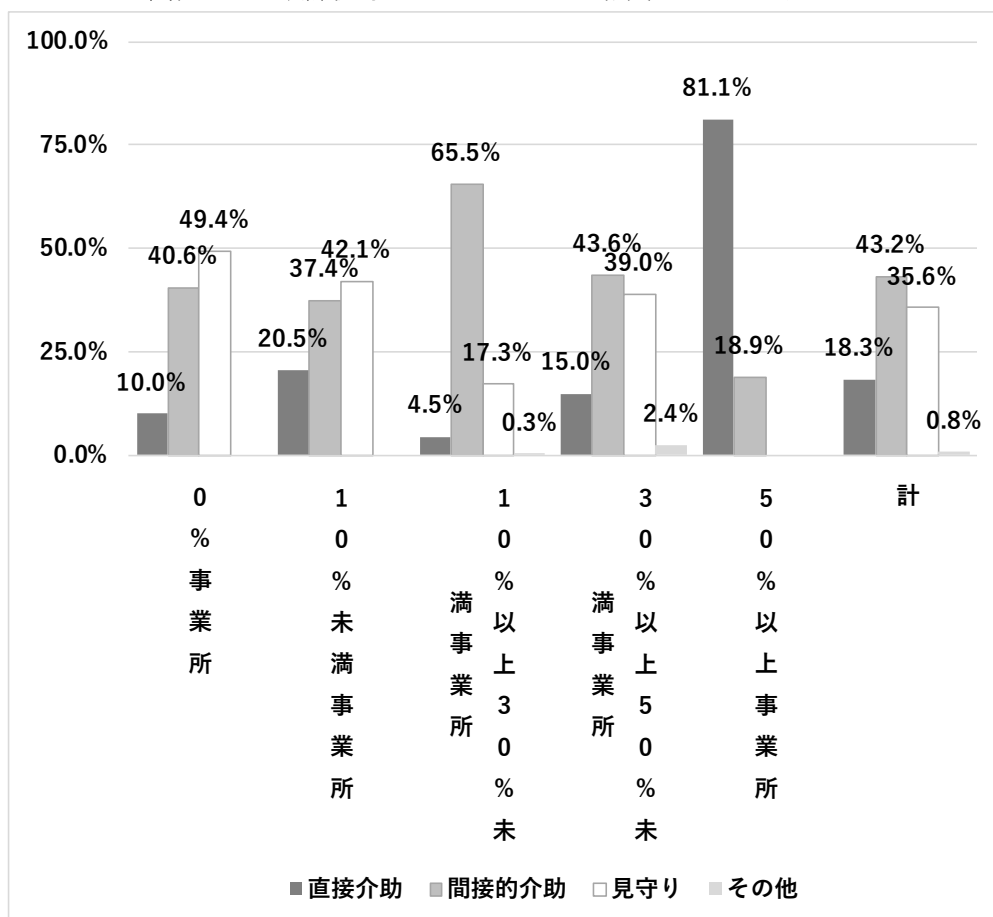
図表 140 放課後等デイサービス-E 活動目的



## ○職員のかかわり方

職員のかかわり方について、事業所の個別活動状況ごとに集計した結果は以下の通りである。ただし、個別活動実施割合が30%以上50%未満の事業所以外は対象となるケースが10人以下のため、留意が必要である。

図表 141 放課後等デイサービス-E 職員のかかわり方



## ○活動内容、目的の特徴

1日の活動全体に占めるそれぞれの活動内容及びそれぞれの活動目的ごとに割いた時間の割合を算出したが、個別活動実施割合が30%以上50%未満の事業所以外は対象となるケースが10人以下であった。

## ○典型例

以上の分析結果を踏まえ、本パターンの典型例を以下の通り整理した。

図表 142 放課後等デイサービス-E 活動内容の典型例

9:00~9:30	
9:30~10:00	登降園準備等/設定遊び
10:00~10:30	設定遊び
10:30~11:00	設定遊び
11:00~11:30	設定遊び
11:30~12:00	設定遊び/食事・おやつ
12:00~12:30	食事・おやつ
12:30~13:00	食事・おやつ/学習支援
13:00~13:30	学習支援
13:30~14:00	学習支援/自由遊び
14:00~14:30	自由遊び
14:30~15:00	自由遊び
15:00~15:30	自由遊び/登降園準備等
15:30~16:00	
16:00~16:30	
16:30~17:00	
17:00~17:30	
17:30~18:00	
18:00~18:30	
18:30~19:00	

#### (4) 保護者調査結果

本節では保護者調査票の回答結果をもとに、利用者の状態像及び支援の状況について記載する。なお、ケース調査票から紐づけて年齢層別に集計しており、年齢層ごとの利用サービスは以下の通りである。ケース票の集計結果と同様、法令等の利用条件にあるように、未就学の年齢層の利用者は児童発達支援事業所、児童発達支援センター、医療型児童発達支援を利用しており、就学児は放課後等デイサービスを利用して

図表 143 年齢層別子どもの利用サービス

	放課後等デイサービス	児童発達支援	児童発達支援センター	医療型児童発達支援	計
0 歳~3 歳 (n=278)	0.0%	44.6%	44.6%	10.8%	100.0%
4 歳~6 歳 (n=548)	2.6%	45.4%	42.0%	10.0%	100.0%
7 歳~9 歳 (n=153)	96.7%	1.3%	2.0%	0.0%	100.0%
10 歳~12 歳 (n=102)	96.1%	2.0%	2.0%	0.0%	100.0%
13 歳~ (n=91)	98.9%	0.0%	1.1%	0.0%	100.0%
無回答 (n=22)	63.6%	18.2%	18.2%	0.0%	100.0%
年齢層不明 <sup>29</sup> (n=301)	38.9%	29.9%	29.2%	2.0%	100.0%
計(n=1495)	32.2%	31.5%	30.2%	6.1%	100.0%

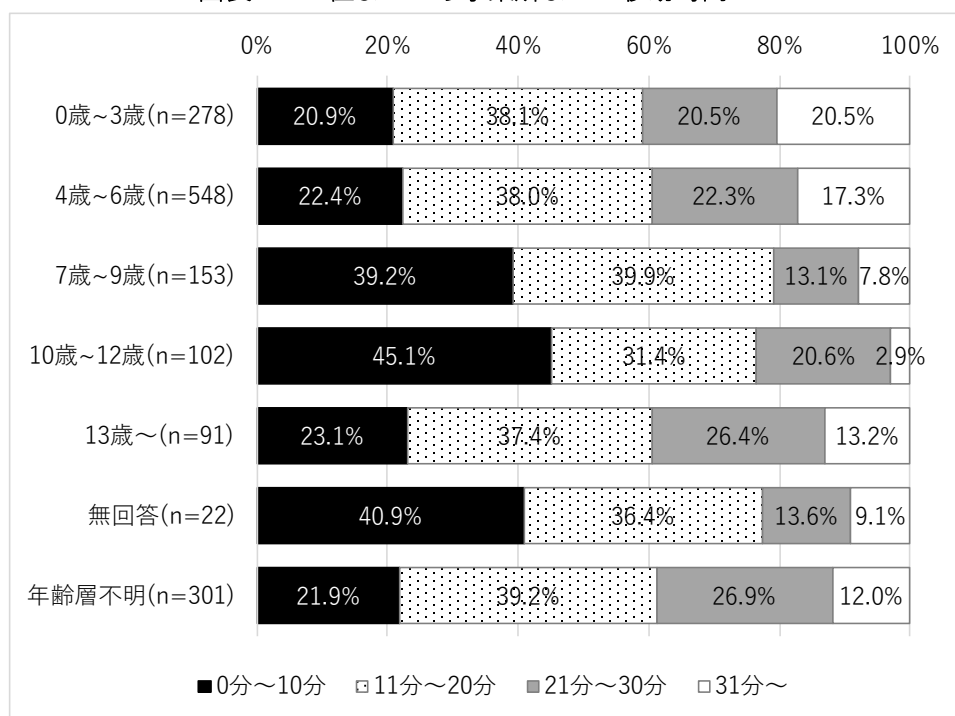
なお、調査票へは母親が 92.4%、父親が 7.4%が回答しており、特に年齢層による違いはなかった。

##### ①住居の状況

住まいから事業所までの距離はいずれの年齢層においても、30 分程度の移動時間で事業所まで移動することができるとの結果であった。特に、7 歳~9 歳、10 歳~12 歳において、40%前後が 10 分程度の移動時間であった。これらの年齢層では他の年齢層に比べて、移動時間が短い結果であった。

<sup>29</sup> ケース調査票のケース ID と保護者調査で回答した保護者 ID が合致しなかった場合は「年齢層不明」として集計した。

図表 144 住まいから事業所までの移動時間



## ②通院状況

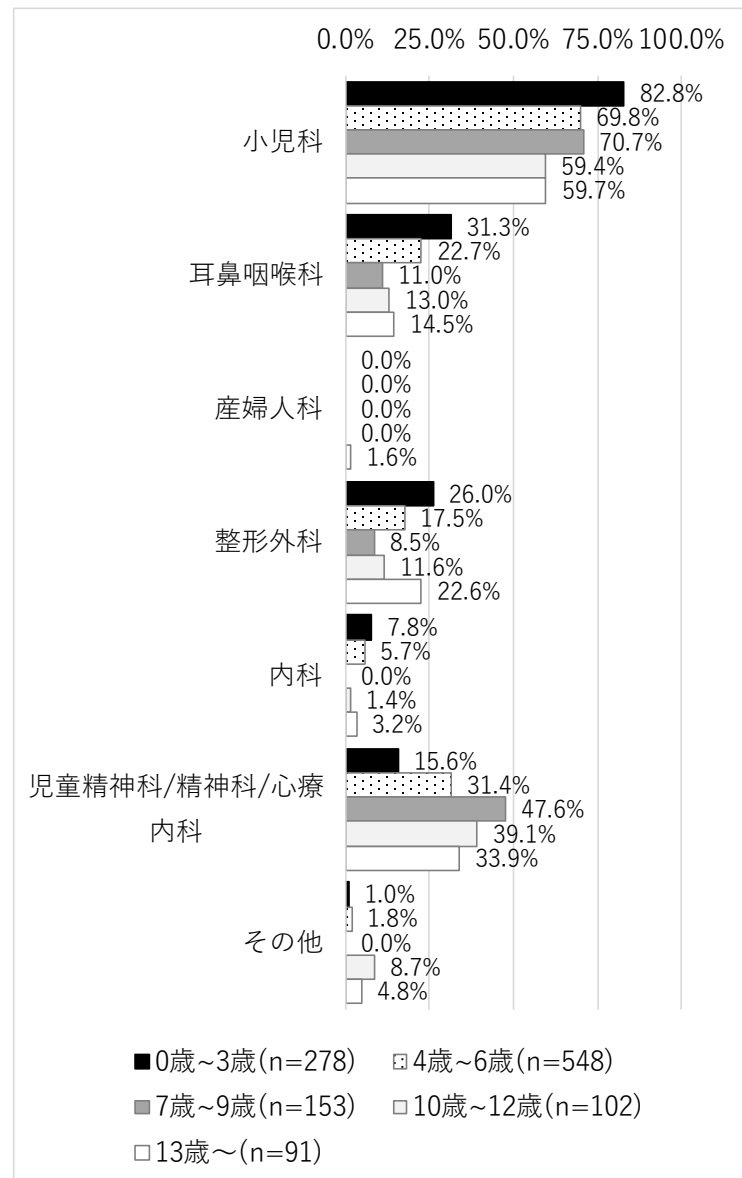
ほとんどの年齢層において 65%前後が通院しているとの回答であったが、7 歳～9 歳では通院している割合が 53.6%であり、他の年代に比べて少なかった。

通院していると回答した人に通院先の診療科について尋ねると、小児科、児童精神科/精神科/心療内科、耳鼻咽喉科、整形外科との回答が多かった。小児科については、0 歳～3 歳の 82.8%が通院しており、4 歳～6 歳、7 歳～9 歳の年齢層では 7 割前後、10 歳以上の年齢層では 6 割弱の利用となっており、年齢層が上がるにつれ通院している割合が減少している。児童精神科/精神科/心療内科への通院は、7 歳～9 歳の年齢層で最も多かった。

図表 145 通院状況

年齢階層	通院している	通院していない	合計
0 歳～3 歳(n=278)	69.1%	30.9%	100.0%
4 歳～6 歳(n=548)	60.4%	39.6%	100.0%
7 歳～9 歳(n=153)	53.6%	46.4%	100.0%
10 歳～12 歳(n=102)	67.6%	32.4%	100.0%
13 歳～(n=91)	68.1%	31.9%	100.0%
無回答(n=22)	72.7%	27.3%	100.0%
年齢層不明(n=301)	67.4%	32.6%	100.0%
計(n=1495)	63.9%	36.1%	100.0%

図表 146 通院先標榜科



### ③就労状況

次に同居家族の就労状況について尋ねた。特に就労しているとの回答が多かった母親と父親に着目して回答結果を分析した。

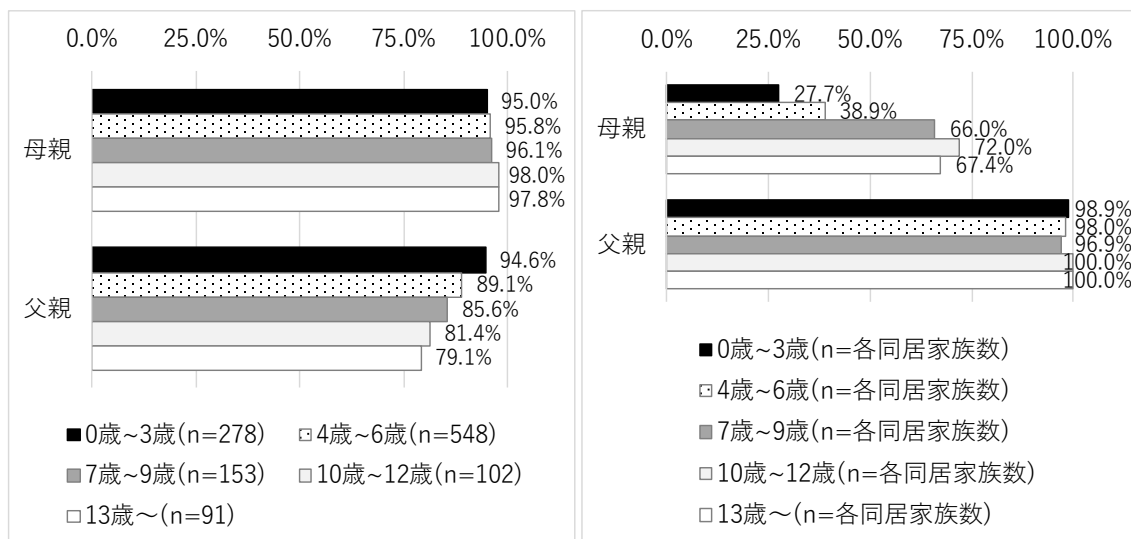
#### ア. 就労状況

まず、同居状況を見ると、母親については、ほぼ全員が同居しているとの回答であったが、父親については、年齢層が上がるにつれて、同居している割合は少なくなった。

就労状況をみると、母親では、0歳~3歳で27.7%、4歳~6歳で38.9%、7歳以

上で7割前後であり、母親の就労率も6割を超えている。一方、父親については、ほぼ全員が就労していた。

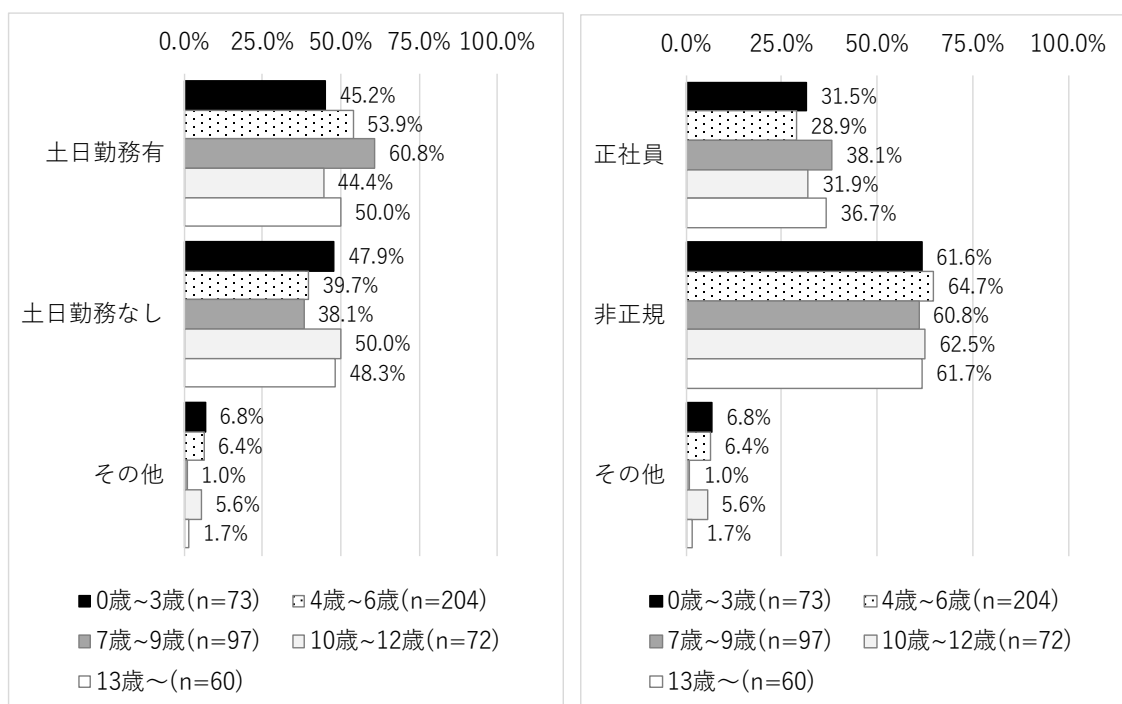
図表 147 子どもとの同居状況（左図）及び就労状況（右図）



## イ. 就労形態

母親の就労形態を見ると、土日勤務有と土日勤務なしとする回答は概ね同程度であった。また、非正規での勤務が概ね6割程度であり、正社員での勤務と比べ多かった。

図表 148 母親の就労形態

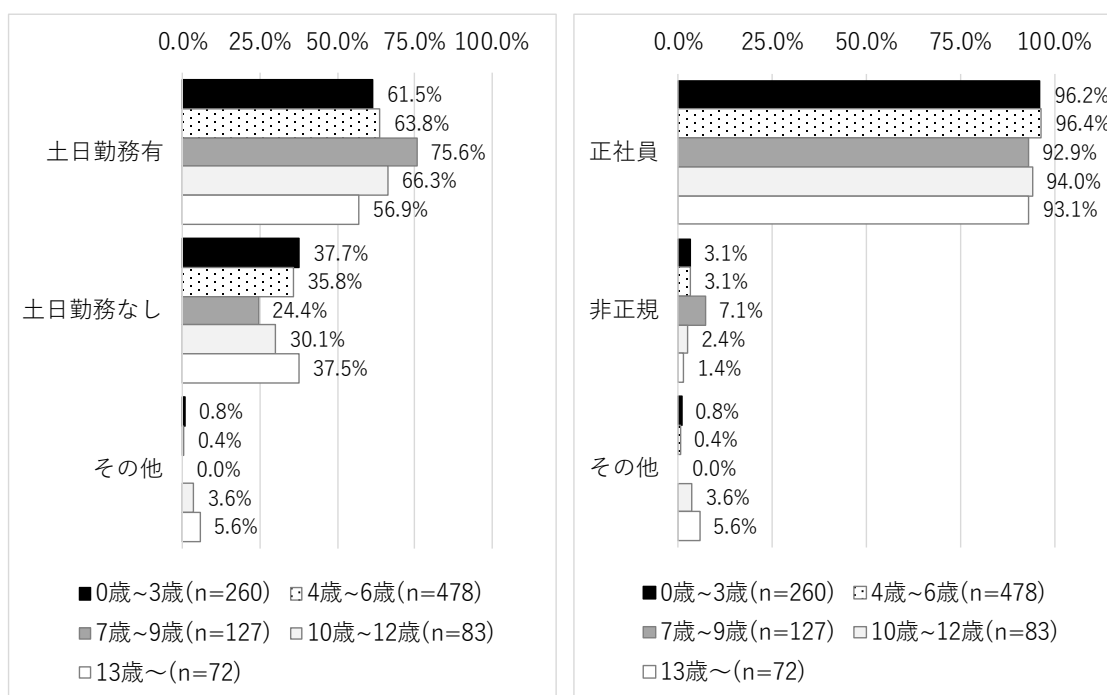




父親の就労形態を見ると、どの年齢層においても土日勤務有との回答が土日勤務なしとの回答と比べ多かった。勤務形態は正社員とする回答が多かった。

母親と父親の就労形態について比べると、母親の方が土日勤務有とする回答が少なく、非正規で勤務するとの回答が多かった。

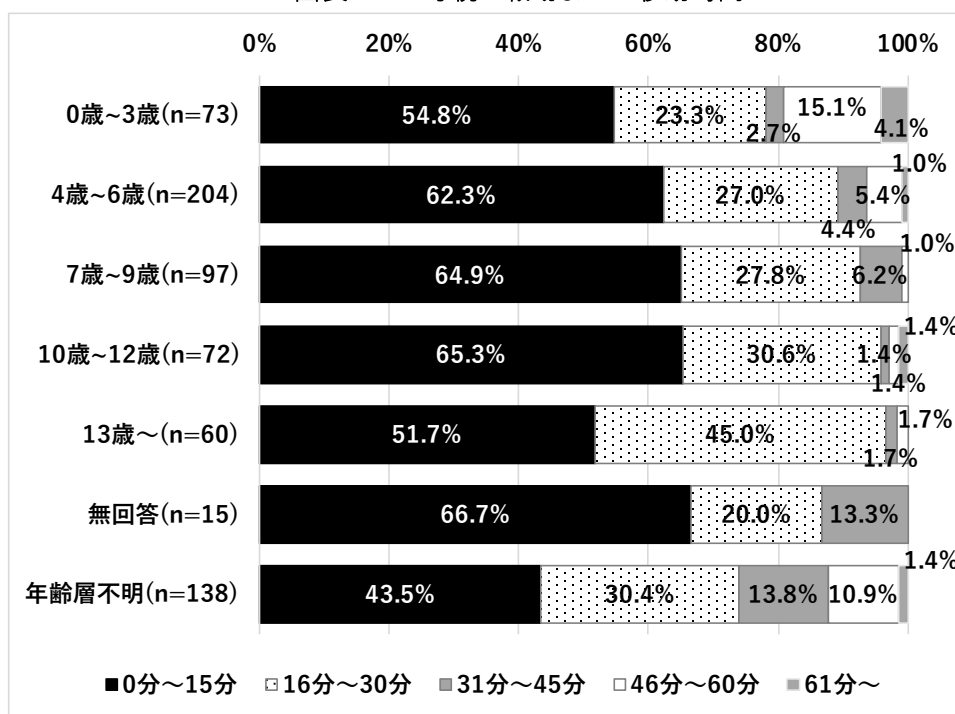
図表 149 父親の就労形態



## ウ. 職場までの移動時間

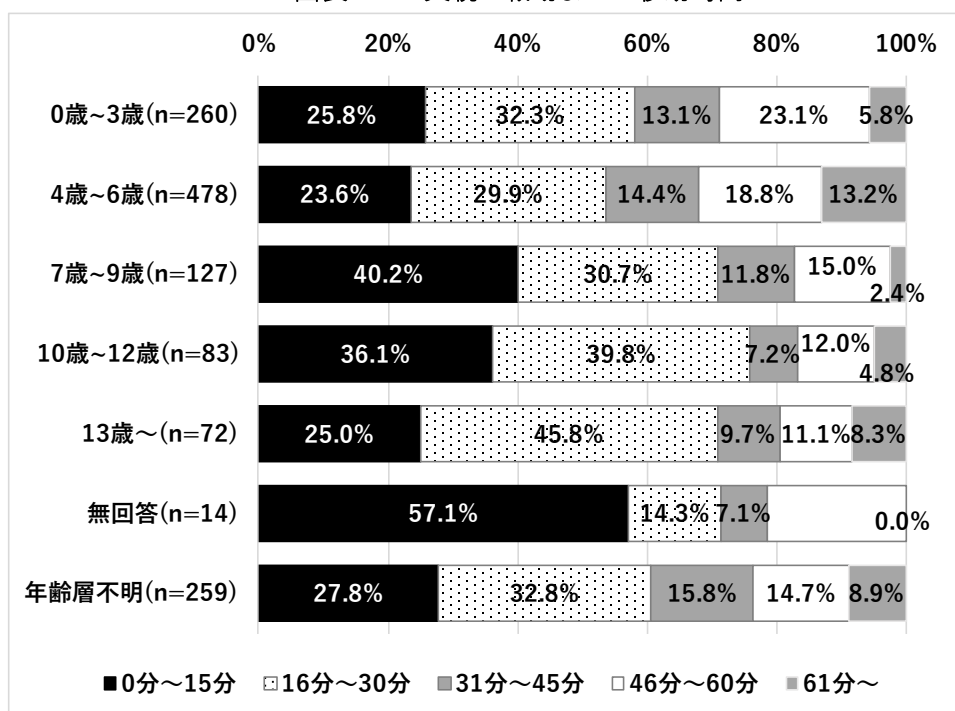
母親の自宅から職場までの距離は 15 分以内とする回答が半数以上であった。30 分以内とする回答を見ると、年齢層が上がるほど回答の割合が多くなった。すなわち、年齢層が上であるほど、近い職場に勤務しているといえる。

図表 150 母親の職場までの移動時間



父親の自宅から職場までの距離を見ると、30 分以内とする回答が半数以上であるものの、母親と比べると 30 分以上とする回答も多く、比較的遠くに勤務していることがわかった。

図表 151 父親の職場までの移動時間

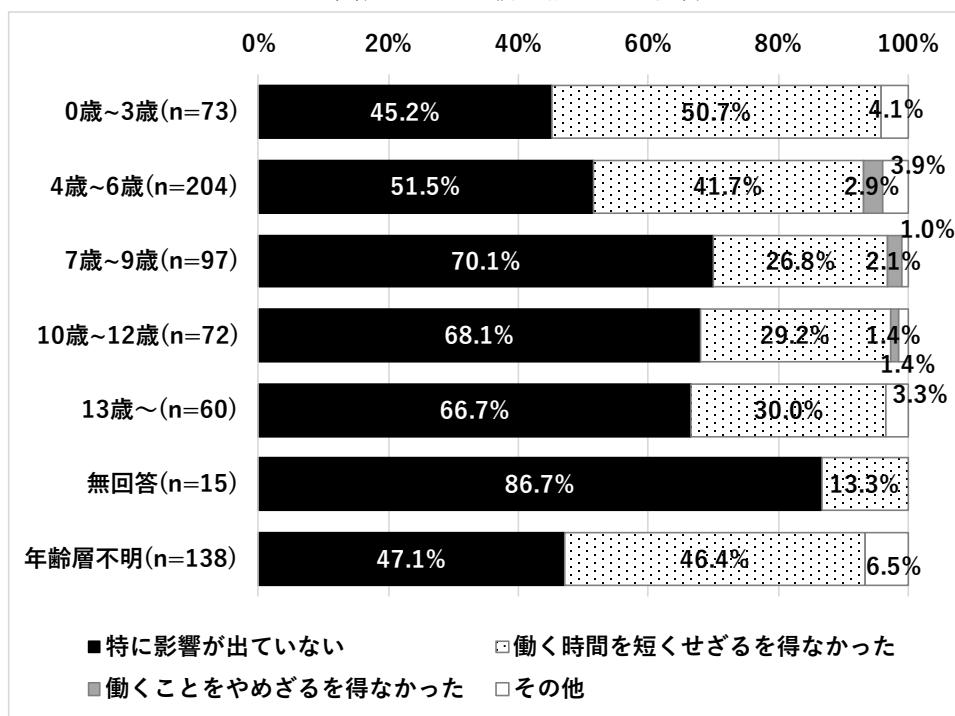


## エ. 就労への影響

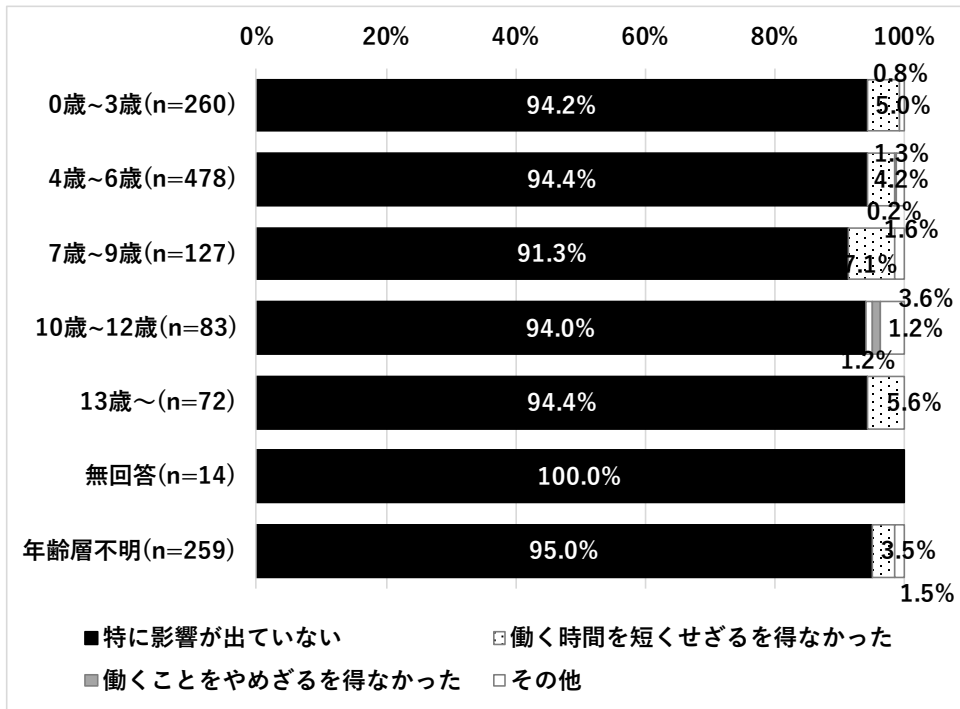
就労への影響について確認すると、母親の場合、0歳~3歳、4歳~6歳の年齢層では約半数が「特に影響が出ていない」と回答しているのに対し、7歳以上では「特に影響が出ていない」との回答が7割前後であった。このことから、就学児の年齢層の母親は、未就学児の母親と比較すると「特に影響が出ていない」とする割合が大きいことがわかる。

父親についてみると、「特に影響が出ていない」との回答がほとんどであった。母親と父親を比較すると、父親の就労に影響が出ていないことがわかった。

図表 152 母親の就労への影響



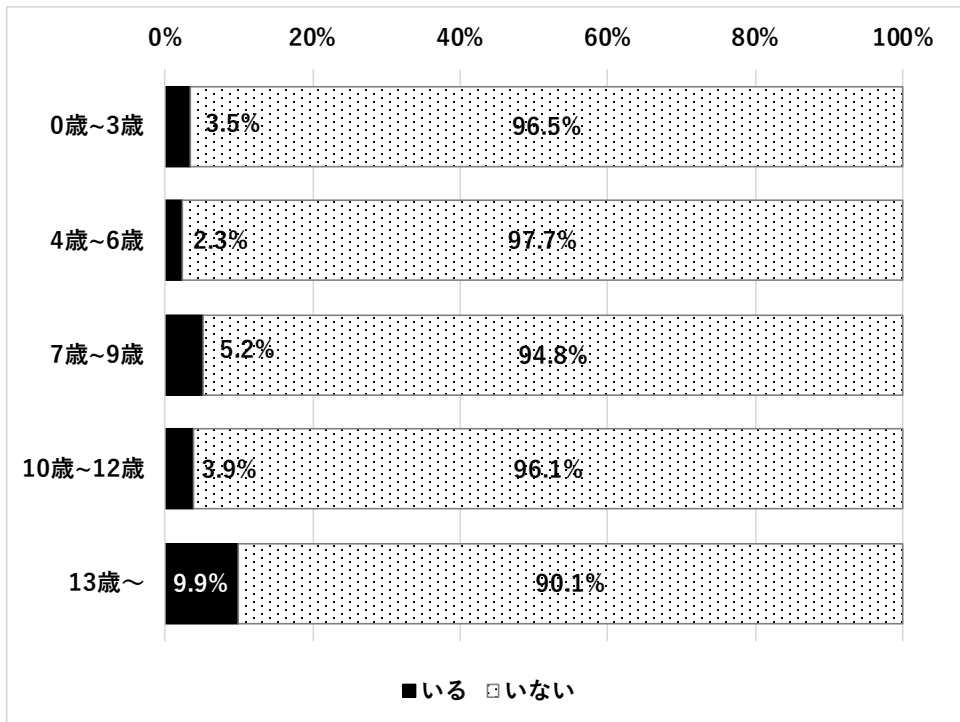
図表 153 父親の就労への影響



#### ④家族支援の状況

同居家族中の介護の必要な家族がいる割合は13歳~で9.9%と最も大きく、約1割の家庭がダブルケアの状況であることがわかる。

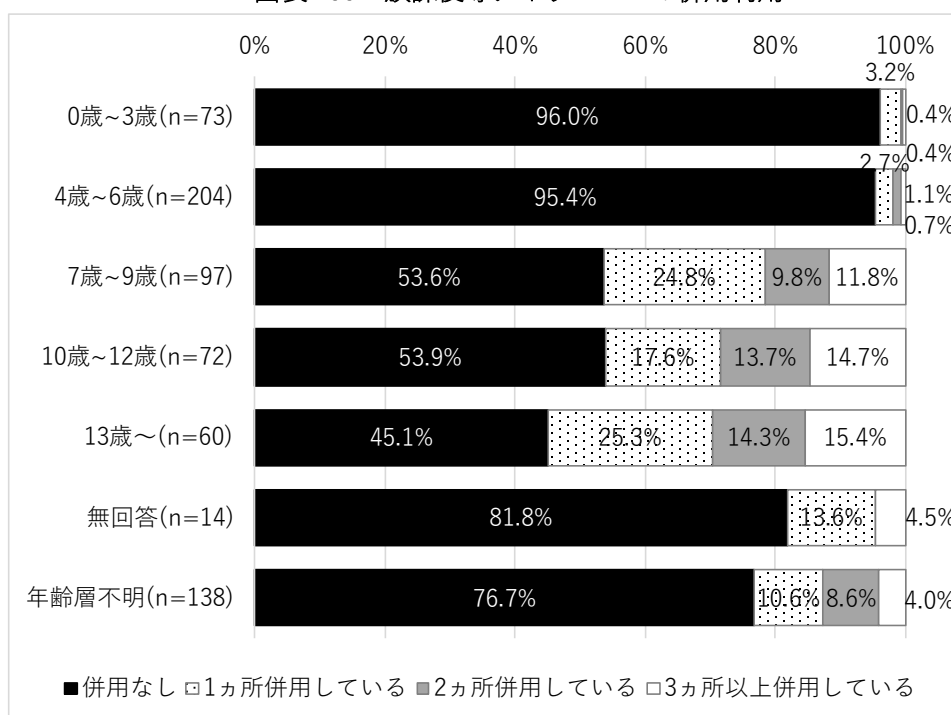
図表 154 同居家族中の介護が必要な家族の有無



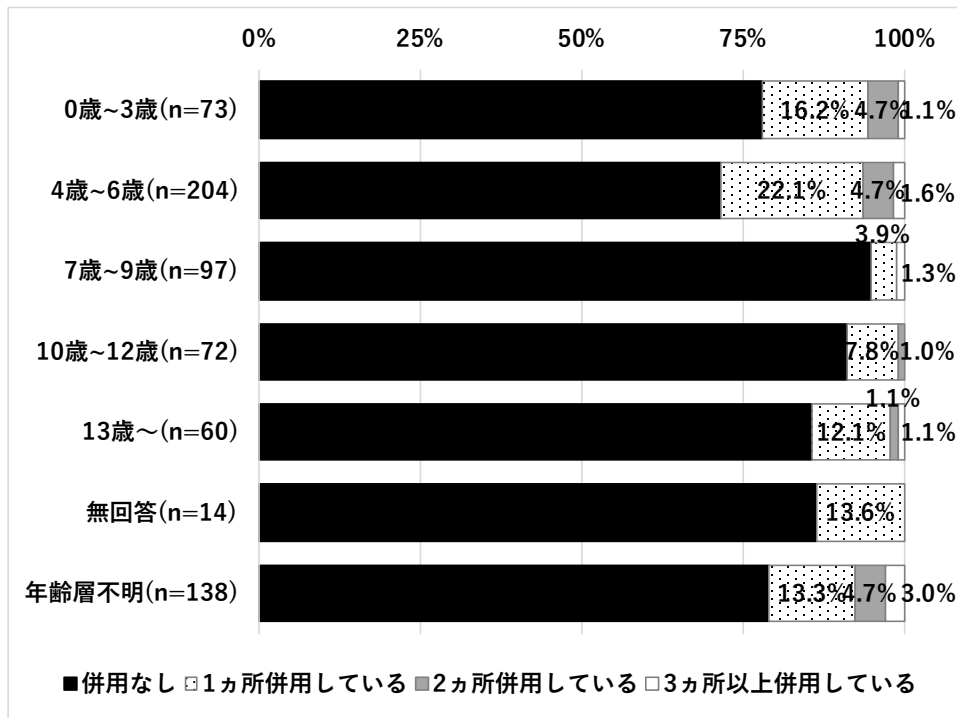
## ⑤併用

併用利用の状況について確認すると、放課後等デイサービスについては、対象年齢の約半数が1か所以上併用しているとの回答であり、3か所以上についても、11.8%、14.7%、15.4%であった。一方、児童発達支援事業所については、約2割が1か所以上の併用利用ありとの回答であり、児童発達支援センター、医療型児童発達支援では1割未満であった。

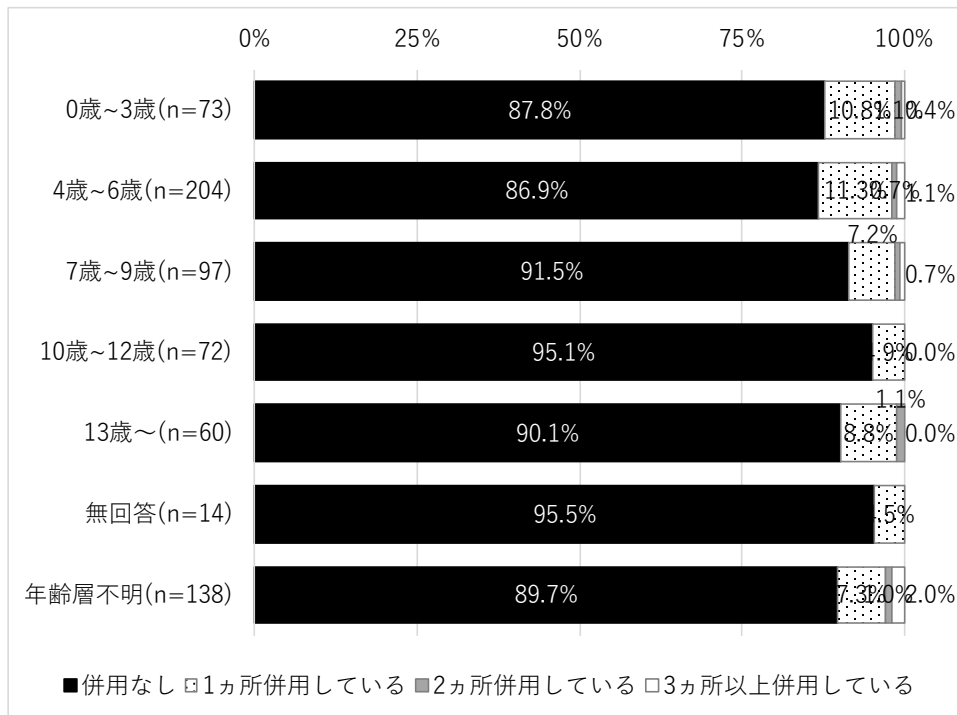
図表 155 放課後等デイサービスの併用利用



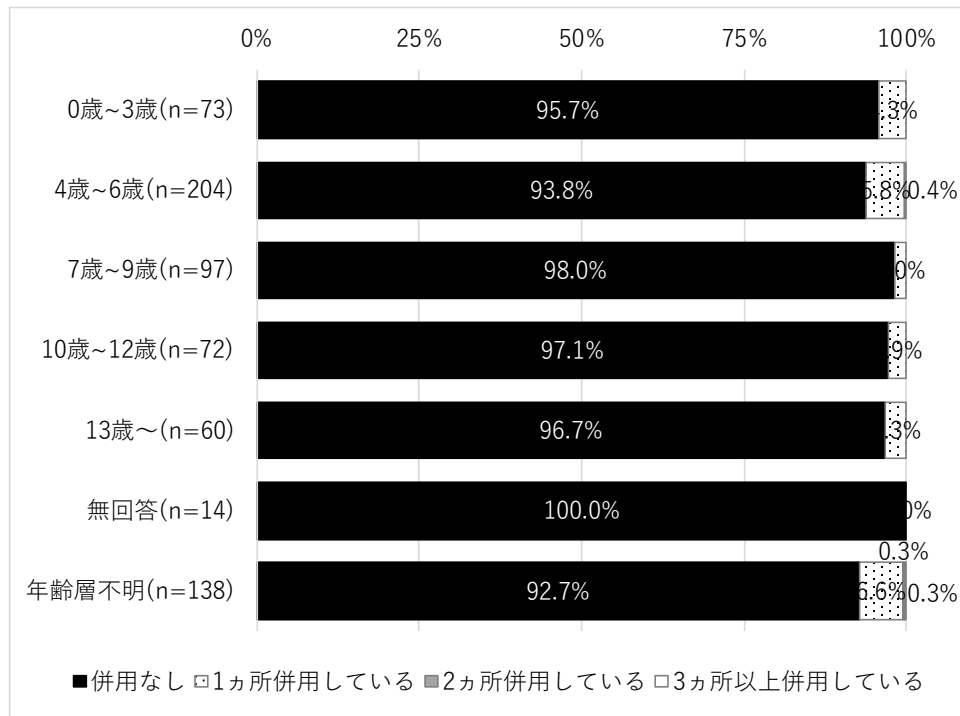
図表 156 児童発達支援事業所の並行利用



図表 157 児童発達支援センターの並行利用



図表 158 医療型児童発達支援の並行利用



### 3. 詳細分析

本章では、各サービスやその利用者像、支援の実態を明らかにすることを目的として、詳細な分析を実施した。

#### (1) 「個別活動」に関する分析

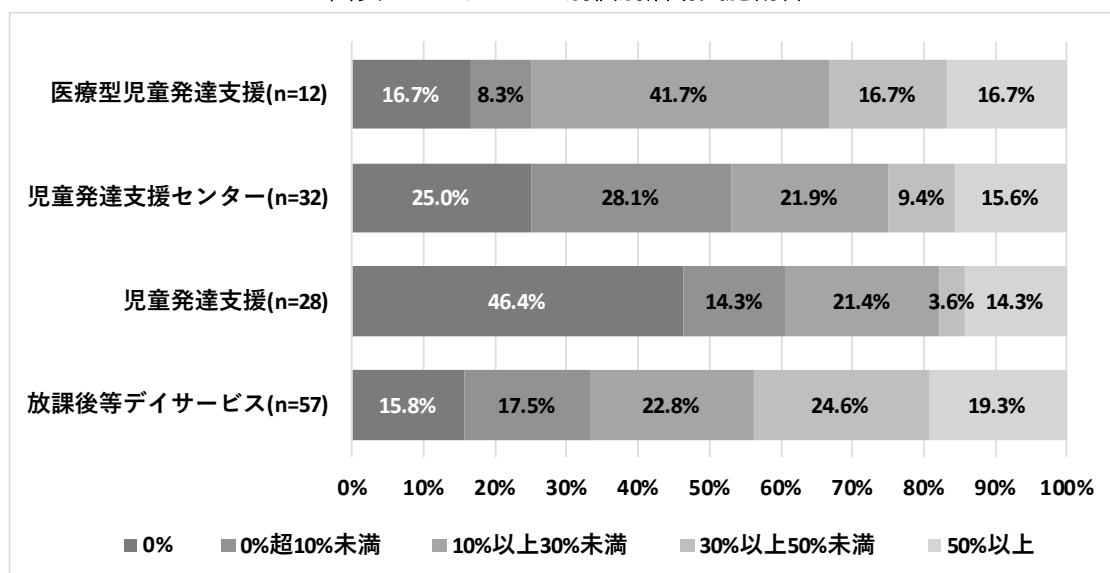
本調査では、児童1人に対し、職員1人が対応する活動を「個別活動<sup>30</sup>」と定義して調査を行った。タイムスタディ調査票において、個々のケースにおける各活動内容が「個別活動」か否かを確認し、「個別活動」を実施した時間を計測した。

##### ① サービス別個別活動実施割合

事業所ごとに算出した「個別活動」実施時間を、全活動時間で除した値を「個別活動実施割合」として計算した。サービス別に「個別活動実施割合」を算出した結果は以下の通りである。なお、0%の事業所は「個別活動」を実施していない事業所である。

下図表の通り、他のサービスと比較すると、児童発達支援事業所において「個別活動」の実施割合を0%としている事業所が多いことがわかった。

図表 159 サービス別個別活動実施割合



<sup>30</sup> 「個別活動」の範囲として、1部屋に集まっているが、パーテーション等でスペースを区切り、その中で個々人が別々に活動し、1人の職員が時間を区切って1人1人に対応している場合（強度自閉症の方などへの対応）も「個別活動」とした。



先述した個別活動実施割合ごとに事業所を分類（個別活動の実施割合ごとの事業所分類）し、各事業所において支援の際に重視していることについて確認した。

個別活動実施割合が 50%以上の事業所に着目すると、「身体を動かし、身体機能全般の向上をさせること」との回答が、50%未満の事業所と比べて多かった。

また、0%の事業所に着目すると、「家族や職員以外の地域社会とかかわること」、「知識や日々の学習の支援を行うこと」との回答が 0%超の事業所と比べて多かった。

図表 160 個別活動実施割合ごとの事業所分類別支援で重視している項目

	日常生活を営む上で必要な心身の動作を身に着けるために行うリハビリ等行うこと	身体を動かし、身体機能全般の向上させること	社会で生活するためのスキルを身に着けること	児童の情緒や感性の発達を促進すること	家族や職員以外の地域社会とかかわること	知識や日々の学習の支援を行うこと
0%(n=32)	43.8%	68.8%	81.3%	90.6%	56.3%	40.6%
0%超 10%未満(n=24)	45.8%	50.0%	79.2%	87.5%	20.8%	16.7%
10%以上 30%未満(n=31)	58.1%	67.7%	74.2%	87.1%	35.5%	12.9%
30%以上 50%未満(n=20)	35.0%	40.0%	90.0%	90.0%	30.0%	20.0%
50%以上(n=22)	59.1%	81.8%	72.7%	90.9%	27.3%	22.7%
	本人の関心や趣味に合わせて活動すること	自分で考えて自己判断できるようにすること、そのために必要な見分を拡げること	滞在することでのリラックスしてもらふこと	働くためのスキルや心構えを身に着けること	学校や保育所等といった集団で生活することになれること、スキルを身に着けること	
0%(n=32)	68.8%	53.1%	50.0%	18.8%	71.9%	
0%超 10%未満(n=24)	70.8%	62.5%	29.2%	8.3%	50.0%	
10%以上 30%未満(n=31)	64.5%	41.9%	48.4%	22.6%	64.5%	
30%以上 50%未満(n=20)	55.0%	45.0%	60.0%	15.0%	75.0%	
50%以上(n=22)	68.2%	40.9%	36.4%	4.5%	59.1%	

## ②個別活動実施割合と活動内容

次に、個別活動実施割合ごとの事業所分類に基づき、活動時間全体に占める各活動内容の割合について集計した<sup>31</sup>。各活動内容について、「自由遊び」については、個別活動実施割合が小さい事業所ほど、当該活動に割く時間の割合が多くなっていることが読み取れた。

また、個別活動実施割合が50%以上の事業所に着目すると、50%未満の事業所に比べ、「音楽活動」「食事・おやつ」については当該活動に割く時間の割合が小さく、「専門的訓練」については大きいことがわかった。

図表 161 個別活動実施割合別の活動内容の割合

	学習支援	創作活動	音楽活動	体育活動	調理活動	設定遊び	自由遊び	話し合い
0%	0.8%	3.1%	5.2%	9.0%	0.0%	16.4%	22.0%	1.4%
0%超 10%未満	3.3%	3.6%	2.2%	5.7%	0.0%	14.6%	22.8%	1.9%
10%以上 30%未満	1.9%	1.5%	2.3%	7.0%	0.6%	16.5%	20.2%	0.1%
30%以上 50%未満	5.4%	5.2%	2.4%	6.1%	0.3%	10.8%	16.6%	1.3%
50%以上	2.4%	2.6%	0.1%	3.6%	0.0%	14.3%	16.1%	0.2%
	テレビ等視聴	軽作業・活動	食事・おやつ	健康管理	専門的訓練	昼寝・休憩	登降園準備等	その他
0%	0.1%	1.3%	15.9%	0.9%	2.3%	1.2%	11.7%	8.9%
0%超 10%未満	0.6%	1.9%	16.3%	0.2%	2.0%	4.9%	13.1%	6.9%
10%以上 30%未満	0.5%	2.3%	19.4%	1.0%	4.1%	1.3%	11.8%	9.4%
30%以上 50%未満	0.4%	3.4%	16.1%	2.5%	9.5%	1.7%	11.6%	6.8%
50%以上	0.6%	2.3%	9.2%	1.2%	19.9%	1.8%	19.8%	6.0%

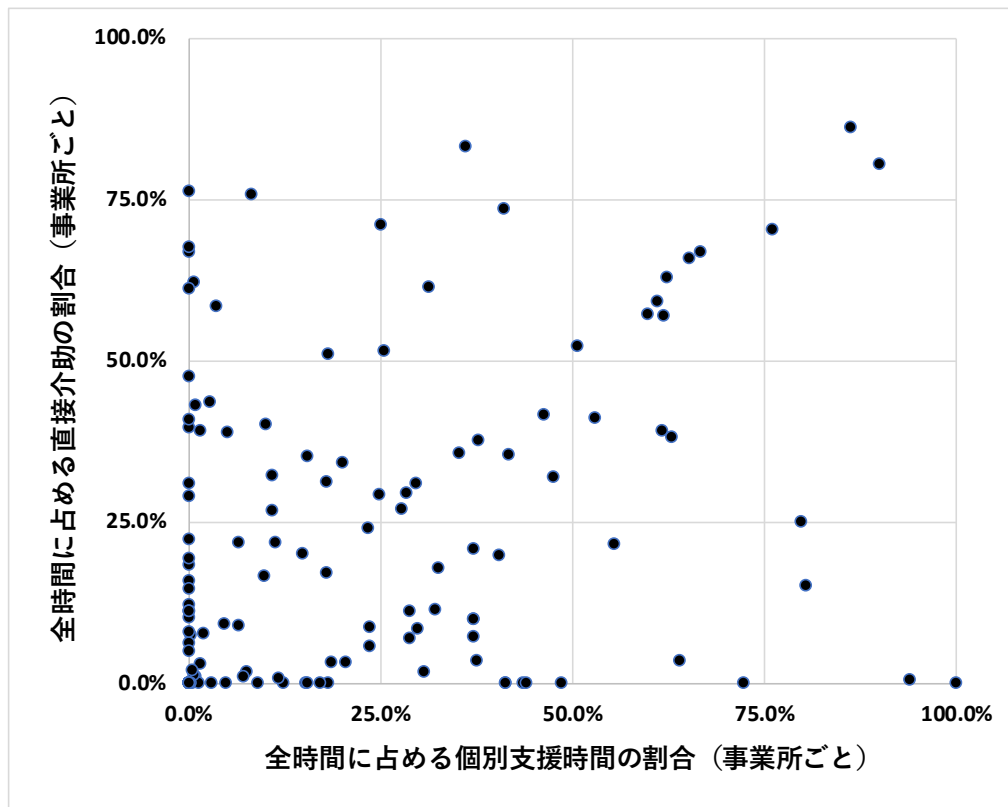
## ③個別活動と直接介助の関係

次に、事業所ごとの活動時間全体に占める個別支援時間の割合と「職員のかかわり方」における「直接介助<sup>32</sup>」の割合との関係について分析した。事業所ごとの散布図は数表の通りである。全時間に占める個別支援時間の割合と全時間に占める直接介助の割合に強い相関関係は確認できなかった。すなわち、「個別活動」と「直接介助」にはあまり関連性がないといえることができる。

<sup>31</sup> 個別活動実施割合ごとの事業所分類ごとに、各活動内容時間の総和を全時間の総和で除して算出した。

<sup>32</sup> 「個別活動」と同様に、タイムスタディ調査において、各活動への職員のかかわり方について確認し、該当時間を算出した。職員のかかわり方は、直接介助、間接的介助、見守り、その他の4択で確認した。

図表 162 事業所ごとの個別支援時間の割合と直接介助の割合



## (2) サービス利用時以外の「普段の過ごし方」「並行利用」、に関する分析

個々の児童について、本調査で対象とする4つのサービスの利用時以外での過ごし方や他のサービスの利用状況について確認した。

### ①主たる障害とサービス利用がないときの過ごし方の関係

ケース調査で確認した主たる障害別に保護者調査で尋ねたサービス利用がない時の過ごし方について集計をした。全体として、「家族と過ごしている」との回答が最も多く、次いで「家でテレビやビデオ、DVDを見たり、ゲームをしたりしている」との回答が多かった。

図表 163 主たる障害種別とサービス利用がないときの過ごし方の関係（複数回答）

主たる障害	家で勉強や読書をしている	地域の活動に参加している	学習塾など学校や自宅以外で勉強している	習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている
知的障害（n=365）	18.8%	0.5%	3.4%	6.3%
発達障害(n=345)	17.2%	1.1%	3.1%	7.1%
肢体不自由(n=67)	16.4%	0.0%	4.5%	7.5%
聴覚障害(n=11)	0.0%	9.1%	0.0%	9.1%
重症心身障害(n=75)	25.3%	1.3%	2.7%	4.0%
その他(n=29)	19.1%	0.0%	4.3%	4.3%
不明(n=23)	26.1%	13.0%	0.0%	21.7%
無回答(n=235)	14.5%	0.0%	3.4%	5.1%
利用者全体(n=1150)	14.9%	0.9%	2.6%	5.4%
主たる障害	スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている	家でテレビやビデオ、DVDを見たり、ゲームをしたりしている	家族と過ごしている	友達と遊んでいる
知的障害（n=365）	8.6%	62.8%	83.2%	8.4%
発達障害(n=345)	6.5%	65.3%	87.6%	0.0%
肢体不自由(n=67)	7.5%	61.2%	83.6%	9.0%
聴覚障害(n=11)	18.2%	45.5%	90.9%	18.2%
重症心身障害(n=75)	13.3%	68.0%	82.7%	12.0%
その他(n=29)	8.5%	72.3%	78.7%	2.1%
不明(n=23)	26.1%	78.3%	82.6%	26.1%
無回答(n=235)	8.9%	67.7%	81.7%	10.6%
利用者全体(n=1150)	7.0%	51.9%	68.0%	6.7%

## ②利用しているサービス以外のサービス利用状況

ケース調査で確認した主たる障害別に保護者調査で尋ねた当該サービス以外のサービスの利用状況について確認をしたところ、「特にない」との回答が最も多かった。

図表 164 利用しているサービス以外のサービス利用状況（複数回答）

	保育所	幼稚園	認定こども園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校/ 特別支援学級
知的障害(n=385)	6.2%	6.5%	3.6%	8.6%	1.3%	0.0%	28.8%
発達障害(n=354)	11.6%	11.6%	10.5%	26.3%	3.7%	1.1%	19.8%
肢体不自由(n=67)	9.0%	9.0%	4.5%	0.0%	1.5%	1.5%	3.0%
聴覚障害(n=11)	36.4%	9.1%	18.2%	9.1%	0.0%	0.0%	36.4%
重症心身障害(n=75)	14.7%	1.3%	1.3%	4.0%	0.0%	0.0%	18.7%
その他(n=47)	14.9%	17.0%	8.5%	2.1%	0.0%	0.0%	19.1%
不明(n=23)	21.7%	8.7%	17.4%	34.8%	0.0%	0.0%	4.3%
計(n=962)	10.2%	8.7%	6.8%	14.4%	2.0%	0.5%	21.9%
	通級指導教室	医療機関	放課後児童クラブ	障害児/者 相談支援事業所	地域の自治体・町内会	特にない	
知的障害(n=385)	0.0%	14.3%	1.3%	18.4%	0.8%	47.5%	
発達障害(n=354)	1.1%	14.4%	4.8%	17.5%	0.6%	42.7%	
肢体不自由(n=67)	0.0%	20.9%	0.0%	20.9%	0.0%	67.2%	
聴覚障害(n=11)	0.0%	0.0%	0.0%	27.3%	0.0%	36.4%	
重症心身障害(n=75)	0.0%	21.3%	0.0%	20.0%	0.0%	50.7%	
その他(n=47)	0.0%	21.3%	0.0%	19.1%	0.0%	55.3%	
不明(n=23)	0.0%	4.3%	8.7%	13.0%	0.0%	52.2%	
計(n=962)	0.4%	15.3%	2.5%	18.4%	0.5%	47.7%	

次に、当該事業所以外にかかわり先がない児童について年齢別に確認した。特に、0歳~3歳の年齢層で「特にかかわりがない」との回答が半数以上を占めた。

図表 165 年齢別「特にかかわりがない」人の分布

	件数	%
0 歳~3 歳(n=278)	143	51.4%
4 歳~6 歳(n=551)	177	32.1%
7 歳~9 歳(n=153)	0	0.0%
10 歳~12 歳(n=102)	1	1.0%
13 歳~(n=91)	1	1.1%
無回答(n=22)	4	18.2%
計(n=1197)	326	27.2%

### (3) 母親就労状況と重視している事項

保護者調査で確認した母親の就労状況とサービス利用に際し重視している事項との関係について確認をした。全体として「③子どもの情緒や感性の発達を促進すること」、「④社会で生活するためのスキルを身に着けること」、「⑪学校生活に適應できること」といった項目を特に重視しているとの結果であった。これらについて、母親の就労形態別による大きな違いは見られなかった。

「⑫長時間預かってくれること」については、いずれの就労形態でも 20%前後であり、大きな違いはなかった。

図表 166 母親の就労状況とサービスに重視している事項

母親の就労状況				①日常生活を営む上で必要な心身の動作を身に着けるためにリハビリ等行うこと	②身体を動かし、身体機能全般の向上させること	③社会で生活するためのスキルを身に付けること	④子どもの情緒や感性の発達を促進すること	⑤家族や職員以外の地域社会とかかわること	⑥知識や日々の学習の支援を行うこと
形態	勤務日数	土日祝日の勤務	n						
正社員	週 5 日	休み	93	50.5%	48.4%	74.2%	76.3%	34.4%	34.4%
		出勤場合有	105	49.5%	51.4%	81.9%	82.9%	43.8%	41.0%
非正規社員	週 4 日以下	休み	125	50.4%	50.4%	64.0%	75.2%	36.8%	36.8%
		出勤場合有	129	51.2%	50.4%	65.9%	69.0%	38.8%	35.7%
	週 5 日	休み	84	42.9%	52.4%	75.0%	76.2%	42.9%	32.1%
		出勤場合有	64	48.4%	50.0%	65.6%	67.2%	31.3%	29.7%
その他			78	52.6%	56.4%	73.1%	82.1%	43.6%	33.3%
未回答			817	58.5%	63.6%	72.7%	79.9%	42.2%	38.7%
合計			1495	54.4%	58.0%	72.0%	77.9%	40.7%	37.1%

母親の就労状況				⑦本人の関心や趣味に合わせて活動すること	⑧自分で考えて自己判断できるようにすること、そのために必要な見分を拡げること	⑨滞在することでリラックスすること	⑩働くためのスキルや心構えを身に着けること	⑪学校生活に適應できること	⑫長時間預かってくれること
形態	勤務日数	土日祝日の勤務	n						
正社員	週5日	休み	93	50.5%	57.0%	53.8%	34.4%	47.3%	23.7%
		出勤場合有	105	55.2%	67.6%	53.3%	38.1%	63.8%	27.6%
非正規社員	週4以下	休み	125	56.0%	53.6%	51.2%	26.4%	58.4%	24.0%
		出勤場合有	129	41.9%	54.3%	44.2%	27.9%	58.9%	21.7%
	週5日	休み	84	52.4%	57.1%	53.6%	39.3%	54.8%	26.2%
		出勤場合有	64	54.7%	54.7%	51.6%	28.1%	59.4%	26.6%
その他			78	59.0%	57.7%	48.7%	26.9%	61.5%	24.4%
未回答			817	55.6%	58.4%	53.5%	27.1%	65.4%	17.9%
合計			1495	54.0%	57.9%	52.2%	29.0%	61.9%	20.9%



#### (4) 支給決定日数の分布

年齢層別の支給決定日数を1日単位で集計すると以下の分布であった。0歳~3歳、4歳~6歳の年齢層においては、5日、10日、15日、23日が多いが、7歳以上では23日のみが特に多い結果であった。

図表 167 年齢層別支給決定日数

年齢	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日	7 日	8 日	9 日	10 日	
0 歳~3 歳(n=248)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.9%	0.0%	0.4%	1.6%	3.2%	22.2%	
4 歳~6 歳(n=510)	0.0%	0.2%	0.0%	0.4%	9.6%	0.0%	1.0%	1.0%	2.9%	9.8%	
7 歳~9 歳(n=150)	0.0%	0.7%	8.0%	1.3%	8.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	8.7%	
10 歳~12 歳(n=99)	0.0%	2.0%	2.0%	2.0%	4.0%	0.0%	1.0%	1.0%	0.0%	9.1%	
13 歳~(n=87)	0.0%	1.1%	2.3%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	2.3%	
合計(n=1094)	0.0%	0.5%	1.5%	0.5%	8.2%	0.0%	0.6%	0.9%	2.3%	11.8%	
年齢	11 日	12 日	13 日	14 日	15 日	16 日	17 日	18 日	19 日	20 日	
0 歳~3 歳(n=248)	0.0%	0.8%	1.6%	4.8%	15.3%	2.0%	0.8%	1.2%	0.4%	5.6%	
4 歳~6 歳(n=510)	0.0%	0.4%	1.2%	1.0%	13.3%	0.4%	0.0%	0.8%	0.0%	3.1%	
7 歳~9 歳(n=150)	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.7%	
10 歳~12 歳(n=99)	0.0%	1.0%	1.0%	2.0%	9.1%	1.0%	0.0%	3.0%	0.0%	6.1%	
13 歳~(n=87)	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	6.9%	0.0%	1.1%	2.3%	0.0%	3.4%	
合計(n=1094)	0.0%	0.5%	1.0%	2.1%	12.0%	0.7%	0.3%	1.1%	0.1%	4.8%	
年齢	21 日	22 日	23 日	24 日	25 日	26 日	27 日	28 日	29 日	30 日	31 日
0 歳~3 歳(n=248)	0.0%	1.6%	26.2%	0.0%	1.2%	1.2%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4 歳~6 歳(n=510)	0.2%	2.7%	39.0%	0.0%	5.1%	4.7%	2.7%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%
7 歳~9 歳(n=150)	0.0%	3.3%	34.7%	0.0%	2.0%	0.7%	14.7%	0.7%	0.0%	0.0%	0.7%
10 歳~12 歳(n=99)	1.0%	0.0%	32.3%	1.0%	5.1%	8.1%	6.1%	1.0%	0.0%	0.0%	1.0%
13 歳~(n=87)	0.0%	2.3%	34.5%	0.0%	8.0%	0.0%	17.2%	5.7%	0.0%	0.0%	4.6%
合計(n=1094)	0.2%	2.3%	34.6%	0.1%	4.0%	3.3%	5.4%	0.7%	0.0%	0.0%	0.6%

## （５）保護者調査の自由記述分析

保護者調査における、利用を希望するサービスとその理由についての回答（自由記述）の結果を確認した。ここでは、利用を希望するサービスとして放課後等デイサービス、児童発達支援、児童発達支援センター、医療型児童発達支援のいずれか１つまたはこれらのうち複数を回答した方の自由記述を対象に分析を行った。なお、自由記述の内容をもとに回答を６つの項目に分類し、１つの意見が複数の項目に該当する場合は重複して件数を集計した。

図表 168 サービス利用を希望する主な理由の分類<sup>33</sup>

項目	件数	割合（％）
子どもの現能力に适当	157	27.6
子どもの成長や発達のため	114	20.0
通常教育の準備・補填	45	7.9
サービスの要件・条件	146	25.7
保護者の負担軽減	89	15.6
その他	18	3.2
集計	569	100.0

上述の４つのサービスについて、利用を希望する理由をより詳細に分類すると以下の通りであった。

最も件数が多い分類は「子どもの現能力に适当」であり、その詳細をみると「子どもの障害及び現状の能力に合った支援を受けるため」「現サービスの継続希望」といった理由が多かった。次いで「サービスの要件・条件」が多く、詳細をみると「就学後も継続して療育を受けるため」とする理由が多かった。次に「子どもの成長や発達のため」の分類が多く、詳細をみると「子どもの将来や自立のため」「協調性や社会性の習得・向上のため」といった回答であった。

この他、「保護者の就労のため」「子供へのサポートの形として適切と考えるため」「就園/就学/進学の前準備」といった理由も多かった。

<sup>33</sup> 図表 168~171 における「割合」では、重複して集計している各項目の合計に占める割合（構成比）を示している。

図表 169 分類ごとの詳細な理由

項目	件数	割合
子どもの現能力に適當	157	100.0%
現サービスの継続希望	49	31.2%
子どもが楽しく過ごせる居場所を整備するため	16	10.2%
子どもの障害及び現状の能力に合った支援を受けるため	54	34.4%
子どもへのサポートの形として適切と考えられるため	34	21.7%
他者からの助言	4	2.5%
子どもの成長や発達のため	114	100.0%
協調性や社会性の習得・向上のため	24	21.1%
健常児/者と関わる機会の充実	8	7.0%
子どもの可能性を伸ばすため	7	6.1%
子どもの学力/運動能力を伸ばすため	17	14.9%
子どもの将来や自立のため	28	24.6%
子どもの成長や発達のため（現在～近未来）	23	20.2%
分離が成長を促すと考えられるため	7	6.1%
通常教育の準備・補填	45	100.0%
現時点では通常教育に通うことは困難なため	12	26.7%
就園/就学/進学準備	31	68.9%
今後の本人の成長が見通せないため	2	4.4%
サービスの要件・条件	146	100.0%
利用可能サービスの制約のため	5	3.4%
現在利用しているサービスへの不適應	2	1.4%
現在の利用サービスが終了するため	4	2.7%
就学後も継続して療育を受けるため	105	71.9%
適切なサービスを検討するため	30	20.5%
保護者の負担軽減	89	100.0%
保護者の就労のため	51	57.3%
他の兄弟の育児のため	2	2.2%
支援がないことへの保護者の不安	7	7.9%
保護者の相談先としての利用	7	7.9%
保護者の疾病のため	1	1.1%
保護者のレスパイト等の希望	4	4.5%
放課後/余暇の支援のため	13	14.6%
子どもの支援者を増やすため	4	4.5%
その他	18	100.0%
今後の利用が決定しているため	7	38.9%
特に理由なし	6	33.3%
その他（回答の真意の理解が難しい）	5	27.8%

年齢層ごとにサービス利用希望理由の分類をみると、未就学児（0歳～3歳）、小学校低学年、小学校高学年、中学生以上では「子どもの現能力に适当」との理由が最も多かった。一方で、未就学児（4歳～6歳）では「サービスの要件・条件」との理由が最も多かった。

図表 170 各分類と年齢層

今後のサービス利用希望分類	未就学児(0歳～3歳)		未就学児(4歳～6歳)		小学校低学年(7歳～9歳)		小学校高学年(10歳～12歳)		中学生以上(13歳～)		無回答		合計
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	
子どもの現能力に适当	28	29.8	62	23.5	11	45.8	9	56.3	7	33.3	40	26.7	157
子どもの成長や発達のため	23	24.5	47	17.8	5	20.8	2	12.5	6	28.6	31	20.7	114
通常教育の準備・補填	12	12.8	20	7.6	0	0.0	0	0.0	2	9.5	11	7.3	45
サービスの要件・条件	13	13.8	86	32.6	6	25.0	3	18.8	4	19.0	34	22.7	146
保護者の負担軽減	12	12.8	42	15.9	1	4.2	0	0.0	2	9.5	32	21.3	89
その他	6	6.4	7	2.7	1	4.2	2	12.5	0	0.0	2	1.3	18
集計	94	100.0	264	100.0	24	100.0	16	100.0	21	100.0	150	100.0	569

医療型児童発達支援及び児童発達支援センターでは、「子どもの現能力に相当」との理由が最も多く、放課後等デイサービスでは「サービスの要件・条件」、児童発達支援では「子供の成長や発達のため」とする理由が最も多かった。

また、医療型児童発達支援、児童発達支援、児童発達支援センターでは「保護者の負担軽減」がほとんど無いのに対し、放課後等デイサービス、複数サービスの利用希望では一定数理由として挙げられていることがわかった。

図表 171 各分類と利用を希望するサービス

今後のサービス 利用希望分類	医療型児童 発達支援		放課後等デ イサービス		児童発達 支援		児童発達支 援センター		複数 サービス		合 計
	件数	割 合 (%)	件数	割 合 (%)	件数	割 合 (%)	件数	割 合 (%)	件数	割 合 (%)	
子どもの現能力 に相当	4	30.8	105	27.1	10	25.6	21	60.0	17	17.9	157
子どもの成長や 発達のため	2	15.4	69	17.8	18	46.2	5	14.3	20	21.1	114
通 常 教 育 の 準 備・補填	2	15.4	21	5.4	6	15.4	5	14.3	11	11.6	45
サ ー ビ ス の 要 件・条件	2	15.4	119	30.7	3	7.7	0	0.0	22	23.2	146
保護者の負担軽 減	1	7.7	66	17.1	2	5.1	3	8.6	17	17.9	89
その他	2	15.4	7	1.8	0	0.0	1	2.9	8	8.4	18
集計	13	100.0	387	100.0	39	100.0	35	100.0	95	100.0	569

## 4. まとめ

---

本章では、ここまでの集計、分析結果を踏まえたまとめを記載する。

### (1) 支援パターンごとの特徴（タイムスタディの結果に基づく整理）

---

#### ①平日の利用

平日の利用では、いずれのサービス及び年齢層においても、「自由遊び」「設定遊び」「食事・おやつ」が多いことが共通していた。これらの活動内容以外では、医療型児童発達支援の0歳～3歳の年齢層では「専門的訓練」の割合が大きく、児童発達支援事業所、児童発達支援センターの長時間利用では「体育活動」が、放課後等デイサービスでは「学習支援」が一定程度実施されていることがわかった。

活動目的に着目すると、児童発達支援センター、児童発達支援事業所、放課後等デイサービスではいずれの年齢層でも「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」の割合が最も大きかった。その他では、「基本的なADL等の自立訓練」「集団での活動への慣れや訓練」が共通して大きい割合を占めていた。また、放課後等デイサービスの平日の短時間利用では、「本人が自由に過ごせる時間の提供」が一定の割合を占めていた。

#### ②休日の利用

休日の利用では、児童発達支援センターでは「自由遊び」「食事・おやつ」の割合が大きく、「体育活動」も一定の割合を占めていた。これに対し、放課後等デイサービスでは、短時間利用の場合は「設定遊び」「自由遊び」の他、「専門的訓練」が他のサービスと比較して大きな割合を占めていた。同サービスにおける長時間利用の場合は、「自由遊び」「食事・おやつ」の他、「軽作業・活動」が一定割合を占める傾向が確認された。

活動目的については、平日と同様、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」が最も大きな割合を占めていた。その次に割合が大きいものとして、7歳～12歳では「感性と表現力の向上」、13歳～では「身近な環境へのかかわり」となっており、平日の利用における活動目的とは異なる傾向であった。

ただし、休日の傾向については本調査で得られた回答のケース数が少ない点について留意が必要である。

③児童発達支援事業所、児童発達支援センター、医療型児童発達支援（0歳～3歳）  
における平日の支援

活動内容について、医療型児童発達支援では、「食事・おやつ」「設定遊び」「専門的訓練」の割合が大きく、短時間利用では「専門的訓練」の割合が、長時間利用では「昼寝・休憩」の割合が比較的大きかった。

児童発達支援センター及び児童発達支援事業所では、「設定遊び」「自由遊び」が多く、長時間利用では「食事・おやつ」の割合が比較的大きかった。また、児童発達支援センターでは、長時間利用の方が「自由遊び」の割合が大きい結果であった。

活動目的では、「集団での活動への慣れや訓練」がいずれのサービスでも多かった。一方で、医療型児童発達支援では「基本的なADLの自立訓練」が多いのに対し、児童発達支援センター及び児童発達支援事業所では、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」が多く、特に児童発達支援センターではその傾向が顕著であった。

図表 172 【平日】児童発達支援全体(0 歳~3 歳)

短時間利用	長時間利用
<p><b>医療型児童発達支援【医児-C】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容では、「食事・おやつ (30.5%)」「専門的訓練 (19.1%)」「設定遊び (13.2%)」「自由遊び (11.7%)」の順に多い。</li> <li>・活動目的では、「集団での活動への慣れや訓練 (31.1%)」「基本的な ADL の自立訓練 (29.4%)」の順に多い。</li> <li>・「登降園準備等」は個別活動が多いほど実施割合が大きい。</li> </ul> <p><b>児童発達支援センター【児セ-C】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容では、「登降園準備等 (19.2%)」「設定遊び (16.0%)」の順に多い。</li> <li>・活動目的では、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得 (39.7%)」「集団での活動への慣れや訓練 (23.3%)」の順に多い。</li> </ul> <p><b>児童発達支援事業所【児発-C】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容では、「自由遊び (20.6%)」「登降園準備等 (19.4%)」「設定遊び (17.3%)」が中心。</li> <li>・活動目的では、「集団での活動への慣れや訓練 (43.6%)」「社会性やコミュニケーションスキルの獲得 (43.0%)」の順に多い。</li> </ul>	<p><b>医療型児童発達支援【医児-A】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容では、「食事・おやつ (15.4%)」「昼寝・休憩(13.4%)」「設定遊び (11.6%)」「専門的訓練 (9.5%)」の順に多い。</li> <li>・活動目的では、「集団での活動への慣れや訓練 (34.6%)」「基本的な ADL の自立訓練 (18.1%)」の順に多い。</li> <li>・個別活動が多いほど「専門的訓練」の割合が大きく、「昼寝・休憩」の割合が小さい。</li> </ul> <p><b>児童発達支援センター【児セ-A】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容では、「自由遊び (20.9%)」「食事・おやつ (17.6%)」「設定遊び (11.7%)」の順に多い。「体育活動 (6.5%)」を一定割合実施。</li> <li>・活動目的では、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得 (60.1%)」「集団での活動への慣れや訓練 (48.4%)」の順に多い。</li> </ul> <p><b>児童発達支援事業所【児発-A】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容では、「食事・おやつ (17.5%)」「自由遊び (16.6%)」「設定遊び (11.6%)」が中心。「体育活動(7.5%)」「音楽活動(6.7%)」を一定割合実施。</li> <li>・活動目的では、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得 (23.6%)」「基本的な ADL の自立訓練 (21.7%)」の順に多い。</li> </ul>



④児童発達支援事業所、児童発達支援センター、医療型児童発達支援（４歳～６歳）  
における平日の支援

活動内容について、いずれのサービスでも、「設定遊び」「自由遊び」が多かった。

児童発達支援センター及び児童発達支援事業所では、短時間利用では「登降園準備等」の割合が比較的大きく、長時間利用では「食事・おやつ」の時間が大きかった。

活動目的では、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」「基本的な ADL の自立訓練」「集団での活動への慣れや訓練」が多い結果であった。

図表 173 【平日】児童発達支援全体(４歳～６歳)

短時間利用	長時間利用
<p><b>医療型児童発達支援【医児-D】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容では、「設定遊び (31.5%)」「食事・おやつ (27.1%)」が特に多い。</li> <li>・活動目的では、「身体機能の向上 (42.2%)」「社会性やコミュニケーションスキルの獲得 (35.0%)」「集団での活動への慣れや訓練 (33.0%)」の順に多い。</li> </ul>	<p><b>医療型児童発達支援【医児-B】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容では、「食事・おやつ (18.1%)」「設定遊び(15.8%)」「自由遊び (11.8%)」「昼寝・休憩 (10.0%)」の順に多い。</li> <li>・活動目的では、「集団での活動への慣れや訓練 (30.3%)」「基本的な ADL の自立訓練 (19.5%)」の順に多い。</li> <li>・個別活動が多いほど、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」「専門的訓練」等の割合が大きい。</li> </ul>
<p><b>児童発達支援センター【児セ-D】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容では、「設定遊び (23.6%)」「登降園準備等 (20.8%)」「自由遊び (19.6%)」の順に多い。</li> <li>・活動目的では、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得 (61.2%)」「基本的な ADL の自立訓練 (26.7%)」の順に多い。</li> </ul>	<p><b>児童発達支援センター【児セ-B】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容では、「自由遊び (20.9%)」「食事・おやつ (17.6%)」「設定遊び (11.7%)」の順に多い。「体育活動 (6.5%)」を一定割合実施。</li> <li>・活動目的では、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得 (46.4%)」「基本的な ADL の自立訓練 (30.5%)」の順に多い。</li> </ul>
<p><b>児童発達支援事業所【児発-D】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容では、「自由遊び (23.2%)」「設定遊び (19.1%)」「登降園準備等 (18.1%)」の順に多い。</li> <li>・活動目的では、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得 (44.3%)」「集団での活動への慣れや訓練 (39.8%)」の順に多い。</li> </ul>	<p><b>児童発達支援事業所【児発-B】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容では、「自由遊び (19.6%)」「食事・おやつ (18.4%)」の順に多い。「体育活動 (8.4%)」「音楽活動 (7.3%)」を一定割合実施。</li> <li>・活動目的では、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得 (29.0%)」「基本的な ADL の自立訓練 (28.8%)」の順に多い。</li> </ul>

#### ⑤放課後等デイサービスにおける平日の支援

活動内容では、「自由遊び」「設定遊び」「食事・おやつ」が多く、これらに加え、「学習支援」が一定割合行われていることがわかった。

また、7歳~12歳の年齢層では、長時間利用の方が「自由遊び」の割合が小さく「設定遊び」の割合が大きかった。一方、短時間利用同士を比較しても、12歳以下と13歳~での大きな違いはみられなかった。

活動目的では、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」が最も多い。利用時間による違いでは、短時間利用の方が「本人が自由に過ごせる時間の提供」の割合が大きかった。

図表 174 【平日】放課後等デイサービス(7歳~12歳)

短時間利用	長時間利用
<b>【放デー-F】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容では、「自由遊び (23.6%)」「登降園時準備等 (17.3%)」「食事・おやつ (10.7%)」「設定遊び (10.2%)」「学習支援 (8.3%)」の順に多い。</li> <li>・活動目的では、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得 (32.5%)」「基本的なADLの自立訓練 (28.1%)」「本人が自由に過ごせる時間の提供 (24.3%)」の順に多い。</li> <li>・個別活動実施割合が大きくなるほど、「設定遊び」の割合が大きくなる傾向。</li> </ul>	<b>【放デー-E】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容では、「設定遊び (22.7%)」「自由遊び (13.5%)」「食事・おやつ (14.3%)」「学習支援 (10.5%)」の順に多い。</li> <li>・活動目的では、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得 (38.9%)」「集団での活動への慣れや訓練 (34.0%)」「身体機能の向上 (23.9%)」の順に多い。</li> </ul>

図表 175 【平日】放課後等デイサービス(13歳~)

短時間利用	長時間利用
<b>【放デー-G】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容では、「登降園時準備等 (21.8%)」「自由遊び (17.5%)」「食事・おやつ (11.5%)」「設定遊び (8.0%)」「学習支援 (7.9%)」の順に多かった。</li> <li>・活動目的では、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得 (43.5%)」「本人が自由に過ごせる時間の提供 (27.4%)」「集団での活動への慣れや訓練 (25.2%)」の順に多い。</li> </ul>	-

## ⑥児童発達支援における休日の支援

児童発達支援事業所における休日の支援では、対象となるケースがあるパターンは児童発達支援センターにおける4歳～6歳の児童における短時間利用のみであった。

活動内容では、「自由遊び(23.4%)」「食事・おやつ(15.7%)」「登降園準備等(14.9%)」「体育活動(11.9%)」の順に割合が大きく、活動目的では、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得(63.5%)」「基本的なADLの自立訓練(26.7%)」「本人が自由に過ごせる時間の提供(22.8%)」の順に割合が大きかった。

## ⑦放課後等デイサービスにおける休日の支援

休日の長時間利用では、「自由遊び」が多い他、他のパターンと比較すると「軽作業・活動」が一定の割合を占めていることが特徴であった。

活動目的については、いずれも「社会性やコミュニケーションスキルの獲得」が多い点は共通していた。一方、短時間利用では「感性と表現力の向上」「身近な環境へのかかわり」の割合が大きく、長時間利用では「本人が自由に過ごせる時間の提供」が多いといった違いがあった。

図表 176 【休日】放課後等デイサービス(7歳～12歳)

短時間利用	長時間利用
<b>【放デー-C】</b> ・活動内容では、「設定遊び(24.2%)」「専門的訓練(19.3%)」「登降園準備等(14.9%)」の順に多い。 ・活動目的では、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得(75.9%)」「感性と表現力の向上(43.2%)」の順に多い。	<b>【放デー-A】</b> ・活動内容では、「自由遊び(31.4%)」「食事・おやつ(15.3%)」「軽作業・活動(12.7%)」の順に多い。 ・活動目的では、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得(39.6%)」「本人が自由に過ごせる時間の提供(34.8%)」の順に多い。

図表 177 【休日】放課後等デイサービス(13歳～)

短時間利用	長時間利用
<b>【放デー-D】</b> ・活動内容では、「専門的訓練(46.3%)」「登降園準備等(13.4%)」「自由遊び(10.0%)」の順に多い。 ・活動目的では、「社会性やコミュニケーションスキルの獲得(75.0%)」「身近な環境へのかかわり(47.8%)」の順に多い。	<b>【放デー-B】</b> ・活動内容では、「自由遊び(25.3%)」「軽作業・活動(15.5%)」「食事・おやつ(11.4%)」の順に多い。「体育活動(9.9%)」を一定割合実施。 ・活動目的では、「本人が自由に過ごせる時間の提供(33.5%)」「社会性やコミュニケーションスキルの獲得(30.7%)」の順に多い。

#### ⑧その他の留意点

今回、「職員のかかわり」の観点では「直接支援」、「間接支援」、「見守り」の項目別に分析を行った。なお、「見守り」については、支援を行っていないということではなく、環境整備や働きかけの仕方、職員同士の役割分担を工夫することで、直接支援を行う必要が少なくなり、そのような支援により対象児童のニーズに即した対応となっていることも考えられる。このため、「見守り」の方が「直接支援」よりも手がかかっていないと一概に解釈することができない点について、留意が必要である。

また、今回の調査では、各サービスの支援の実施状況について利用者の年齢の他、利用時間や個別支援の有無別に分類を行い、活動内容及び目的について分析を行ったが、障害児支援のあり方を検討する上では個別支援計画等に基づく個々の児童に応じた支援の工夫に着目し、詳細を明らかにしていくことが重要と考えられる。

## (2) 事業所調査、ケース調査に基づく整理

---

### ①利用者像

放課後等デイサービス、児童発達支援事業所、児童発達支援センターの利用者では、主たる障害については発達障害が最も多く、次いで知的障害が多かった。

### ②職員の体制

専門職の配置についてみると、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士については医療型児童発達支援において配置されている事業所の割合が大きく、児童発達支援センターにおいて次いで割合が大きかった。

### ③支援方針

支援に際し重視していることでは、いずれのサービスでも「児童の情緒や感性の発達を促進すること」との回答が最も大きい割合を占めていた。一方、放課後等デイサービス、児童発達支援事業所、児童発達支援センターでは「社会で生活するためのスキルを身に着けること」を重視するとの回答が8割を超えたのに対し、医療型児童発達支援では50%に留まっていた。また、「本人の関心や趣味に合わせて活動すること」については、児童発達支援センターでは80.6%と大きな割合を占めるのに対し、他のサービスでは65%未満であり、特に医療型児童発達支援では50%に留まるなど、サービスによる特徴が見られた。

特に注力して実施している活動内容では、全てのサービスで「設定遊び」との回答が多かった。全体として、サービスによって特に注力している活動の割合に違いがみられた。

### ④他サービスの利用状況

保育所については、4～6歳の年齢層で約半数が利用していた。一方、学童保育の利用状況は、一般に最も利用が多いとされる7歳～9歳でも9.6%に留まっていた。

### ⑤地域との接点

児童の地域との接点については、他の放課後等デイサービス・児童発達支援全体その他、6歳以下では保育所等や医療機関が中心となり、7歳以上では小学校や特別支援学級、特別支援学校との回答が多かった。

### (3) 保護者調査の結果に基づく整理

---

#### ① サービス利用時以外の過ごし方

児童のサービス利用がないときの過ごし方について、いずれの障害種別においても「家族と過ごしている」との割合が概ね8割以上と多く、次いで「家でテレビやビデオ、DVDを見たり、ゲームをしたりしている」との回答が多かった。

#### ③ 保護者の状況

母親については、ほぼ全員が同居しているとの回答であったが、父親については、年齢層が上がるにつれ、同居している割合は少なくなった。

同居する母親の就労状況をみると、0歳~3歳で27.7%、4歳~6歳で38.9%、7歳以上で7割前後であり、子どもが未就学の年齢層で働いているとの回答が少なかった。一方、父親については、ほぼ全員が就労していた。

就労への影響について確認すると、母親の場合、0歳~3歳、4歳~6歳の年齢層では約半数が何等かの影響が出ていると回答しているのに対し、7歳以上では影響が出ているとの回答が3割弱であった。このことから、就学児の年齢層の母親は、未就学児が年齢層の母親に比べ、就労に「特に影響が出ていない」との割合が大きいことがわかった。

父親については、「特に影響が出ていない」との回答がほとんどを占めていた。

#### ③ サービス利用に際し重視している事項

就労形態（雇用形態や勤務日数）にかかわらず、「子どもの情緒や感性の発達を促進すること」、「社会で生活するためのスキルを身に着けること」、「学校生活に適応できること」といった項目が特に重視されていることがわかった。

#### ④ 今後サービス利用を希望する理由

今後サービス利用を希望する理由について、医療型児童発達支援または児童発達支援センターの利用を希望する保護者では「子どもの現能力に适当」との理由が最も多く、放課後等デイサービスでは「サービスの要件・条件」に関する理由、児童発達支援事業所では「子供の成長や発達のため」とする理由が最も多かった。

また、医療型児童発達支援、児童発達支援事業所、児童発達支援センターの利用を希望する保護者では「保護者の負担軽減」はほとんど理由として挙げられないのに対し、放課後等デイサービスまたは複数種類のサービスの利用を希望する保護者では一定数理由として挙げられていることがわかった。

## 【資料編】

---

### 資料 1 調査票

---

# 令和2年度障害者総合福祉推進事業 障害者支援のあり方に関する調査研究 障害児サービス実態調査 調査票記入方法

この度は本調査にご協力いただきありがとうございます。

本シートでは本調査票の記入方法について案内させていただきます。

お忙しいところ恐縮ではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 1. 調査票の種類

調査票は ①事業所票、②ケース票、③タイムスタディ票の3種類です。

## 2. 各調査票の回答方法

### ①事業所票の回答方法

- ・初めに**別紙2**に記載された「事業所ID（3桁）」「枝番（2桁）」をご記入ください。既に記入されている場合は、別紙2の番号と一致していることをご確認ください。
- ・事業所調査票の上から順番に設問にお答えください。
- ・数値で記入する設問、プルダウンで回答を選ぶ設問、自由記述の設問があります。

### ②ケース票の回答方法

- ・**別紙3に記載されたお子様IDリストに記載されたお子様が回答の対象になります。**

また、①事業所票のⅢ－問3で回答した人数と回答数は合致します

- ・別紙3に記載されたお子様IDリストに記載されたお子様と合致するお子様ID行にご記入願います  
1人のお子様につき1行を記入してください
- ・数値で記入する設問、プルダウンで回答を選ぶ設問があります。

### ③タイムスタディ票の回答方法

- ・**別紙3に記載されたお子様IDリストに記載されたお子様が回答の対象になります。**

また、①事業所票のⅢ－問3で回答した人数と回答数は合致します

- ・別紙3のお子様IDリストに記載されたが貴事業所で行った活動について記載してください

**タイムスタディ票は7日分ありますが、お子様が利用した日のみ、記入願います。**

利用していない日は「本日の利用状況」設問で「利用していない」を選択し他は空欄としてください

- ・各セルの右上の赤▲はメモになります。そちらもご参照ください

③タイムスタディ票\_記入例のシートを参考にご記入ください

なお、回答項目については③タイムスタディ票\_参考資料をご参照ください

## 3. 調査票のアップロード先

- ・回答終了後は、調査票をダウンロード頂いた以下のサイトより、アップロードをお願い致します。



- ・なお、調査票はダウンロード頂いた際のファイル名のまま、アップロードしてください。
- ・お忙しいところ大変恐縮ではございますが、**1月31日（日）**までにアップロードをお願い致します。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます



## I 貴事業所のIDについて

問1. 貴事業所のIDについてお答えください

①事業所ID

			(ID)
--	--	--	------

②枝番

		(ID)
--	--	------

※送付資料別紙2に記載された「事業所ID（3桁）－「枝番（2桁）」と一致することを確認してください。

問2. 所属する事業所の所在地をお選びください

--

## II 貴事業所の概況（特に指示がない限り令和2年度の状況をお答えください）

問1. 貴事業所の提供サービスについてお答えください（プルダウンより選択肢を選択）

--

問2. 貴事業所の実施形態についてお答えください（プルダウンより選択肢を選択）

--

問3. 貴法人において運営している提供サービス事業所をすべてお答えください

（該当するサービスについて○を選択）

	放課後等デイサービス		児童発達支援
	児童発達支援センター		医療型児童発達支援
	障害児入所施設（福祉型、医療型）		障害児相談支援
	保育所等訪問支援		障害福祉サービス（障害者向け）
	日中一時支援		保育所
	幼稚園		認定こども園
	地域型保育		放課後児童クラブ
	上記以外の障害児支援・子ども子育て支援サービス		
	高齢者・介護関係サービス		生活困窮者関係サービス
	上記以外のサービス		

問4. 貴事業所の運営主体についてお答えください（プルダウンより選択肢を選択）

--

問5. 貴事業所の設置年（事業を開始した年）をお答えください（西暦で数値記入）

西暦		年
----	--	---

問6.貴事業所の運営規程上の営業時間をお答えください。

※休憩時間も含めてご回答ください。

※曜日により営業時間が違う場合は典型的な日の営業時間をお答えください

①平日		時間		分
②土曜日、日曜日、祝日（長期休暇中を除く）		時間		分
③夏休み、冬休み等長期休暇中		時間		分

問7.貴事業所の営業曜日についてお答えください（あてはまるものすべてに○）

月	火	水	木	金	土	日	祝

III 貴事業所の利用者（契約時）（特に指示がない限り令和2年度の状況をお答えください）

問1.貴事業所の定員数をお答えください（令和2年12月末日時点でお答えください）

人

問2.貴事業所の利用者の状況をお答えください（令和2年12月の実績をお答えください）

①延べ利用者数		人			
②契約児数		人			
③年齢別契約児実数 ※a~iの合計値は②と一致するようにしてください					
a.未就学児(0歳)		人	b.未就学児(1歳)		人
c.未就学児(2歳)		人	d.未就学児(3歳)		人
e.未就学児(4歳)		人	f.未就学児(5歳)		人
g.小学生		人	h.中学生		人
i.高校生		人			
④利用児童実数		人			
⑤年齢別利用児童実数 ※a~iの合計値は④と一致するようにしてください					
a.未就学児(0歳)		人	b.未就学児(1歳)		人
c.未就学児(2歳)		人	d.未就学児(3歳)		人
e.未就学児(4歳)		人	f.未就学児(5歳)		人
g.小学生		人	h.中学生		人
i.高校生		人			

⑥主たる障害種別利用児童実数 ※a~hの合計値は④と一致するようにしてください

重複障害がある場合は、より程度の重い障害の障害でカウントとしてください

a.知的障害	<input type="text"/>	人	b.発達障害	<input type="text"/>	人
c.肢体不自由	<input type="text"/>	人	d.聴覚障害	<input type="text"/>	人
e.視覚障害	<input type="text"/>	人	f.重症心身障害	<input type="text"/>	人
g.その他	<input type="text"/>	人	h.不明	<input type="text"/>	人

問3.令和3年1月18日(月)から24日(日)に貴事業所を利用予定のお子様の人数をお伺いします

**別紙3** お子様IDリストに記入されたお子様の人数をご記入ください

利用児童実数  人

※本設問の回答人数が②ケース票、③タイムスタディ票、保護者調査の回答対象者になります。

#### IV 貴事業所の職員 (特に指示がない限り令和2年度の状況をお答えください)

問1.貴事業所の職員数(常勤)についてお答えください (令和2年12月時点でお答えください)

①従業員数を常勤、非常勤別にお答えください(実数をお答えください)

常勤職員  人 非常勤職員  人

②令和2年1月1日から12月31日の採用者数を常勤、非常勤別にお答えください

常勤職員  人 非常勤職員  人

③令和2年1月1日から12月31日の離職者数を常勤、非常勤別にお答えください

常勤職員  人 非常勤職員  人

④令和2年12月31日時点在職者の平均勤続年数を常勤、非常勤別にお答えください

小数点第1位まで記載してください。

平均勤続年数 = 各職員の勤続年数の総和 ÷ 人数

常勤職員  年 非常勤職員  年

問2.貴事業所にて雇用している専門職をお答えください (あてはまるものすべてに○)

<input type="checkbox"/>	保育士	<input type="checkbox"/>	医師	<input type="checkbox"/>	看護師	<input type="checkbox"/>	心理士
<input type="checkbox"/>	理学療法士	<input type="checkbox"/>	作業療法士	<input type="checkbox"/>	言語聴覚士		

問3.貴事業所の職員の人材育成体制についてお答えください

①事業所または法人に人材育成の仕組みは整っていますか (プルダウンより選択肢を選択)

--

② ①で「整っている」と回答した方にお伺いします。

a.主な育成方法についてお答えください (あてはまるものすべてに○)

	OJTにより実施		事業所・法人内研修の実施
	事業所・法人外研修への参加		事業所・法人外研修への助成
	育成担当者への育成方法に関する研修の実施		
	その他	その他を選択した場合、以下に具体的に記載してください	

b.人材育成の担当者はだれですか (あてはまるものすべてに○)

	管理職		経験年数の長いベテラン		外部専門職
	その他	その他を選択した場合、以下に具体的に記載してください			

## V 貴事業所の支援内容 （特に指示がない限り令和2年度の状況をお答えください）

問1.貴事業所が契約児に支援を行う際にどのようなことを重視していますか

（各項目についてあてはまる選択肢をひとつ選んでください）

日常生活を営む上で必要な心身の動作を身に着けるために行うリハビリ等を行うこと	
身体を動かし、身体機能全般の向上させること	
社会で生活するためのスキルを身に着けること	
児童の情緒や感性の発達を促進すること	
家族や職員以外の地域社会とかかわること	
知識や日々の学習の支援を行うこと	
本人の関心や趣味に合わせて活動すること	
自分で考えて自己判断できるようになること、そのために必要な見分を拡げること	
滞在することでリラックスしてもらうこと	
働くためのスキルや心構えを身に着けること	
学校や保育所等といった集団で生活することになれること、スキルを身に着けること	

上記以外に重視している事項があれば、以下にご記入ください

--

問2.貴事業所ではどのような活動を行っていますか

(各項目についてあてはまる選択肢をひとつ選んでください)

学習支援	学校の宿題や授業の補足、支援を行う活動	
創作活動	描画、工作、書道等の活動	
音楽活動	楽器等演奏や歌などの活動	
体育活動	スポーツやトランポリン、ラジオ体操などの活動	
調理活動	調理やその準備、食材選びなどの活動	
設定遊び	職員の指示等に合わせて行う遊び	
自由遊び	児童が自発的に行う遊び	
話し合い	児童同士の話し合いや準備、振り返りを行う活動 (職員はその示唆出しやサポートを行う活動)	
テレビ等視聴	テレビ、ビデオ、タブレットやPCなどを通じて映像等を視聴する活動	
軽作業・活動	散歩や清掃などの作業、活動	
食事・おやつ	給食やおやつを食する活動	
健康管理	投薬・服薬・感染予防といった活動	
専門的訓練	PT・OT・ST等の専門職による専門的訓練、リハビリテーション	

上記以外に特に注力して実施している活動があれば、以下にご記入ください

問3.貴事業所における保護者支援についてお答えください（あてはまるものすべてに○）

	家庭訪問
	ヘルパーやショートステイの利用促進
	カウンセリング等、メンタルヘルス改善支援
	送迎時の乗降場所・時間の配慮
	貴事業所以外の保険や塾などの他サービスの紹介
	サービス提供時間の延長
	その他
	特に行っていない

その他を選択した場合、具体的に記載してください

問4.貴事業所の外部機関との連携 についてお答えください（あてはまるものすべてに○）

※利用児童のための会議等に出席、情報提供を受けている連携先を選択

<input type="checkbox"/>	保育所・幼稚園・認定こども園	<input type="checkbox"/>	小学校
<input type="checkbox"/>	中学校・高等学校	<input type="checkbox"/>	特別支援学校/特別支援学級
<input type="checkbox"/>	通級指導教室	<input type="checkbox"/>	医療機関
<input type="checkbox"/>	放課後等デイサービス事業所	<input type="checkbox"/>	児童発達支援事業所
<input type="checkbox"/>	児童発達支援センター	<input type="checkbox"/>	医療型児童発達支援事業所
<input type="checkbox"/>	放課後児童クラブ	<input type="checkbox"/>	障害児/者 相談支援事業所
<input type="checkbox"/>	地域の自治体・町内会	<input type="checkbox"/>	利用者が就職予定の企業等
<input type="checkbox"/>	その他	<input type="checkbox"/>	特になし

その他を選択した場合、具体的に記載してください

問5.貴事業所の外部機関を入れた支援会議の開催状況についてお答えください

①契約児全体のうち外部機関を入れた支援会議をどの程度の割合で行っていますか

（プルダウンより選択肢を選択）

②①で「ほぼ行っていない」と回答した方にお伺いします。 その理由を教えてください

ご協力、誠にありがとうございました

お子様 ID	利用サービス	年齢	利用開始 (西暦)	引継ぎ状況 貴事業所を利用し始める際 に、貴法人の別事業所等から の引継ぎの状況についてお答 えください	障害の種類 該当する障害すべてに○、そのうち主たる障 害ひとつに◎をつけてください								医 療 的 ケ ア の 必 要 性	行 動 障 害 の 有 無	学齢児童、学齢生徒対象設問		未就学児対象設問	児 童 相 談 所 の 関 与	養 育 状 況
					知 的 障 害	発 達 障 害	肢 体 不 自 由	聴 覚 障 害	重 症 心 身 障 害	そ の 他	不 明	登校状況			学童保育利用状況	保育所等利用状況			
例	放課後等デイサービス	8歳	2019年	本法人では初めての利用	○	◎							なし	なし	登校している	利用している	対象外	なし	適切
01																			
02																			
03																			
04																			
05																			
06																			
07																			
08																			
09																			
10																			
11																			
12																			
13																			
14																			
15																			
16																			
17																			
18																			
19																			
20																			
21																			
22																			
23																			
24																			
25																			
26																			
27																			
28																			
29																			
30																			
31																			
32																			
33																			
34																			
35																			
36																			
37																			
38																			
39																			
40																			
41																			
42																			
43																			
44																			
45																			
46																			
47																			
48																			
49																			
50																			





[illegible]



# タイムスタディ票

お子様ID		1 お子様が実施した活動内容について記入してください																		
1 月 1 8 日 (月)	利用開始時刻	~	利用終了時刻	送迎の有無			登園時												本日の利用状況	
							降園時													
	「活動」の開始時刻、終了時刻記入欄			活動内容	個別活動	職員のかかわり	活動目的												備考	
							A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L		
	~																			
	~																			
	~																			
	~																			
	~																			
	~																			
	~																			
	~																			
	~																			
	1 月 1 9 日 (火)	利用開始時刻	~	利用終了時刻	送迎の有無			登園時												本日の利用状況
			降園時																	
「活動」の開始時刻、終了時刻記入欄			活動内容	個別活動	職員のかかわり	活動目的												備考		
						A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L			
~																				
~																				
~																				
~																				
~																				
~																				
~																				
~																				
~																				
1 月 2 0 日 (水)		利用開始時刻	~	利用終了時刻	送迎の有無			登園時												本日の利用状況
				降園時																
	「活動」の開始時刻、終了時刻記入欄			活動内容	個別活動	職員のかかわり	活動目的												備考	
							A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L		
	~																			
	~																			
	~																			
	~																			
	~																			
	~																			
	~																			
	~																			
	~																			

# タイムスタディ票 記入例

お客様ID		例														のお客様が実施した活動内容について記入してください													
利用開始時刻		～		利用終了時刻		送迎の有無		登園時		送迎あり		本日の利用状況																	
15:00		～		17:30		送迎あり		降園時		送迎あり		利用（定時利用）																	
「活動」の開始時刻、終了時刻記入欄		活動内容		個別活動		職員のかかわり		活動目的												備考									
								A B C D E F G H I J K L																					
1月18日（月）	15:00	～	15:15	登降園準備等			その他												○	バイタル測定									
	15:15	～	15:45	食事・おやつ			直接介助						○																
	15:45	～	16:00	昼寝・休憩			見守り								○														
	16:00	～	16:50	学習支援			見守り						○																
	16:50	～	17:20	自由遊び			見守り			○			○																
	17:20	～	17:30	登降園準備等			その他												○										
	17:30	～																											
		～																											
利用開始時刻を入力すると、自動で入力されます																													
各活動の終了時刻を入力すると、自動で入力されます																													
活動の開始時刻と終了時刻に空きがないように記入願います																													
利用終了時刻が最後のセルに自動入力されたら、この日の入力は終了です																													
1月19日（火）	15:00	～	18:30	送迎の有無			登園時			送迎あり		本日の利用状況																	
	15:00	～	18:30	送迎なし			降園時			送迎なし		利用（開始定時、終了延長）																	
	「活動」の開始時刻、終了時刻記入欄	活動内容	個別活動	職員のかかわり	活動目的												備考												
					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L													
	15:00	～	15:15	登降園準備等			その他										○	バイタル測定											
	15:15	～	15:45	食事・おやつ			直接介助						○																
	15:45	～	16:00	昼寝・休憩			見守り							○															
	16:00	～	16:25	設定遊び	レ						○		○																
	16:25	～	16:50	設定遊び			見守り			○																			
	16:50	～	17:30	自由遊び			見守り			○																			
	17:30	～	18:20	テレビ等視聴			見守り			○																			
	18:20	～	18:30	登降園準備等			その他											○											
「活動内容」が同じであっても、「個別活動」の状況、「職員のかかわり」「活動目的」に変化がある場合は時間を分けて記入願います																													
終了後は空欄のままをお願いします																													
1月20日（水）	16:00	～	17:30	送迎の有無			登園時			送迎なし		本日の利用状況																	
	16:00	～	17:30	送迎あり			降園時			送迎あり		利用（開始遅刻、終了定時）																	
	「活動」の開始時刻、終了時刻記入欄	活動内容	個別活動	職員のかかわり	活動目的												備考												
					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L													
	～																												
	～																												
	～																												
	～																												
	～																												
	～																												
	～																												
	利用していない日は「本日の利用状況」について「利用していない」を記入しそれ以外の項目の記入は不要です																												

②ケース票のお客様IDに該当するお客様全員分について、ご記入ください。

50人分の記入欄がありますが、50人以上対象者がいる場合は、50人目のコピーして追加して記入してください

タイムスタディ票 記入参考資料

タイムスタディ票 記入参考資料

■活動内容の記載項目 お子様の活動内容について、以下よりあてはまる項目をお選びください		
	項目	概要
a.活動	1 学習支援	学校の宿題や授業の補足、支援を行う活動
	2 創作活動	描画、工作、書道等の活動
	3 音楽活動	楽器等演奏や歌などの活動
	4 体育活動	スポーツやトランポリン、ラジオ体操などの活動
	5 調理活動	調理やその準備、食材選びなどの活動
	6 設定遊び	職員の指示等に合わせて行う遊び
	7 自由遊び	児童が自発的に行う遊び
	8 話し合い	児童同士の話し合いや準備、振り返りを行う活動（職員はその示唆出しやサポートを行う活動）
	9 テレビ等視聴	テレビ、ビデオ、タブレットやPCなどを通じて映像等を視聴する活動
	10 軽作業・活動	散歩や清掃などの作業、活動
	11 食事・おやつ	給食やおやつを食する活動
	12 健康管理	投薬・服薬・感染予防といった活動
	13 専門的訓練	PT・OT・ST等の専門職による専門的訓練、リハビリテーション
b.昼寝・休息	14 昼寝・休憩	昼寝などを通じた休息
c.その他	15 登降園準備等	登園時、降園時の準備、バイタル測定などを含む
	16 その他	

■個別活動 以下の個別活動を行っている場合に「レ」のチェックを入れてください		
レ	個別活動	児童1人に対し、職員1人が対応する活動
※1部屋に集まっているが、パーテーション等でスペースを区切りその中で個々人が別々に活動し、1人の職員が時間を区切って1人1人に対応している場合も「個別活動」として、チェックをお願いします（強度自閉症の方などへの対応）		

■職員のかかわり 選択したお子様の「活動内容」への職員のかかわり方を以下の4択よりお選びください		
1	直接介助	専門的生活介助（更衣、排泄、食事、起居、体位変換、移乗、移動などの一連の介助）を行う
2	間接的介助	活動の様子を観察しつつ、必要により専門的生活介助を行える体制でのかかわり
3	見守り	活動の様子を観察し、必要により活動の示唆を与える
4	その他	バイタル測定など

■活動目的 選択したお子様の「活動内容」を実施する目的を記載してください ※複数ある場合は複数選択してください。		
A	基本的なADLの自立訓練	日常生活を営む上で必要な心身の動作を身に着けるために行うリハビリ等行うこと
B	身体機能の向上	身体を動かし、身体機能全般の向上させること
C	社会性やコミュニケーションスキルの獲得	社会で生活するためのスキルを身に着けること
D	感性と表現力の向上	児童の情緒や感性の発達を促進すること
E	身近な環境へのかかわり	家族や職員以外の地域社会とかかわること
F	学習教材や宿題等への取組、学習支援	知識や日々の学習の支援を行うこと
G	本人が自由に過ごせる時間の提供	本人の関心や趣味に合わせて活動すること
H	本人自身が将来や関心について考える機会	自分で考えて自己判断できるようになること、そのために必要な見分を拡げること
I	安心安全が確保されたリラックスできる場の提供	滞在することでリラックスしてもらうこと
J	働くことの理解や働く場との接点の提供	働くためのスキルや心構えを身に着けること
K	集団での活動への慣れや訓練	学校や保育所等といった集団で生活することになれること、スキルを身に着けること
L	その他	A～Kにはない目的

## 保護者の皆様への調査

平素は格別のご厚情を賜り、厚く感謝申し上げます。

この度、PwC コンサルティング合同会社では厚生労働省令和 2 年度障害者総合福祉推進事業の内示を受け、障害児支援のあり方に関する調査研究事業を実施させていただいております。本調査は一般社団法人全国児童発達支援協議会様（以下、同協議会といいます）にご協力いただき、同協議会に加盟する事業所および法人の障害児サービスを令和 3 年 1 月 18 日（月）から 1 月 24 日（日）に利用したお子様の保護者の皆様に対象に調査を実施しております。調査内容はお子様が利用するサービス内容、保護者の皆様の就労状況、利用しているサービスの満足度等になります。

回答の集計結果は報告書として取りまとめ、厚生労働省及び弊社ホームページにて公開するとともに、今後の障害児支援サービスを検討する上での参考資料として厚生労働省において活用頂きます。

データは全て統計的に処理され、個人や地域、事業所名が特定される形で公表されることはありません。

また、回答にあたり事業所 ID、枝番、お子様 ID をご記入いただきますが、個人名については弊社へ共有されないため、弊社にて個人を特定することはできません。

なお、本調査に回答いただかない場合や、回答を中断される場合であっても、それによりいかなる不利益も受けることはありません。

以上の調査趣旨及び条件をご理解頂いた上で、本調査にご協力頂けますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

### 【回答につきまして】

・「～と回答した方にお伺いします」と記載のある設問（※）を除き、すべての設問にご回答ください。

※例として、「→問 3 で「通院している」と回答した方にお伺いします」と注意書きのある設問は、問 3 で左記の通り回答した方のみご回答ください。

事業所 ID、枝番、お子様 ID の記入

事業所から知らされた事業所 ID（3桁）、枝番（2桁）とお子様 ID（2桁）をご記入ください

事業所 ID（数字 3 桁）を記入してください

枝番（数字 2 桁）を記入してください

お子様 ID（数字 2 桁）を記入してください

事業所 ID（数字 3 桁）を記入してください

問 1 .お子様が利用しているサービスをお選びください

※調査票を渡された事業所で利用しているサービスを以下より 1 つに○をしてください

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1.放課後等デイサービス | 2.児童発達支援    |
| 3.児童発達支援センター | 4.医療型児童発達支援 |



I. 同居家族と就労等の状況

ご家族の状況についてお伺いします

問1. 回答者の続柄をお選びください

※あてはまるもの1つに○をしてください

1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父

・その他（以下に詳細をご記載下さい）

--

問2. お住まいから利用されている障害児サービス事業所までの移動時間を教えてください

※分単位でご記入ください

--

問3. お子様の医療機関への通院状況をお選びください

※当てはまるもの1つに○をしてください

1. 通院している 2. 通院していない

→問3で「1. 通院している」と回答した方にお伺いします

問4. お子様が通院している医療機関の診療科目をお選びください

※あてはまるものすべてに○をしてください

1. 小児科 2. 耳鼻咽喉科 3. 産婦人科 4. 整形外科 5. 内科

6. 児童精神科/精神科/心療内科 7. その他（以下に詳細をご記載下さい）

--

問5. お子様が同居している家族をお選びください

※あてはまるものすべてに○をしてください

- 1.母親 2.父親 3.祖父 4.祖母 5.中学生以上のきょうだい 6.小学生のきょうだい  
7.未就学児年上のきょうだい 8.未就学児年下のきょうだい

・その他（以下に詳細をご記載下さい）

--

問6. お子様の子育てについて、相談にのってくれたり、サポートしてくれる方はいますか

※あてはまるものすべてに○をしてください

- 1.同居家族 2.同居していない家族 3.近隣や地域の方 4.福祉サービスを提供する事業所の方  
5.学校などの教育機関の方 6.保育所や幼稚園、認定こども園の方 7.該当する方はいない  
8.その他（以下に詳細をご記載下さい）

--

問6.同居している母親についてお伺いします（ご回答者が母親の場合はご自身のことについてお答えください）

問6-1.同居している母親は働いていますか

※あてはまるもの1つに○をしてください

※母親が同居していない場合は「対象外」を選択してください

- 1.働いている 2.働いていない 3.対象外

→問 6－1 で「1.働いている」と回答された母親についてお伺いします

問 6-2. 働き方についてあてはまるものをお選びください

※典型的な 1 週間の働き方を以下より 1 つに○をしてください。派遣社員の方は非正規社員としてご回答ください。公務員の方は社員表現を読み替えてご回答ください。自営業の方はその他にご記入ください

- 1.正社員として週 5 日働いている（土日は休み）
- 2.正社員として週 5 日働いている（土日も出勤する場合有）
- 3.非正規社員として週 4 日以下で働いている（土日は休み）
- 4.非正規社員として週 4 日以下で働いている（土日も出勤する場合有）
- 5.非正規社員として週 5 日働いている（土日は休み）
- 6.非正規社員として週 5 日働いている（土日も出勤する場合有）
- 7.その他（以下に詳細をご記載下さい）

--

→問 6－1 で「1.働いている」と回答された母親についてお伺いします

問 6-3.お住まいから職場までの通勤時間をお答えください

※分単位でご記入ください

--

→問 6－1 で「1.働いている」と回答された母親についてお伺いします

問 6-4. 学校やサービス事業所等からの帰宅時間により、母親の就労環境に影響が出ていますか

※もっともあてはまるものひとつに○をしてください

- 1.特に影響が出ていない    2.働く時間を短くせざるを得なかった    3.働くことをやめざるを得なかった
- 4.その他（以下に詳細をご記載下さい）

--

問 7 .同居している父親についてお伺いします（ご回答者が父親の場合はご自身のことについてお答えください）

問 7-1.同居している父親は働いていますか

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

※父親が同居していない場合は「対象外」を選択してください

- 1.働いている    2.働いていない    3.対象外

→問 7 - 1 で「1.働いている」と回答された父親についてお伺いします

問 7 -2. 働き方についてあてはまるものをお選びください

※典型的な 1 週間の働き方を以下より 1 つに○をしてください。派遣社員の方は非正規社員としてご回答ください。公務員の方は社員表現を読み替えてご回答ください。 自営業の方はその他にご記入ください

- 1.正社員として週 5 日働いている（土日は休み）  
2.正社員として週 5 日働いている（土日も出勤する場合有）  
3.非正規社員として週 4 日以下で働いている（土日は休み）  
4.非正規社員として週 4 日以下で働いている（土日も出勤する場合有）  
5.非正規社員として週 5 日働いている（土日は休み）  
6.非正規社員として週 5 日働いている（土日も出勤する場合有）  
7.その他（以下に詳細をご記載下さい）

--

→問 7 - 1 で「1.働いている」と回答された父親についてお伺いします

問 7-3.お住まいから職場までの通勤時間をお答えください

※分単位でご記入ください

--

→問 7－1 で「1.働いている」と回答された父親についてお伺いします

問 7-4 学校やサービス事業所等からの帰宅時間により、父親の就労環境に影響が出ていますか

※もっともあてはまるもの 1 つに○をしてください

- 1.特に影響が出ていない    2.働く時間を短くせざるを得なかった    3.働くことをやめざるを得なかった  
4.その他（以下に詳細をご記載下さい）

--

問 8 .同居する家族に介護が必要なご家族はいますか

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

※お子様以外の同居する家族についてお選びください

- 1.いる    2.いない

## Ⅱ .併用サービス等について

調査対象となったお子様が利用しているサービス、学校、保育所等についてお伺いします。

問 1 .お子様が利用しているサービスをお伺いします。

調査依頼を受けたサービス事業所以外のサービスについてお答えください

問 1-1.放課後等デイサービス事業所を併用していますか

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

※調査依頼を受けた事業所のみの利用の場合は「併用なし」を選択してください。

- 1.併用なし    2.1 か所併用している    3.2 か所併用している    4.3 か所以上併用している

問 1-2.児童発達支援事業所を併用していますか

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

※調査依頼を受けた事業所のみの利用の場合は「併用なし」を選択してください。

1.併用なし 2.1 か所併用している 3.2 か所併用している 4.3 か所以上併用している

問 1-3.児童発達支援センターを併用していますか

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

※調査依頼を受けた事業所のみの利用の場合は「併用なし」を選択してください。

1.併用なし 2.1 か所併用している 3.2 か所併用している 4.3 か所以上併用している

問 1-4.医療型児童発達支援を併用していますか

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

※調査依頼を受けた事業所のみの利用の場合は「併用なし」を選択してください。

1.併用なし 2.1 か所併用している 3.2 か所併用している 4.3 か所以上併用している

問 2 .お子様が利用している保育所等のサービスについてお伺いします

問 2-1.保育所を利用していますか

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

※令和 3 年 1 月のおおよその状況をお答えください

1.利用していない 2.週に 1 回利用している 3.週に 2 回利用している  
4.週に 3 回利用している 5.週に 4 回利用している 6.週に 5 回以上利用している

問 2-2.幼稚園を利用していますか

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

※令和 3 年 1 月のおおよその状況をお答えください

1.利用していない 2.週に 1 回利用している 3.週に 2 回利用している  
4.週に 3 回利用している 5.週に 4 回利用している 6.週に 5 回以上利用している

問 2-3.認定こども園を利用していますか

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

※令和 3 年 1 月のおおよその状況をお答えください

- 1.利用していない    2.週に 1 回利用している    3.週に 2 回利用している  
4.週に 3 回利用している    5.週に 4 回利用している    6.週に 5 回以上利用している

問 3 .問 1、問 2 で回答したサービス以外で、お子様が利用しているサービス等についてお伺いします

※放課後等デイサービス事業所、児童発達支援事業所、児童発達支援センター、医療型児童発達支援事業所、保育所、幼稚園、認定こども幼稚園以外に利用しているサービス等についてお伺いします

問 3-1.以下のサービスで利用している（通学している）サービス等がありますか

※利用している（通学している）サービス等をすべてに○をしてください

- 1.小学校    2.中学校    3.高等学校    4.特別支援学校/特別支援学級    5.通級指導教室  
6.医療機関    7.放課後児童クラブ    8.障害児/者 相談支援事業所    9.地域の自治体・町内会  
10.特にない

・その他（以下に詳細をご記載下さい）

--

#### IV. 課外活動

お子様の課外活動についてお伺いします

問 1 .お子様は学校や保育所等から帰宅後最も長い時間関わる方はどなたですか？

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

※お子様の冬休みが終わってからのちの、最近 1 , 2 週間のことについてお答えください

1.母親 2.父親 3.祖父 4.祖母 5.中学生以上のきょうだい 6.小学生のきょうだい

7.未就学児年上のきょうだい 8.未就学児年下のきょうだい

9.その他（以下に詳細をご記載下さい）

--

問 2 .お子様は学校や事業所でのサービスの利用がないときは何をして過ごしていますか

※あてはまるものすべてに○をしてください

1.家で勉強や読書をしている

2.地域の活動に参加している

3.学習塾など学校や自宅以外で勉強している

4.習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている

5.スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている

6.家でテレビやビデオ、DVD を見たり、ゲームをしたりしている

7.家族と過ごしている

8.友達と遊んでいる

9.その他（以下に詳細をご記載下さい）

--



## V. サービス利用の満足度等

調査票が渡された事業所の満足度等についてお伺いします

問1. お子様が利用されている事業所のサービス利用の満足度をお答えください

※あてはまるもの1つに○をしてください

1. とても満足 2. 満足 3. 普通 4. 不満 5. とても不満

問2. 障害児サービス事業所に期待することについてお伺いします

①から⑩の各項目について「重視している」～「重視していない」の5つの選択からお選びください 現在通っている事業所に関わらずお答えください

①日常生活を営む上で必要な心身の動作を身に着けるためにリハビリ等行うこと

※あてはまるもの1つに○をしてください

1. 重視している 2. やや重視している 3. どちらともいえない 4. あまり重視していない  
5. 重視していない

②身体を動かし、身体機能全般の向上させること

※あてはまるもの1つに○をしてください

1. 重視している 2. やや重視している 3. どちらともいえない 4. あまり重視していない  
5. 重視していない

③社会で生活するためのスキルを身に付けること

※あてはまるもの1つに○をしてください

1. 重視している 2. やや重視している 3. どちらともいえない 4. あまり重視していない  
5. 重視していない

④子どもの情緒や感性の発達を促進すること

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

- 1.重視している    2.やや重視している    3.どちらともいえない    4.あまり重視していない  
5.重視していない

⑤家族や職員以外の地域社会とかかわること

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

- 1.重視している    2.やや重視している    3.どちらともいえない    4.あまり重視していない  
5.重視していない

⑥知識や日々の学習の支援を行うこと

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

- 1.重視している    2.やや重視している    3.どちらともいえない    4.あまり重視していない  
5.重視していない

⑦本人の関心や趣味に合わせて活動すること

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

- 1.重視している    2.やや重視している    3.どちらともいえない    4.あまり重視していない  
5.重視していない

⑧自分で考えて自己判断できるようになること、そのために必要な見分を拡げること

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

- 1.重視している    2.やや重視している    3.どちらともいえない    4.あまり重視していない  
5.重視していない

⑨滞在することでリラックスすること

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

- 1.重視している    2.やや重視している    3.どちらともいえない    4.あまり重視していない  
5.重視していない

⑩働くためのスキルや心構えを身に着けること

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

- 1.重視している    2.やや重視している    3.どちらともいえない    4.あまり重視していない  
5.重視していない

⑪学校生活に適應できること

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

- 1.重視している    2.やや重視している    3.どちらともいえない    4.あまり重視していない  
5.重視していない

⑫長時間預かってくれること

※あてはまるもの 1 つに○をしてください

- 1.重視している    2.やや重視している    3.どちらともいえない    4.あまり重視していない  
5.重視していない

①から⑫以外に重視している項目があればご記入ください

--

## VI. 今後のサービス利用

今後のサービス利用希望についてお伺いします

問 1 .以下の各項目について、今後サービス利用を考えていますか

※利用を考えている学校や保育所等のサービスをすべて○してください（現在利用しているサービスには○を付けないでください。ただし、利用事業所を変えたい場合は○を付けてください）

- ・保育所   ・幼稚園   ・認定こども園   ・放課後等児童クラブ   ・障害児/者相談支援事業所
- ・放課後等デイサービス   ・児童発達支援   ・児童発達支援センター   ・医療型児童発達支援
- ・特別支援学校   ・特別支援学校   ・特別支援学級   ・小学校/中学校   ・高校
- ・その他（以下に詳細をご記載下さい）

--

問 2 . 問 1 のように考えた理由をお答えください。

--

## 資料2 集計資料

---

# (1) タイムスタディ票 クロス集計

## ①利用サービス別の集計

図表 178 利用サービス別の活動内容

		活動内容（全体に対する構成比）								
利用サービス	全体 (時間)	学習 支援	創作 活動	音楽 活動	体育 活動	調理 活動	設定 遊び	自由 遊び	話し 合い	テレ ビ等 視聴
放課後等デイ サービス	4,528	6.9%	3.1%	1.3%	6.2%	0.4%	10.6%	22.3%	2.4%	1.0%
児童発達支援 全体	13,631	0.9%	2.6%	3.0%	6.6%	0.1%	15.7%	21.1%	0.1%	0.1%
児童発達支 援	3,649	0.7%	2.9%	3.6%	7.7%	0.3%	12.4%	23.5%	0.2%	0.1%
児童発達支 援センター	8,357	1.2%	2.8%	2.8%	7.1%	0.0%	16.3%	21.8%	0.1%	0.2%
医療型児童 発達支援	1,625	0.0%	1.1%	2.6%	1.5%	0.0%	20.0%	12.5%	0.0%	0.0%
サービス全体	18,705	2.3%	2.7%	2.6%	6.6%	0.2%	14.4%	21.7%	0.8%	0.3%
		活動内容（全体に対する構成比）								
利用サービス	全体 (時間)	軽作 業・ 活動	食 事・ おや つ	健康 管理	専門 的訓 練	昼 寝・ 休憩	登降 園準 備等	その 他	無回 答	
放課後等デイ サービス	4,528	5.5%	12.6%	1.4%	4.3%	2.0%	13.4%	6.5%	0.1%	
児童発達支援 全体	13,631	1.2%	19.2%	0.7%	3.4%	2.9%	12.3%	10.0%	0.0%	
児童発達支 援	3,649	2.0%	17.3%	1.7%	0.5%	4.4%	13.5%	9.1%	0.0%	
児童発達支 援センター	8,357	1.0%	19.1%	0.3%	3.0%	0.9%	12.4%	10.9%	0.0%	
医療型児童 発達支援	1,625	0.0%	23.6%	0.6%	11.7%	9.7%	9.0%	7.7%	0.0%	
サービス全体	18,705	2.2%	17.5%	0.9%	3.7%	2.6%	12.5%	9.0%	0.0%	

図表 179 利用サービス別の個別活動

利用サービス	全体 (時間)	個別活動（全体に対する構成比）	
		個別活動	個別活動以外
放課後等デイサービス	4,528	26.5%	73.5%
児童発達支援全体	13,631	18.4%	81.6%
児童発達支援	3,649	7.6%	92.4%
児童発達支援センター	8,357	22.9%	77.1%
医療型児童発達支援	1,625	19.6%	80.4%
サービス全体	18,705	20.2%	79.8%

図表 180 利用サービス別の活動目的

		活動目的（全体に対する構成比）						
利用サービス	全体 (時間)	基本的 なADL の自立 訓練	身体機 能の向 上	社会性 やコミ ュニケ ーショ ンスキ ルの獲 得	感性と 表現力 の向上	身近な 環境へ のかか わり	学習教 材や宿 題等へ の取 組、学 習支援	本人が 自由に 過ごせ る時間 の提供
放課後等デイサービス	4,528	21.5%	14.9%	42.0%	18.3%	5.3%	8.9%	30.0%
児童発達支援全体	13,631	32.2%	23.7%	45.3%	20.1%	1.9%	3.2%	24.7%
児童発達支援	3,649	30.9%	19.0%	38.0%	19.7%	3.1%	3.3%	24.2%
児童発達支援センター	8,357	34.4%	26.1%	53.9%	21.5%	1.7%	3.3%	26.9%
医療型児童発達支援	1,625	23.9%	22.5%	17.2%	14.0%	0.6%	2.1%	14.1%
サービス全体	18,705	29.7%	21.4%	45.2%	20.1%	3.0%	5.2%	26.3%
		活動目的（全体に対する構成比）						
利用サービス	全体 (時間)	本人自 身が将 来や関 心につ いて考 える機 会	安心安 全が確 保され たリラ ックス できる 場の提 供	働くこ との理 解や働 く場と の接点 の提供	集団で の活動 への慣 れや訓 練	その他	無回答	
放課後等デイサービス	4,528	2.6%	24.0%	2.7%	25.4%	8.1%	1.1%	
児童発達支援全体	13,631	1.9%	14.5%	0.1%	32.1%	7.1%	1.8%	
児童発達支援	3,649	2.3%	19.9%	0.3%	27.6%	11.9%	1.7%	
児童発達支援センター	8,357	1.7%	12.7%	0.1%	33.1%	3.2%	1.9%	
医療型児童発達支援	1,625	2.2%	11.3%	0.2%	37.0%	16.3%	1.6%	
サービス全体	18,705	2.1%	17.1%	0.8%	30.7%	7.5%	1.6%	



## ②年齢階層別の集計

図表 181 年齢別の活動内容

		活動目的（全体に対する構成比）							
年齢階層	全体 （時間）	学習 支援	創作 活動	音楽 活動	体育 活動	調理 活動	設定 遊び	自由 遊び	話し 合い
全体（時間）	18,705	435	498	479	1,233	30	2,701	4,051	154
0 歳～3 歳	4,528	0.3%	2.3%	3.3%	6.3%	0.0%	18.7%	17.7%	0.1%
4 歳～6 歳	13,631	1.1%	2.6%	2.8%	6.5%	0.0%	14.4%	22.9%	0.2%
7 歳～9 歳	3,649	7.1%	2.8%	1.1%	6.5%	0.3%	13.1%	22.7%	2.6%
10 歳～12 歳	8,357	8.0%	3.4%	1.2%	5.3%	0.2%	11.0%	23.5%	3.1%
13 歳～	1,625	6.8%	4.2%	1.2%	8.1%	1.1%	7.0%	21.0%	1.9%

		活動目的（全体に対する構成比）								
年齢階層	全体 （時間）	テレ ビ等 視聴	軽作 業・ 活動	食事・ おや つ	健康 管理	専門 的訓 練	昼寝・ 休憩	登降 園準 備等	その 他	無回 答
全体（時間）	18,705	61	408	3,275	174	689	487	2,343	1,676	9
0 歳～3 歳	4,528	0.0%	0.8%	19.7%	0.8%	5.1%	4.0%	12.9%	7.9%	0.0%
4 歳～6 歳	13,631	0.2%	1.3%	19.2%	0.7%	3.1%	2.6%	11.8%	10.6 %	0.0%
7 歳～9 歳	3,649	0.4%	5.0%	10.8%	1.2%	4.7%	0.4%	14.3%	6.8%	0.3%
10 歳～12 歳	8,357	0.6%	6.0%	12.8%	1.4%	3.4%	1.3%	13.6%	5.2%	0.0%
13 歳～	1,625	1.1%	8.2%	11.0%	2.0%	2.9%	2.6%	16.8%	4.3%	0.0%

図表 182 年齢別の活動内容

年齢階層	全体 (時間)	個別活動	
		個別活動	個別活動以外
全体 (時間)	18,705	3,774	14,930
0 歳～3 歳	4,528	19.3%	80.7%
4 歳～6 歳	13,631	18.2%	81.8%
7 歳～9 歳	3,649	26.3%	73.7%
10 歳～12 歳	8,357	30.8%	69.2%
13 歳～	1,625	27.8%	72.2%

図表 183 年齢別の活動目的

		活動目的					
年齢階層	全体 (時間)	基本的 なADL の自立 訓練	身体機 能の向 上	社会性 やコミ ュニケ ーショ ンスキ ルの獲 得	感性と 表現力 の向上	身近な 環境へ のかか わり	学習教 材や宿 題等へ の取組、学 習支援
全体 (時間)	18,705	5,563	4,002	8,454	3,767	559	963
0歳~3歳	4,528	32.3%	24.0%	43.9%	21.8%	2.4%	1.6%
4歳~6歳	13,631	31.6%	23.5%	45.9%	19.6%	1.8%	3.7%
7歳~9歳	3,649	21.2%	15.0%	44.3%	16.8%	5.8%	9.0%
10歳~12歳	8,357	24.6%	13.9%	41.6%	15.5%	4.4%	10.6%
13歳~	1,625	24.7%	12.5%	34.8%	14.5%	6.7%	8.4%

		活動目的						
年齢階層	全体 (時間)	本人が 自由に 過ごせ る時間 の提供	本人自 身が将 来や関 心につ いて考 える機 会	安心安 全が確 保され たリラ ックス できる 場の提 供	働くこ との理 解や働 く場と の接点 の提供	集団で の活動 への慣 れや訓 練	その他	無回答
全体 (時間)	18,705	4,924	394	3,201	144	5,744	1,408	297
0歳~3歳	4,528	26.9%	2.1%	19.9%	0.1%	39.8%	8.2%	1.5%
4歳~6歳	13,631	25.5%	1.6%	12.9%	0.1%	28.8%	7.0%	1.5%
7歳~9歳	3,649	27.0%	1.1%	20.6%	1.1%	26.3%	8.1%	0.6%
10歳~12歳	8,357	25.5%	2.0%	22.6%	4.0%	25.0%	5.6%	3.0%
13歳~	1,625	28.4%	1.8%	25.1%	4.4%	25.7%	9.8%	2.7%

### ③個別活動の有無と活動内容

図表 184 個別活動の有無別の活動内容

		活動目的							
年齢階層	全体 (時間)	学習 支援	創作 活動	音楽 活動	体育 活動	調理 活動	設定 遊び	自由 遊び	話し 合い
個別活動	3,774	6.1%	3.2%	0.9%	6.5%	0.2%	13.0 %	15.5 %	0.7%
個別活動以外	14,930	1.4%	2.5%	3.0%	6.6%	0.1%	14.8 %	23.2 %	0.9%

		活動目的								
年齢階層	全体 (時間)	テレビ等 視聴	軽作 業・ 活動	食事・ おやつ	健康 管理	専門 的訓練	昼寝・ 休憩	登降 園準備等	その他	無回答
個別活動	3,774	0.2%	4.0%	12.1%	1.7%	14.6%	1.0%	14.0%	6.2%	0.0%
個別活動以外	14,930	0.4%	1.7%	18.9%	0.7%	0.9%	3.0%	12.2%	9.7%	0.1%

#### ④活動目的別の活動内容

図表 185 活動目的別の活動内容

利用サービス	全体 (時間)	活動内容							
		学習 支援	創作 活動	音楽 活動	体育 活動	調理 活動	設定 遊び	自由 遊び	話し 合い
全体 (時間)	18,705	435	498	479	1,233	30	2,701	4,051	154
基本的な ADL の 自立訓練	5,563	0.2%	0.5%	0.2%	1.0%	0.0%	4.2%	4.7%	0.0%
身体機能の向上	4,002	0.2%	1.1%	1.3%	28.7%	0.0%	25.0%	22.7%	0.2%
社会性やコミュニ ケーションスキル の獲得	8,454	1.1%	2.1%	2.4%	4.9%	0.3%	21.6%	27.7%	1.0%
感性と表現力の向 上	3,767	1.0%	9.7%	10.7%	4.9%	0.2%	32.6%	18.8%	1.0%
身近な環境へのか かわり	559	1.9%	3.3%	0.3%	13.0%	0.1%	21.1%	21.9%	2.7%
学習教材や宿題等 への取組、学習支 援	963	38.9%	6.9%	0.1%	2.6%	0.1%	22.9%	15.0%	0.5%
本人が自由に過ご せる時間の提供	4,924	0.2%	2.1%	1.1%	4.1%	0.0%	6.0%	75.6%	0.4%
本人自身が将来や 関心について考え る機会	394	1.0%	10.6%	3.1%	2.1%	0.0%	43.6%	12.1%	5.5%
安心安全が確保さ れたリラックスで きる場の提供	3,201	1.0%	2.7%	1.6%	5.9%	0.0%	9.7%	46.0%	0.4%
働くことの理解や 働く場との接点の 提供	144	22.5%	2.0%	0.6%	0.3%	0.5%	3.9%	7.1%	0.0%
集団での活動への 慣れや訓練	5,744	1.0%	3.7%	3.4%	8.6%	0.3%	31.5%	9.8%	1.3%
その他	1,408	0.0%	0.7%	3.2%	2.9%	0.3%	7.6%	6.8%	2.1%

(前ページからの続き)

利用サービス	全体 (時間)	活動内容							
		テレビ 等視聴	軽作 業・活 動	食事・ おやつ	健康管 理	専門的 訓練	昼寝・ 休憩	登降園 準備等	その 他
全体 (時間)	18,705	61	498	479	1,233	30	2,701	4,051	154
基本的な ADL の 自立訓練	5,563	0.0%	2.4%	40.4%	1.4%	6.5%	0.3%	30.2%	7.7%
身体機能の向上	4,002	0.0%	5.4%	1.6%	0.1%	8.1%	0.1%	1.9%	3.8%
社会性やコミュニ ケーションスキル の獲得	8,454	0.3%	2.5%	12.1%	0.6%	4.3%	0.1%	9.3%	9.8%
感性と表現力の向 上	3,767	0.4%	1.4%	5.6%	0.0%	6.6%	0.5%	1.9%	4.5%
身近な環境へのか かわり	559	0.0%	11.3%	11.1%	0.0%	3.0%	0.7%	5.7%	3.9%
学習教材や宿題等 への取組、学習支 援	963	0.3%	0.8%	2.2%	0.0%	4.1%	0.9%	2.8%	1.9%
本人が自由に過ご せる時間の提供	4,924	0.3%	0.5%	5.2%	0.0%	0.4%	1.9%	1.0%	1.1%
本人自身が将来や 関心について考え る機会	394	1.6%	2.4%	1.5%	0.0%	5.6%	0.4%	3.9%	6.7%
安心安全が確保さ れたリラックスで きる場の提供	3,201	0.6%	1.9%	13.6%	0.1%	0.9%	9.2%	3.4%	2.9%
働くことの理解や 働く場との接点の 提供	144	0.0%	40.4%	11.1%	0.0%	0.9%	5.4%	0.8%	4.5%
集団での活動への 慣れや訓練	5,744	0.1%	1.6%	14.7%	0.5%	1.4%	2.1%	11.8%	8.2%
その他	1,408	0.4%	0.3%	23.7%	4.1%	4.4%	2.1%	26.1%	15.3%

## (2) ケース票および保護者調査票 クロス集計

### ①支給決定日数

図表 186 学童保育「利用あり」と支給決定日数

学童利用 あり	5 日未満	5 日以上 10 日未 満	10 日以 上 15 日 未満	15 日以 上 20 日 未満	20 日以 上 25 日 未満	25 日以 上	無回答
0 歳 ~3 歳 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-
4 歳 ~6 歳 (n=3)	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
7 歳 ~9 歳 (n=37)	13.5%	16.2%	13.5%	16.2%	35.1%	5.4%	0.0%
10 歳~12 歳 (n=18)	16.7%	16.7%	5.6%	11.1%	44.4%	5.6%	0.0%
13 歳~ (n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
無回答(n=0)	-	-	-	-	-	-	-
計(n=60)	13.3%	16.7%	11.7%	13.3%	38.3%	5.0%	1.7%

図表 187 保育所「利用あり」と支給決定日数

保育所利用 あり	5 日未満	5 日以上 10 日未 満	10 日以 上 15 日 未満	15 日以 上 20 日 未満	20 日以 上 25 日 未満	25 日以 上	無回答
0 歳 ~3 歳 (n=173)	0.0%	27.2%	28.9%	12.7%	17.9%	1.2%	12.1%
4 歳 ~6 歳 (n=622)	0.6%	27.5%	24.4%	18.2%	23.5%	3.1%	2.7%
7 歳 ~9 歳 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-
10 歳~12 歳 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-
13 歳~ (n=0)	-	-	-	-	-	-	-
無 回 答 (n=23)	0.0%	4.3%	52.2%	26.1%	17.4%	0.0%	0.0%
計(n=818)	0.5%	26.8%	26.2%	17.2%	22.1%	2.6%	4.6%

図表 188 利用サービス事業所の「平日利用」と支給決定日数

平日利用 あり	5 日未満	5 日以上 10 日未 満	10 日 以 上 15 日 未満	15 日 以 上 20 日 未満	20 日 以 上 25 日 未満	25 日 以 上	無回答
0 歳 ~3 歳 (n=524)	0.2%	15.1%	22.1%	17.4%	33.0%	3.4%	8.8%
4 歳 ~6 歳 (n=1146)	0.7%	16.3%	16.1%	12.4%	40.1%	11.4%	2.9%
7 歳 ~9 歳 (n=347)	7.8%	13.5%	8.6%	10.1%	37.5%	13.5%	8.9%
10 歳~12 歳 (n=249)	4.0%	6.0%	14.9%	8.8%	36.5%	21.7%	8.0%
13 歳~ (n=213)	2.3%	4.7%	6.6%	9.4%	42.3%	24.4%	10.3%
無 回 答 (n=50)	0.0%	2.0%	30.0%	22.0%	46.0%	0.0%	0.0%
計(n=2529)	2.0%	13.4%	15.7%	12.7%	38.2%	11.9%	6.0%

図表 189 利用サービス事業所の「土日祝日利用」と支給決定日数

土日祝 利用あり	5 日未満	5 日以上 10 日未 満	10 日 以 上 15 日 未満	15 日 以 上 20 日 未満	20 日 以 上 25 日 未満	25 日 以 上	無回答
0 歳 ~3 歳 (n=54)	0.0%	5.6%	20.4%	7.4%	48.1%	18.5%	0.0%
4 歳 ~6 歳 (n=173)	0.0%	13.3%	9.2%	4.6%	20.2%	52.6%	0.0%
7 歳 ~9 歳 (n=90)	2.2%	8.9%	3.3%	10.0%	45.6%	24.4%	5.6%
10 歳~12 歳 (n=86)	3.5%	7.0%	11.6%	10.5%	25.6%	41.9%	0.0%
13 歳 ~(n=112)	3.6%	9.8%	3.6%	7.1%	42.9%	33.0%	0.0%
無回答(n=8)	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
計(n=523)	1.7%	9.8%	8.4%	8.0%	33.7%	37.5%	1.0%

## ②保護者ニーズ

図表 190 障害児福祉サービス併用利用<sup>34</sup>と保護者ニーズ

併用あり	①日常生活を営む上で必要な心身の動作を身に着けるためにリハビリ等行うこと	②身体を動かし、身体機能全般の向上させること	③社会で生活するためのスキルを身に付けること	④子どもの情緒や感性の発達を促進すること	⑤家族や職員以外の地域社会とかかわること	⑥知識や日々の学習の支援を行うこと
0歳～3歳 (n=82)	59.8%	64.6%	68.3%	79.3%	61.0%	40.2%
4歳～6歳 (n=215)	63.3%	66.0%	67.0%	83.7%	43.7%	34.4%
7歳～9歳 (n=76)	44.7%	47.4%	78.9%	81.6%	38.2%	40.8%
10歳～12歳 (n=48)	41.7%	45.8%	62.5%	68.8%	45.8%	27.1%
13歳～ (n=50)	46.0%	56.0%	56.0%	62.0%	28.0%	24.0%
無回答 (n=5)	40.0%	40.0%	80.0%	60.0%	80.0%	20.0%
計 (n=476)	55.5%	59.5%	67.6%	78.6%	44.7%	34.5%
併用あり	⑦本人の関心や趣味に合わせて活動すること	⑧自分で考えて自己判断できるようになること、そのために必要な見分を拡げること	⑨滞在することでのリラックスすること	⑩働くためのスキルや心構えを身に着けること	⑪学校生活に適應できること	⑫長時間預かってもらえること
0歳～3歳 (n=82)	61.0%	59.8%	52.4%	24.4%	64.6%	12.2%
4歳～6歳 (n=215)	53.0%	52.6%	49.8%	24.7%	65.6%	26.0%
7歳～9歳 (n=76)	51.3%	61.8%	51.3%	43.4%	63.2%	28.9%
10歳～12歳 (n=48)	43.8%	45.8%	47.9%	27.1%	50.0%	31.3%
13歳～ (n=50)	52.0%	36.0%	54.0%	34.0%	44.0%	40.0%
無回答 (n=5)	40.0%	60.0%	40.0%	100.0%	60.0%	60.0%
計(n=476)	52.9%	52.9%	50.6%	29.6%	61.1%	26.5%

<sup>34</sup> 本調査の依頼を受けた事業所以外に障害児福祉サービス（放課後等デイサービス、児童発達支援事業所、児童発達支援センター、医療型児童発達支援）の利用がある場合は「併用あり」、ない場合は「併用なし」として集計した。



(続き)

併用なし	①日常生活を営む上で必要な心身の動作を身に着けるためにリハビリ等行うこと	②身体を動かし、身体機能全般の向上させること	③社会で生活するためのスキルを身に付けること	④子どもの情緒や感性の発達を促進すること	⑤家族や職員以外の地域社会とかかわること	⑥知識や日々の学習の支援を行うこと
0 歳～3 歳 (n=182)	73.1%	73.1%	72.5%	80.8%	47.8%	43.4%
4 歳～6 歳 (n=303)	57.8%	61.1%	71.0%	78.2%	37.6%	36.6%
7 歳～9 歳 (n=77)	33.8%	41.6%	75.3%	74.0%	32.5%	31.2%
10 歳～12 歳 (n=54)	37.0%	37.0%	75.9%	79.6%	50.0%	42.6%
13 歳 ～(n=41)	36.6%	56.1%	70.7%	56.1%	29.3%	26.8%
無 回 答 (n=17)	35.3%	47.1%	88.2%	76.5%	52.9%	17.6%
計 (n=674)	55.6%	59.5%	72.7%	77.2%	40.7%	37.2%
併用なし	⑦本人の関心や趣味に合わせて活動すること	⑧自分で考えて自己判断できるようになること、そのために必要な見分を拡げること	⑨滞在することでリラックスすること	⑩働くためのスキルや心構えを身に着けること	⑪学校生活に適應できること	⑫長時間預かってくれること
0 歳～3 歳 (n=182)	62.6%	60.4%	54.9%	26.9%	67.0%	11.5%
4 歳～6 歳 (n=303)	52.8%	61.4%	53.8%	27.1%	69.0%	14.9%
7 歳～9 歳 (n=77)	46.8%	68.8%	51.9%	33.8%	59.7%	26.0%
10 歳～12 歳 (n=54)	55.6%	66.7%	57.4%	35.2%	50.0%	29.6%
13 歳 ～(n=41)	39.0%	41.5%	46.3%	43.9%	41.5%	26.8%
無 回 答 (n=17)	52.9%	52.9%	41.2%	17.6%	41.2%	23.5%
計 (n=674)	54.2%	61.0%	53.4%	29.2%	63.5%	17.4%

図表 191 子ども子育て支援制度利用<sup>35</sup>と保護者ニーズ

利用あり	①日常生活を営む上で必要な心身の動作を身に着けるためにリハビリ等行うこと	②身体を動かし、身体機能全般の向上させること	③社会で生活するためのスキルを身に付けること	④子どもの情緒や感性の発達を促進すること	⑤家族や職員以外の地域社会とかかわること	⑥知識や日々の学習の支援を行うこと
0 歳～3 歳 (n=87)	65.5%	65.5%	78.2%	86.2%	54.0%	35.6%
4 歳～6 歳 (n=251)	51.0%	54.2%	72.9%	78.9%	40.2%	37.8%
7 歳～9 歳 (n=6)	33.3%	50.0%	66.7%	83.3%	16.7%	50.0%
10 歳～12 歳 (n=2)	50.0%	0.0%	50.0%	100.0%	100.0%	100.0%
13 歳 ～(n=3)	0.0%	33.3%	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%
無 回 答 (n=5)	60.0%	20.0%	80.0%	40.0%	60.0%	0.0%
計 (n=354)	54.0%	55.9%	74.0%	79.9%	43.5%	37.3%
利用あり	⑦本人の関心や趣味に合わせて活動すること	⑧自分で考えて自己判断できるようになること、そのために必要な見分を拡げること	⑨滞在することでのリラックスすること	⑩働くためのスキルや心構えを身に着けること	⑪学校生活に適應できること	⑫長時間預かってくれること
0 歳～3 歳 (n=87)	65.5%	69.0%	52.9%	25.3%	77.0%	10.3%
4 歳～6 歳 (n=251)	53.4%	62.2%	48.2%	26.7%	72.5%	10.4%
7 歳～9 歳 (n=6)	66.7%	66.7%	83.3%	33.3%	50.0%	50.0%
10 歳～12 歳 (n=2)	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	50.0%
13 歳 ～(n=3)	33.3%	33.3%	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%
無 回 答 (n=5)	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	60.0%	0.0%
計 (n=354)	56.5%	63.6%	50.0%	26.3%	73.2%	11.3%

<sup>35</sup> 利用している子ども子育て支援サービス（保育所、幼稚園、認定こども園）以外に障害児福祉サービスがある場合は「併用あり」、ない場合は「併用なし」として集計した。

(続き)

利用なし	①日常生活を営む上で必要な心身の動作を身に着けるためにリハビリ等行うこと	②身体を動かし、身体機能全般の向上させること	③社会で生活するためのスキルを身に付けること	④子どもの情緒や感性の発達を促進すること	⑤家族や職員以外の地域社会とかかわること	⑥知識や日々の学習の支援を行うこと
0 歳～3 歳 (n=177)	70.6%	72.9%	67.8%	77.4%	50.8%	45.8%
4 歳～6 歳 (n=267)	68.5%	71.5%	65.9%	82.0%	40.1%	33.7%
7 歳～9 歳 (n=147)	39.5%	44.2%	77.6%	77.6%	36.1%	35.4%
10 歳～12 歳 (n=100)	39.0%	42.0%	70.0%	74.0%	47.0%	34.0%
13 歳 ～(n=88)	43.2%	56.8%	62.5%	60.2%	29.5%	25.0%
無 回 答 (n=17)	29.4%	52.9%	88.2%	82.4%	58.8%	23.5%
計 (n=796)	56.3%	61.1%	69.1%	76.8%	41.8%	35.6%
利用なし	⑦本人の関心や趣味に合わせて活動すること	⑧自分で考えて自己判断できるようになること、そのために必要な見分を拡げること	⑨滞在することでリラックスすること	⑩働くためのスキルや心構えを身に着けること	⑪学校生活に適応できること	⑫長時間預かってくれること
0 歳～3 歳 (n=177)	60.5%	55.9%	54.8%	26.6%	61.0%	12.4%
4 歳～6 歳 (n=267)	52.4%	53.6%	55.8%	25.5%	62.9%	28.1%
7 歳～9 歳 (n=147)	48.3%	65.3%	50.3%	38.8%	61.9%	26.5%
10 歳～12 歳 (n=100)	49.0%	56.0%	52.0%	31.0%	49.0%	30.0%
13 歳 ～(n=88)	46.6%	38.6%	50.0%	38.6%	42.0%	34.1%
無 回 答 (n=17)	52.9%	58.8%	47.1%	47.1%	41.2%	41.2%
計 (n=796)	52.4%	55.0%	53.3%	30.8%	57.8%	25.5%

図表 192 地域資源との接点の有無<sup>36</sup>と保護者ニーズ

接点あり	①日常生活を営む上で必要な心身の動作を身に着けるためにリハビリ等行うこと	②身体を動かし、身体機能全般の向上させること	③社会で生活するためのスキルを身に付けること	④子どもの情緒や感性の発達を促進すること	⑤家族や職員以外の地域社会とかかわること	⑥知識や日々の学習の支援を行うこと
0 歳～3 歳 (n=87)	71.4%	66.1%	78.6%	82.1%	46.4%	39.3%
4 歳～6 歳 (n=251)	59.9%	62.2%	70.9%	81.4%	41.9%	34.9%
7 歳～9 歳 (n=6)	39.2%	44.4%	77.1%	77.8%	35.3%	35.9%
10 歳～12 歳 (n=2)	39.6%	41.6%	70.3%	75.2%	48.5%	35.6%
13 歳 ～(n=3)	41.1%	55.6%	63.3%	58.9%	27.8%	25.6%
無 回 答 (n=5)	42.9%	35.7%	85.7%	78.6%	64.3%	28.6%
計 (n=354)	48.8%	52.7%	72.4%	75.9%	40.1%	34.1%
接点あり	⑦本人の関心や趣味に合わせて活動すること	⑧自分で考えて自己判断できるようになること、そのために必要な見分を拡げること	⑨滞在することでリラックスすること	⑩働くためのスキルや心構えを身に着けること	⑪学校生活に適應できること	⑫長時間預かってくれること
0 歳～3 歳 (n=87)	60.7%	58.9%	57.1%	23.2%	64.3%	16.1%
4 歳～6 歳 (n=251)	51.7%	60.5%	53.5%	29.1%	70.9%	27.3%
7 歳～9 歳 (n=6)	49.0%	65.4%	51.6%	38.6%	61.4%	27.5%
10 歳～12 歳 (n=2)	49.5%	57.4%	52.5%	31.7%	50.5%	29.7%
13 歳 ～(n=3)	45.6%	37.8%	50.0%	38.9%	42.2%	33.3%
無 回 答 (n=5)	64.3%	57.1%	35.7%	42.9%	28.6%	28.6%
計 (n=354)	50.9%	57.5%	52.2%	33.3%	58.9%	27.6%

<sup>36</sup> 地域資源（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、通級指導教室、医療機関、放課後児童クラブ、障害児/者相談支援事業所、地域の自治体）と接点がある場合は「接点あり」、ない場合は「接点なし」として集計した。

(続き)

接点なし	①日常生活を営む上で必要な心身の動作を身に着けるためにリハビリ等行うこと	②身体を動かし、身体機能全般の向上させること	③社会で生活するためのスキルを身に付けること	④子どもの情緒や感性の発達を促進すること	⑤家族や職員以外の地域社会とかかわること	⑥知識や日々の学習の支援を行うこと
0 歳～3 歳 (n=208)	68.3%	71.6%	69.2%	79.8%	53.4%	43.3%
4 歳～6 歳 (n=346)	60.1%	63.6%	68.5%	80.1%	39.3%	36.1%
7 歳～9 歳 (n=0)	-	-	-	-	-	-
10 歳～12 歳 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
13 歳 ～(n=1)	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%
無 回 答 (n=8)	25.0%	62.5%	87.5%	62.5%	50.0%	0.0%
計 (n=562)	62.6%	66.5%	68.8%	79.6%	44.7%	38.1%
接点なし	⑦本人の関心や趣味に合わせて活動すること	⑧自分で考えて自己判断できるようになること、そのために必要な見分を拡げること	⑨滞在することでリラックスすること	⑩働くためのスキルや心構えを身に着けること	⑪学校生活に適應できること	⑫長時間預かってくれること
0 歳～3 歳 (n=208)	62.5%	60.6%	53.4%	26.9%	66.8%	10.6%
4 歳～6 歳 (n=346)	53.5%	56.4%	51.4%	24.6%	65.9%	15.6%
7 歳～9 歳 (n=0)	-	-	-	-	-	-
10 歳～12 歳 (n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
13 歳 ～(n=1)	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%
無 回 答 (n=8)	25.0%	50.0%	50.0%	25.0%	75.0%	37.5%
計 (n=562)	56.6%	57.8%	52.3%	25.4%	66.3%	14.4%

図表 193 地域との接点の有無<sup>37</sup>と保護者ニーズ

接点あり	①日常生活を営む上で必要な心身の動作を身に着けるためにリハビリ等行うこと	②身体を動かし、身体機能全般の向上させること	③社会で生活するためのスキルを身に付けること	④子どもの情緒や感性の発達を促進すること	⑤家族や職員以外の地域社会とのかかわること	⑥知識や日々の学習の支援を行うこと
0 歳～3 歳 (n=163)	66.3%	66.9%	74.2%	81.0%	53.4%	39.3%
4 歳～6 歳 (n=419)	56.8%	59.7%	68.5%	80.0%	39.1%	35.1%
7 歳～9 歳 (n=153)	39.2%	44.4%	77.1%	77.8%	35.3%	35.9%
10 歳～12 歳 (n=101)	39.6%	41.6%	70.3%	75.2%	48.5%	35.6%
13 歳 ～(n=91)	41.8%	56.0%	62.6%	59.3%	28.6%	25.3%
無 回 答 (n=19)	42.1%	36.8%	84.2%	68.4%	63.2%	21.1%
計 (n=946)	52.0%	55.7%	70.8%	77.1%	41.4%	34.8%
接点あり	⑦本人の関心や趣味に合わせて活動すること	⑧自分で考えて自己判断できるようになること、そのために必要な見分を拡げること	⑨滞在することでリラックスすること	⑩働くためのスキルや心構えを身に着けること	⑪学校生活に適応できること	⑫長時間預かってくれること
0 歳～3 歳 (n=163)	61.3%	62.0%	53.4%	24.5%	67.5%	11.7%
4 歳～6 歳 (n=419)	51.8%	56.8%	50.4%	25.1%	68.0%	19.3%
7 歳～9 歳 (n=153)	49.0%	65.4%	51.6%	38.6%	61.4%	27.5%
10 歳～12 歳 (n=101)	49.5%	57.4%	52.5%	31.7%	50.5%	29.7%
13 歳 ～(n=91)	46.2%	38.5%	50.5%	38.5%	42.9%	34.1%
無 回 答 (n=19)	52.6%	47.4%	36.8%	36.8%	36.8%	26.3%
計 (n=946)	52.2%	57.2%	51.1%	29.4%	61.9%	22.0%

<sup>37</sup> 障害児福祉サービス、子ども子育て支援制度、地域資源のいずれかに接点がある場合は「接点あり」、いずれにも接点がない場合は「接点なし」として集計した。

(続き)

接点なし	①日常生活を営む上で必要な心身の動作を身に着けるためにリハビリ等行うこと	②身体を動かし、身体機能全般の向上させること	③社会で生活するためのスキルを身に付けること	④子どもの情緒や感性の発達を促進すること	⑤家族や職員以外の地域社会とかかわること	⑥知識や日々の学習の支援を行うこと
0 歳～3 歳 (n=101)	73.3%	76.2%	66.3%	79.2%	49.5%	47.5%
4 歳～6 歳 (n=346)	21.1%	22.3%	20.8%	23.7%	12.7%	11.0%
7 歳～9 歳 (n=0)	-	-	-	-	-	-
10 歳～12 歳 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
13 歳 ～(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無 回 答 (n=8)	0.0%	37.5%	37.5%	37.5%	12.5%	0.0%
計 (n=562)	32.2%	34.4%	31.1%	36.1%	20.8%	18.8%
接点なし	⑦本人の関心や趣味に合わせて活動すること	⑧自分で考えて自己判断できるようになること、そのために必要な見分を拡げること	⑨滞在することでリラックスすること	⑩働くためのスキルや心構えを身に着けること	⑪学校生活に適應できること	⑫長時間預かってくれること
0 歳～3 歳 (n=101)	63.4%	57.4%	55.4%	28.7%	64.4%	11.9%
4 歳～6 歳 (n=346)	16.5%	17.6%	17.1%	8.7%	18.8%	5.8%
7 歳～9 歳 (n=0)	-	-	-	-	-	-
10 歳～12 歳 (n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
13 歳 ～(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無 回 答 (n=8)	12.5%	37.5%	25.0%	12.5%	37.5%	25.0%
計 (n=562)	26.9%	26.7%	25.8%	13.1%	29.1%	7.7%

図表 194 放課後児童クラブの利用状況と保護者ニーズ

利用あり	①日常生活を営む上で必要な心身の動作を身に着けるためにリハビリ等行うこと	②身体を動かし、身体機能全般の向上させること	③社会で生活するためのスキルを身に付けること	④子どもの情緒や感性の発達を促進すること	⑤家族や職員以外の地域社会とかかわること	⑥知識や日々の学習の支援を行うこと
0 歳～3 歳 (n=1)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
4 歳～6 歳 (n=6)	50.0%	50.0%	50.0%	66.7%	16.7%	66.7%
7 歳～9 歳 (n=19)	31.6%	31.6%	94.7%	84.2%	21.1%	31.6%
10 歳～12 歳 (n=9)	44.4%	55.6%	55.6%	66.7%	44.4%	22.2%
13 歳 ～(n=2)	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	100.0%	100.0%
無 回 答 (n=0)	-	-	-	-	-	-
計(n=37)	40.5%	43.2%	75.7%	75.7%	32.4%	40.5%
利用あり	⑦本人の関心や趣味に合わせて活動すること	⑧自分で考えて自己判断できるようになること、そのために必要な見分を拡げること	⑨滞在することでリラックスすること	⑩働くためのスキルや心構えを身に着けること	⑪学校生活に適応できること	⑫長時間預かってくれること
0 歳～3 歳 (n=1)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
4 歳～6 歳 (n=6)	50.0%	50.0%	66.7%	33.3%	66.7%	16.7%
7 歳～9 歳 (n=19)	52.6%	78.9%	73.7%	63.2%	73.7%	26.3%
10 歳～12 歳 (n=9)	66.7%	55.6%	33.3%	33.3%	55.6%	55.6%
13 歳 ～(n=2)	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	50.0%	50.0%
無 回 答 (n=0)	-	-	-	-	-	-
計(n=37)	54.1%	64.9%	62.2%	54.1%	67.6%	35.1%



(続き)

利用なし	①日常生活を営む上で必要な心身の動作を身に着けるためにリハビリ等行うこと	②身体を動かし、身体機能全般の向上させること	③社会で生活するためのスキルを身に付けること	④子どもの情緒や感性の発達を促進すること	⑤家族や職員以外の地域社会とかかわること	⑥知識や日々の学習の支援を行うこと
0 歳～3 歳 (n=263)	68.8%	70.3%	71.1%	80.2%	51.7%	42.2%
4 歳～6 歳 (n=512)	60.2%	63.3%	69.5%	80.7%	40.4%	35.4%
7 歳～9 歳 (n=134)	40.3%	46.3%	74.6%	76.9%	37.3%	36.6%
10 歳～12 歳 (n=93)	38.7%	39.8%	71.0%	75.3%	48.4%	36.6%
13 歳 ～(n=89)	41.6%	56.2%	62.9%	59.6%	27.0%	23.6%
無 回 答 (n=22)	36.4%	45.5%	86.4%	72.7%	59.1%	18.2%
計 (n=1113)	56.1%	60.0%	70.4%	77.8%	42.7%	35.9%
利用なし	⑦本人の関心や趣味に合わせて活動すること	⑧自分で考えて自己判断できるようになること、そのために必要な見分を拡げること	⑨滞在することでリラックスすること	⑩働くためのスキルや心構えを身に着けること	⑪学校生活に適應できること	⑫長時間預かってくれること
0 歳～3 歳 (n=263)	62.0%	60.1%	54.0%	25.9%	66.2%	11.4%
4 歳～6 歳 (n=512)	52.9%	57.8%	52.0%	26.0%	67.6%	19.5%
7 歳～9 歳 (n=134)	48.5%	63.4%	48.5%	35.1%	59.7%	27.6%
10 歳～12 歳 (n=93)	48.4%	57.0%	54.8%	31.2%	49.5%	28.0%
13 歳 ～(n=89)	47.2%	39.3%	50.6%	37.1%	42.7%	33.7%
無 回 答 (n=22)	50.0%	54.5%	40.9%	36.4%	45.5%	31.8%
計 (n=1113)	53.6%	57.4%	51.9%	28.6%	62.4%	20.7%

図表 195 障害児福祉サービス併用利用状況と利用曜日・利用時間

障害児福祉サービス 併用あり	平日・長時間 利用	平日・短時間 利用	土日・長時間 利用	土日・短時間 利用
0 歳～3 歳(n=82)	34.1%	64.6%	0.0%	3.7%
4 歳～6 歳(n=215)	49.8%	54.4%	0.5%	6.5%
7 歳～9 歳(n=76)	1.3%	89.5%	11.8%	1.3%
10 歳～12 歳(n=48)	4.2%	79.2%	12.5%	2.1%
13 歳～(n=50)	4.0%	86.0%	18.0%	2.0%
無回答(n=5)	20.0%	80.0%	20.0%	0.0%
計(n=476)	29.6%	67.9%	5.5%	4.2%
障害児福祉サービス 併用なし	平日・長時間 利用	平日・短時間 利用	土日・長時間 利用	土日・短時間 利用
0 歳～3 歳(n=182)	46.2%	57.1%	0.0%	4.9%
4 歳～6 歳(n=303)	57.4%	48.8%	0.7%	16.2%
7 歳～9 歳(n=77)	13.0%	88.3%	6.5%	2.6%
10 歳～12 歳(n=54)	24.1%	87.0%	20.4%	5.6%
13 歳～(n=41)	7.3%	82.9%	29.3%	4.9%
無回答(n=17)	35.3%	64.7%	5.9%	0.0%
計(n=674)	43.0%	61.1%	4.6%	9.6%

### ③母親の就労状況

図表 196 障害児福祉サービス併用利用と母親の就労状況

併用あり								
雇用形態	働いて いない	非正規社員				正社員		その 他
勤務日数		週4日以下		週5日				
土日祝日勤務		あり	なし	あり	なし	あり	なし	
0歳~3歳(n=78)	76.9%	6.4%	6.4%	1.3%	0.0%	3.8%	5.1%	0.0%
4歳~6歳(n=202)	59.9%	13.4%	8.4%	2.0%	4.5%	7.4%	3.0%	1.5%
7歳~9歳(n=72)	40.3%	12.5%	8.3%	6.9%	6.9%	19.4%	5.6%	0.0%
10歳~12歳(n=48)	37.5%	12.5%	10.4%	8.3%	16.7%	4.2%	6.3%	4.2%
13歳~(n=49)	42.9%	12.2%	8.2%	10.2%	12.2%	6.1%	8.2%	0.0%
無回答(n=5)	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%
計(n=454)	54.8%	11.7%	8.1%	4.6%	6.2%	8.4%	5.1%	1.1%
併用なし								
雇用形態	働いて いない	非正規社員				正社員		その 他
勤務日数		週4日以下		週5日				
土日祝日勤務		あり	なし	あり	なし	あり	なし	
0歳~3歳(n=173)	71.7%	6.4%	7.5%	1.2%	1.7%	5.2%	3.5%	2.9%
4歳~6歳(n=289)	61.2%	8.3%	6.6%	4.2%	5.2%	8.0%	4.2%	2.4%
7歳~9歳(n=74)	27.0%	16.2%	9.5%	8.1%	12.2%	17.6%	8.1%	1.4%
10歳~12歳(n=52)	19.2%	7.7%	13.5%	7.7%	13.5%	23.1%	11.5%	3.8%
13歳~(n=40)	20.0%	17.5%	2.5%	5.0%	15.0%	17.5%	20.0%	2.5%
無回答(n=13)	23.1%	15.4%	15.4%	0.0%	15.4%	23.1%	7.7%	0.0%
計(n=641)	53.4%	9.4%	7.6%	4.1%	6.6%	10.5%	6.1%	2.5%

図表 197 利用曜日・時間と母親の就労状況

平日・長時間利用								
雇用形態	働いて いない	非正規社員				正社員		その他
勤務日数		週4日以下		週5日				
土日祝日勤務		あり	なし	あり	なし	あり	なし	
0歳~3歳(n=108)	81.5%	3.7%	6.5%	0.9%	0.9%	1.9%	2.8%	1.9%
4歳~6歳(n=265)	67.5%	10.6%	5.3%	2.3%	4.5%	4.9%	2.3%	2.6%
7歳~9歳(n=10)	10.0%	10.0%	20.0%	0.0%	30.0%	10.0%	10.0%	10.0%
10歳~12歳(n=14)	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	42.9%	7.1%	7.1%
13歳~(n=5)	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%
無回答(n=4)	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%
計(n=406)	67.0%	8.1%	6.7%	1.7%	4.9%	5.9%	3.0%	2.7%
平日・短時間利用								
雇用形態	働いて いない	非正規社員				正社員		その他
勤務日数		週4日以下		週5日				
土日祝日勤務		あり	なし	あり	なし	あり	なし	
0歳~3歳(n=145)	69.7%	6.9%	6.2%	2.1%	2.1%	6.2%	4.8%	2.1%
4歳~6歳(n=251)	60.2%	7.6%	7.6%	4.4%	5.6%	9.2%	3.6%	2.0%
7歳~9歳(n=130)	35.4%	14.6%	7.7%	7.7%	8.5%	18.5%	6.9%	0.8%
10歳~12歳(n=83)	25.3%	10.8%	12.0%	9.6%	13.3%	14.5%	9.6%	4.8%
13歳~(n=75)	32.0%	16.0%	4.0%	9.3%	12.0%	12.0%	13.3%	1.3%
無回答(n=14)	21.4%	14.3%	0.0%	14.3%	7.1%	21.4%	21.4%	0.0%
計(n=698)	49.6%	10.2%	7.3%	5.9%	7.0%	11.5%	6.6%	2.0%

(続き)

土日祝日・長時間利用								
雇用形態	働いていない	非正規社員				正社員		その他
勤務日数		週4日以下		週5日				
土日祝日勤務		あり	なし	あり	なし	あり	なし	
0歳~3歳(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-
4歳~6歳(n=5)	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	60.0%
7歳~9歳(n=14)	7.1%	14.3%	7.1%	21.4%	21.4%	21.4%	7.1%	0.0%
10歳~12歳(n=18)	22.2%	11.1%	11.1%	5.6%	22.2%	16.7%	0.0%	11.1%
13歳~(n=20)	20.0%	10.0%	5.0%	25.0%	10.0%	25.0%	5.0%	0.0%
無回答(n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
計(n=59)	15.3%	11.9%	6.8%	16.9%	15.3%	22.0%	3.4%	8.5%
土日祝日・短時間利用								
雇用形態	働いていない	非正規社員				正社員		その他
勤務日数		週4日以下		週5日				
土日祝日勤務		あり	なし	あり	なし	あり	なし	
0歳~3歳(n=240)	73.3%	6.3%	7.1%	1.3%	1.3%	4.6%	4.2%	2.1%
4歳~6歳(n=433)	61.7%	9.9%	7.4%	3.5%	4.6%	6.9%	3.9%	2.1%
7歳~9歳(n=143)	33.6%	14.0%	9.1%	7.7%	9.1%	18.9%	7.0%	0.7%
10歳~12歳(n=96)	28.1%	10.4%	12.5%	8.3%	14.6%	12.5%	9.4%	4.2%
13歳~(n=86)	31.4%	15.1%	4.7%	8.1%	14.0%	11.6%	14.0%	1.2%
無回答(n=18)	16.7%	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%	22.2%	16.7%	0.0%
計(n=1016)	53.9%	10.1%	7.9%	4.5%	6.3%	9.3%	6.0%	2.0%



令和２年度障害者総合福祉推進事業  
障害者支援のあり方に関する調査研究  
－放課後等デイサービスの在り方－

PwC コンサルティング合同会社

令和３年３月